

平成25年度人権問題に関する住民意識調査

報告書

酒々井町

目 次

| | |
|---------------------|---|
| はじめに 調査の概要と目的 | 1 |
|---------------------|---|

第 1 部 各市町の単純集計結果

| | |
|--------------------------------|----|
| 第 1 章 人権に関する基本的な考え方 | 5 |
| 第 2 章 育児・介護・福祉についての意識 | 8 |
| 第 3 章 日常における地域生活についての意識 | 16 |
| 第 4 章 外国人についての意識 | 39 |
| 第 5 章 同和問題（部落差別問題）に関する意識 | 45 |
| 第 6 章 回答者およびその家族の基本情報 | 54 |

第 2 部 人権問題に関する市民意識の詳細分析

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 第 7 章 差別・不平等・福祉国家——詳細分析を貫く問題意識 | 69 |
| 第 8 章 地域住民の親密度と満足度 | 77 |
| 第 9 章 地域住民の人間関係と一般的他者信頼 | 90 |
| 第 10 章 社会的弱者（女性・障がい者）に対する扶助意識 | 100 |
| 第 11 章 行政に対する信頼感 | 115 |
| 第 12 章 同和問題と人権意識 | 129 |
| 第 13 章 外国人と人権意識 | 142 |
| 第 14 章 第 2 部の総括 | 160 |
| 資料 質問文と回答結果 | |

はじめに 調査の概要と目的

1. 調査の目的

本調査は、千葉県香取市、酒々井町、松戸市に居住する市民が、人権問題についてどのような考えや意識を保持しているかを明らかにすることで、今後のこれら3市町での人権問題についての基礎的データを収集することを目的に行われた。香取市、酒々井町、松戸市では、これまで人権問題についての市民意識調査を過去数回にわたって行ってきた。今回の調査では、これまでに実施されてきた調査内容を精査し、新しい視点を調査票（アンケート）のなかに取り込むことを心がけた。なかでも、本調査では、人々の人権問題についての意識を左右する重要な要素として、人々の地域社会をはじめとした人間関係のありかたに注目した。社会学では、これは、社会関係資本として概念化されている。社会関係資本論がこれまでに蓄積した研究成果に依拠して、市民の人権問題に関する意識にアプローチすることを、今回の調査の主眼とした。

2. 調査の実施状況

本調査は、香取市、酒々井町、松戸市に居住する20歳以上の男女を対象に行った。具体的には、これら3市町に住民登録している20歳以上の男女から、香取市では2000人、酒々井町では1200人、松戸市では3000人をそれぞれ無作為に抽出し、アンケートを郵便で送付した。調査票の郵送は、おおむね9月に行った。調査期間をおよそ1カ月としたが、10月末まで調査票の回収を行った。あて先不明で返送されてきた調査票は、香取市で14票、酒々井町で5票、松戸市10票であった。最終的に回収した調査票のうち、有効票とされたものは、香取市で724票、酒々井町で560票、松戸市で1322票であった。有効回収率は、それぞれ、香取市で36.5%、酒々井町で46.9%、松戸市で44.2%であった。

3. 調査項目

調査項目は、①人権問題全般についての意識、②家族・育児・介護・福祉にかかわる人権意識、③地域での生活状況、親しい人間関係、④同和問題・外国人問題にかかわる人権意識、⑤フェイクス項目（性別、年齢、学歴、職業、世帯収入など）、によって構成されている。

4. 調査報告書の作成方法

本調査は、香取市、酒々井町、松戸市から一般社団法人千葉県人権センターに委託された。実際の報告書の作成業務を次のように分担した。竹ノ下弘久（上智大学総合人間科学部社会学科）が、上智大学社会学科で開講している演習（社会階層論）を履修している学生たちとともに、調査票の基本的な設計を行った。その後、調査は主として一般社団法人千葉県人権センターが行った。調査票を回収後、調査データの入力、多文化まちづくり工房が担当した。データの入力後の報告書執筆については、第一部を多文化まちづくり工房の早川秀樹が中心に行った。第二部については、竹ノ下弘久と上智大学社会学科で開講され、竹ノ下が担当している「演習（社会階層論）」を受講していた稲葉彩紀、工藤七海、中川絹子、本城明子、吉田あずさが、調査結果の分析

と報告書の執筆を行った。受講学生が執筆した原稿については、必要に応じて、本授業の担当教員である竹ノ下が加筆、修正を行った。巻末資料については、早川秀樹が中心に作成した。それぞれの原稿を作成後、全体の調整と報告書としての校正作業を水野陽介（上智大学大学院総合人間科学研究科社会学専攻博士前期課程）が行い、最終確認を竹ノ下が行った。これらの文章に対する責任は、竹ノ下弘久にある。

以下に各章の執筆分担を示す。

第1部 単純集計結果（早川秀樹）

第2部 調査結果の詳細分析

第7章 差別、不平等、福祉国家——詳細分析を貫く問題意識（竹ノ下弘久）

第8章 地域住民の親密度と満足度（中川絹子）

第9章 地域住民の人間関係と一般的他者信頼（工藤七海）

第10章 社会的弱者(女性・障がい者)に対する扶助意識（稲葉彩紀）

第11章 行政に対する信頼感（吉田あずさ）

第12章 同和問題と人権意識（本城明子）

第13章 外国人と人権意識（竹ノ下弘久）

第14章 第2部の総括（竹ノ下弘久）

資料 調査票と単純集計結果

5. 統計分析の見方

質問紙調査の結果を紹介するにあたって、その多くは統計的な手法を用いて分析を行っている。本節では、調査結果の記述のスタイルと報告書で使用した統計手法について概説する。

調査結果の記述に際して、報告書では次の手順を踏んでいる。

- ①考察の対象となる調査項目の単純集計結果を紹介する。
- ②その調査項目が他の調査項目とどのように関係しているかをみるため、クロス集計を行う。
- ③クロス集計だけでは変数間の関連が、見かけ上のものにすぎない可能性を排除できないため、必要に応じて3重クロス集計を行う。

（1）単純集計表

本報告書では、調査結果を記述するために、単純集計表とクロス集計表を多用している。単純集計表とは、個々の調査項目について、それぞれの選択肢に答えた回答者数とその百分率（パーセンテージ）を表示したものである。報告書のなかでは、主に、円グラフ、棒グラフという形式で表している。

（2）クロス集計とカイ二乗検定（統計的検定）

報告書では、単純集計表の記述によって、特定の調査項目の全般的な傾向を考察した後、その調査項目が他の諸変数といかなる関係にあるかをみていくために、クロス集計とカイ二乗検定を行っている。たとえば、次のクロス集計があるでしょう。

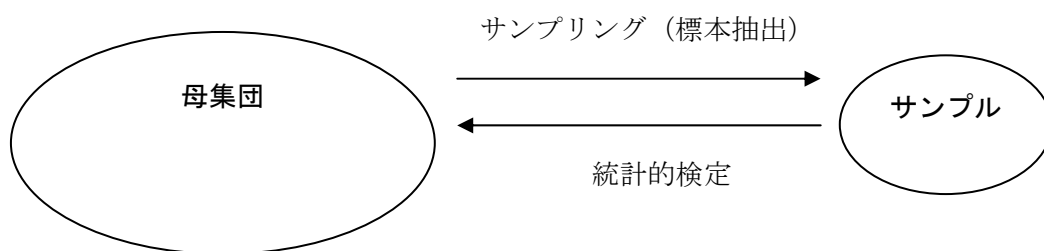
これは、「男性は外で働き、女性は家で家事、育児をすべきである」を男女別に集計しており、男女で、性別役割分業意識に違いがあるかどうかを検討している。表 1-1 をみると、男性では 63.6%が、女性では 38.5%が「そう思う」と回答しており、男性で性別分業に賛成する傾向があり、女性で性別分業に反対する傾向があるのではないかと、直感的に読み取れそうである。報告書では、クロス集計にもとづいてカイ二乗検定を行っている。これは、性別役割分業についての男女間での回答傾向の違いが、たまたま見られる偶然生じたものにすぎないか、それともサンプルだけではない母集団にも当てはまる意味のある違いかを判別するために行っている。

図表 1-1 「男は仕事、女は家庭」(男女別)

| | そう思う | そう思わない | 合計 |
|----|-----------|-----------|----------|
| 男性 | 70(63.6) | 40(36.4) | 110(100) |
| | 55 | 55 | |
| 女性 | 50(38.5) | 80(61.5) | 130(100) |
| | 65 | 65 | |
| 合計 | 120(50.0) | 120(50.0) | 240 |

注) 各セルの上段は、それぞれの回答数を、カッコ内は、行ごとのパーセントをあらわす。下段は、期待値をあらわす。

図表 1-2 サンプルと統計的検定についての考え方



今回、佐倉市で行った男女共同参画社会に関する市民意識調査も、市内に居住する佐倉市民すべてに対して行われたものではなく、その一部を無作為に抽出したサンプリング調査である。一般にサンプリング調査の分析に際しては、統計的検定が行われる。これは、サンプルに見られた特性が、サンプルだけにみられる偶然の特性ではなく、広く母集団にも当てはまるかどうかを検討するものである。当然、カイ二乗検定も統計的検定の一種である。

統計的検定を行うにあたっては、帰無仮説と対立仮説が設定される。対立仮説とは、分析者が証明したい仮説のことであり、帰無仮説とは、対立仮説を証明するために分析者が棄ててしまいたい(棄却したい)と考えている仮説のことである。図表 1-1 に即していうと、「男性と女性では、性別分業に賛成、反対の度合いが異なる」が、証明したい仮説(対立仮説)であり、「男性と女性では、性別分業に賛成、反対の度合いが異なる」が、棄却したい仮説(帰無仮説)となる。統計的検定では、帰無仮説が棄却できるかできないかが検討の対象となり、帰無仮説の棄却を通じて対立仮説を採択(採用)するというロジックをとっている。

図表 1-1 で、帰無仮説が成立する状態とは、「男性と女性で賛成、反対の比率が同じとき」である。具体的には、表の下側の男女合計した賛成、反対の比率と、男性、女性各々の賛成、反対の比率が一致するときであり、そのときにとるはずの値のことを期待値という。ここでは、男女合計したら、5対5の比になったので、男女それぞれの回答も5対5の比になるときの値が期待値であり、図表 1-1 では下段に表示している。カイ二乗検定を行うときに計算するカイ二乗値は、各セルの期待値と実際に測定された実測値との差(男性で「そう思う」のセルの場合、実測値で

ある 70 から期待値の 55 を引いたもの) を基準にして求められる。そして、計算されたカイ二乗値が、理論的にあまりにも低い確率でしか生起しない値を取るとき、帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択されるのである。

カイ二乗検定で算出される有意水準とは、帰無仮説が棄却されない確率を示す。5%水準で有意とは、帰無仮説が棄却されない確率が 5%以下であり、1%水準で有意とは、その確率が 1%以下であることを意味する。報告書では、有意水準は+や*といった記号によって表示される。

カイ二乗値に付随して計算されるクラメールの V とは、計算されたカイ二乗値を 0 から 1 までの範囲の値を取るよう基準化したものである。値が 0 に近いほど関連が弱く、1 に近いほど関連が強い。

本報告書では、クロス集計とカイ二乗検定を多く用いているが、これだけでは十分な分析ができないことがある。図表 1-1 では、男性と女性で性別分業意識に違いがあるかどうかを検討されているが、この両者の関係に別の要因が潜在している可能性がある。たとえば、年齢（世代）、学歴、職業、子どもの有無、既婚・未婚といった、別の要因が潜在しており、性別と性別分業意識との関係は、見かけ上の関連にすぎない擬似相関の可能性がある。そのような場合には、報告書では適宜 3 重クロス集計を行っている。これは、たとえば、男性だけ、女性だけでそれぞれクロス集計を行い、その際に、既婚・未婚別に性別分業意識についてクロス集計を行うというものである。

カイ二乗検定は、統計分析に有用な手法であるが、それを実行できないときがある。カイ二乗値は、期待値と実測値との差をもとに算出されることは、先に述べたとおりだが、各セルのいずれかの期待値が 5 以下であるとき、カイ二乗検定を行うのは適切ではないとされている。報告書でも、期待値 5 以下のセルがある時はカイ二乗検定を行っていないか、その旨明記することになっている。

(3) 分散分析

報告書では、クロス集計とカイ二乗検定を多用することで、分析を行っている。しかし、その一部では、クロス集計とカイ二乗検定ではなく、一元配置の分散分析を用いて調査結果の分析を行っている。

分散分析とは、独立変数が順序づけのできない質的なカテゴリー変数（たとえば、性別を表す男女や、職業を表す、専門職、管理職、事務職、販売職などは、厳密な序列付けが難しい）で、従属変数が、順序づけの可能な量的変数（年齢、教育年数等）の場合に用いる分析手法である。独立変数のカテゴリー間で、従属変数の平均値が、異なるかどうかを検討される。たとえば、異なる職業カテゴリー間で、家事遂行の平均得点がどの程度異なるかが分析される。分析に際しては、検定統計量として、F 値が計算される（カイ二乗検定のときのカイ二乗値と同じ種類のもの）。この F 値をもとにして有意水準が算出される。5%水準で有意となれば、95%の確率で帰無仮説（独立変数のカテゴリー間で従属変数の平均値に差がないという仮説）は棄却され、対立仮説が採択されるのである。

第1部

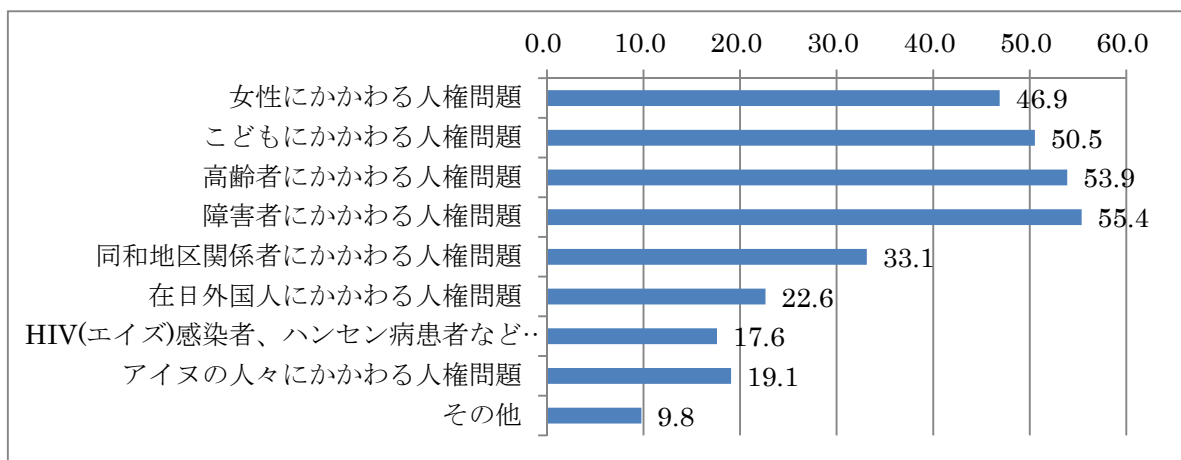
各市町の単純集計結果

第1章 人権に関する基本的な考え方

問1 関心のある人権問題について

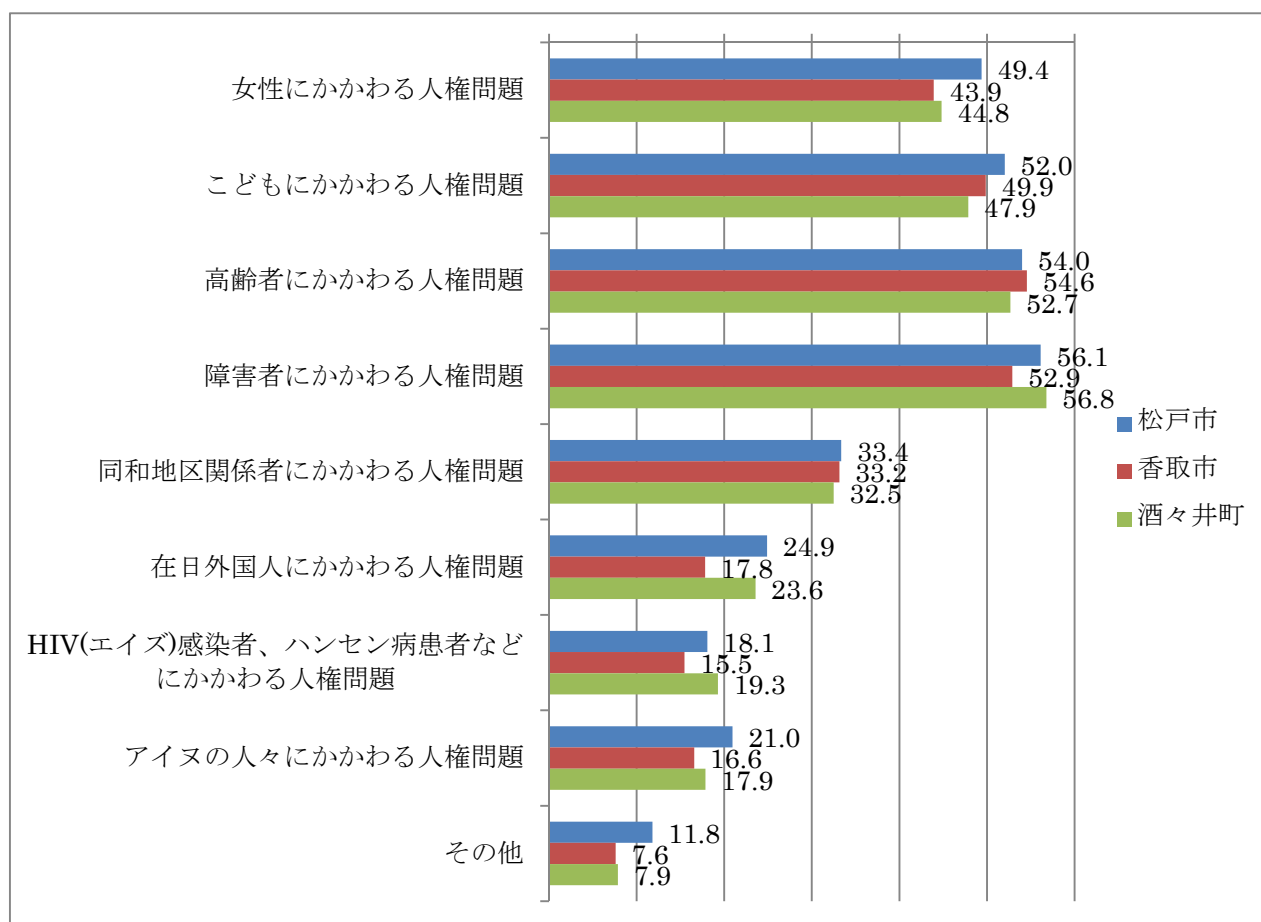
回答者の関心のある人権問題について、「女性にかかわる人権問題」、「子どもにかかわる人権問題」、「高齢者にかかわる人権問題」、「障害者にかかわる人権問題」、「ひとり親世帯にかかわる人権問題」、「在日外国人にかかわる人権問題」、「被差別部落出身者にかかわる人権問題」、「HIV感染者、ハンセン病患者などにかかわる人権問題」、「アイヌの人々にかかわる人権問題」、「その他」の10の選択肢を示し、回答者の関心のある人権問題すべてを選んでもらった。その全体での結果が図表1-1であり、三市町別のものが図表1-2である。

図表1-1 関心のある人権問題（全体）



関心のある人権問題については、「障害者にかかわる人権問題」をあげた人が55.4%ともっとも多く、以下「高齢者にかかわる人権問題」が53.9%、「子どもにかかわる人権問題」が50.5%、「女性にかかわる人権問題」が46.9%、「同和地区関係者にかかわる人権問題」が33.1%といった順で多くなっている。これに対して、「アイヌの人々にかかわる人権問題」は19.1%、「HIV（エイズ）感染者、ハンセン病患者などにかかわる人権問題」は17.6%と2割以下にとどまり、また「在日外国人にかかわる人権問題」が22.9%と3割に満たなかった。

図表 1-2 関心のある人権問題（三市町別）

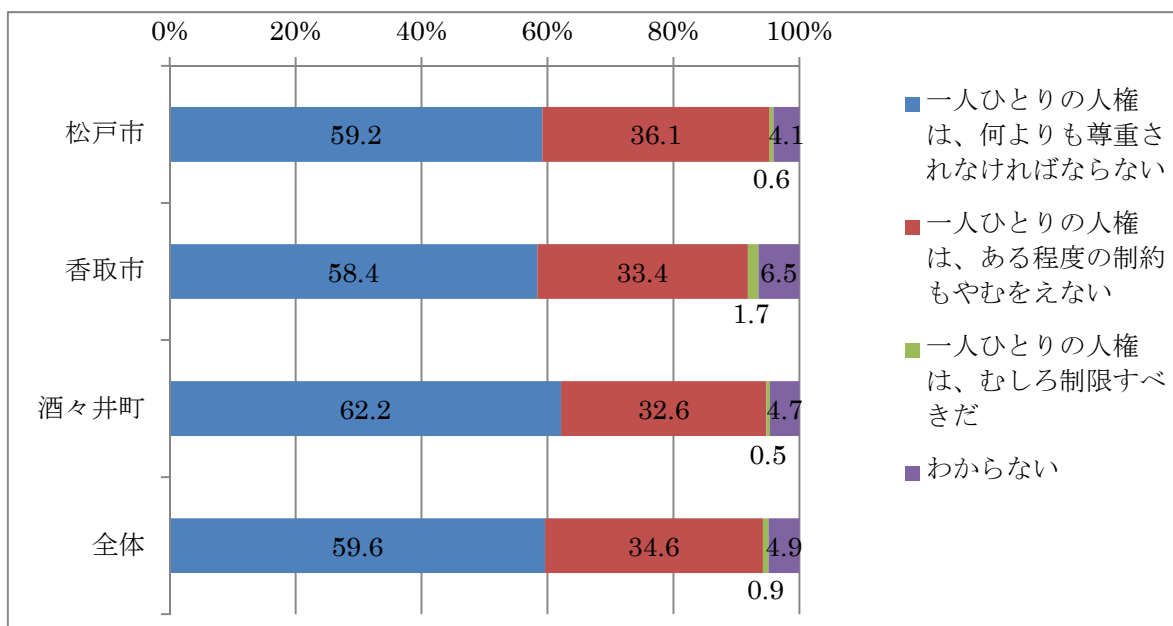


関心のある人権問題について三市町間で比較してみると、「女性にかかわる人権問題」では松戸市（49.4%）が、香取市（43.9%）と酒々井町（44.8%）を大きく上回った。また「子どもにかかわる人権問題」でも松戸市（52.0%）が香取市（49.9%）と酒々井町（47.9%）を上回った。「障害者にかかわる人権問題」では香取市（52.9%）が、松戸市（56.1%）、酒々井町（56.8%）と下回った。同様に「在日外国人にかかわる人権問題」でも香取市（17.8%）が、松戸市（24.9%）、酒々井町（23.6%）に比べ低く、「HIV（エイズ）感染者、ハンセン病患者などにかかわる人権問題」でも香取市（15.5%）が、松戸市（18.1%）と酒々井町（19.3%）と比べて、それぞれわずかであるが低い傾向が見られた。

問2 人権に対する考え方について

回答者の人権に対する考え方を知るために、人権についての考え方を、「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」、「一人ひとりの人権は、ある程度の制約もやむをえない」、「一人ひとりの人権は、むしろ制限すべきだ」、および「わからない」の4項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果が図表2である。

図表 2 人権に対する考え方



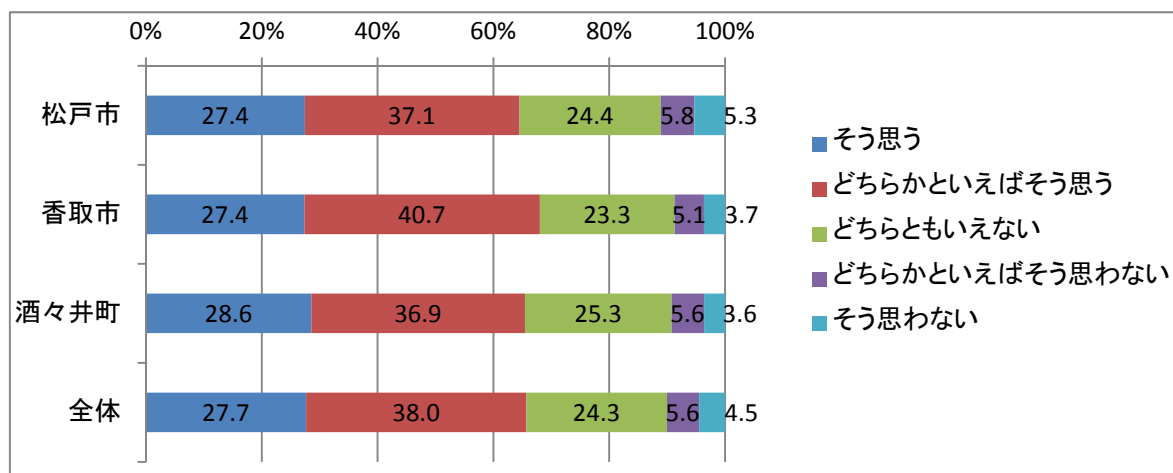
最も回答率が高かったものは「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」で、三市町全てで60%前後の割合を占めた。それに続いて多かったのが「一人ひとりの人権は、ある程度の制約もやむをえない」で、35%前後の回答があった。「制約すべき」という回答は5%前後となった。

第2章 育児・介護・福祉についての意識

問3 国や自治体の役割や政策についての考え方について

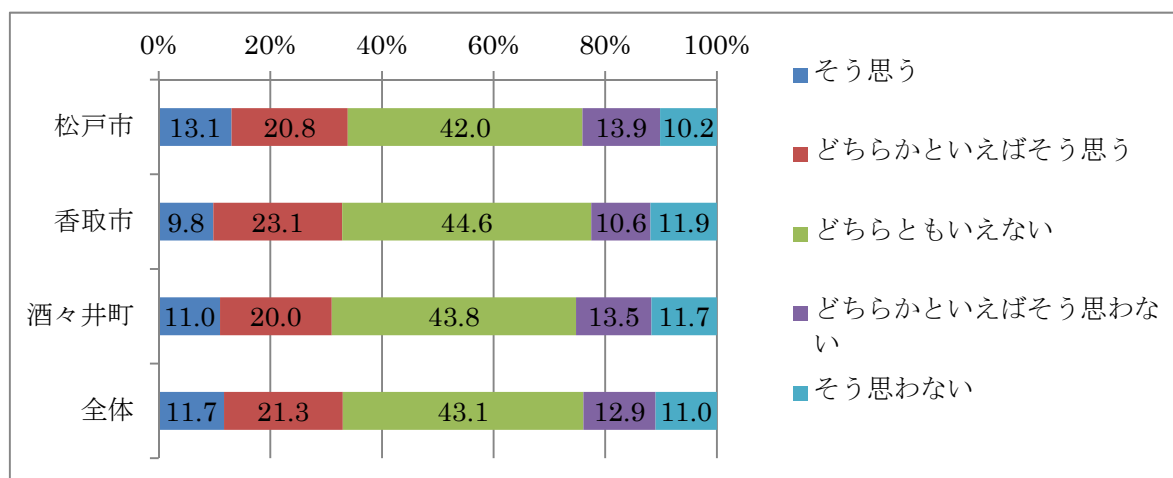
回答者の国や自治体の役割や政策についての考え方を知るために、「a) 豊かな人からの税金を増やして、福祉を充実させるべき」、「b) 公的サービスはできるだけ民間企業に任せるべき」の2点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の5項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表3-1、3-2である。

図表3-1 a) 豊かな人からの税金を増やして、福祉を充実させるべき



「豊かな人からの税金を増やして、福祉を充実させるべき」について、最も回答率が高かったものは「どちらかといえばそう思う」で、全体で38.0%であった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると65%前後、反対に「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせても10%前後と大きく差がついた。

図表3-2 b) 公的サービスはできるだけ民間企業に任せるべき



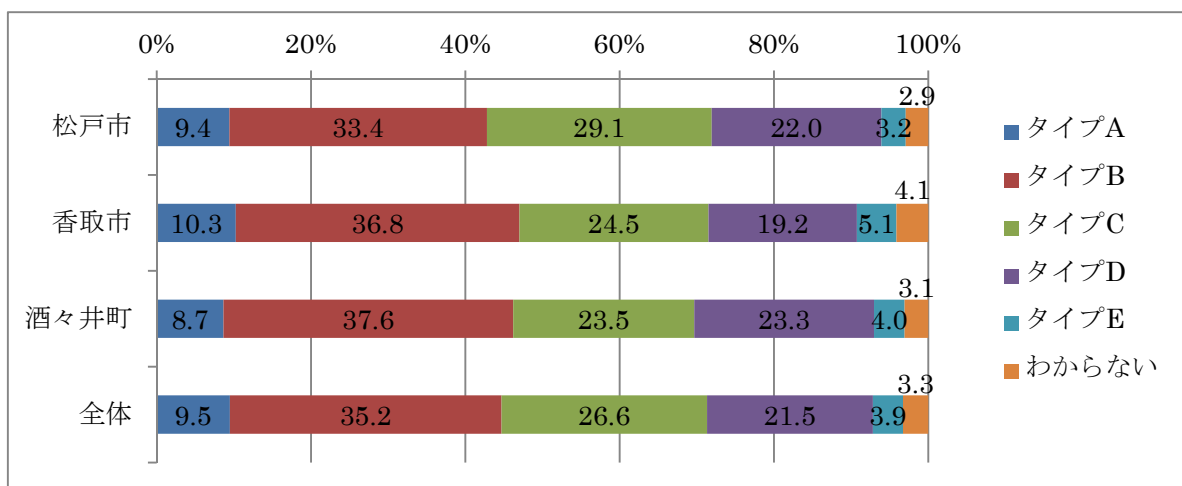
「公的サービスはできるだけ民間企業に任せるべき」について、最も回答率が高かったものは

「どちらともいえない」で、43.1%であった。次いで「どちらかといえばそう思う」の21.3%で、「そう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は11%~13%程度と大きな違いはなかった。

問4 社会階層のあり方についての考え方について

回答者の社会階層のあり方についての考え方を知るために、タイプA「一番上はエリート、中間はほとんど無く、大多数の人は一番下の層の社会」、タイプB「ピラミッド型の社会。一番上は少数のエリート、下の層にいくにつれて多くなり、一番下の層には最も多くの人がいる社会」、タイプC「ピラミッド型であるが、一番下の層には少しの人しかいない社会」、タイプD「ほとんどの人が中間の層にいる社会」、タイプE「多くの人の上の層にいて、一番下の層にはごく少数の人しかいない社会」の5つのタイプを示し、それに「わからない」を加えた6つの選択肢から「a) 現在の日本の社会」、「b) あるべき日本の社会」について、それぞれ回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表4-1、4-2である。

図表4-1 a) 現在の日本の社会タイプ



「現在の日本の社会タイプ」について、最も回答率が高かったものは「タイプB」で、35.2%であった。次いで「タイプC」の26.6%、「タイプD」の21.5%となった。

図表 4-2 b) あるべき日本の社会タイプ



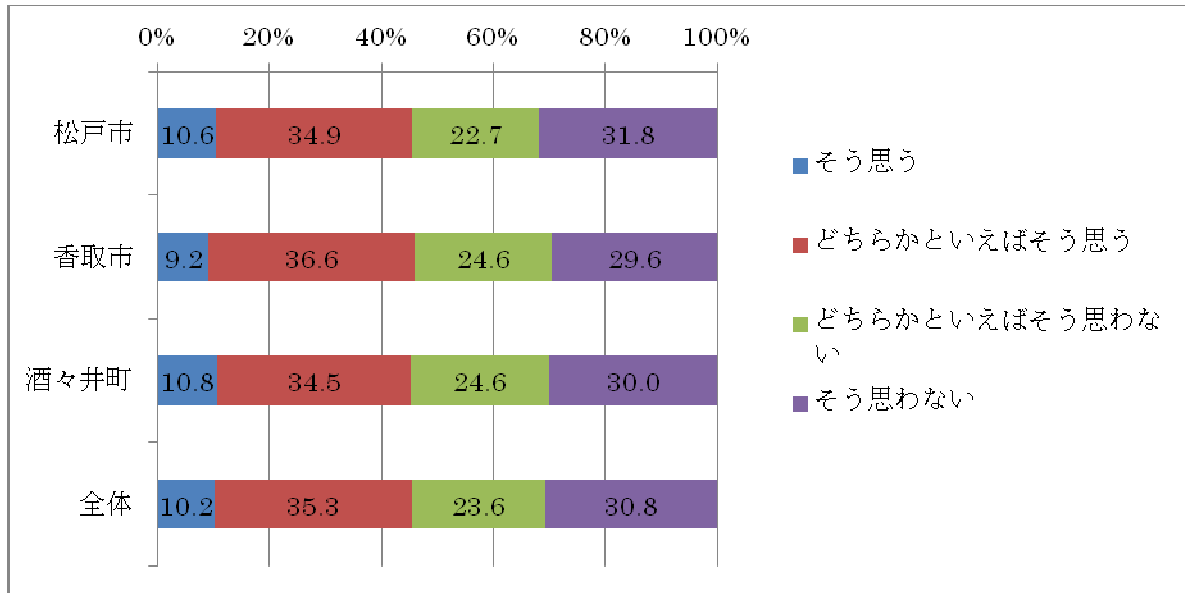
「あるべき日本の社会タイプ」について、最も回答率が高かったのは「タイプC」で50.9%と半数以上を占めた。次いで「タイプB」が18.1%、「タイプC」が17.7%とほぼ変わらない結果となった。「タイプD」と「タイプE」を合わせると70%近くを占めており、これに「タイプC」を加えると85%以上と、ほとんどの人が最下層の人が少ない社会であってほしいと考えていることがわかった。

問5 家庭と障がい者に対する意識について

回答者の家庭と障がい者に対する意識についての考え方を知るために、「a」家事・育児のために、女性が男性よりも働く上で不利な状況にあることは、仕方がない、「b」ひとり親家庭の子どもが十分な教育を受けられないことは、離婚を選択した親の責任である、「c」家庭内暴力（夫婦間暴力や子どもの虐待）は、家族内の私的な問題であり行政の介入は難しい、「d」企業が利益を追求するために、障がい者を雇わないことは仕方がないことである」の4点について「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」の4項目から、それぞれ回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表5-1、5-2、5-3、5-4である。

図表 5-1

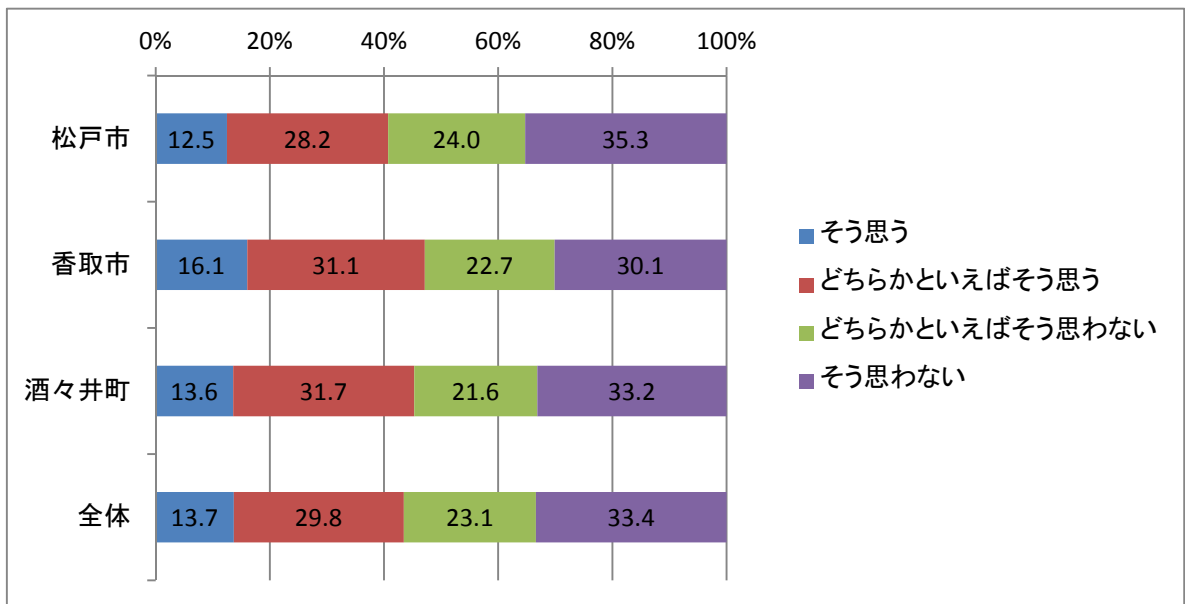
a) 家事・育児のために、女性が男性よりも働く上で不利な状況にあることは、仕方がない



「a) 家事・育児のために、女性が男性よりも働く上で不利な状況にあることは、仕方がない」について、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の35.3%だったが、「そう思わない」の30.8%と「どちらかといえばそう思わない」の23.6%を合わせると54.4%と、わずかであるが設問に反対の意見が上回った。

図表 5-2

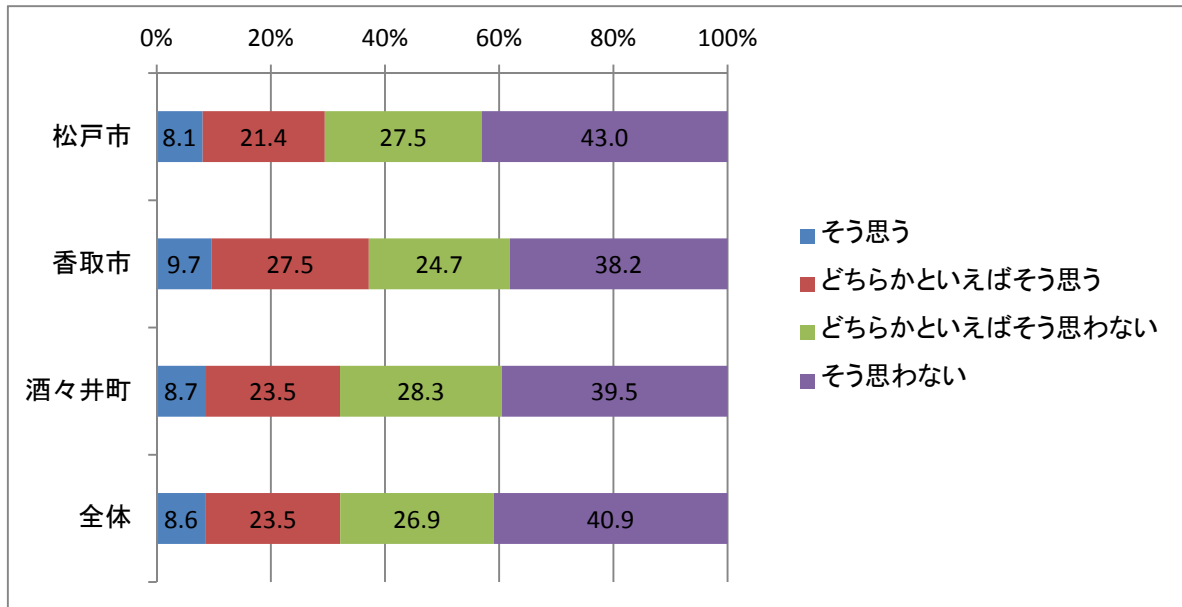
b) ひとり親家庭の子どもが十分な教育を受けられないことは、離婚を選択した親の責任である



「b) ひとり親家庭の子どもが十分な教育を受けられないことは、離婚を選択した親の責任である」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「そう思わない」の33.4%で、次いで「ど

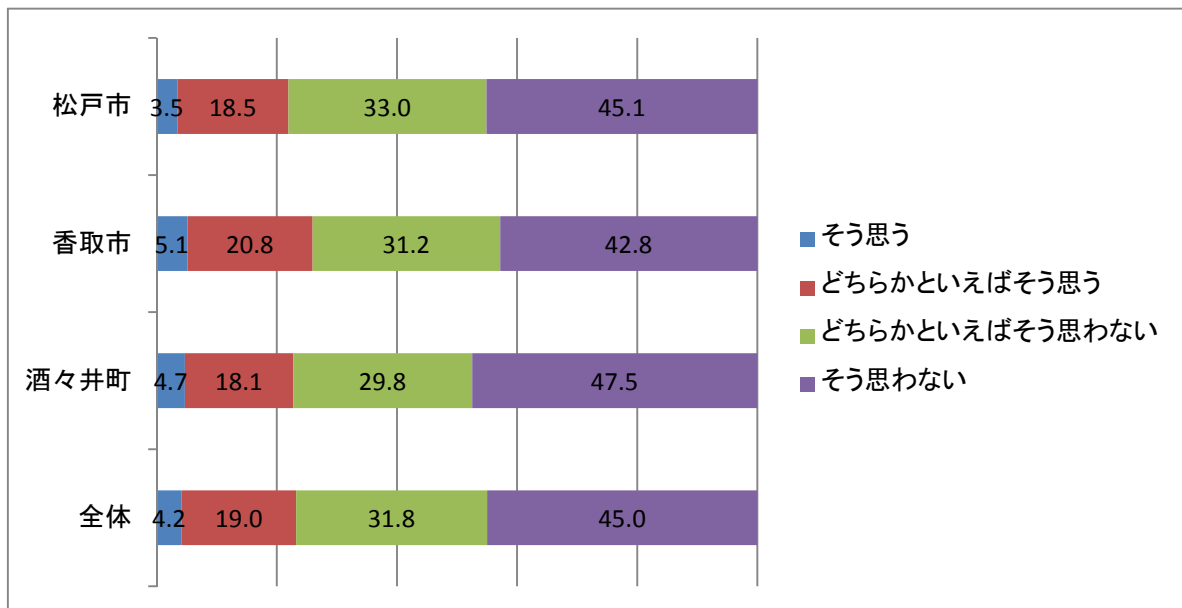
「どちらかといえばそう思う」の29.8%となった。松戸市と香取市を比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、松戸市で40.7%だったのに対し、香取市では47.2%と若干高い結果となった。

図表 5-3 c) 家庭内暴力は、家族内の私的な問題であり行政の介入は難しい



「c) 家庭内暴力（夫婦間暴力や子どもの虐待）は、家族内の私的な問題であり行政の介入は難しい」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「そう思わない」の40.9%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の26.9%、「どちらかといえばそう思う」の23.5%となった。

図表 5-4 d) 企業が利益を追求するために、障がい者を雇わないことは仕方のないことである



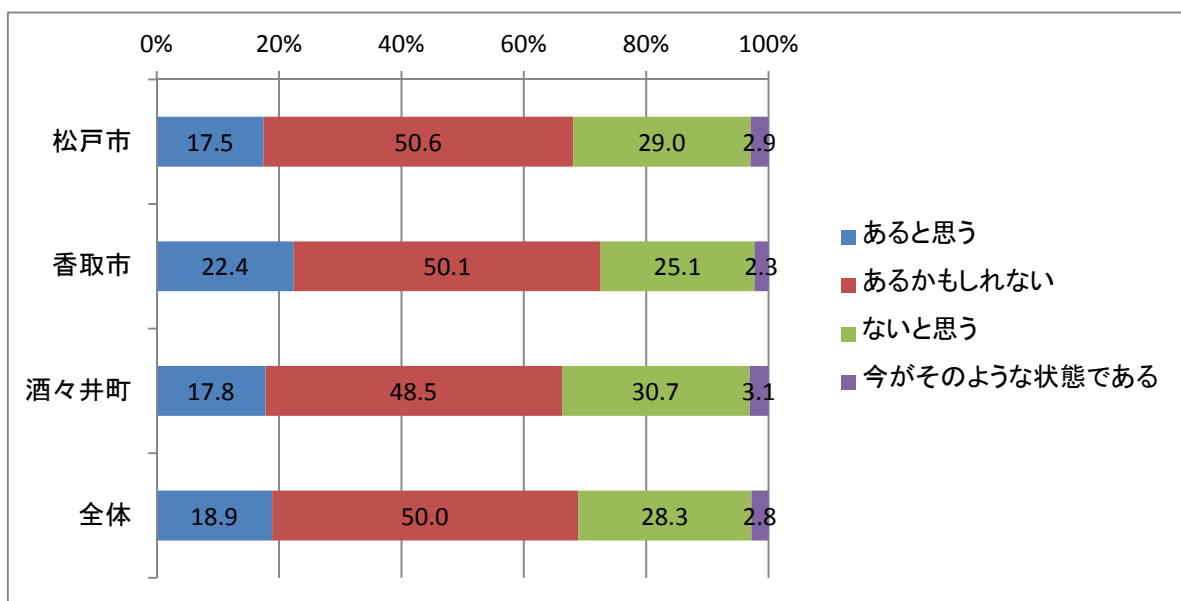
「d) 企業が利益を追求するために、障がい者を雇わないことは仕方のないことである」という

設問に対して、最も回答率が高かったのは、「そう思わない」の45.0%で、「どちらかといえばそう思わない」の31.8%と合わせると76.8%になり、設問に反対の回答が大きく上回った。

問6 生活上の困難におちいる可能性について

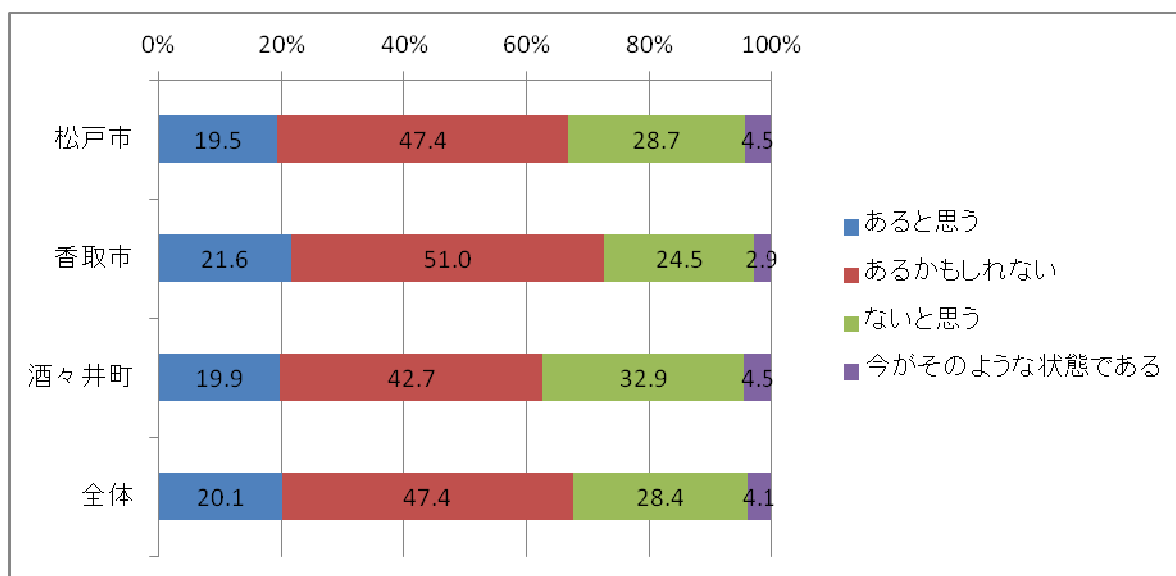
回答者が今後生活上の困難におちいる可能性について、「a」日々の生活費の工面に困るような状態、「b」家族の主たる稼ぎ手の失業、「c」住宅ローンが払えなくなる状態」の3点について「あると思う」、「あるかもしれない」、「ないと思う」、「今がそのような状態である」の4項目から、それぞれ回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表6-1、6-2、6-3である。

図表6-1 a) 日々の生活費の工面に困るような状態におちいる可能性



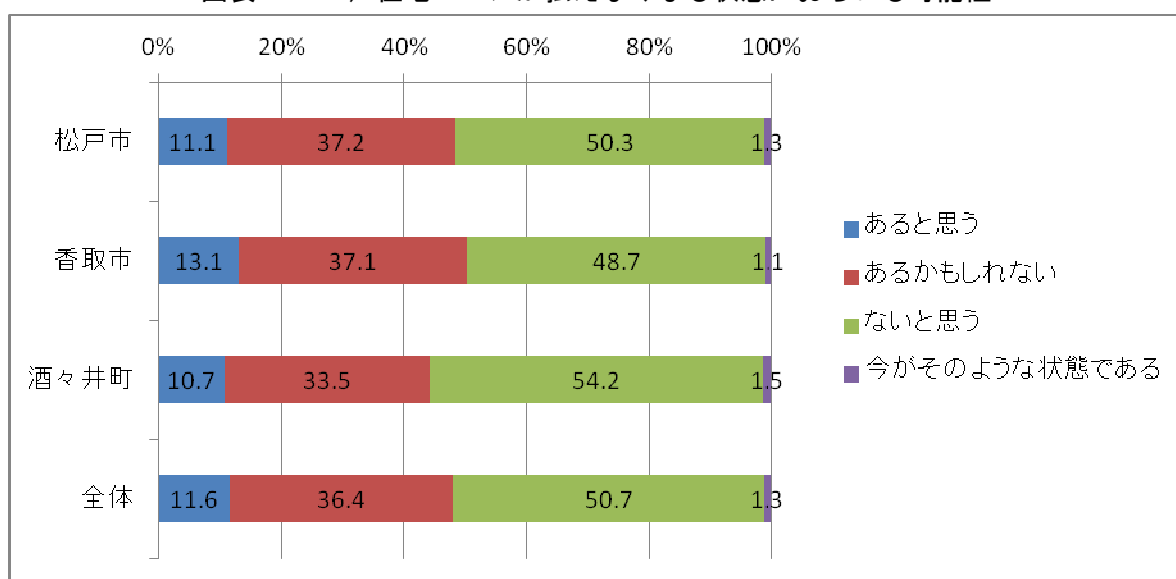
「a) 日々の生活費の工面に困るような状態」におちいる可能性について、最も回答率が高かったのは、「あるかもしれない」の50.0%で、次いで「ないと思う」の28.3%、「あると思う」の18.9%となった。

図表 6-2 b) 家族の主たる稼ぎ手の失業におちいる可能性



「b) 家族の主たる稼ぎ手の失業」におちいる可能性について、最も回答率が高かったのは、「あるかもしれない」の47.4%で、次いで「ないと思う」の28.4%、「あると思う」の20.1%となった。

図表 6-3 c) 住宅ローンが払えなくなる状態におちいる可能性



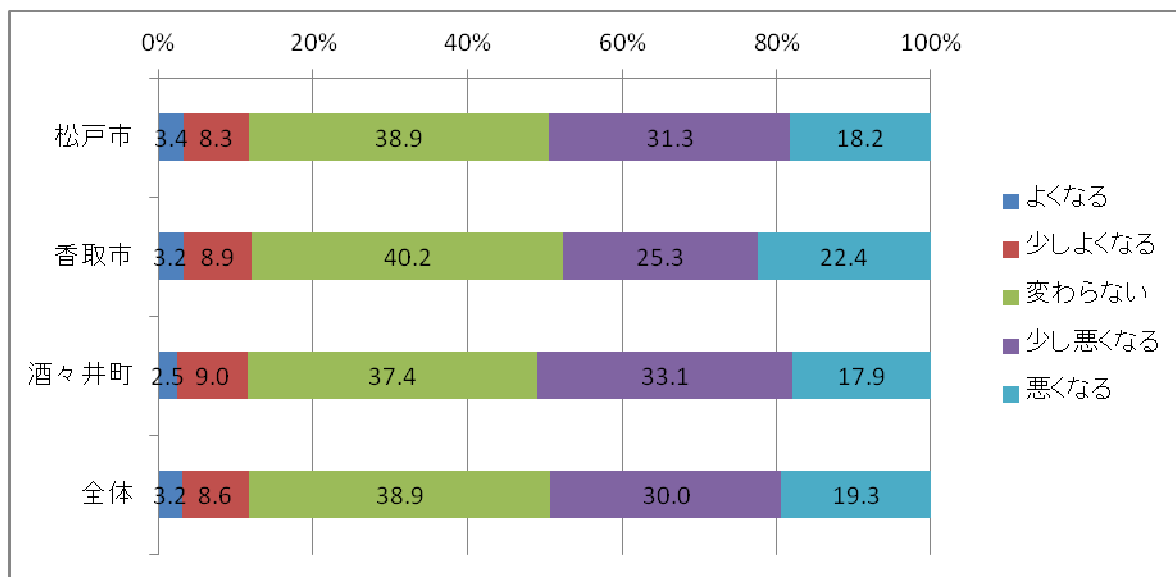
「c) 住宅ローンが払えなくなる状態」におちいる可能性について、最も回答率が高かったのは、「ないと思う」の50.7%、次いで「あると思う」の36.4%となった。「あると思う」は11.6%、「今がそのような状態である」は1.3%と全体に楽観的な結果となった。

問7 近い将来の暮らし向きについて

回答者の5年後の暮らし向きに対する見通しについて、「よくなる」、「少しよくなる」、「変わらない」、「少し悪くなる」、「悪くなる」の5つから、それぞれ回答者の考えに最も近いものを選ん

でもらった。その結果が図表7である。

図表7 5年後の暮らし向きに対する見通し



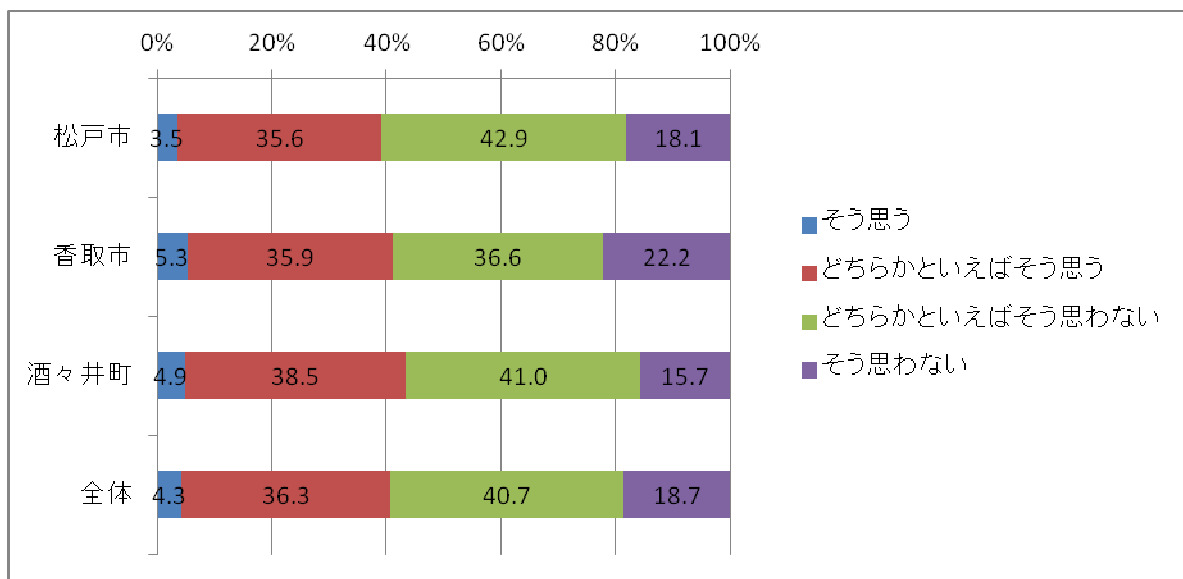
5年後の暮らし向きに対する見通しについて、最も回答率が高かったのは、「変わらない」の38.9%であった。次いで「少し悪くなる」の30.0%、「悪くなる」の19.3%と続き、悲観的な回答率を合わせると49.3%で、「少しよくなる」の8.6%の「よくなる」の3.2%を合わせて11.8%であるのに比べると高い数字になった。

第3章 日常における地域生活についての意識

問8 地域生活と地域自治・行政の関わりについて

回答者の地域生活と地域自治・行政の関わりについての考え方を知るために、「a) 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる」、「b) 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる」「c) 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。」の三点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」および「そう思わない」の4項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表8-1、8-2、8-3である。

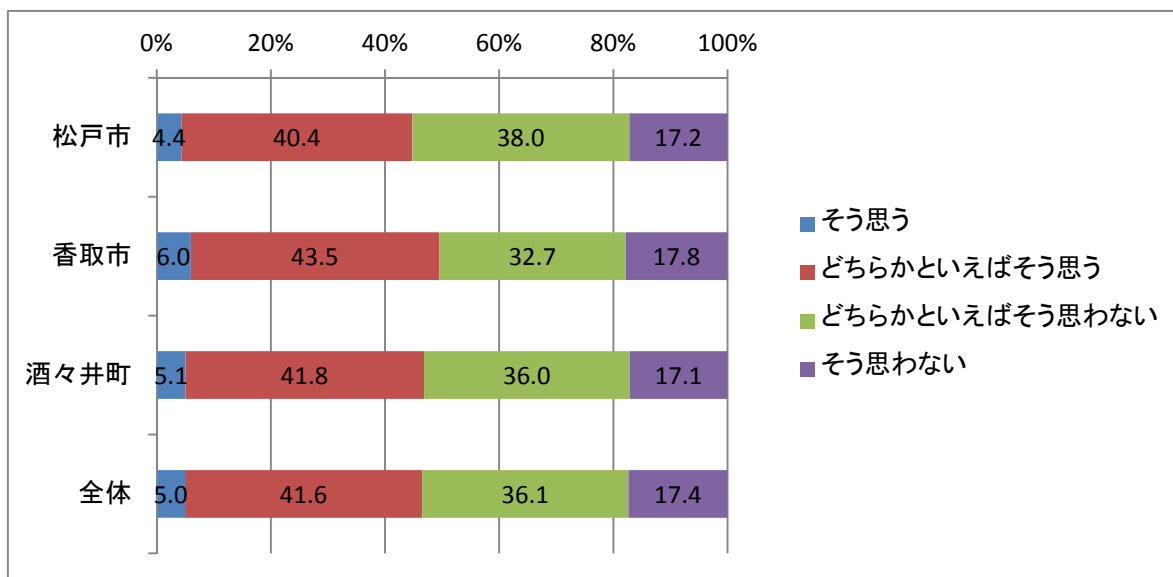
問8-1 a) 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる



「a) 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の40.7%で、次いで「どちらかといえばそう思う」の36.3%となった。また、「そう思わない」と回答した人が18.7%なのに対し、「そう思う」と回答した人が4.3%と行政の取り組みに不満を抱えている人のほうが多かった。

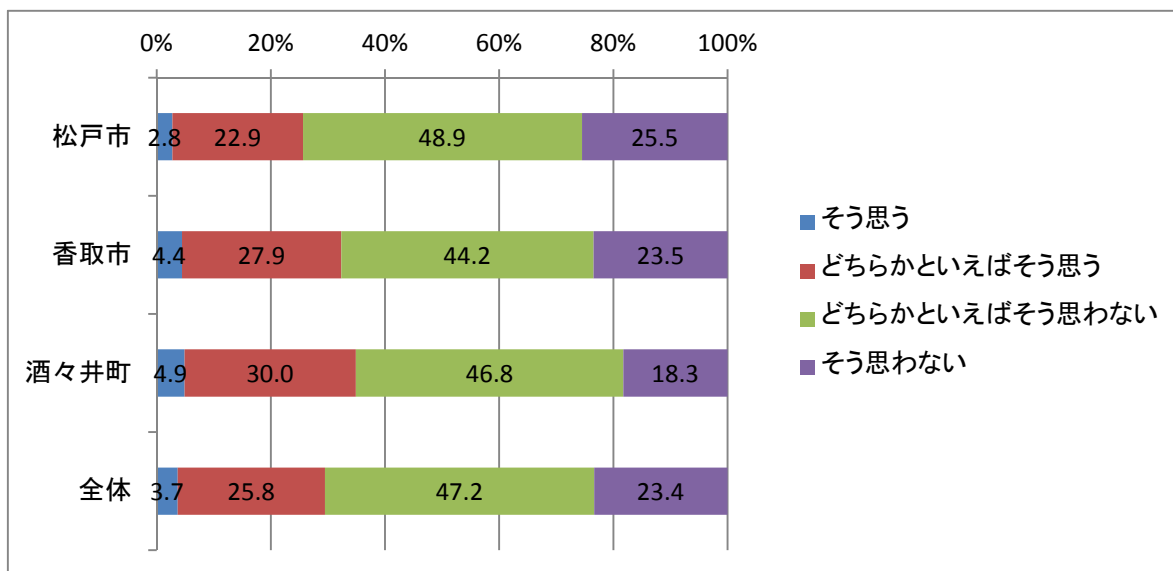
図表 8-2

b) 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる



「b) 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の 41.6%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の 36.1%となった。また、「そう思わない」と回答した人が 17.4%、「そう思う」が 5.0%と、「行政」よりも「自治会・町内会」の取り組みを評価している人がわずかながら多いようである。

図表 8-3 c) 住民の意見や希望は、自治会の行政にかなり反映されている



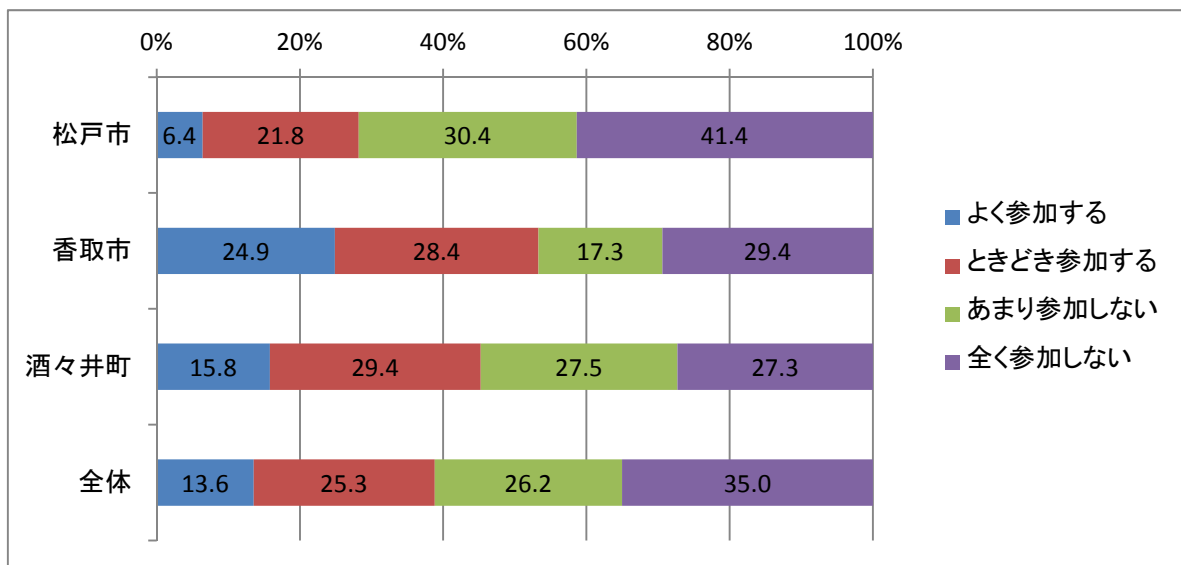
「c) 住民の意見や希望は、自治会の行政にかなり反映されている」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の 47.2%で、次いで「どちらかといえばそう思う」の 25.8%となった。全体で見ると「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の 23.4%を合わせると 70.6%と否定的な回答をした人が多かった。三市町別で見た時、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答率が、松戸市では 25.7%だったの

に対し、酒々井町では 34.9%と、酒々井町の方が住民意見が行政に反映されていると考えているようである。

問 9 地域活動への参加頻度について

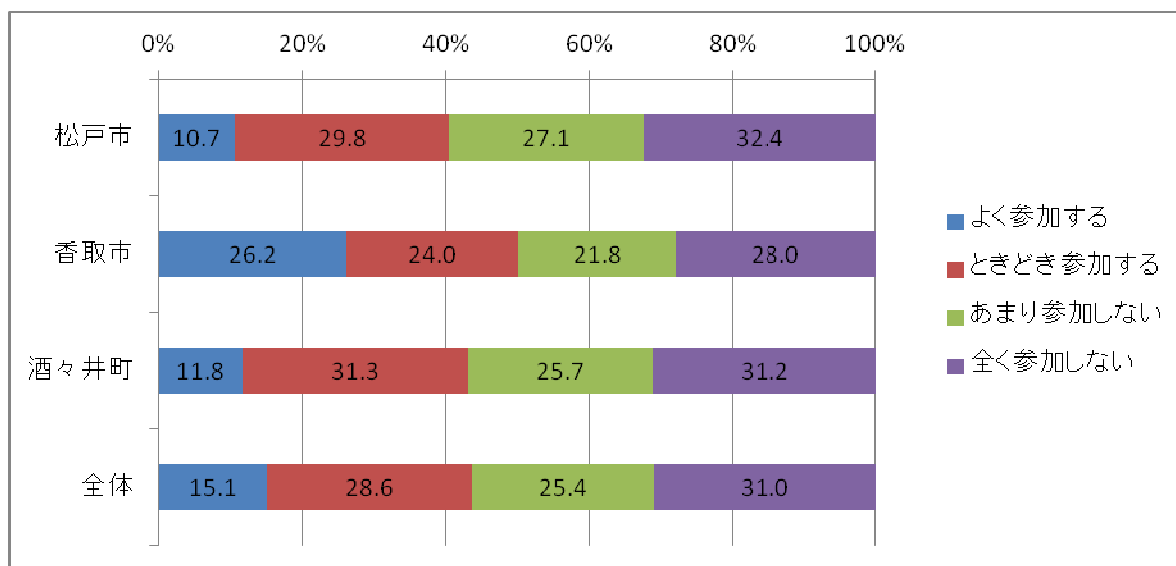
回答者の地域活動への参加頻度について、「a) 町内会・自治会・区の会合」、「b) 地元のお祭り」「c) 趣味サークル（文化・スポーツ）」「d) ボランティア活動（福祉、環境保護など）」の4分野の活動について、「よく参加する」、「ときどき参加する」、「あまり参加しない」、「全く参加しない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 9-1、9-2、9-3、9-4 である。

図表 9-1 「a) 町内会・自治会・区の会合」への参加頻度



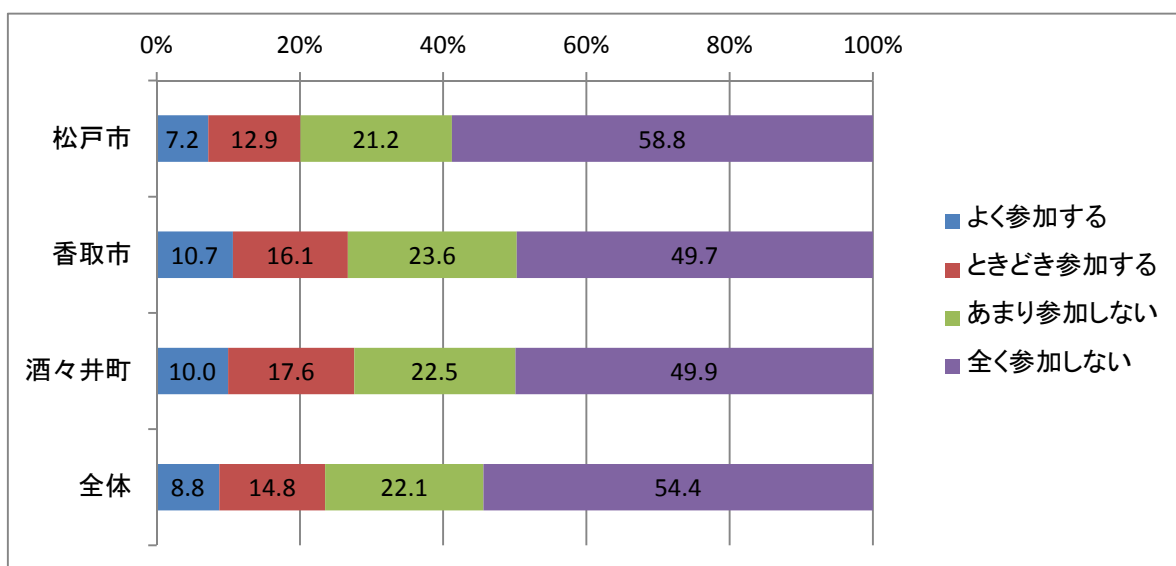
「a) 町内会・自治会・区の会合」への参加頻度について、全体で見ると最も回答率が高かったのは、「全く参加しない」の 35.0%となった。三市町別で見ると、松戸市では「全く参加しない」と回答した人が 41.4%と最も高く、次いで「あまり参加しない」30.4%となった。「ときどき参加する」は 21.8%、「よく参加する」は 6.4%と三市町の中で最も参加頻度が低い傾向が見られた。香取市は「全く参加しない」が 29.4%と最も高かったものの、「よく参加する」24.9%、「ときどき参加する」28.4%と半数以上の人々が活動に参加している様子が見て取れた。

図表 9-2 b) 地元のお祭りへの参加頻度



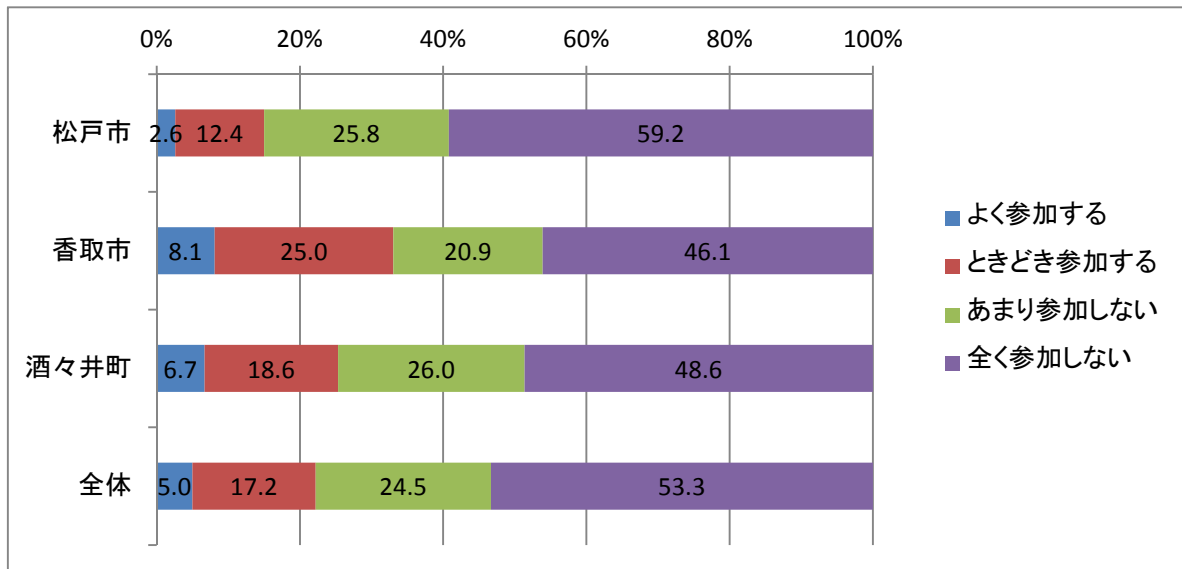
「b) 地元のお祭り」への参加頻度について、全体でみると「全く参加しない」が 31.0%と最も高くなった。次いで「ときどき参加する」28.6%、「よく参加する」15.1%と「町内会・自治会・区の会合」に比べるとわずかながら参加頻度が高い傾向が見られた。特に香取市では「よく参加する」が 26.2%と非常に高く、「ときどき参加する」24.0%と合わせると半数を超えており、他よりも高かった。

図表 9-3 c) 趣味サークルへの参加頻度



「c) 趣味サークル」への参加頻度について、最も回答率が高かったのは、「全く参加しない」で 54.4%と半数以上となった。次いで「あまり参加しない」22.1%、「ときどき参加する」14.8%、「よく参加する」8.8%の順となった。特に松戸市では「全く参加しない」が 58.8%と他地域よりも 10%近く高かった。

図表 9-4 d) ボランティア活動への参加頻度

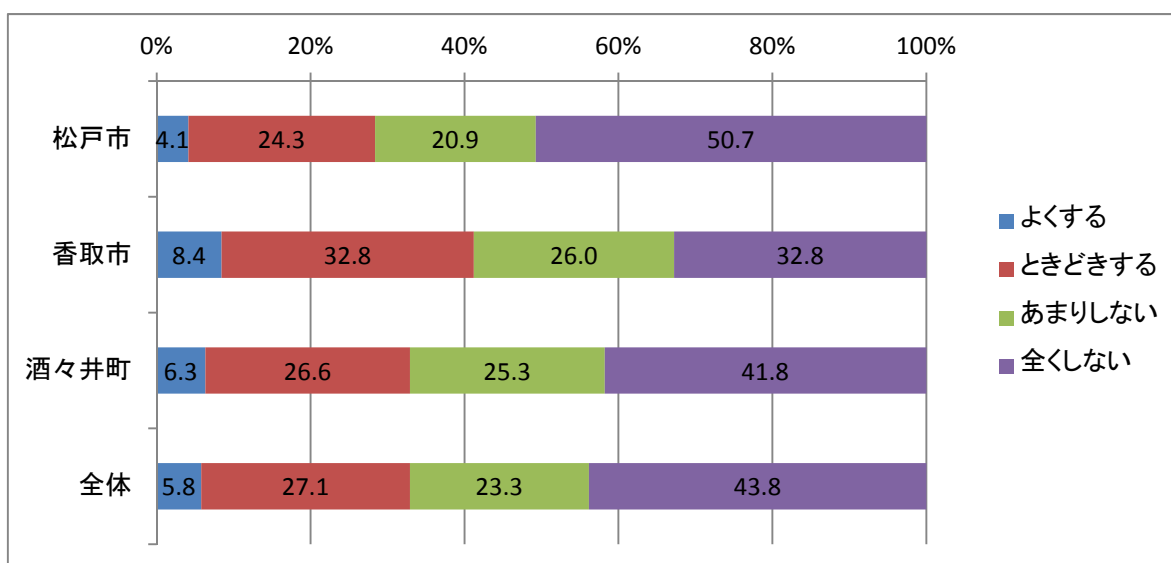


「d) ボランティア活動」への参加頻度について、最も回答率が高かったのは、「全く参加しない」の53.3%で、次いで「あまり参加しない」の24.5%、「ときどき参加する」の17.2%と続き、「よく参加する」が5.0%と最も低かった。三市町別にみると、松戸市では「よく参加する」2.6%と「あまり参加しない」12.4%を合わせると15.0%であったが、香取市では「よく参加する」8.1%、「ときどき参加する」25.0%を合わせると33.1%となり、ボランティア活動への参加頻度が高かった。

問 10 ご近所付き合いの頻度について

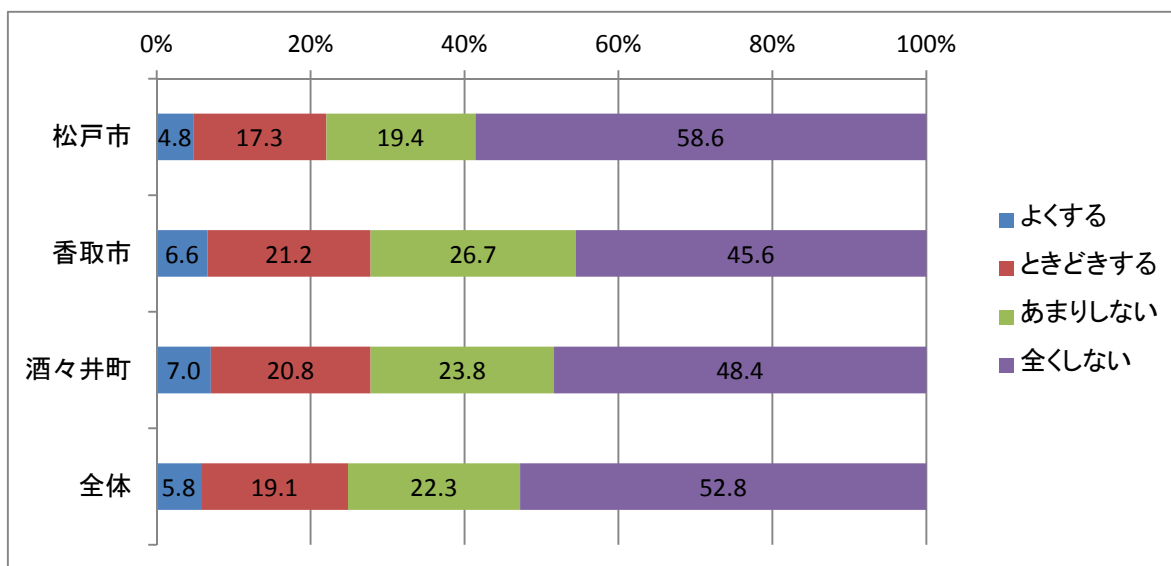
回答者のご近所付き合いの頻度について、「a」お茶や食事を一緒にする、「b」趣味活動を一緒にする、「c」いろいろなことを相談し合う」の3つのご近所付き合いについて、「よくする」、「ときどきする」、「あまりしない」、「全くしない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 10-1、10-2、10-3 である。

図表 10-1 a) お茶や食事を一緒にする頻度



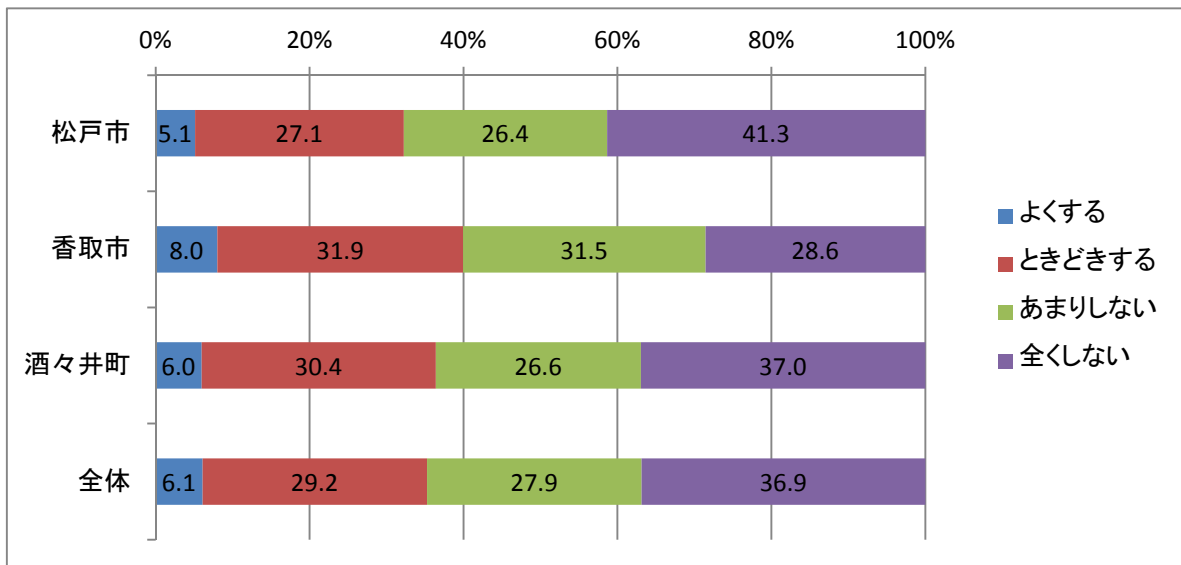
「a) お茶や食事を一緒にする」頻度について、最も回答率が高かったのは、「全くしない」の43.8%で、次いで「ときどきする」の27.1%となった。市町別にみると松戸市では「全くしない」が50.7%と半数を超えたが、香取市では32.8%で「ときどきする」の32.8%とほぼ同じ結果となった。

図表 10-2 b) 趣味活動を一緒にする頻度



「趣味活動を一緒にする」頻度について、最も回答率が高かったのは、「全くしない」の52.8%で、次いで「あまりしない」22.3%、「ときどきする」19.1%、「よくする」5.8%の順となった。

図表 10-3 c) いろいろなことを相談し合う頻度

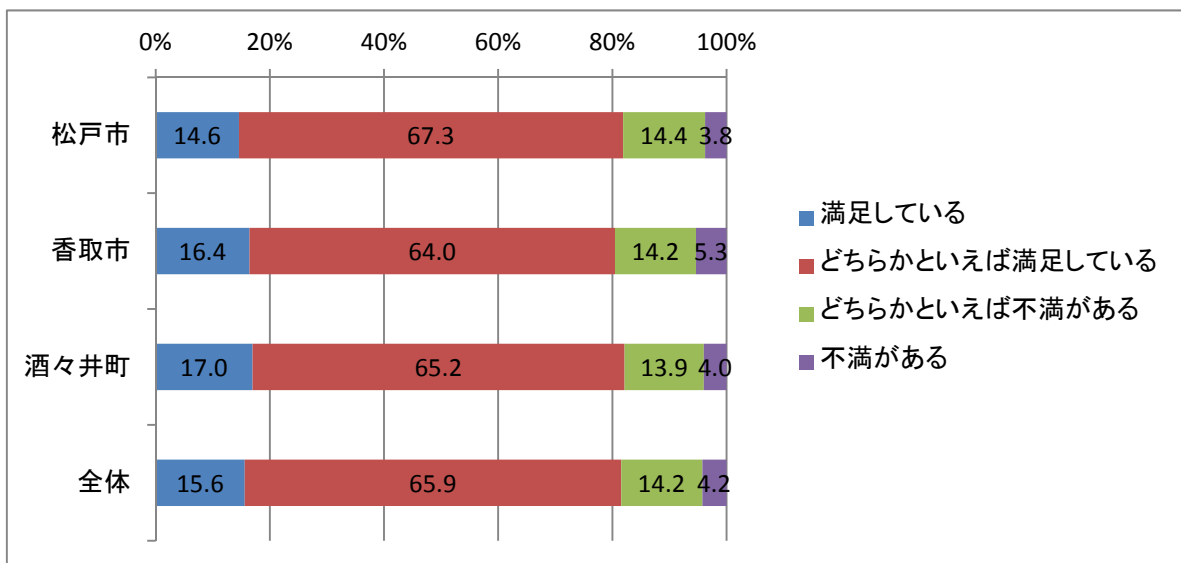


「いろいろなことを相談し合う」頻度について、最も回答率が高かったのは、「全くしない」の36.9%で、次いで「ときどきする」29.2%、「あまりしない」27.9%、「よくする」6.1%の順となった。市町別にみると、香取市では「ときどきする」が31.9%と最も高くなっており、他市町に比べて頻度が多かった。

問 11 地域に対する満足度について

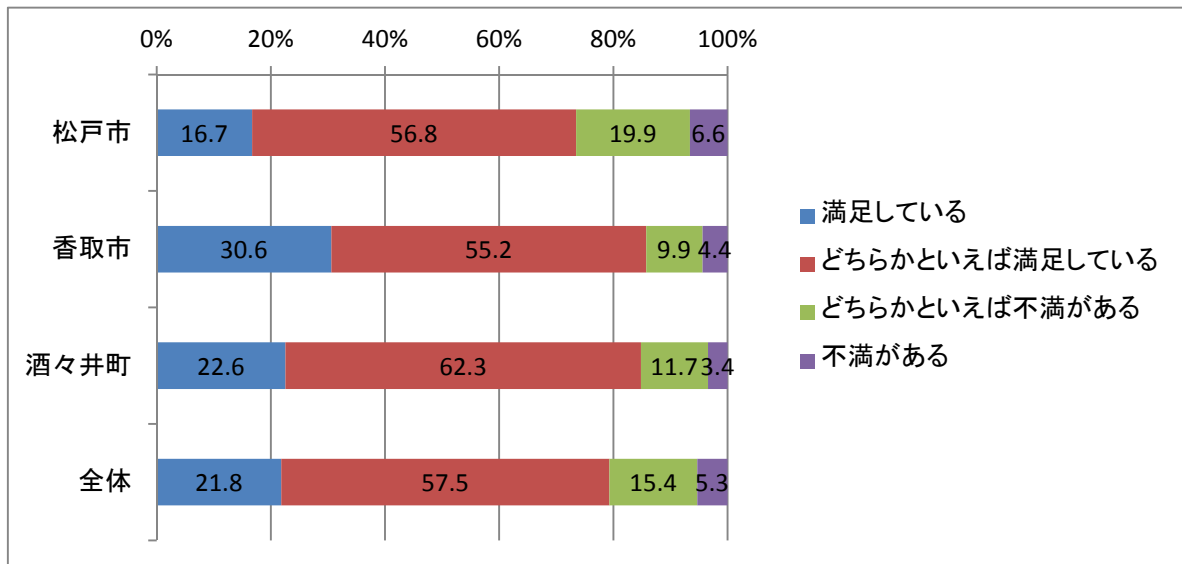
回答者の地域に対する満足度について、「a) 地域住民との人間関係」、「b) 治安の良さ」「c) 地域生活全般」の3つの視点からの満足度を、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらかといえば不満がある」、「不満がある」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 11-1、11-2、11-3 である。

図表 11-1 a) 地域住民との人間関係に対する満足度



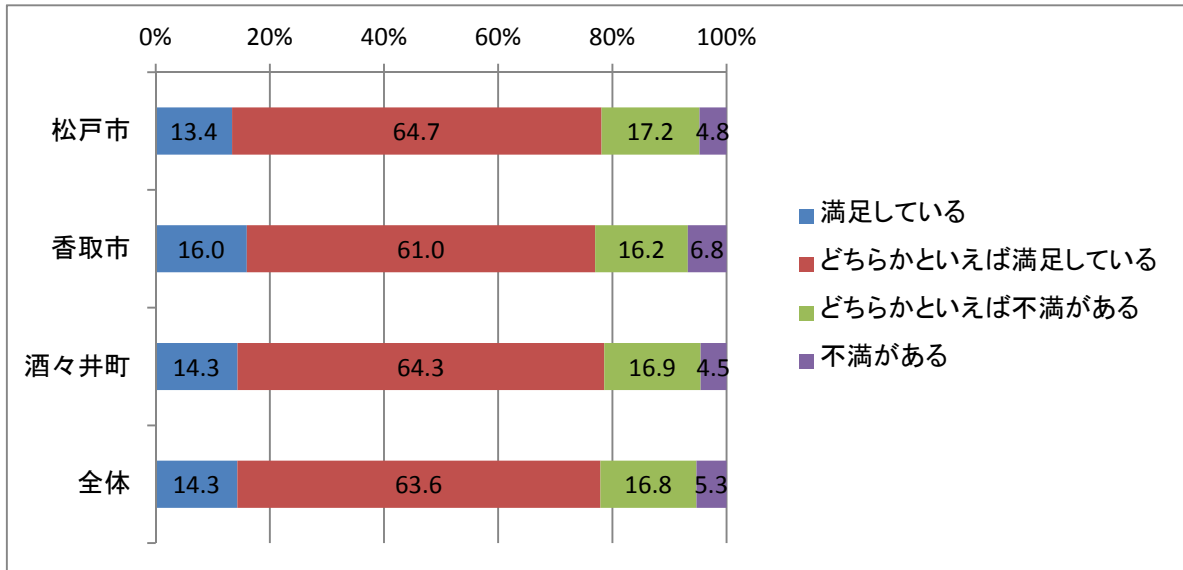
「地域住民との人間関係」の満足度について、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえば満足している」が 65.9%で、次いで「満足している」15.6%、「どちらかといえば不満がある」14.2%、「不満がある」4.2%の順となった。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、どの地域でも 80%を超えており、地域住民との人間関係については満足している傾向が強い。

図表 11-2 b) 治安の良さに対する満足度



「治安の良さ」の満足度について、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえば満足している」で 57.5%となった。次いで「満足している」21.8%、「どちらかといえば不満がある」15.4%、「不満がある」5.3%の順となった。市町別にみると、「満足している」が香取市では 30.6%、酒々井町では 22.6%だったのに対し、松戸市では 16.7%と低かった。また、「どちらかといえば不満がある」では香取市 9.9%、酒々井町 11.7%に対し、松戸市では 19.9%と高く、松戸市では他市町よりも治安に対して、満足度が低かった。

図表 11-3 c) 地域生活全般に対する満足度

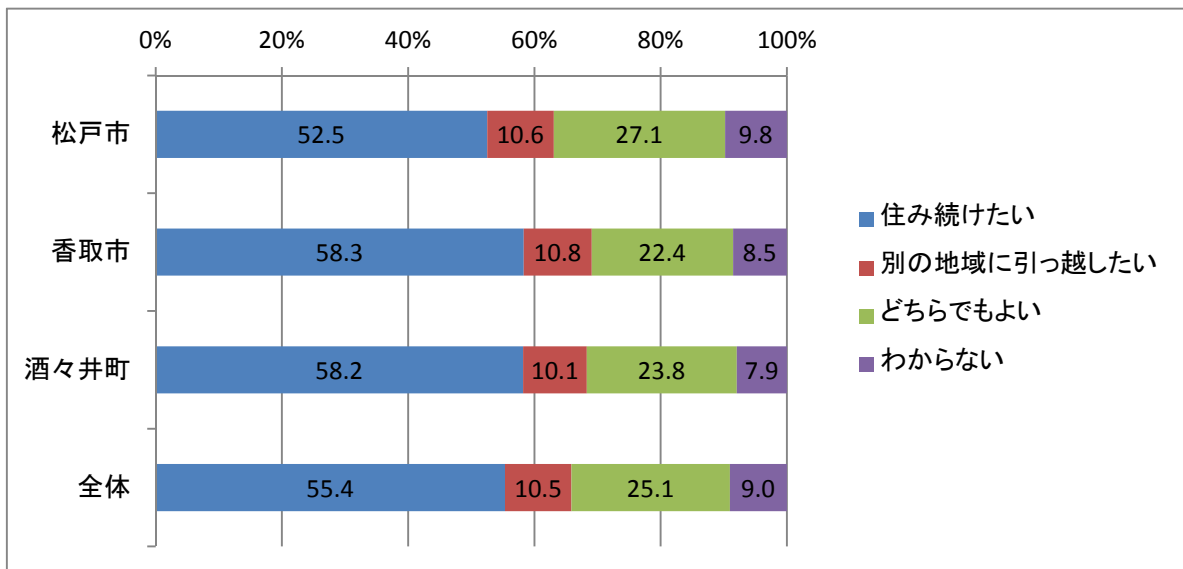


「地域生活全般」の満足度について、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえば満足している」の63.6%で、次いで「どちらかといえば不満がある」16.8%、「満足している」14.3%、「不満がある」5.3%の順となった。全体的に「満足している」と「どちらかといえば満足している」合わせて80%近くになっており、地域生活全般への満足度は高かった。

問 12 地域への定住希望志向について

回答者の地域への定住希望志向について、「住み続けたい」、「別の地域に引っ越したい」、「どちらでもよい」、「わからない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 12 である。

図表 12 地域への定住希望志向

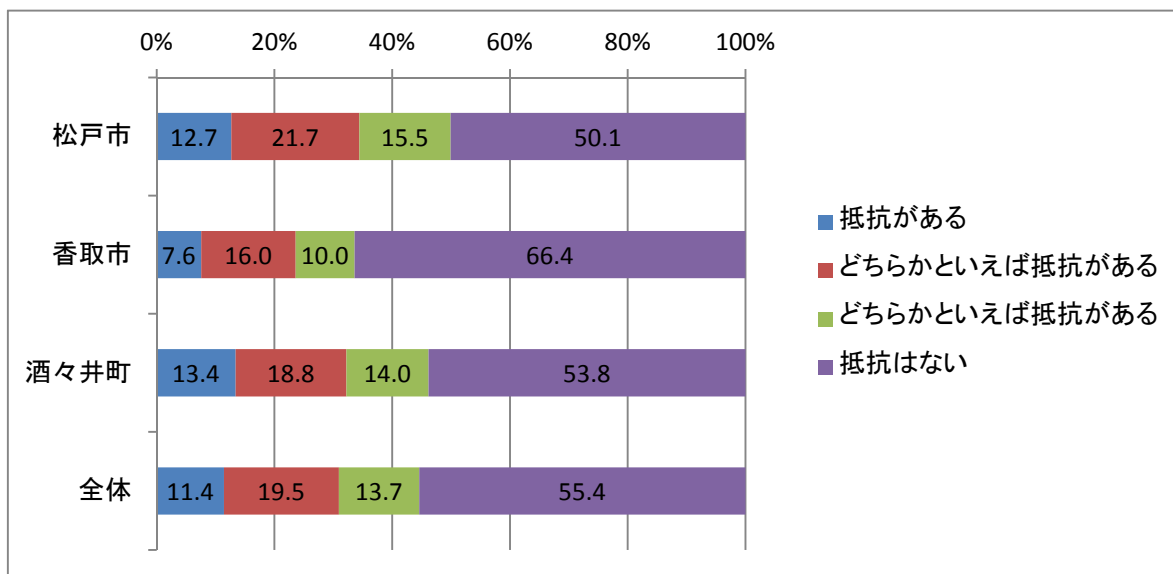


最も回答率が高かったのは、「住み続けたい」の55.4%で、以下「どちらでもよい」25.1%、「別の地域に引っ越したい」10.5%、「わからない」9.0%の順となった。

問 13 個人情報を知られることへの抵抗感について

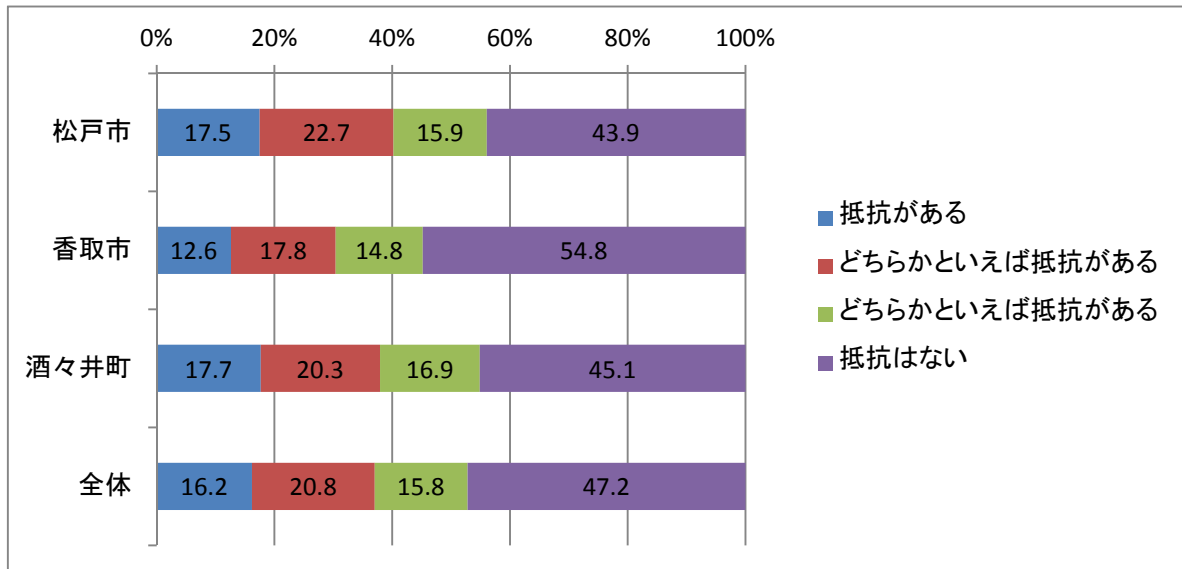
回答者の個人情報を知られることへの抵抗感について、「職業」、「学歴」、「世帯収入」、「自宅電話番号」、「メールアドレス」の5つの項目を知られることについて、それぞれ「抵抗がある」、「どちらかといえば抵抗がある」、「どちらかといえば抵抗はない」、「抵抗はない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 13-1、13-2、13-3、13-4、13-5 である。

図表 13-1 「職業」を知られることへの抵抗感



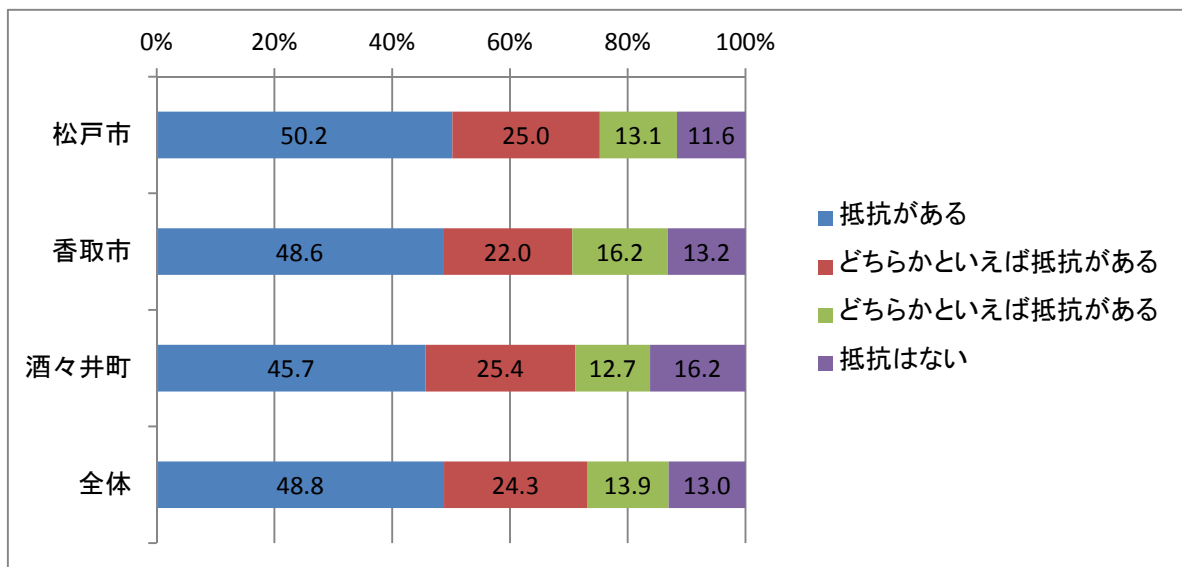
「職業」を知られることについて、最も回答率が高かったのは、「抵抗はない」の 55.4%で、以下「どちらかといえば抵抗がある」19.5%、「どちらかといえば抵抗はない」13.7%、「抵抗がある」11.4%の順となった。市町別にみると、「抵抗はない」と答えた人は、松戸市では 50.1%、酒々井町では 53.8%だったのに対し、香取市では 66.4%と 10%以上も高かった。

図表 13-2 「学歴」を知られることへの抵抗感



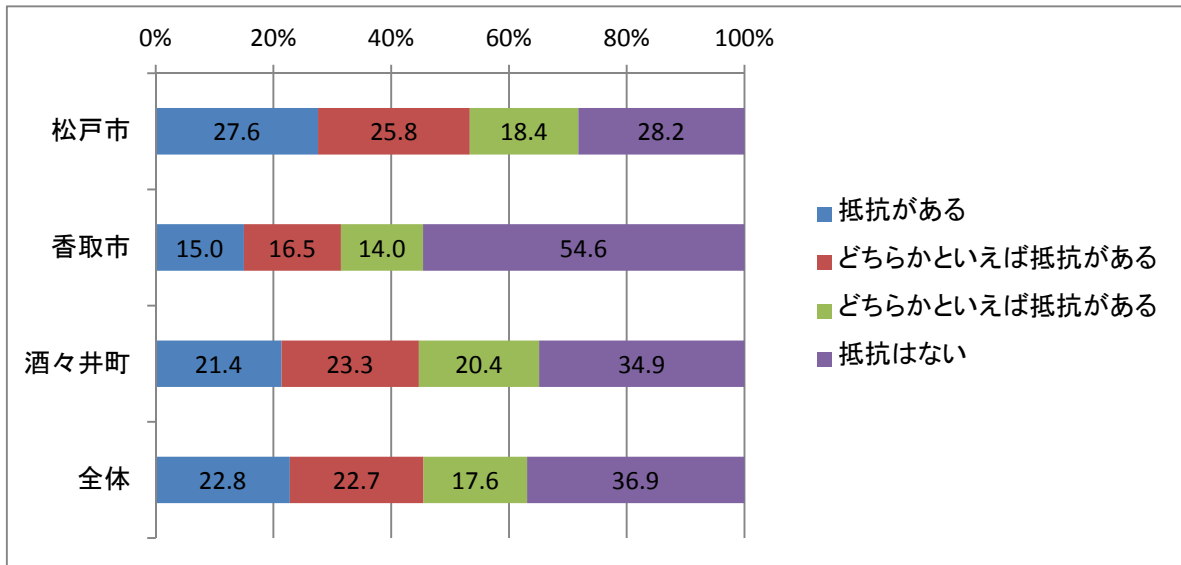
「学歴」を知られることについて、最も回答率が高かったのは、「抵抗はない」の 47.2%で、以下「どちらかといえば抵抗がある」20.8%、「抵抗がある」11.4%、「どちらかといえば抵抗はない」15.8%の順となった。市町別にみると、「抵抗はない」と回答した人が松戸市で 43.9%、酒々井町で 45.1%だったのに対し、香取市では 54.8%と 10%近く高かった。

図表 13-3 「世帯収入」を知られることへの抵抗感



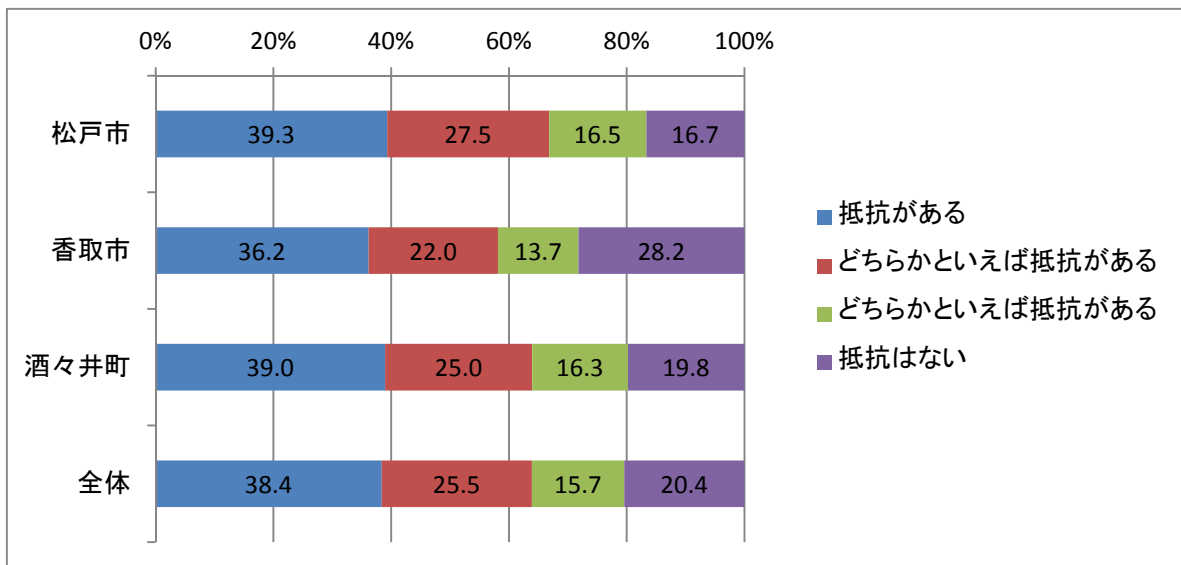
「世帯収入」を知られることについて、最も回答率が高かったのは、「抵抗がある」の 48.8%で、以下「どちらかといえば抵抗がある」の 24.3%、「どちらかといえば抵抗はない」13.9%、「抵抗はない」13.0%となった。

図表 13-4 「自宅電話番号」を知られることへの抵抗感



「自宅電話番号」を知られることについて、最も回答率が高かったのは、「抵抗はない」の 36.9% で、以下「どちらかといえば抵抗がある」22.7%、「抵抗がある」22.8%、「どちらかといえば抵抗はない」17.6%の順となった。市町別にみると、「抵抗はない」と答えた人は、松戸市 28.2%、酒々井町 34.9%だったが、香取市では 54.6%と高く、香取市は他地域に比べて、抵抗感が低かった。

図表 13-5 「メールアドレス」を知られることへの抵抗感

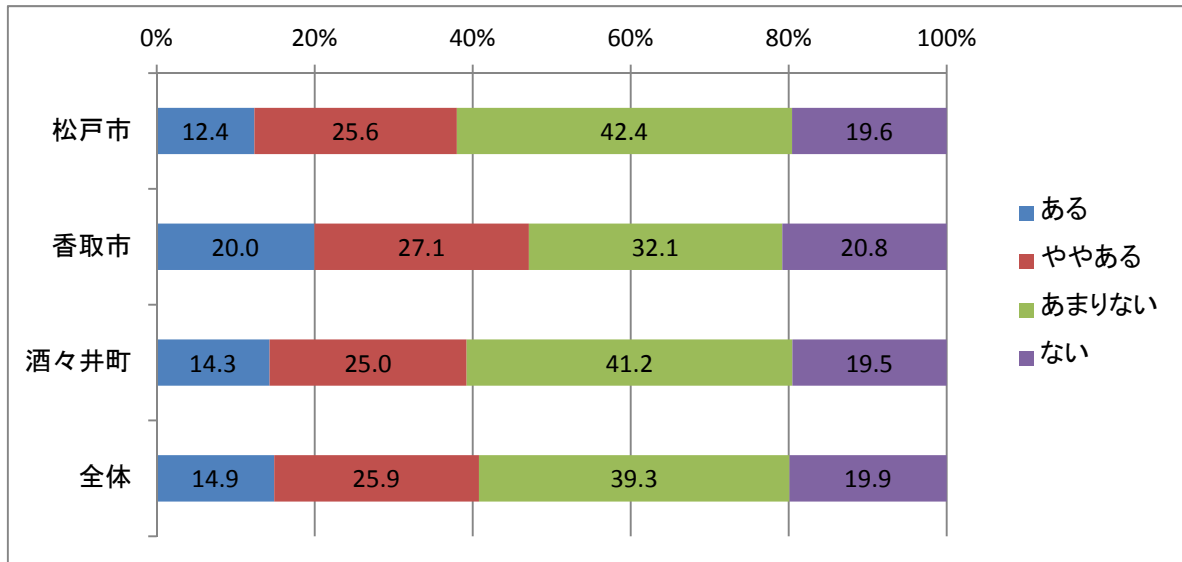


「メールアドレス」を知られることについて、最も回答率が高かったのは、「抵抗がある」の 38.4% で、以下「どちらかといえば抵抗がある」25.5%、「抵抗はない」20.4%、「どちらかといえば抵抗はない」の順となった。市町別にみると、「抵抗はない」と答えた人は、松戸市で 16.7%、酒々井町で 19.8%だったのに対し、香取市では 28.2%とやはり他地域に比べて、抵抗感の低い結果となった。

問 14 居住年数の実感経験について

回答者が旧住民か新住民かを実感することがあるかどうかについて、「ある」、「ややある」、「あまりない」、「ない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 14 である。

図表 14 居住年数の実感経験

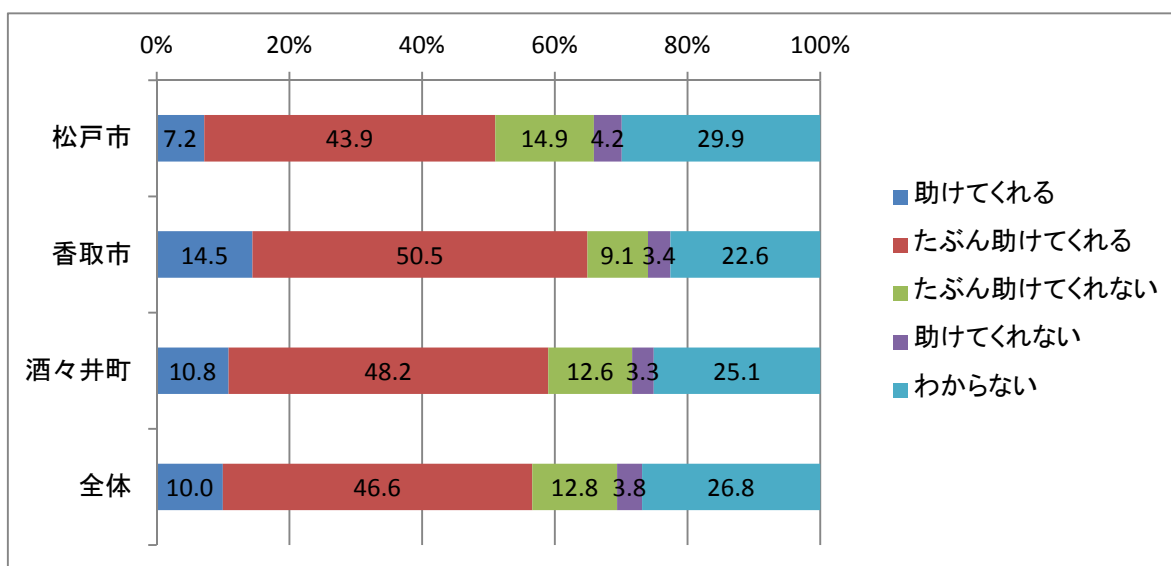


最も回答率が高かったのは、「あまりない」の 39.3%で、以下「ややある」25.9%、「ない」19.9%「ある」14.9%の順となった。全体でみると「ある」、「ややある」と答えた人は 40%程度だったが、香取市だけは「ある」20.0%、「ややある」27.1%と他地域に比べてやや高い結果となった。

問 15 犯罪遭遇時の近隣住民による積極的救助への期待度について

回答者が犯罪の被害に遭いそうになったとき、近隣の人々が積極的に助けてくれるかどうかについて、「助けてくれる」、「たぶん助けてくれる」、「たぶん助けてくれない」、「助けてくれない」、「わからない」の5つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 15 である。

図表 15 犯罪遭遇時の近隣住民による積極的救助への期待度

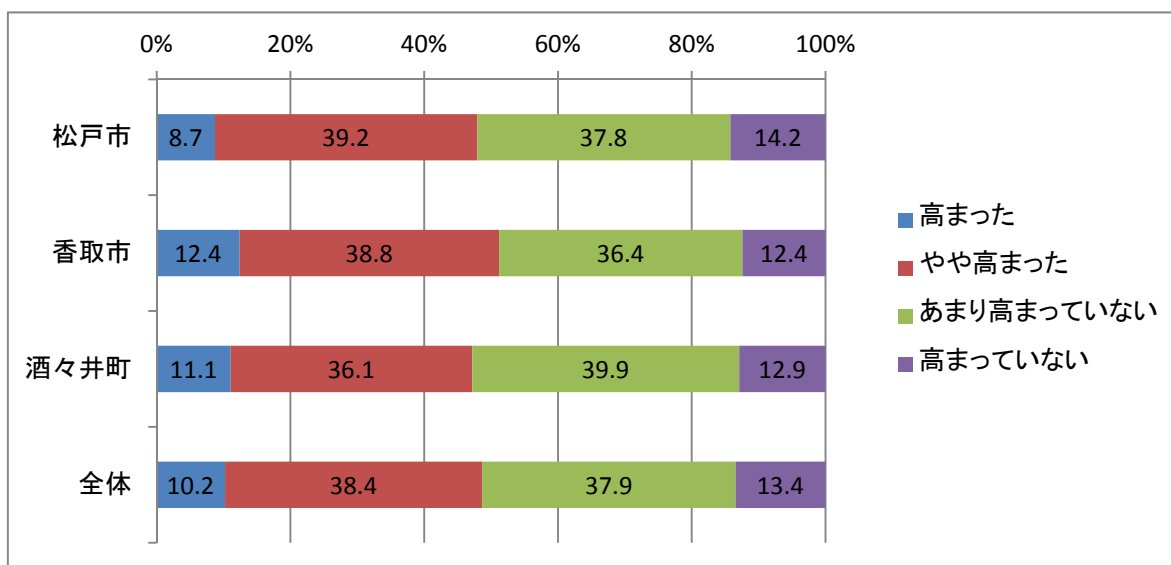


最も回答率が高かったのは、「たぶん助けてくれる」の46.6%となり、以下「わからない」26.8%、「たぶん助けてくれない」12.8%、「助けてくれる」10.0%、「助けてくれない」3.8%の順となった。市町別にみると、香取市では「助けてくれる」14.5%、「たぶん助けてくれる」50.5%と他地域よりも高い結果となった。松戸市では「助けてくれる」7.2%、「たぶん助けてくれる」43.9%を合わせても51%程度にとどまり、他地域を大きく下回った。

問 16 東日本大震災以降の地域住民とのつながり意識の高まりについて

回答者が東日本大震災以降、地域住民とのつながりを持とうという意識が高まったかどうかについて、「高まった」、「やや高まった」、「あまり高まっていない」、「高まっていない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 16 である。

図表 16 東日本大震災以降の地域住民とのつながり意識の高まり

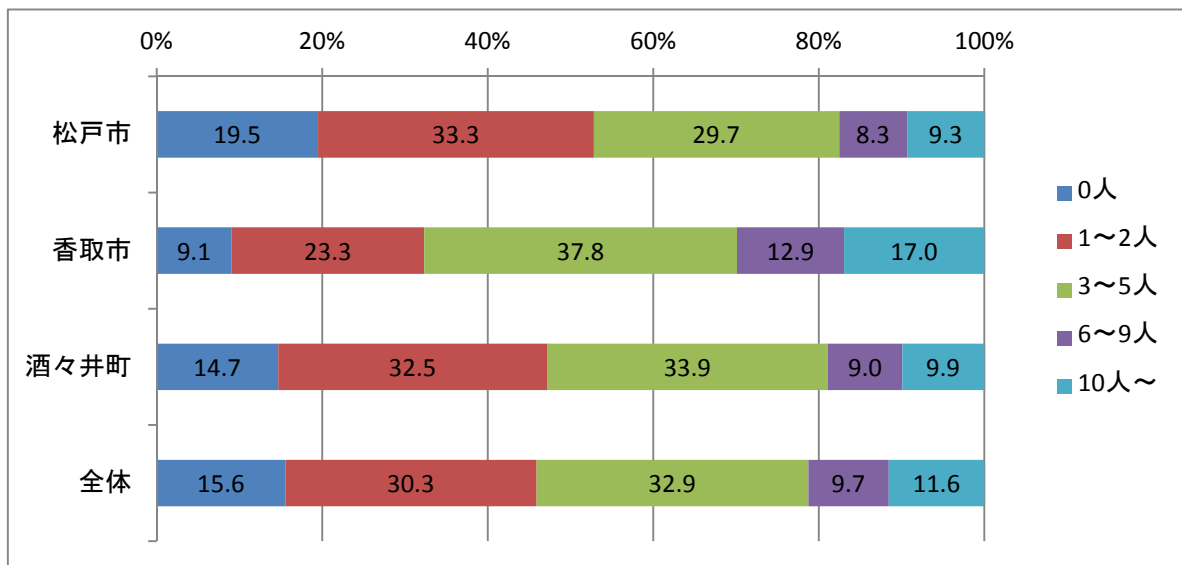


最も回答率が高かったのは、「やや高まった」の 38.4%で、次いで僅かの差で「あまり高まっていない」の 37.9%、以下「高まっていない」13.4%、「高まった」10.2%の順となった。

問 17 親しい友人の人数と住まいの距離について

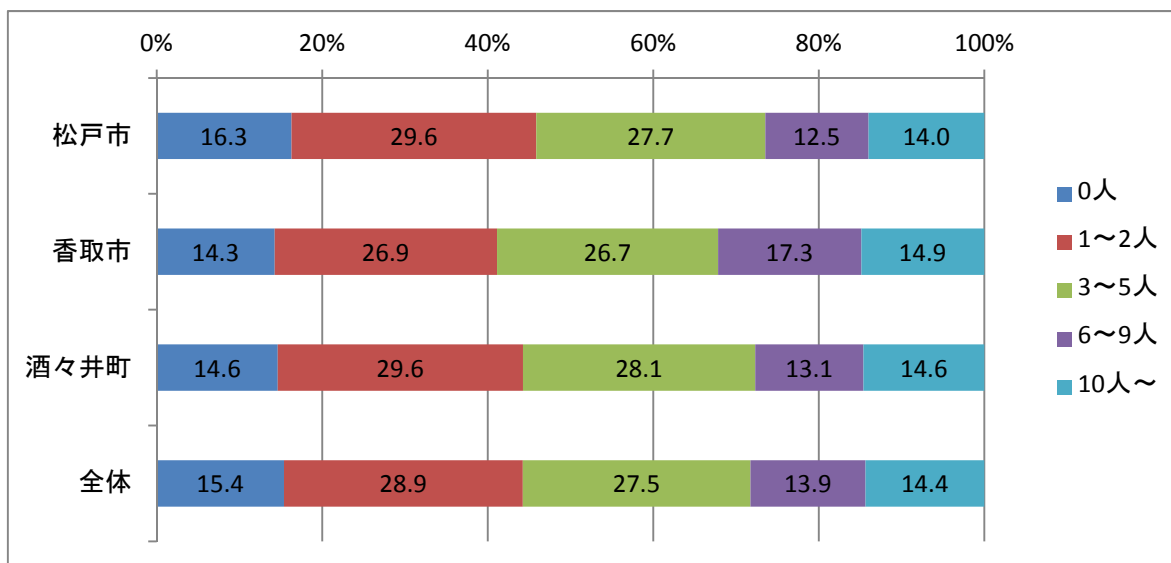
回答者が頼りにし、親しくしている人が何人程度いるかについて、自宅からの所要時間ごとに「a) 自宅から 30 分以内」、「b) 自宅から 30 分から 2 時間未満」、「c) 自宅から 2 時間以上」の 3 つの段階ごとに「0 人」、「1~2 人」、「3~5 人」、「6~9 人」、「10 人~」の 5 つの選択肢から回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 17-1、17-2、17-3 である。

図表 17-1 a) 自宅から 30 分以内の距離に住む親しい友人の数



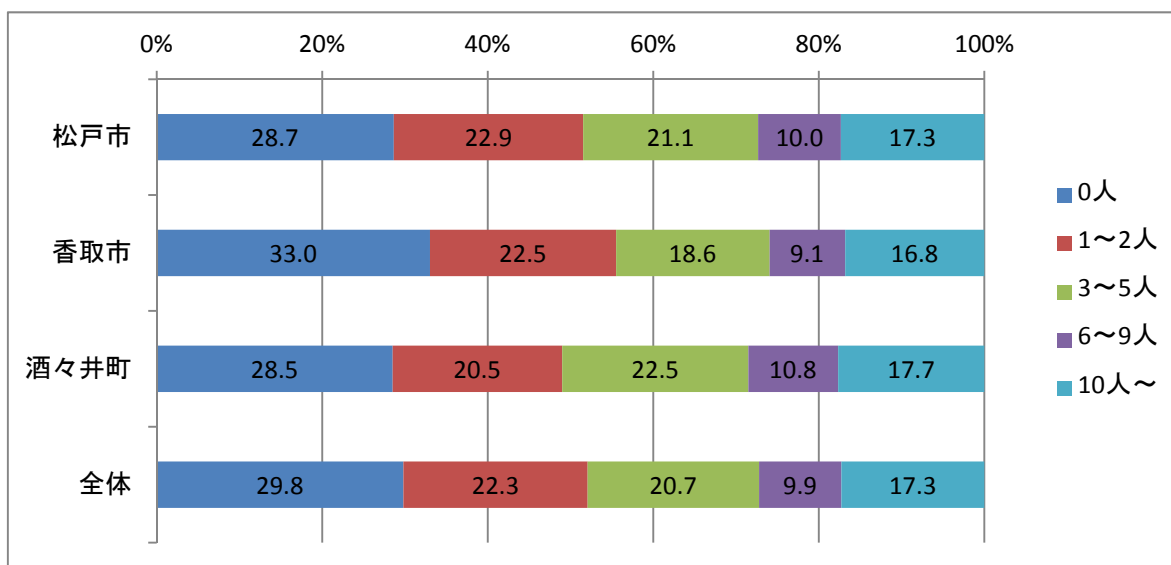
この範囲に住む親しい友人の数について、最も回答率が高かったのは、「3~5 人」の 32.9%、以下「1~2 人」30.3%、「0 人」15.6%、「10 人~」11.6%、「6~9 人」9.7%の順となった。市町別にみると、「0 人」と回答した人が松戸市では 19.5%、香取市では 9.1%、酒々井町では 14.7%となるなど、全体的に香取市に比べて松戸市の人は近距離に親しい友人が少ない傾向が見られた。

図表 17-2 b) 自宅から 30 分から 2 時間未満の距離に住む親しい友人の数



この範囲に住む親しい友人の数について、最も回答率が高かったのは、「1~2人」の28.9%、以下「3~5人」の27.5%、「0人」15.4%、「10人~」14.4%、「6~9人」13.9%の順となった。

図表 17-3 c) 自宅から 2 時間以上の距離に住む親しい友人の数

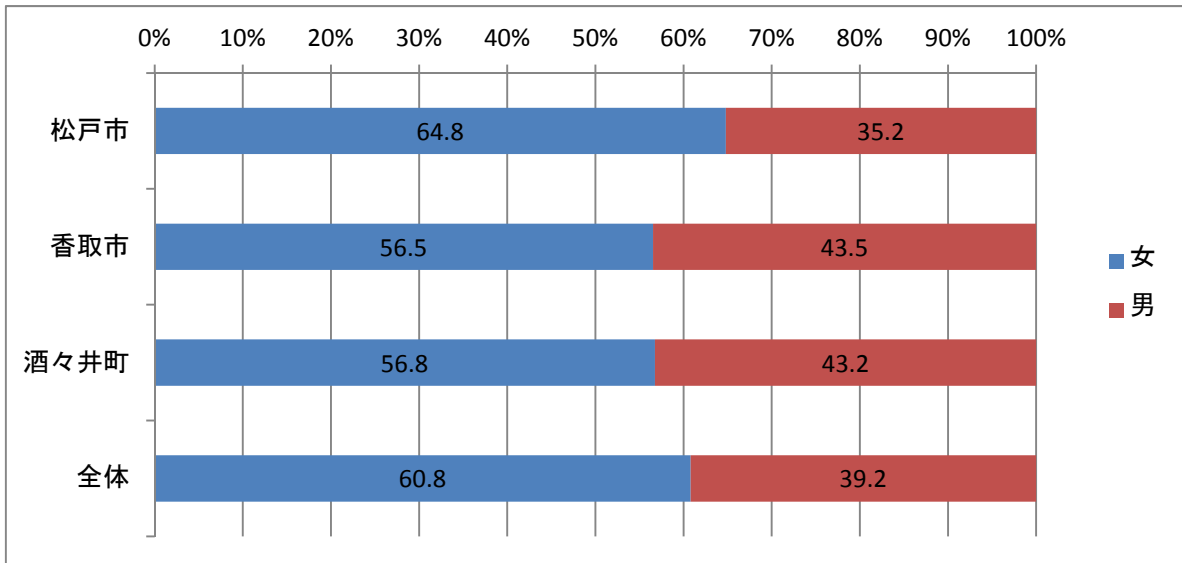


この範囲に住む親しい友人の数について、最も回答率が高かったのは、「0人」の29.8%、以下「1~2人」22.3%、「3~5人」20.7%、「10人~」17.3%、「6~9人」9.9%の順となった。

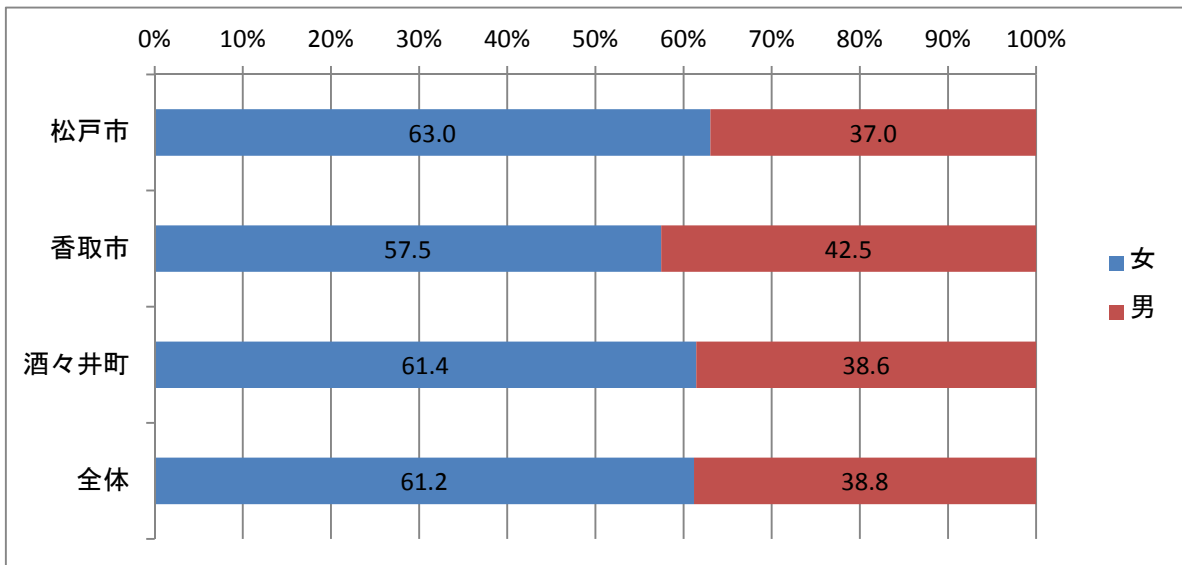
問 18 悩みを相談する相手の性別・年齢・経緯について

回答者が悩みを相談する相手について3人（仮にAさん、Bさん、Cさんとする）を思い浮かべてもらい、それぞれについて性別、年齢、知り合った経緯について、回答してもらった。その結果がそれぞれ性別については図表 18a-A、18a-B、18a-C、年齢については図表 18b-A、18b-B、18b-C、経緯については図表 18c-A、18c-B、18c-Cである。

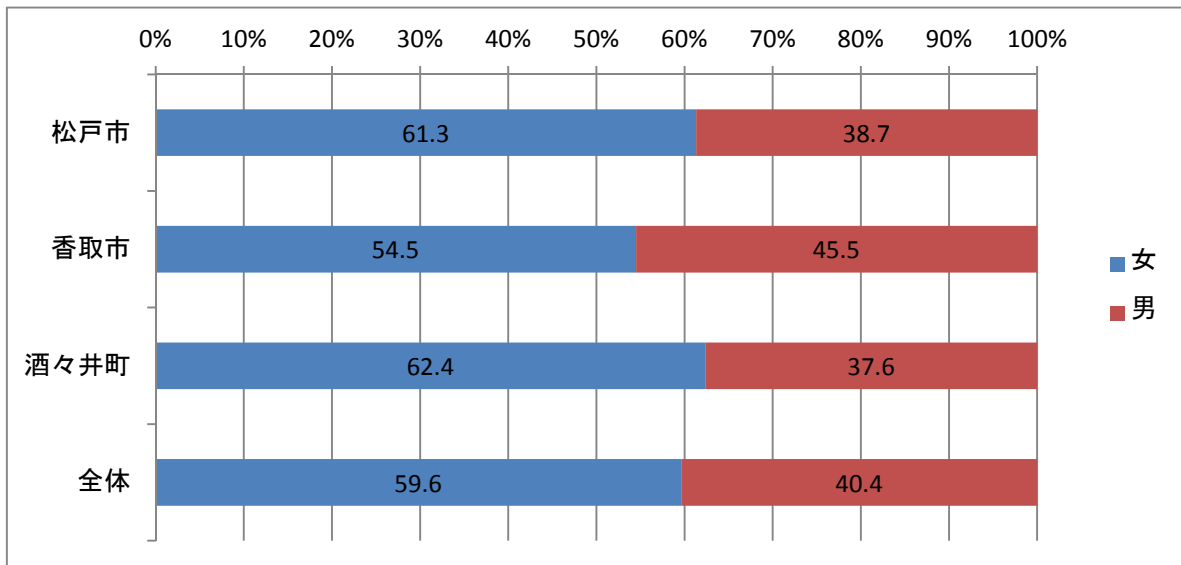
図表 18a-A Aさんの性別



図表 18a-B Bさんの性別

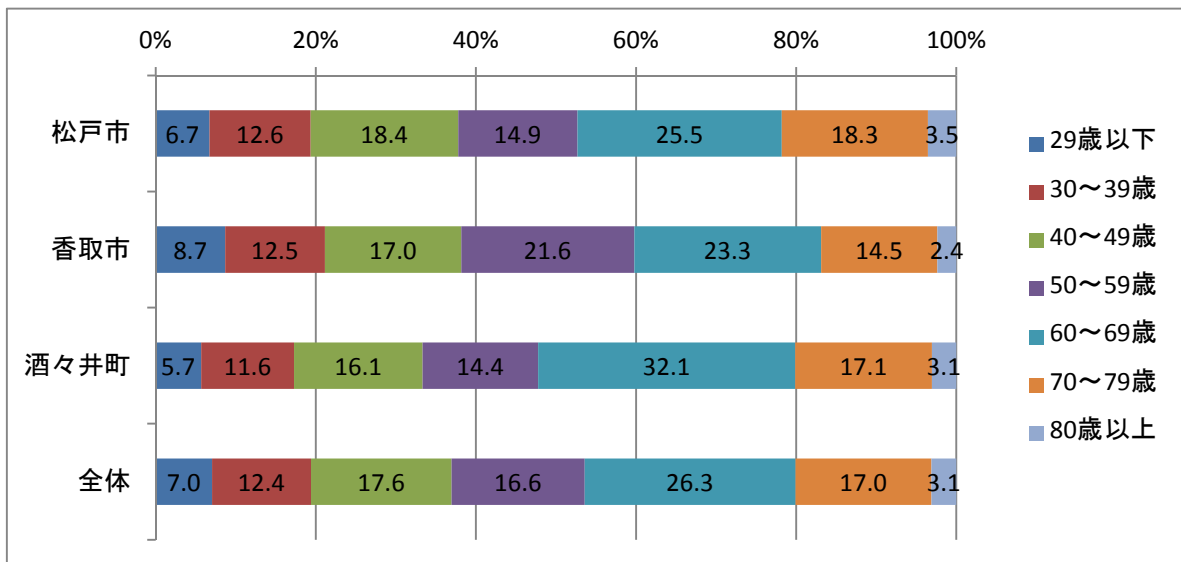


図表 18a-C Cさんの性別

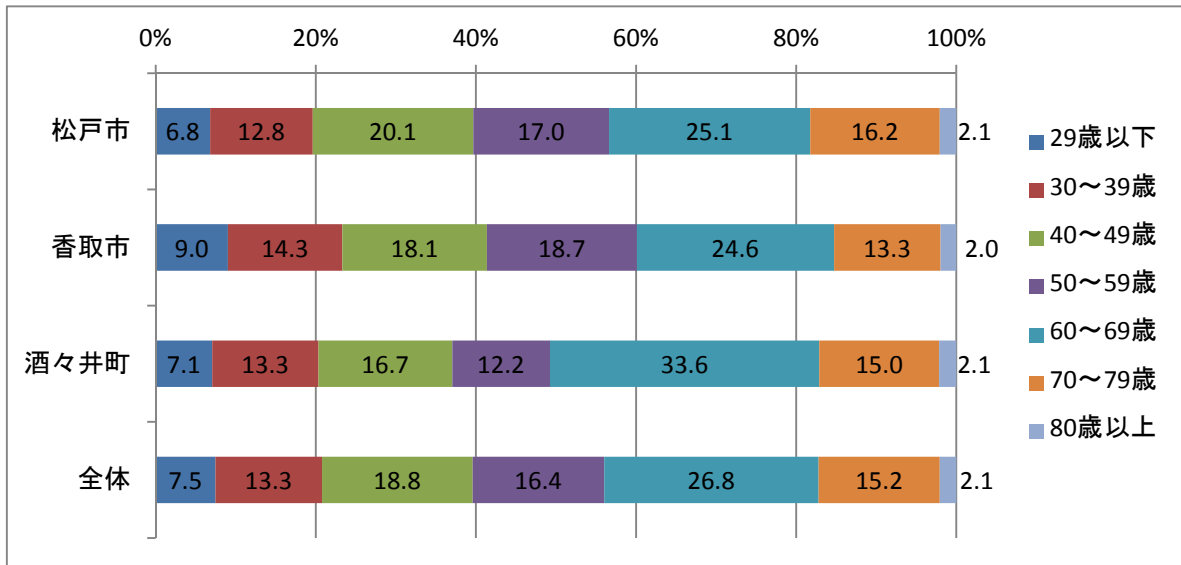


回答者が悩みを相談する相手の性別をみると、全体で「女性」がAさんで 60.8%、Bさんで 61.2%、Cさんで 59.6%と全て男性を上回った。回答者自身の性別が女性 56.3%であるから、同性を選択する比率が高いことを考えても、全体的に女性を悩みの相談相手として考えている傾向が見られた。

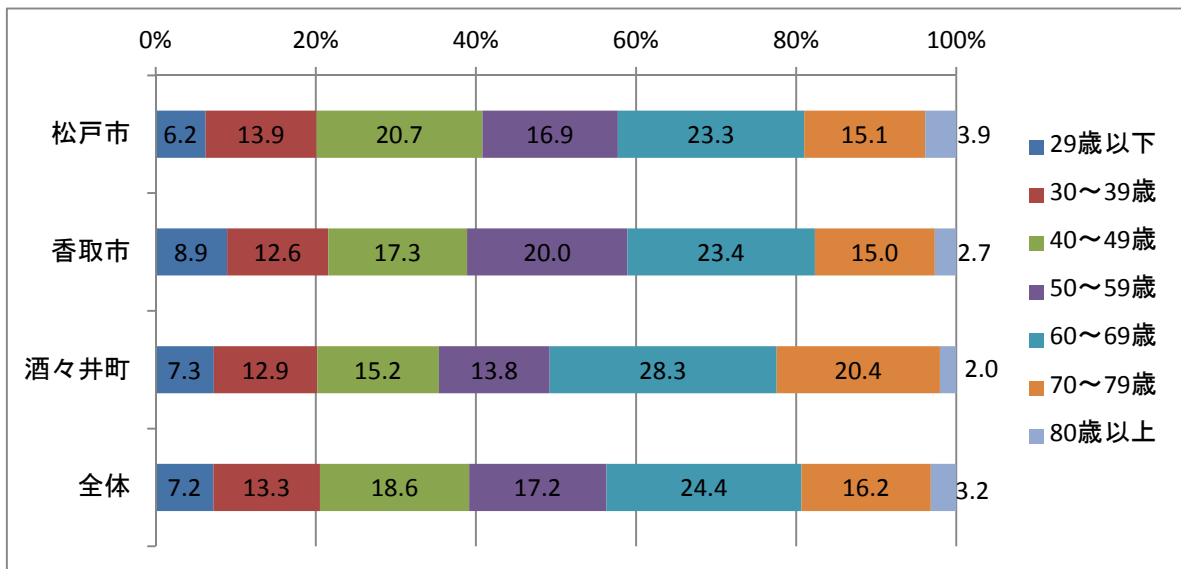
図表 18b-A Aさんの年齢



図表 18b-B Bさんの年齢

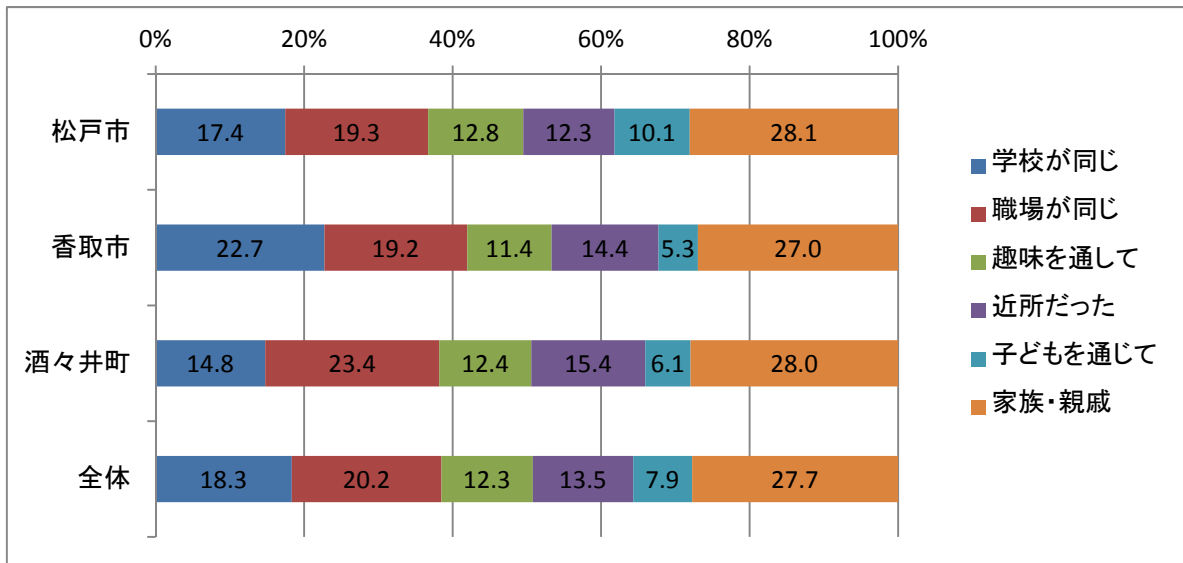


図表 18b-C Cさんの年齢

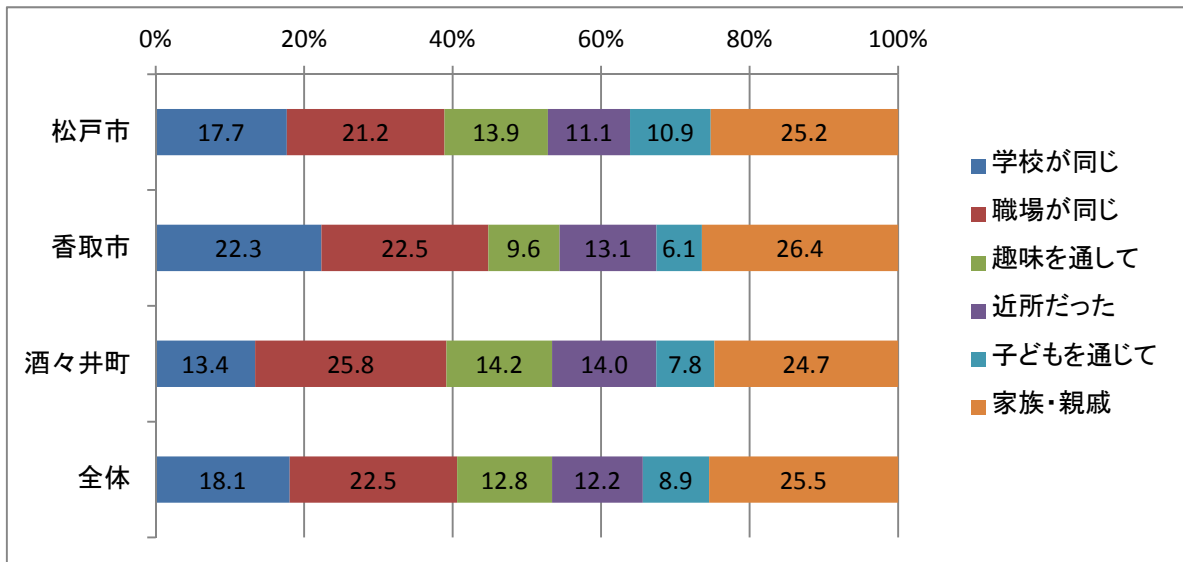


回答者が悩みを相談する相手の年齢別にみると、全体で「60~69歳」がAさん 26.3%、「Bさん」26.8%、「Cさん」24.4%と比較的高い結果となった。全体的に見ると、回答者自身の年代と同年代が高く、次いで回答者自身より少し上の年代が高い傾向が見られた。

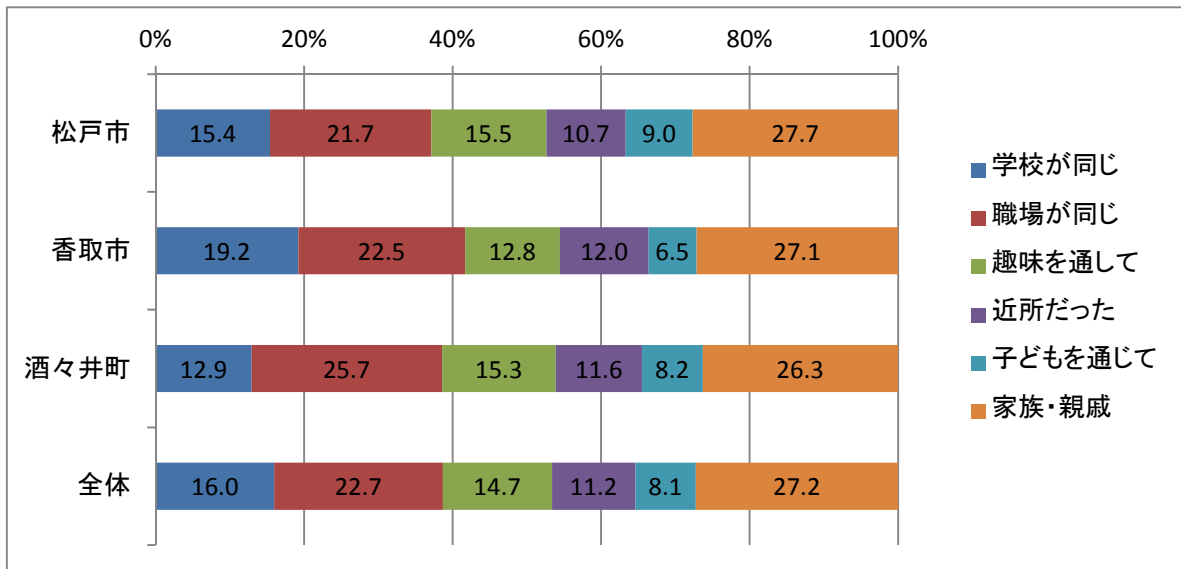
図表 18c-A Aさんと知り合った経緯



図表 18c-B Bさんと知り合った経緯



図表 18c-C Cさんと知り合った経緯

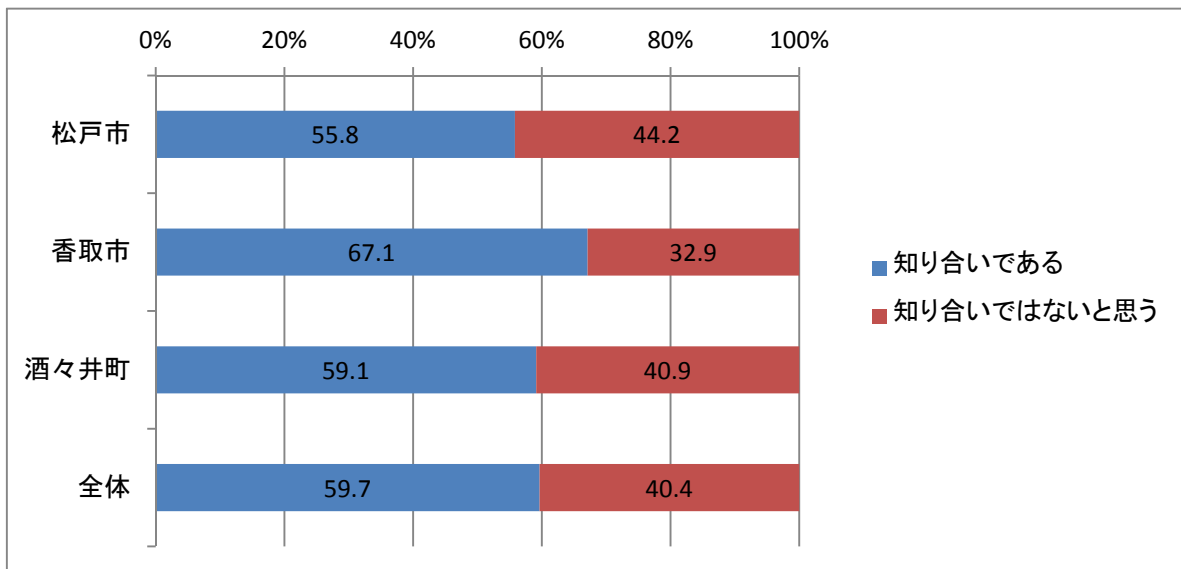


回答者が悩みを相談する相手との知り合った経緯をみると、全体で「家族・親戚」がAさん27.7%、「Bさん」25.5%、「Cさん」27.2%と比較的高い結果となった。全体的に見ると、回答者が悩みを相談する相手は学校や職場、近所など地域を通じた知り合いよりも家族や親戚といった身内である傾向が高く見られた。

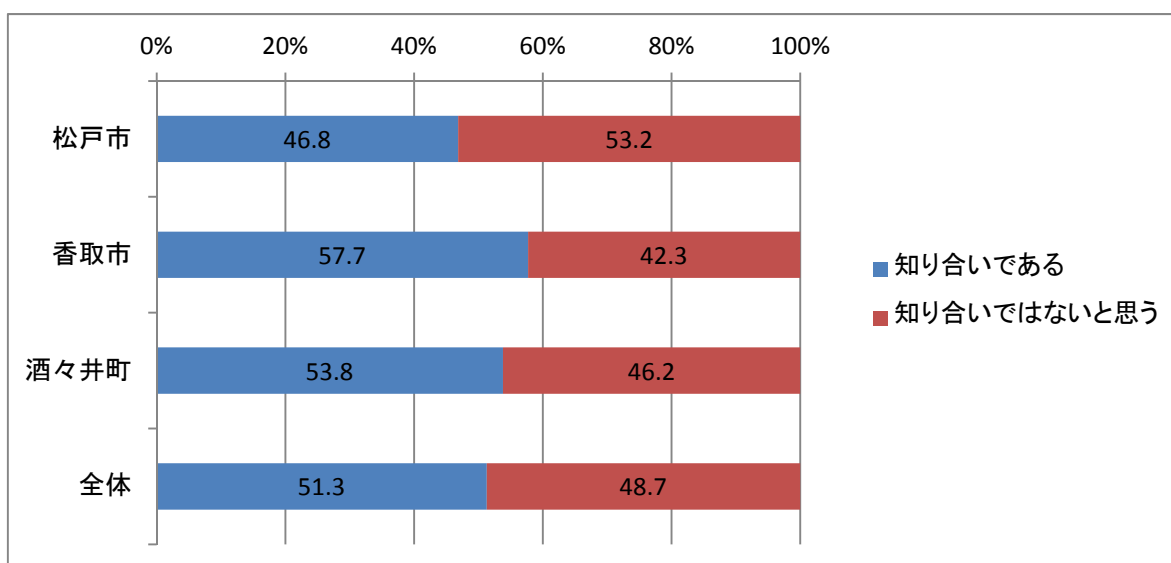
問 19 悩みを相談する相手同士の関係について

問 18 で回答してもらった3人（Aさん、Bさん、Cさん）同士の関係について回答してもらった。その結果がそれぞれ図表 19-1、19-2、19-3 である。

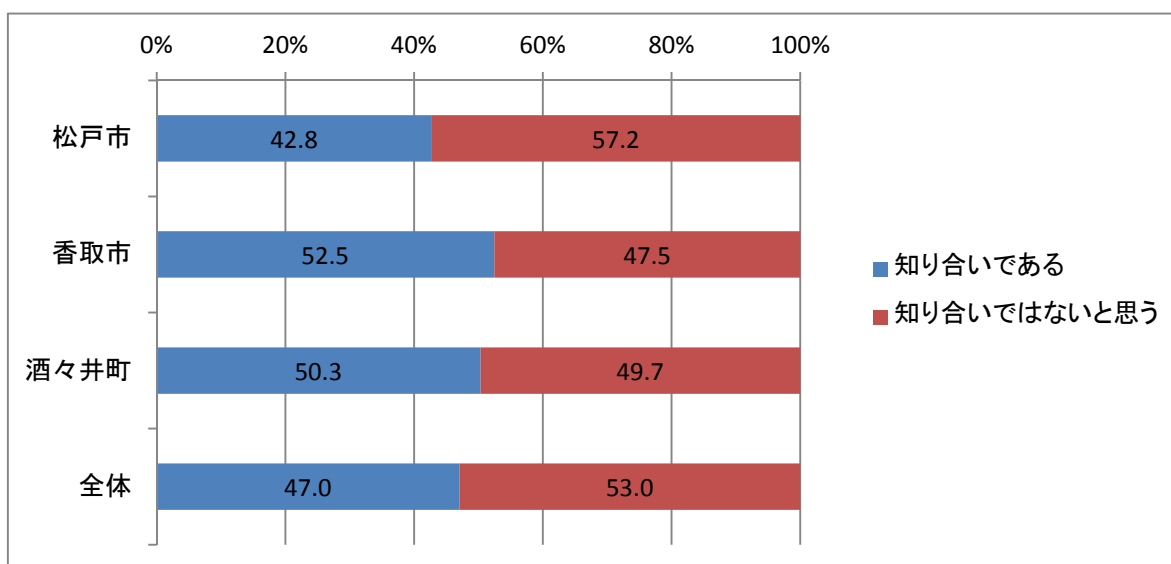
図表 19-1 AさんとBさんの関係



図表 19-2 BさんとCさんの関係



図表 19-3 CさんとAさんの関係

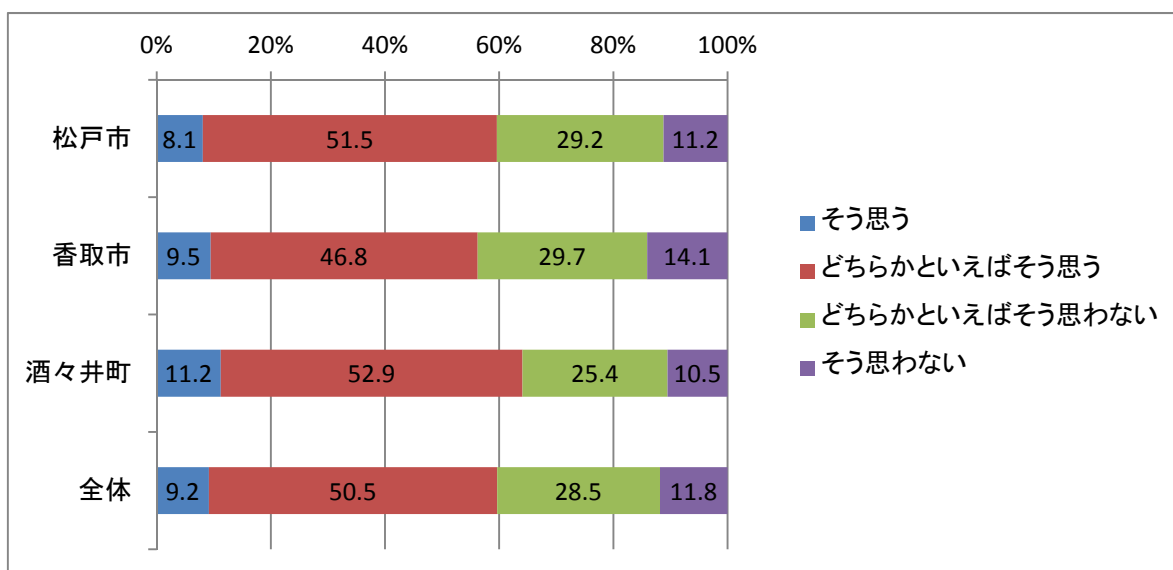


それぞれ同市の関係性を見ると、全体ではどの組み合わせでも知り合いであるか否かはほぼ半数ずつに分かれる結果となった。三市別に見てもあまり大きな差は見られないが、松戸市では知り合いである傾向が比較的高く見られた。

問 20 他人に対する意識について

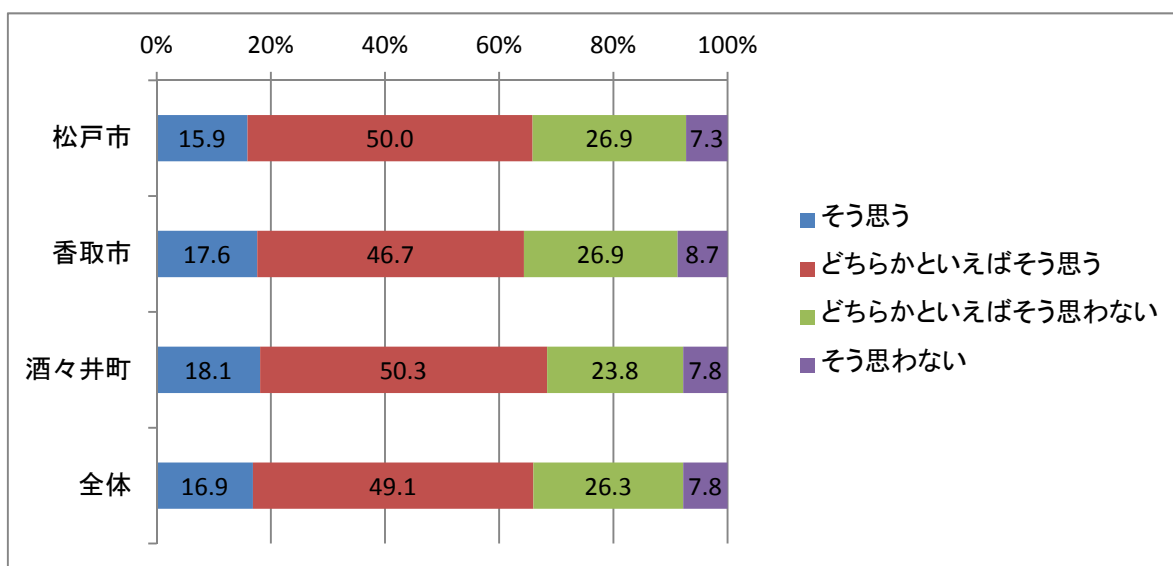
回答者の他人に対する意識を知るために、「a) たいていの人は信用できる」、「b) たいていの人は、自分のことだけを考えている」の二点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」および「そう思わない」の4項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表 20-1、20-2 である。

図表 20-1 a) たいていの人は信用できる



「たいていの人は信用できる」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の50.5%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の28.5%となった。また、「そう思わない」と回答した人が11.8%なのに対し、「そう思う」と回答した人が9.2%となった。全体として59.7%の人が、たいていの人は信用できていることがわかった。

図表 20-2 b) たいていの人は、自分のことだけを考えている



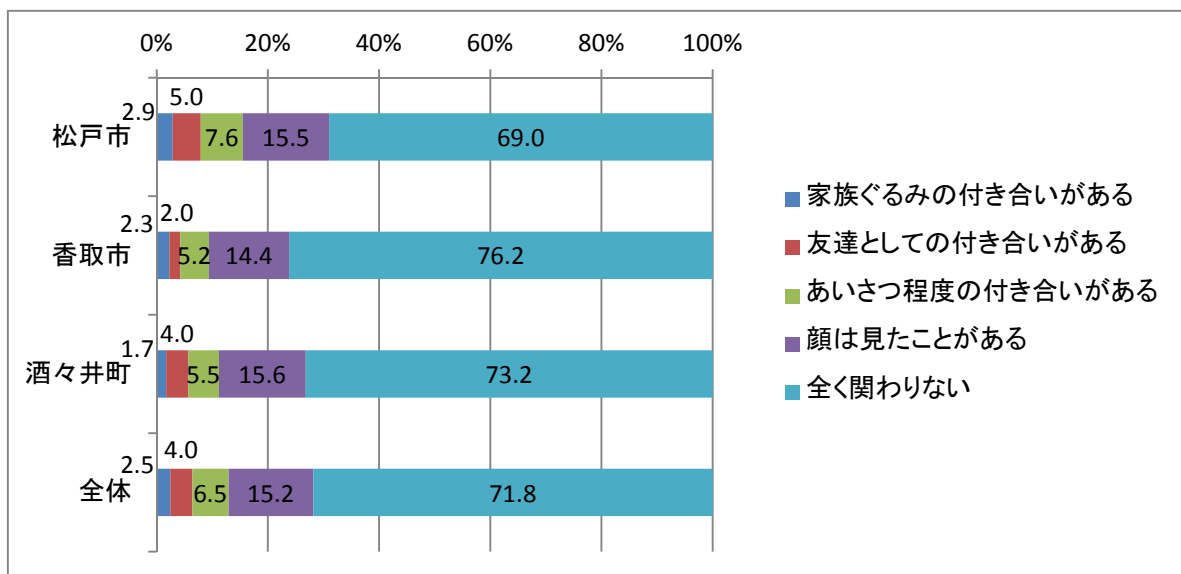
「たいていの人は、自分のことだけを考えている」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の49.1%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の26.3%となった。また、「そう思う」と回答した人が16.9%なのに対し、「そう思わない」と回答した人が7.8%となった。全体として66.0%の人が、たいていの人は自分のことだけを考えていると思っていることがわかった。

第4章 外国人についての意識

問21 外国人との繋がりについて

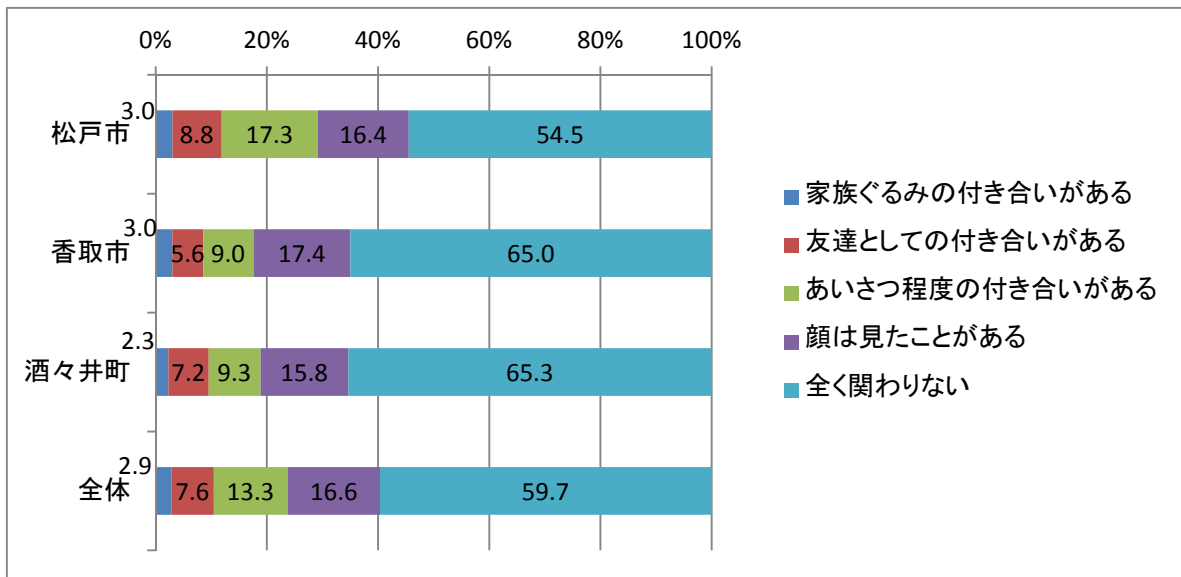
回答者の外国人との接点の有無や付き合い方を知るために、知人外国人を「a) 欧米諸国出身」、「b) 中国・韓国出身」、「c) その他アジア諸国出身」、「d) 中南米諸国出身」に区分し、「家族ぐるみの付き合いがある」、「友達としての付き合いがある」、「あいさつ程度の付き合いがある」、「顔は見たことがある」および「全く関わりがない」の5項目で示し、回答者に当てはまるものを選んでもらった。その結果がそれぞれ図表 21-1、21-2、21-3、21-4 である。

図表 21-1 a) 欧米諸国出身の外国人との接点



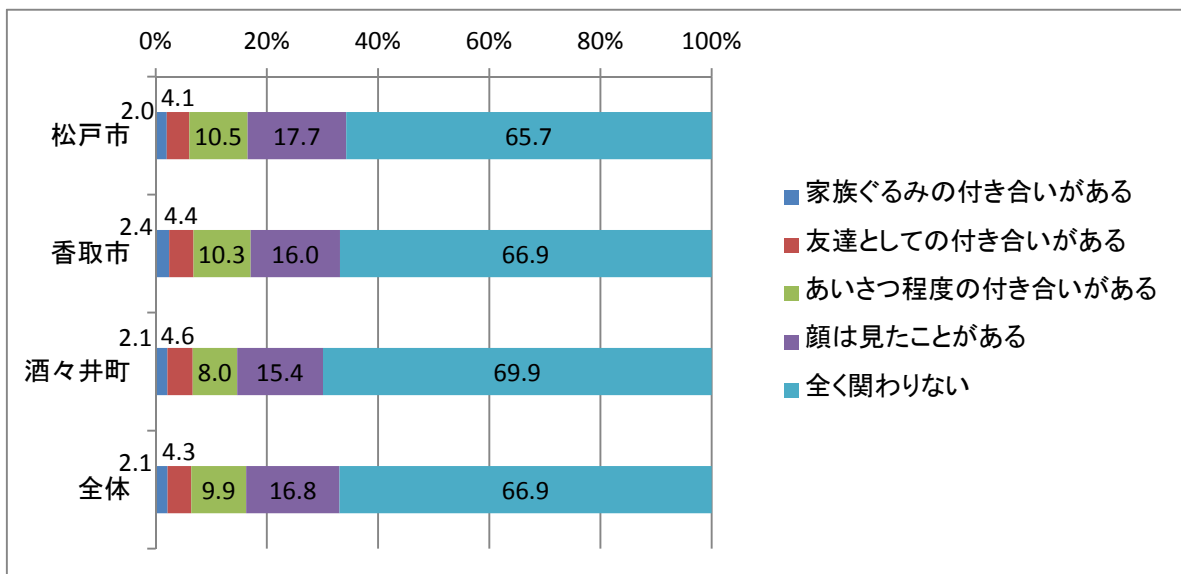
「欧米諸国出身」者との繋がりについて最も回答率が高かったのは「全く関わりがない」の71.8%で、以下「顔は見たことがある」で15.2%、「あいさつ程度の付き合いがある」6.5%、「友達としての付き合いがある」4.0%、「家族ぐるみの付き合いがある」2.5%の順となった。

図表 21-2 b) 中国・韓国出身の外国人との接点



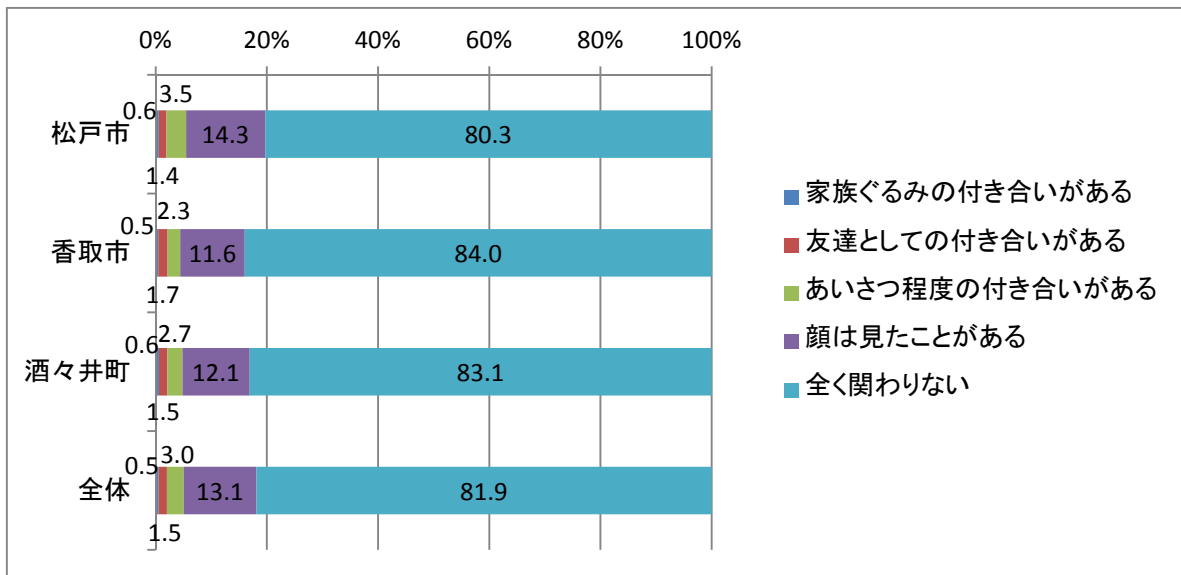
「中国・韓国出身」者との繋がりについて最も回答率が高かったのは「全く関わりがない」の 59.7%で、以下「顔は見たことがある」で 16.6%、「あいさつ程度の付き合いがある」13.3%、「友達としての付き合いがある」7.6%、「家族ぐるみの付き合いがある」2.9%の順となった。

図表 21-3 c) その他アジア諸国出身の外国人との接点



「その他アジア諸国出身」者との繋がりについて最も回答率が高かったのは「全く関わりがない」の 66.9%で、以下「顔は見たことがある」で 16.8%、「あいさつ程度の付き合いがある」9.9%、「友達としての付き合いがある」4.3%、「家族ぐるみの付き合いがある」2.4%の順となった。

図表 21-4 d) 中南米諸国出身の外国人との接点

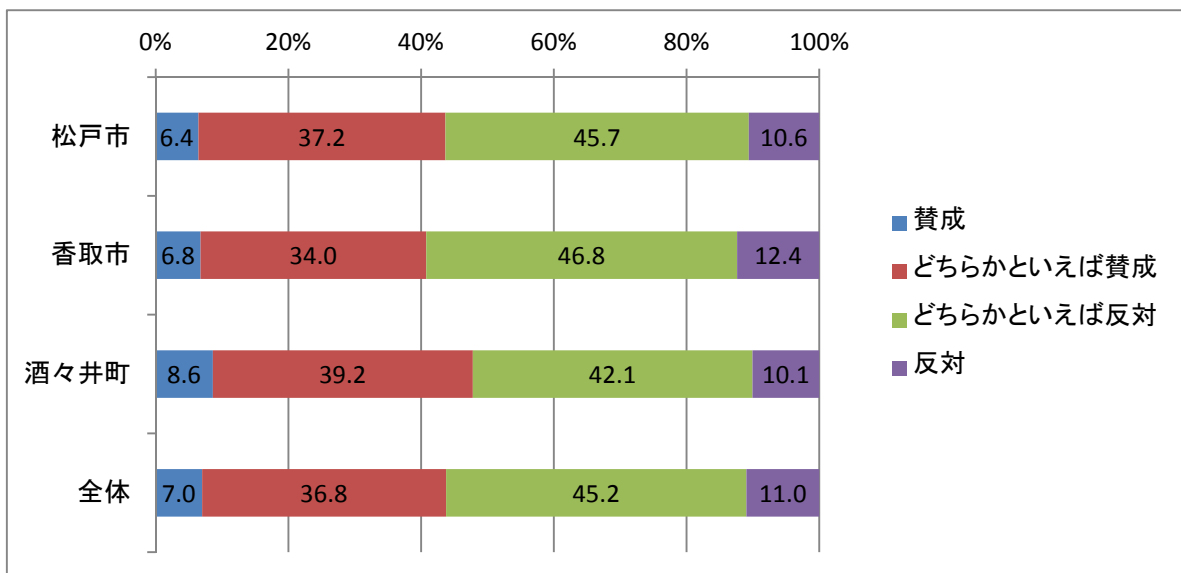


「中南米諸国出身」者との繋がりについて最も回答率が高かったのは「全く関わらない」の81.9%で、以下「顔は見たことがある」で13.1%、「あいさつ程度の付き合いがある」3.0%、「友達としての付き合いがある」1.5%、「家族ぐるみの付き合いがある」0.5%の順となった。

問 22 外国人の生活者増加について

回答者の生活圏に外国人が増えることについて、「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 22 である。

図表 22 外国人の生活者増加に対する賛否

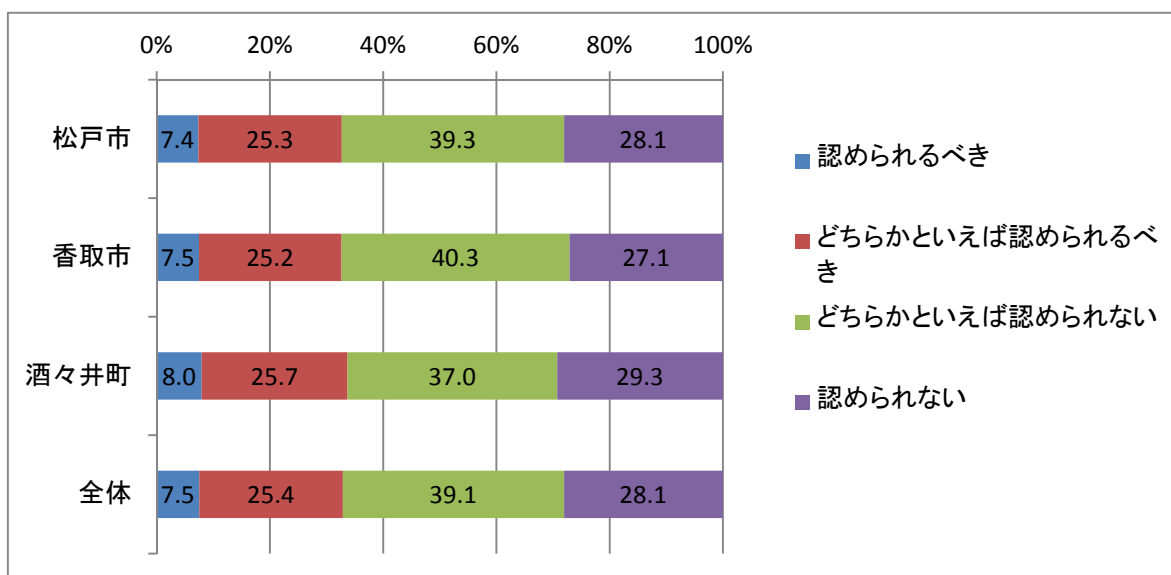


最も回答率が高かったのは「どちらかといえば反対」の45.2%で、以下「どちらかといえば賛成」で36.8%、「反対」11.0%、「賛成」7.0%の順となった。全体として、生活圏に外国人が増えることについては賛成意見より反対意見の方が若干多い結果となった。

問 23 外国人に対する差別・排斥の運動について

回答者に外国人に対する差別や排斥を主張する人達の集会やデモについて、「認められるべき」、「どちらかといえば認められるべき」、「どちらかといえば認められない」、「認められない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 23 である。

図表 23 外国人に対する差別・排斥運動の是非

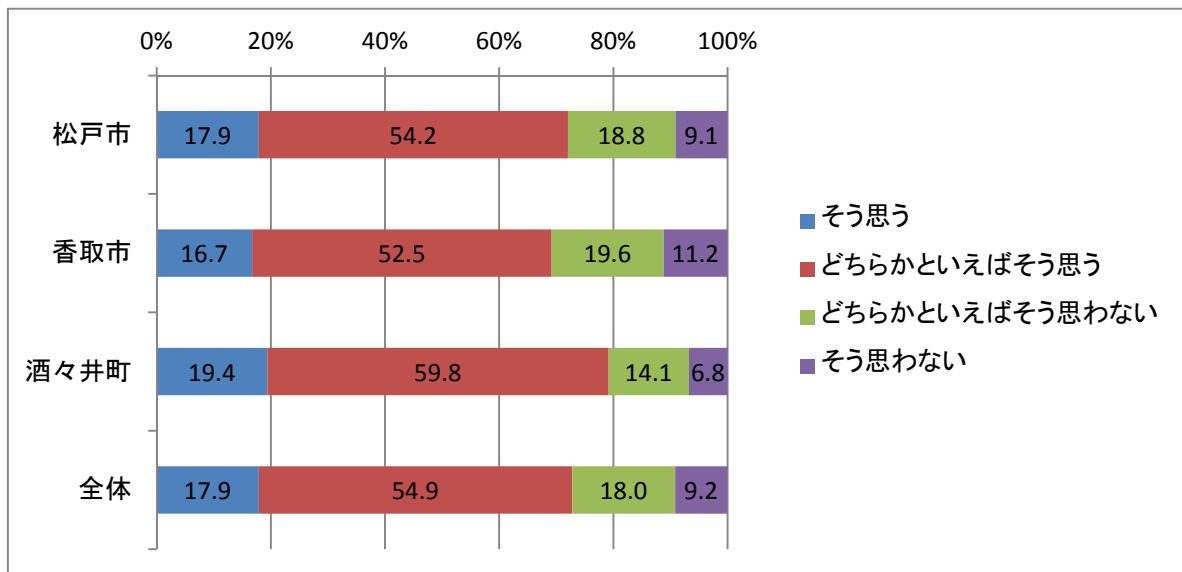


最も回答率が高かったのは「どちらかといえば認められない」の39.1%で、以下「認められない」で28.1%、「どちらかといえば認められるべき」25.4%、「認められるべき」7.5%の順となった。全体として半数以上が外国人に対する差別・排斥の運動を認められないと考えていることがわかった。

問 24 外国人の受け入れについて

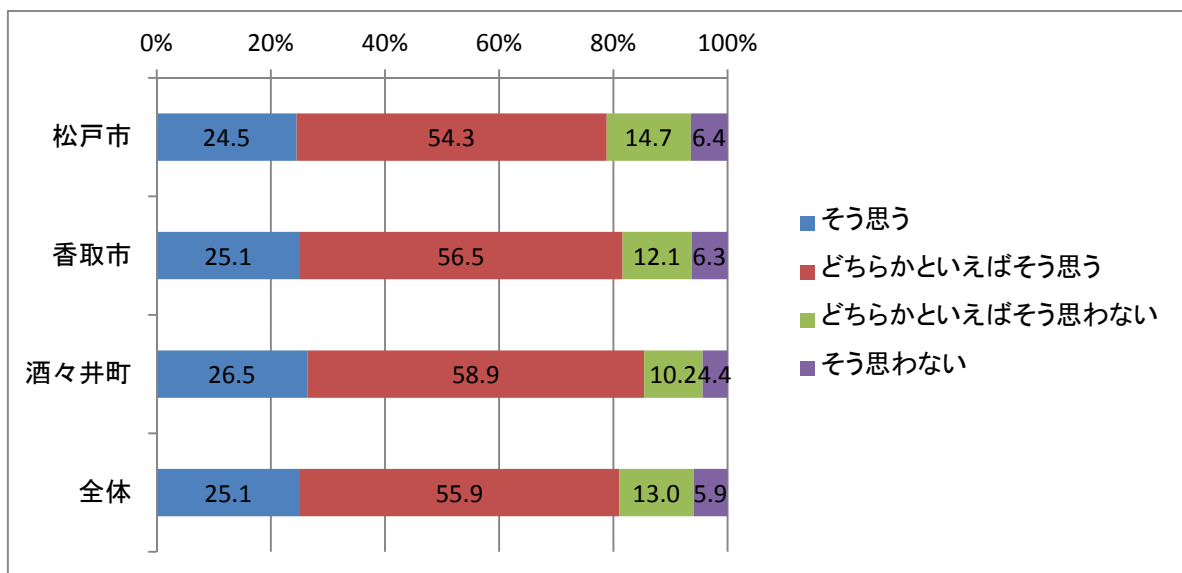
回答者の外国人の受け入れについての考え方を知るために、「a」外国人は、地域の活動に積極的に参加すべきだ、「b」地域の外国人は、自分と同じ福祉や医療を受ける権利を持つべきだ、「c」地域の外国人は、自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだ」の3点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」および「そう思わない」の4項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果が図表 24-1、24-2、24-3 である。

図表 24-1 a) 外国人は、地域の活動に積極的に参加すべきだ



「外国人は、地域の活動に積極的に参加すべきだ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の 54.9%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の 18.0%となった。また、「そう思う」と回答した人が 17.9%なのに対し、「そう思わない」と回答した人が 9.2%となり、全体として、外国人は地域の活動に積極的に参加すべきと感じている人のほうが多かった。

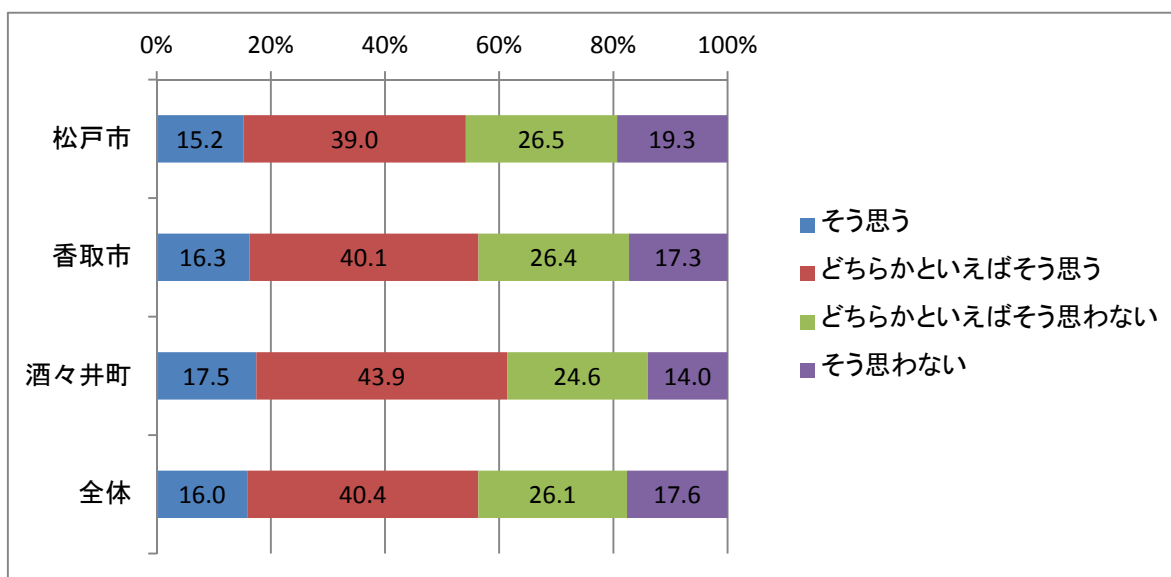
図表 24-2 b) 地域の外国人は、自分と同じ福祉や医療を受ける権利を持つべきだ



「地域の外国人は、自分と同じ福祉や医療を受ける権利を持つべきだ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の 55.9%で、次いで「そう思う」の 25.1%となった。また、「どちらかといえばそう思わない」と回答した人が 13.0%、「そう思わない」と回答した人が 5.9%であった。地域の外国人は自分と同じ福祉や医療を受ける権利を持つべきだを考える人は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて 81.0%といった結果と

なった。

図表 24-3 c) 地域の外国人は、自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだ



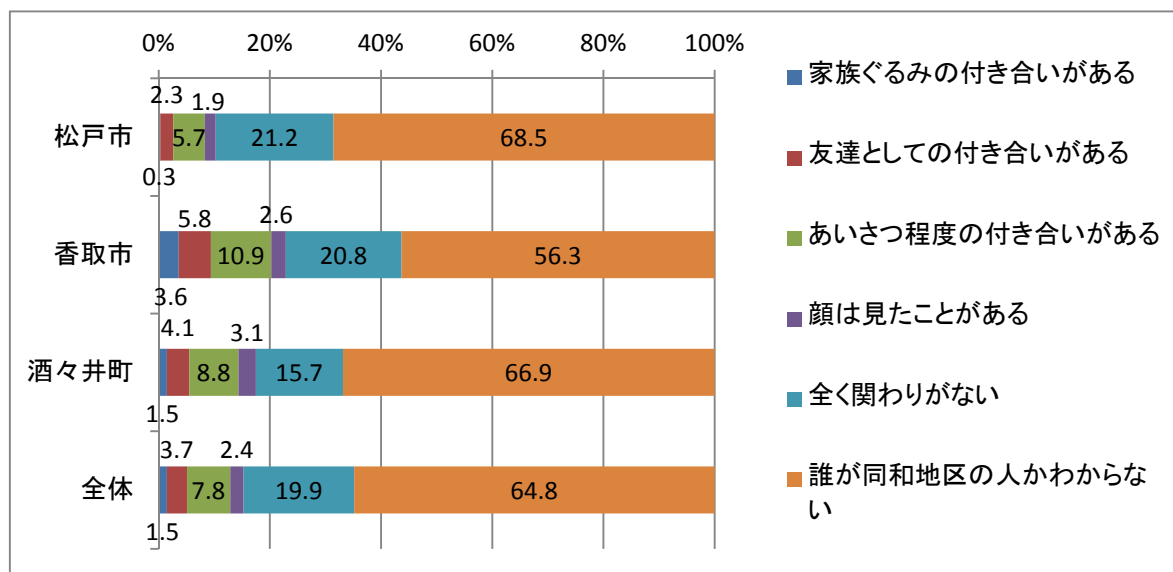
「地域の外国人は、自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の 40.4%で、次いで「どちらかといえばそう思わない」の 26.1%となった。また、「そう思わない」と回答した人が 17.6%なのに対し、「そう思う」と回答した人が 16.0%となり、全体として、地域の外国人は自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだと感じている人のほうが多かった。

第5章 同和問題（部落差別問題）に関する意識

問25 同和地区の人々との繋がりについて

回答者に同和地区の人々との付き合いについて、「家族ぐるみの付き合いがある」、「友達としての付き合いがある」、「あいさつ程度の付き合いがある」、「顔は見たことがある」、「全く関わりがない」、「誰が同和地区の人かわからない」の6つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表25である。

図表25 同和地区の人々との付き合い

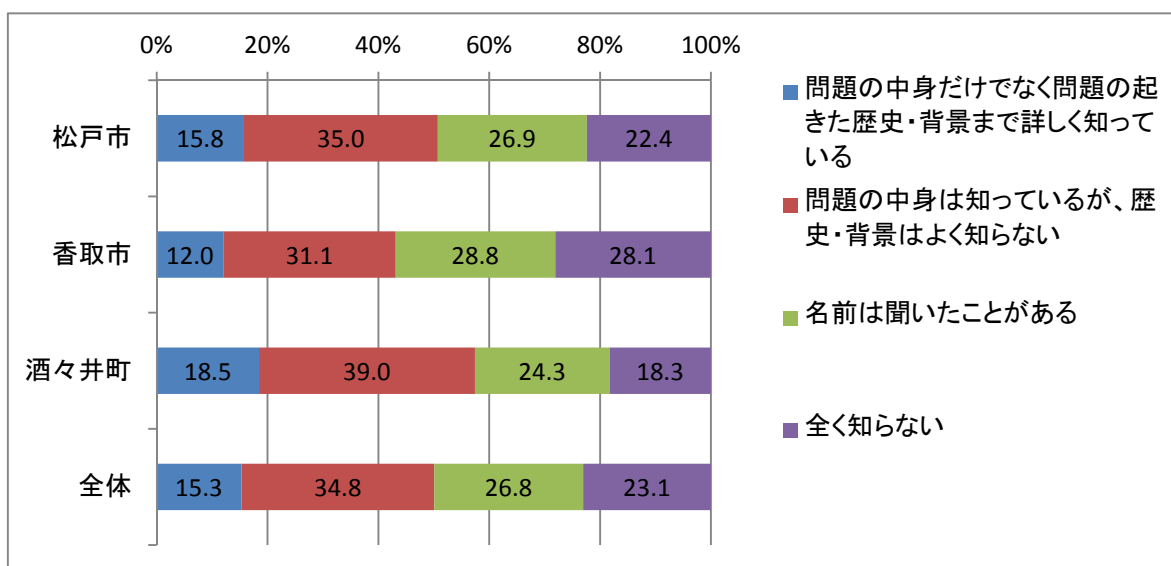


同和地区の人々との繋がりについて最も回答率が高かったのは「誰が同和地区の人かわからない」の64.8%で、以下「全く関わりがない」で19.9%、「あいさつ程度の付き合いがある」7.8%、「友達としての付き合いがある」3.7%、「顔は見たことがある」2.4%、「家族ぐるみの付き合いがある」1.5%の順となった。

問26 同和問題への認識の程度について

回答者に同和問題（部落差別問題）をどの程度知っているかについて、「問題の中身だけでなく問題の起きた歴史・背景まで詳しく知っている」、「問題の中身は知っているが、歴史・背景はよく知らない」、「名前は聞いたことがある」、「全く知らない」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表26である。

図表 26 同和問題への認識の程度



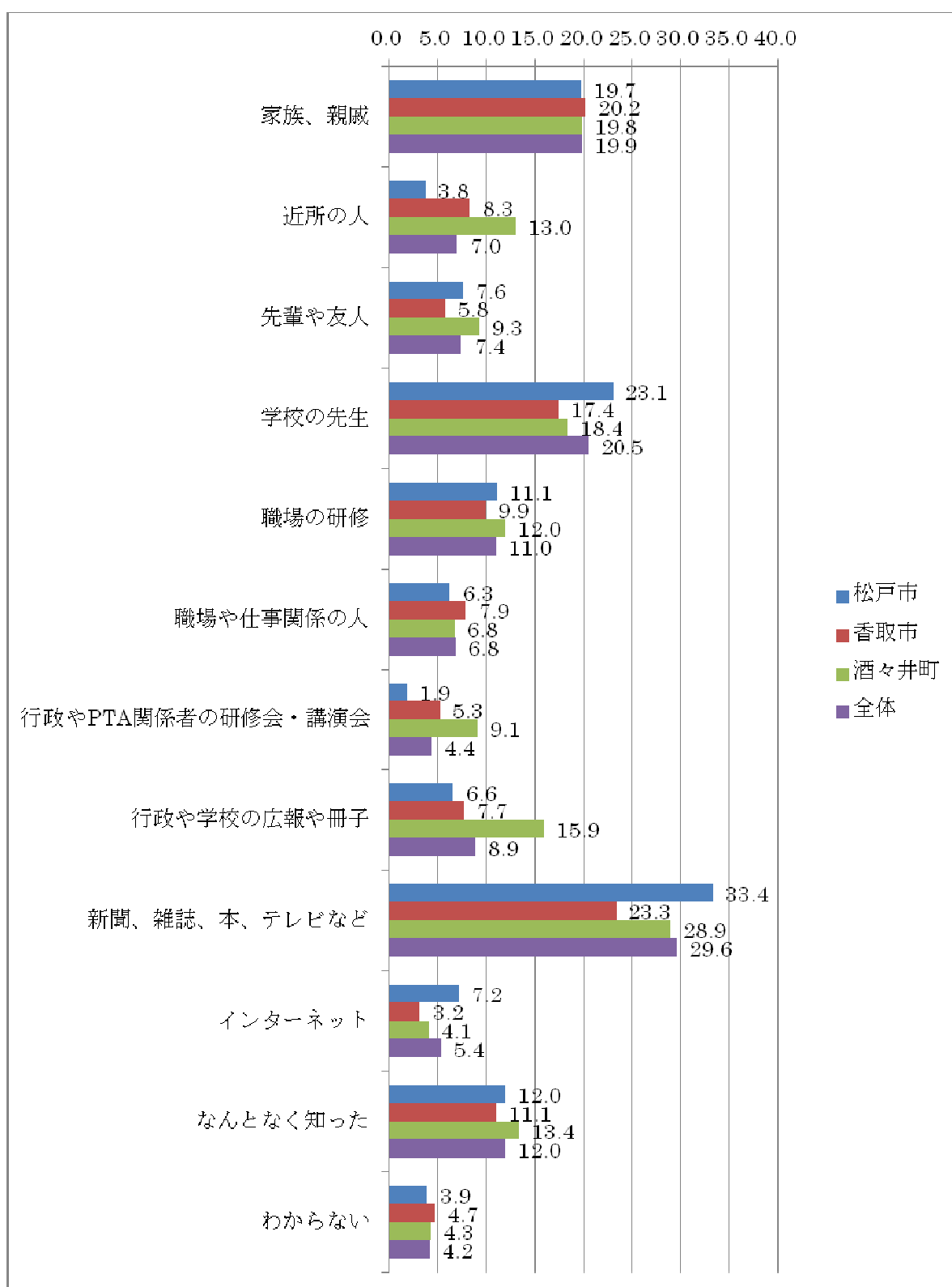
同和問題への認識の程度について最も回答率が高かったのは「問題の中身は知っているが、歴史・背景はよく知らない」の34.8%で、以下「名前は聞いたことがある」で26.8%、「全く知らない」23.1%、「問題の中身だけでなく問題の起きた歴史・背景まで詳しく知っている」15.3%の順となった。

問 27 同和問題について知った経緯について

回答者に同和問題を誰から(何によって)知ったかについて、「家族(父母、兄弟姉妹、祖父母など)、親戚」、「近所(地域)の人」、「先輩や友人」、「学校の先生(授業など)」、「職場の研修」、「職場や仕事関係の人(上記研修会以外)」、「行政やPTA関係者の研修会・講演会」、「行政や学校の広報や冊子」、「新聞、雑誌、本、テレビなど」、「インターネット」、「なんとなく知った」、「わからない」の12の選択肢から回答してもらった。その結果が図表 27 である。

*本問は問 26 の質問で「全く知らない」以外の回答者のみに回答をお願いした

図表 27 同和問題について知った経緯



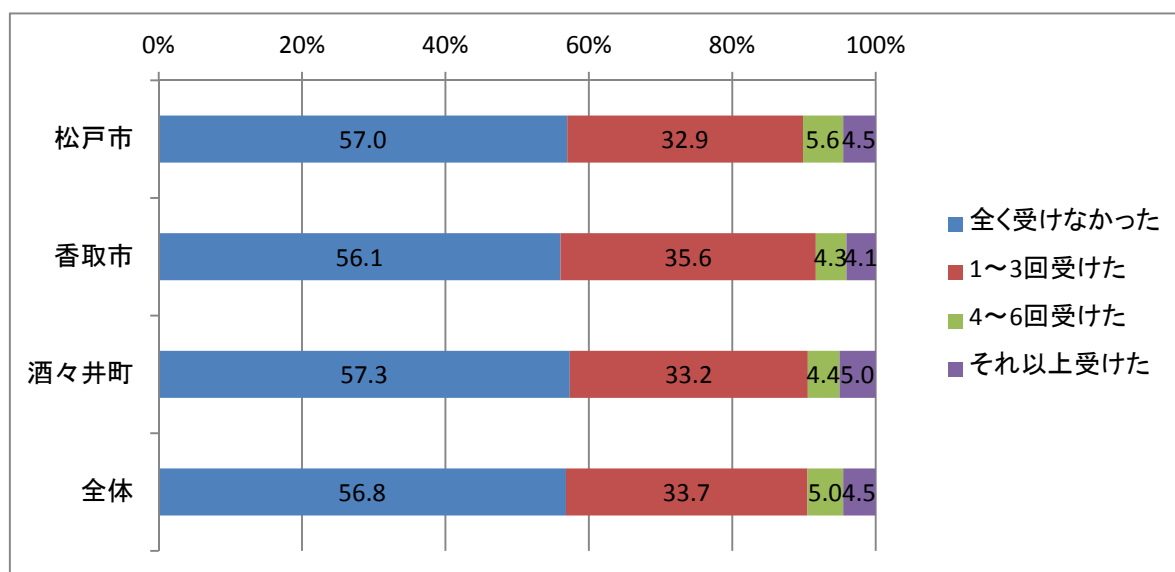
同和問題について知った経緯について最も回答率が高かったのは「新聞、雑誌、本、テレビなど」の29.6%で、以下「学校の先生(授業など)」で20.5%、「家族(父母、兄弟姉妹、祖父母など)、親戚」19.9%、「なんとなく知った」12.0%、「職場の研修」11.0%、「行政や学校の広報や冊子」

8.9%、「先輩や友人」7.4%、「近所(地域)の人」7.0%、「職場や仕事関係の人」6.8%、「インターネット」5.4%、「行政やPTA関係者の研修会・講演会」4.4%、「わからない」4.2%の順となった。

問 28 同和教育を受けた回数について

回答者にこれまでに学校で同和教育（人種・差別問題に関する授業や集会を含む）をどの程度受けたかについて、「全く受けなかった」、「1～3回受けた」、「4～6回受けた」、「それ以上受けた」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 28 である。

図表 28 同和教育を受けた回数について

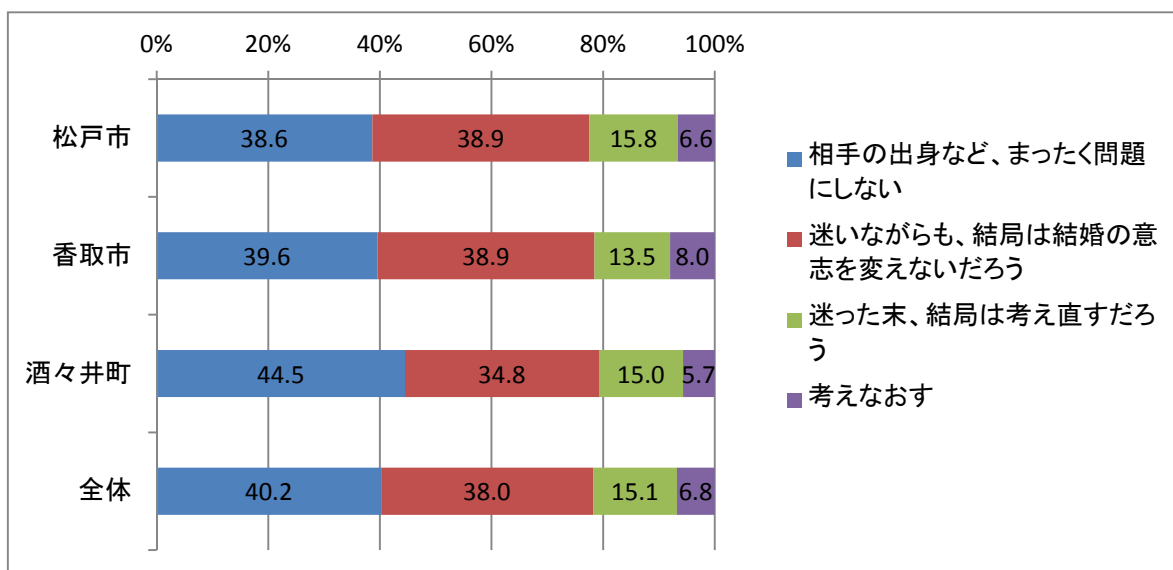


同和教育の回数について最も回答率が高かったのは「全く受けなかった」の56.8%で、以下「1～3回受けた」で33.7%、「4～6回受けた」5.0%、「それ以上受けた」4.5%の順となった。

問 29 同和地区出身者との結婚について

回答者にこれから結婚しようとする相手が同和地区出身だとわかった場合について、「相手の出身など、まったく問題にしない」、「迷いながらも、結局は結婚の意思を変えないだろう」、「迷った末、結局は考え直すだろう」、「考え直す」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 29 である。

図表 29 同和地区出身者との結婚に対する意識

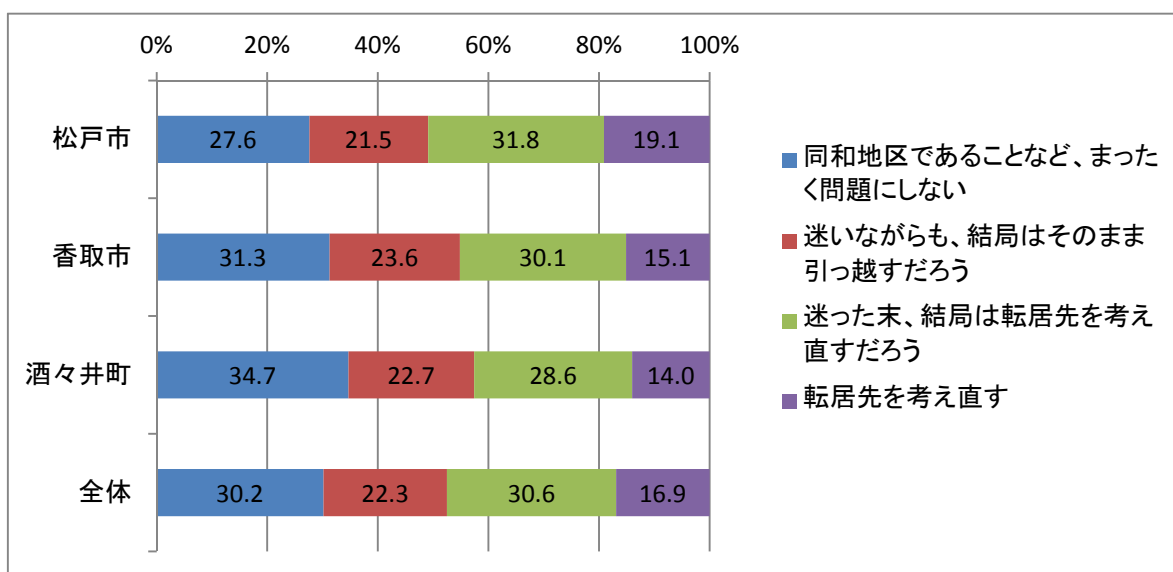


同和地区出身者との結婚について最も回答率が高かったのは「相手の出身など、まったく問題にしない」の40.2%で、以下「迷いながらも、結局は結婚の意思を変えないだろう」で38.0%、「迷った末、結局は考え直すだろう」15.1%、「考え直す」6.8%の順となった。結果として78.2%の人が結婚の選択をすることがわかった。

問 30 同和地区での居住について

回答者に別の地域に引っ越す際にその地域が同和地区であることがわかった場合の対応について、「同和地区であることなど、まったく問題にしない」、「迷いながらも、結局はそのまま引っ越すだろう」、「迷った末、結局は転居先を考え直すだろう」、「転居先を考え直す」の4つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 30 である。

図表 30 同和地区での居住に対する意識

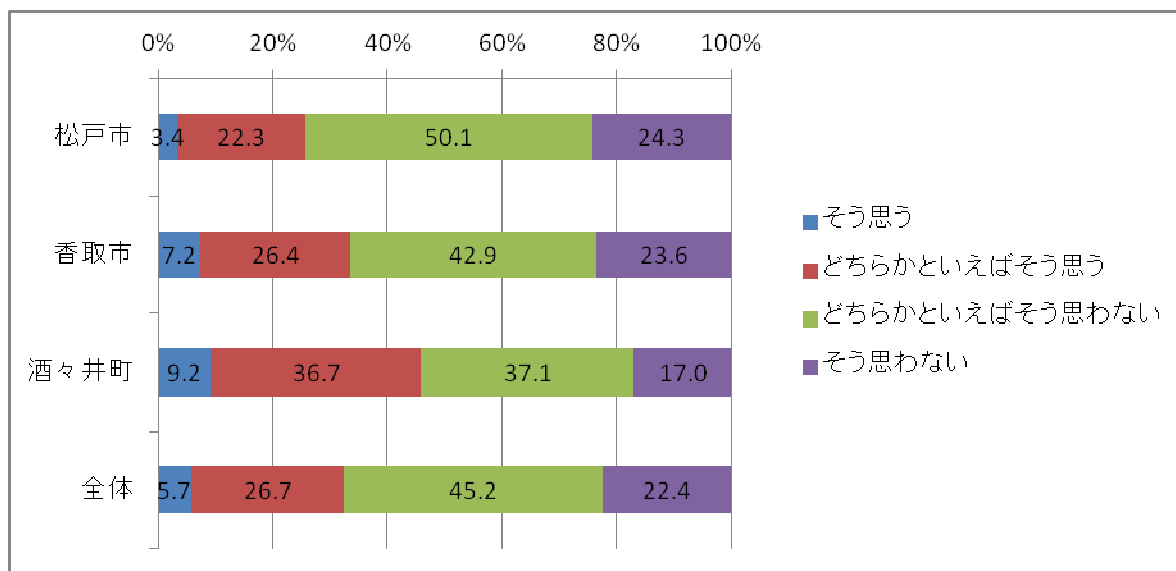


同和地区での居住について最も回答率が高かったのは「迷った末、結局は転居先を考え直すだろう」の30.6%で、以下「同和地区であることなど、まったく問題にしない」で30.2%、「迷いながらも、結局はそのまま引っ越すだろう」22.3%、「転居先を考え直す」16.9%の順となった。

問 31 同和行政や解放運動について

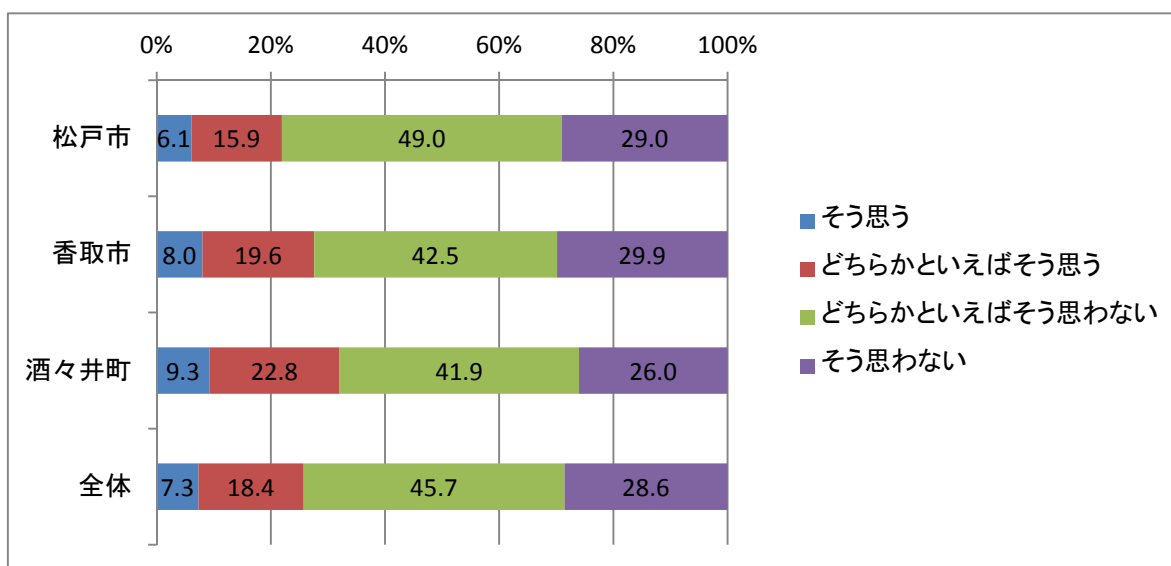
回答者の同和行政や解放運動についての考え方を知るために、「a」行政は同和問題の解決のために熱心に取り組んでいる、「b」行政は同和地区の人にだけ特別な施策をしており、不公平だ、「c」行政は同和問題より、他の人権問題を優先して取り組むべきだ、「d」同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは、当然の事だ、「e」部落解放運動は、自分の利益ばかりを追求している」の5点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4項目で示し、回答者の考えに最も近いものを選んでもらった。その結果が図表 31-1、31-2、31-3、31-4、31-5 である。

図表 31-1 a) 行政は同和問題の解決のために熱心に取り組んでいる



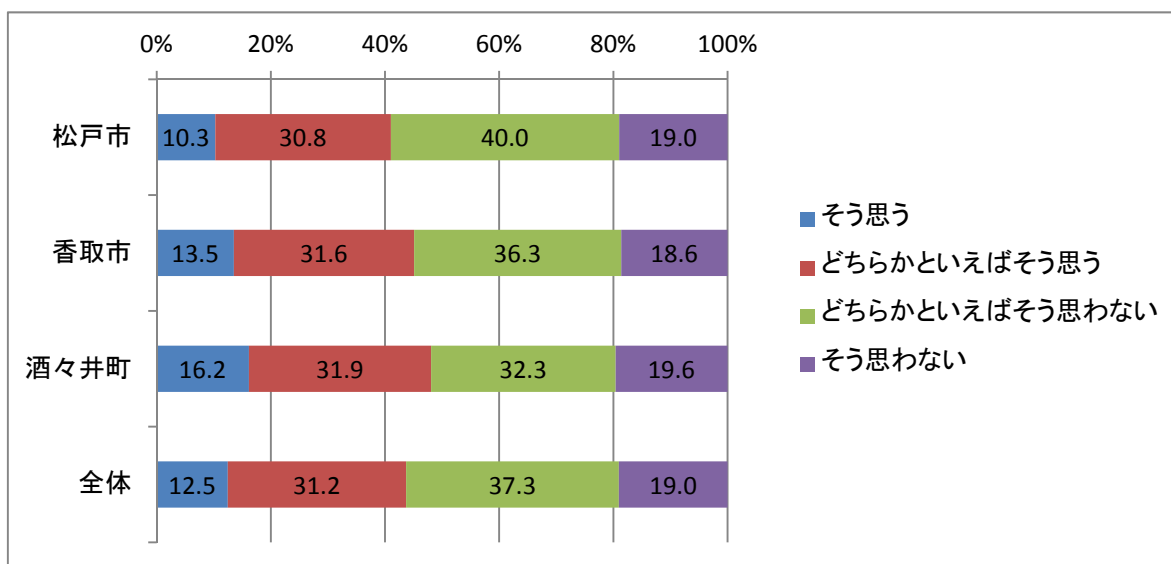
「行政は同和問題の解決のために熱心に取り組んでいる」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の45.2%で、次いで「どちらかといえばそう思う」の26.7%となった。また、「そう思わない」と回答した人が22.4%なのに対し、「そう思う」と回答した人が5.7%となり、全体として行政の取り組みが熱心ではないと感じている人のほうが多かった。

図表 31-2 b) 行政は同和地区の人にだけ特別な施策をしており、不公平だ



「行政は同和地区の人にだけ特別な施策をしており、不公平だ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の 45.7%で、次いで「そう思わない」の 28.6%となった。また、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が 18.4%、「そう思う」と回答した人が 7.3%となり、全体として行政の同和施策は不公平と感じている人のほうが少なかった。

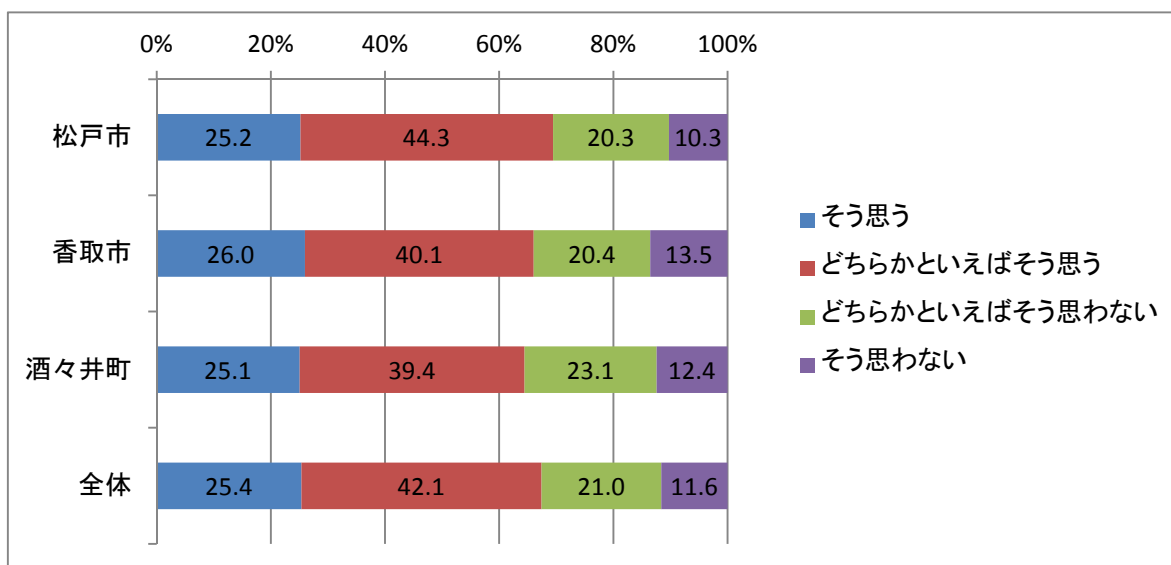
図表 31-2 c) 行政は同和问题より、他の人権問題を優先して取り組むべきだ



「行政は同和问题より、他の人権問題を優先して取り組むべきだ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の 37.3%で、次いで「どちらかといえばそう思う」の 31.2%となった。また、「そう思わない」と回答した人が 19.0%なのに対し、「そう思う」と回答した人が 12.5%であった。「行政は同和问题より、他の人権問題を優先して取り組むべき」と考える人は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて 43.7%といっ

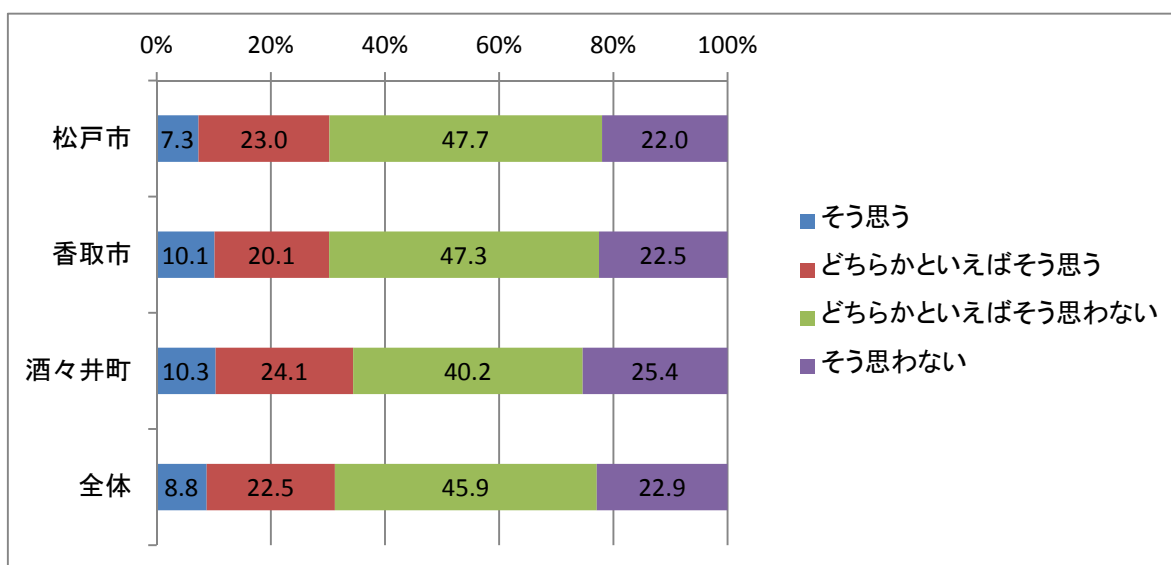
た結果となった。

図表 31-4 d) 同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは、当然の事だ



「同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは、当然の事だ」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思う」の42.1%で、次いで「そう思う」の25.4%となった。また、「どちらかといえばそう思わない」と回答した人が21.0%、「そう思わない」と回答した人が11.6%となり、全体として「同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは、当然の事」と感じている人のほうが多かった。

図表 31-5 e) 部落解放運動は、自分の利益ばかりを追求している



「部落解放運動は、自分の利益ばかりを追求している」という設問に対して、最も回答率が高かったのは、「どちらかといえばそう思わない」の45.9%で、次いで「そう思わない」の22.9%となった。また、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が22.5%、「そう思う」と回答した

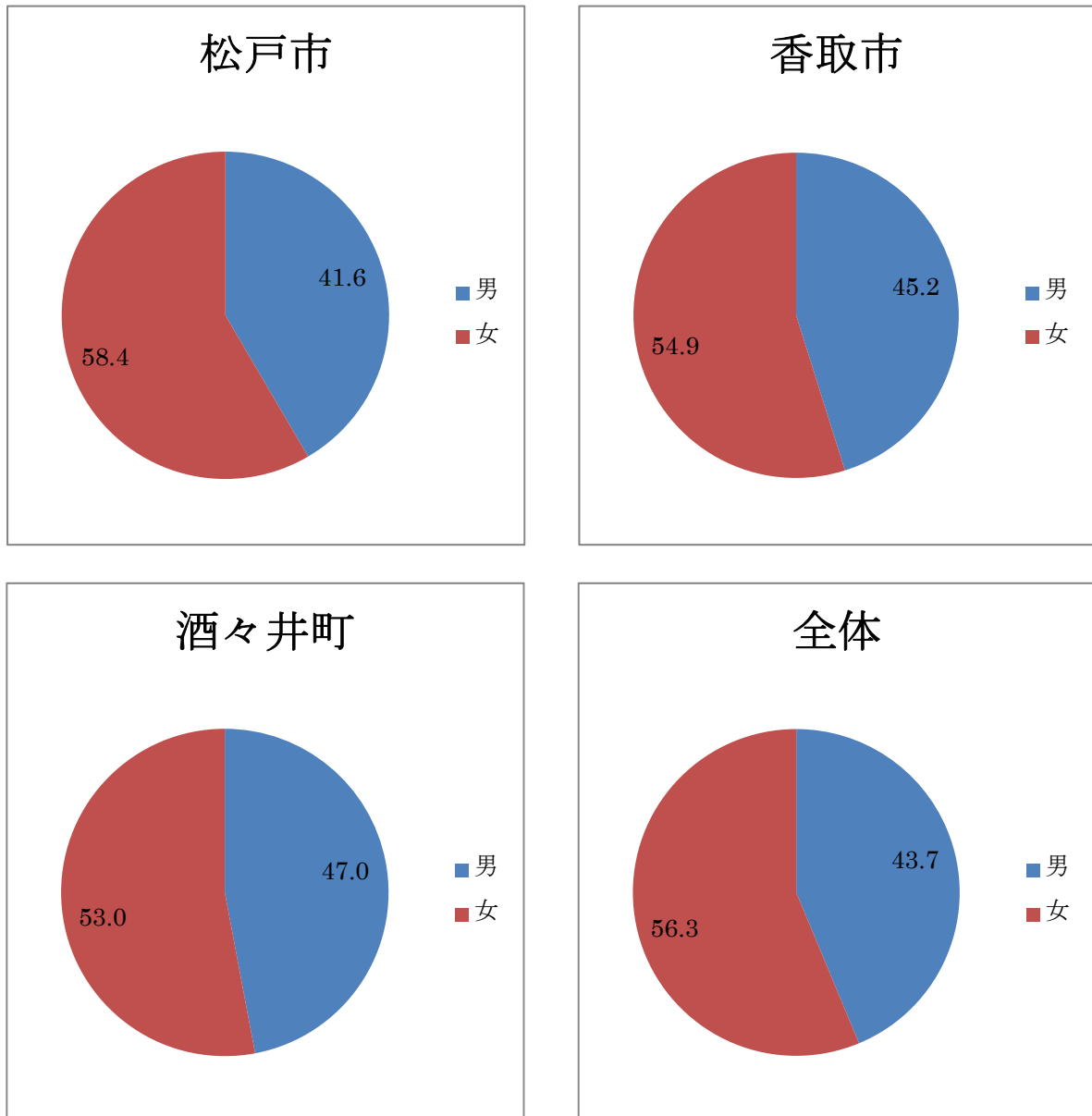
人が 8.8%であった。「部落解放運動は、自分の利益ばかりを追求している」と考える人は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて 31.3%といった結果となった。

第6章 回答者およびその家族の基本情報

問32 性別について

回答者の性別について回答してもらった。その結果が図表32である。

図表32 回答者の性別

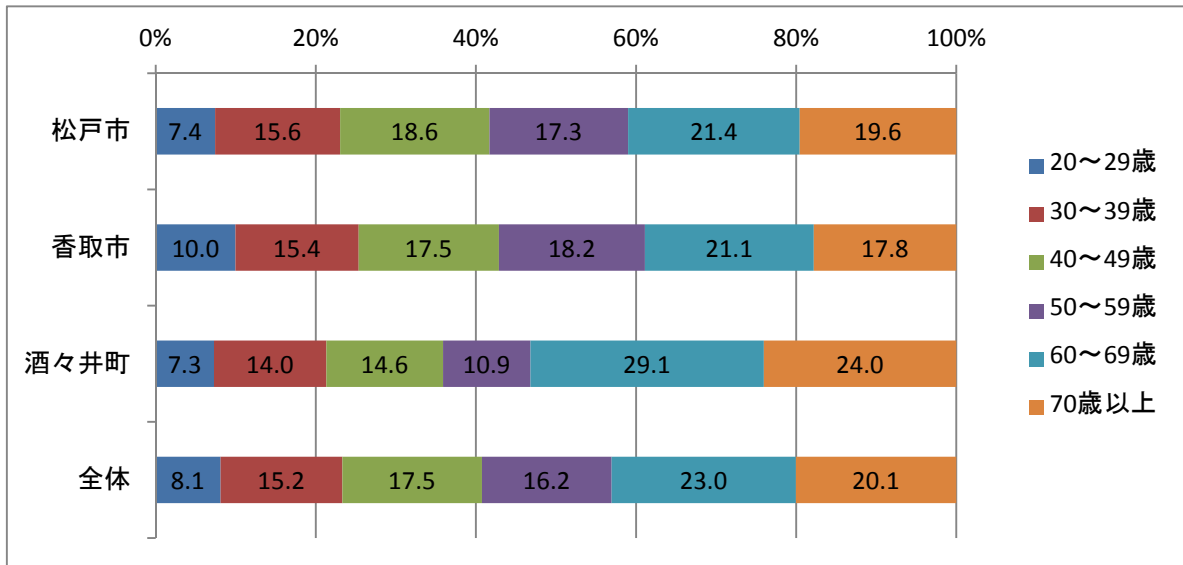


回答者全体では「女」は56.3%、「男」は43.7%となった。

問33 年齢について

回答者に年齢について回答を得て、6つの年齢帯に区分し、集計した。その結果が図表33である。

図表 33 回答者の年代区分

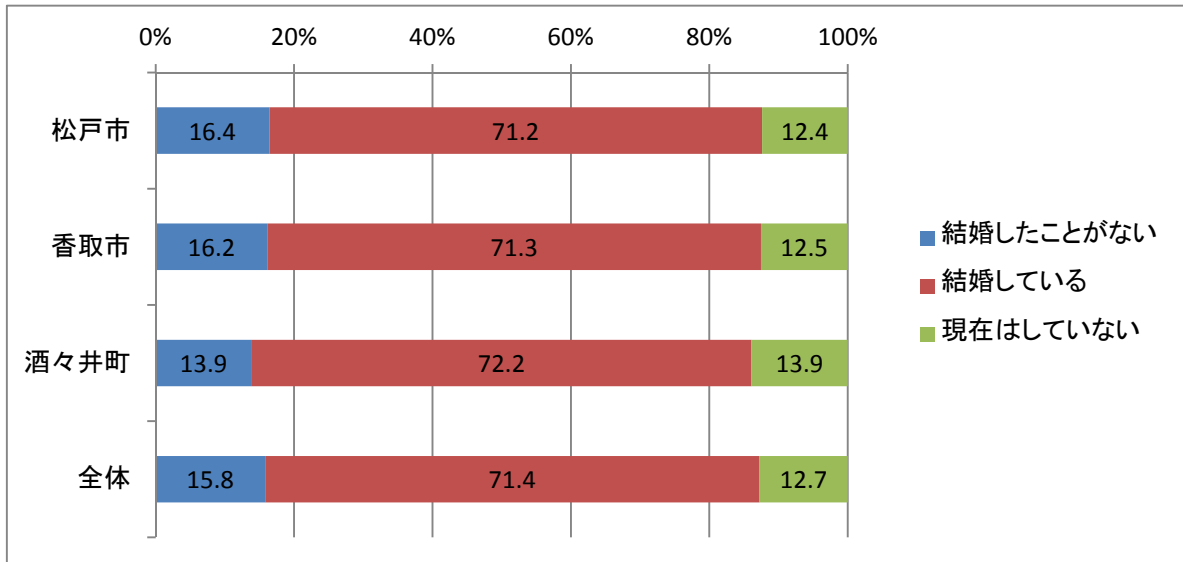


区分の結果、最も回答率が高かったのは「60～69歳」の23.0%で、以下「70歳以上」で20.1%、「40～49歳」17.5%、「50～59歳」16.2%、「30～39歳」15.2%、「20～29歳」8.1%の順になった。

問 34 結婚について

回答者に現在結婚しているかについて、「結婚したことがない」、「結婚している」、「現在はしていない(離別・死別)」の3つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 34 である。

図表 34 回答者の婚姻状況

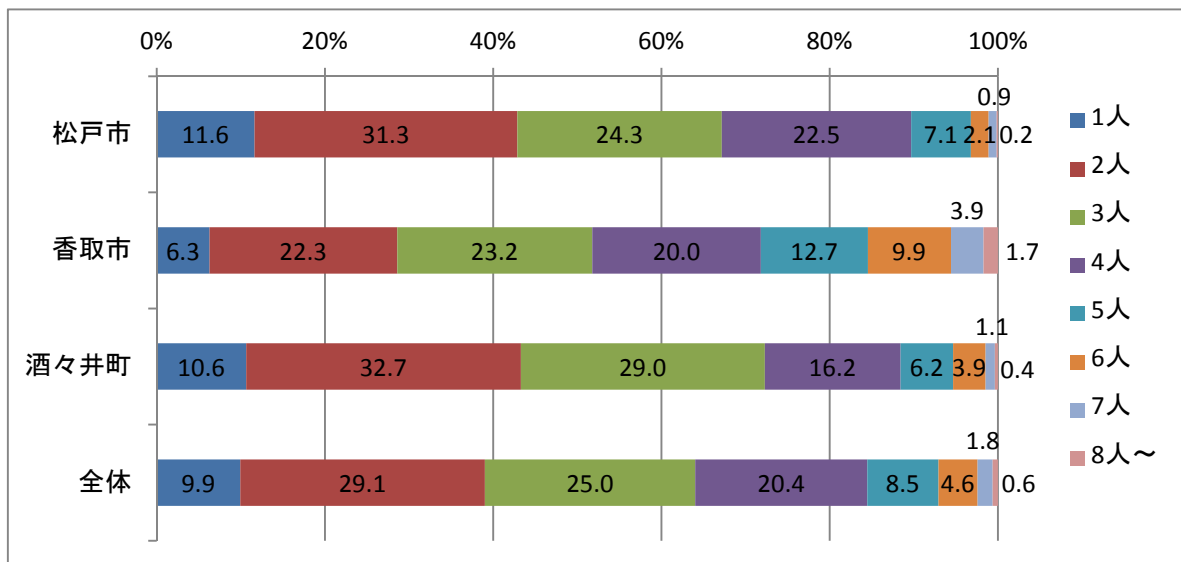


最も回答率が高かったのは「結婚している」の71.4%で、以下「結婚したことがない」で15.8%、「現在はしていない(離別・死別)」12.7%の順となった。

問 35 同居人数について

回答者に回答者本人を含めた同居人数について回答を得て、8 つに区分し、集計した。その結果が図表 35 である。

図表 35 回答者の同居人数（本人含む）

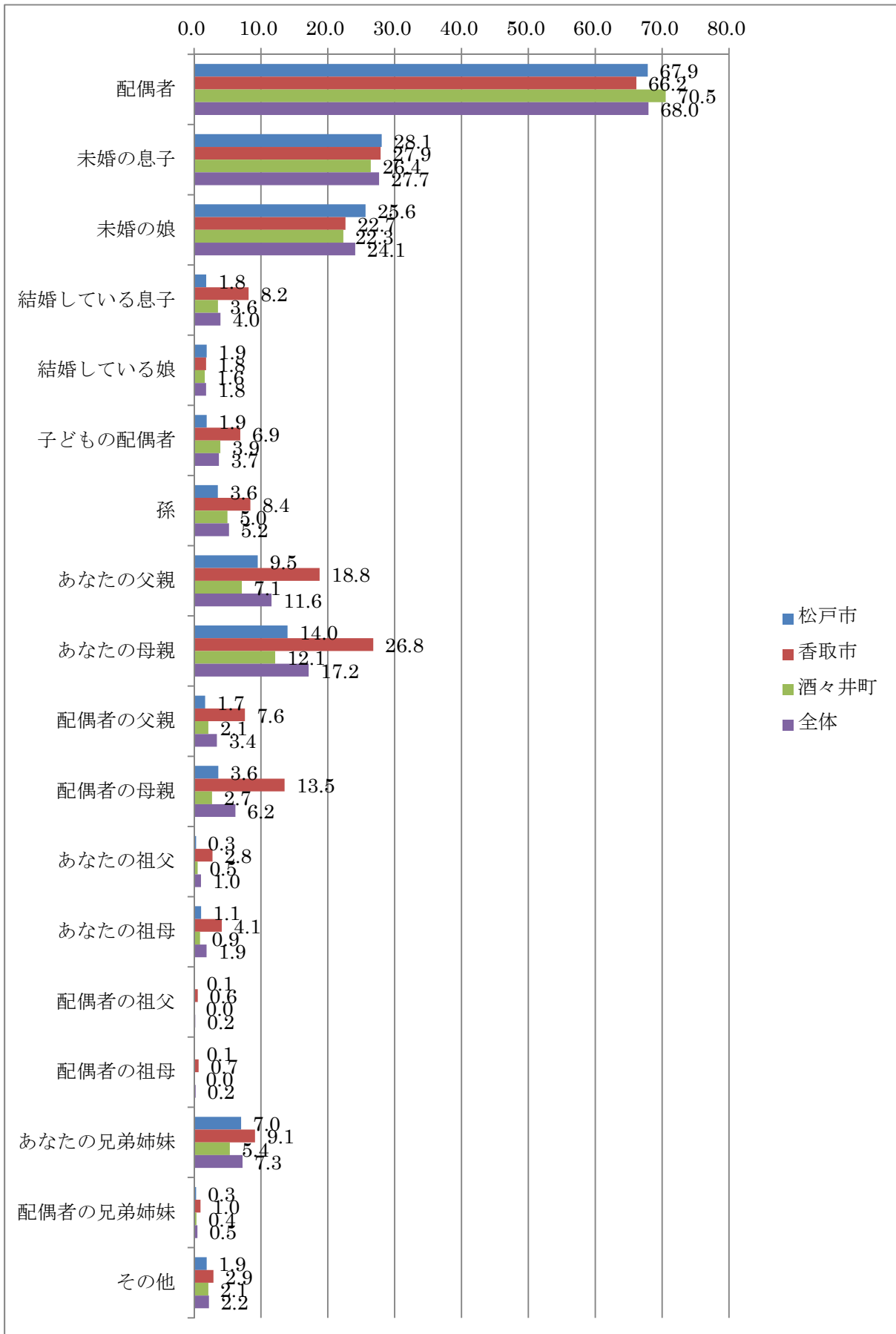


区分の結果、最も回答率が高かったのは「2人」の29.1%で、以下「3人」で25.0%、「4人」20.4%、「1人」9.9%、「5人」8.5%、「6人」4.6%、「7人」1.8%、「8人」0.6%の順になった。

問 36 家族構成について

回答者に同居する家族について、「配偶者」、「未婚の息子」、「未婚の娘」、「結婚している息子」、「結婚している娘」、「子供の配偶者」、「孫」、「あなたの父親」、「あなたの母親」、「配偶者の父親」、「配偶者の母親」、「あなたの祖父」、「あなたの祖母」、「配偶者の祖父」、「配偶者の祖母」、「あなたの兄弟姉妹」、「配偶者の兄弟姉妹」、「その他」の18の選択肢から回答してもらった。その結果が図表 36 である。

図表 36 回答者における家族構成の割合

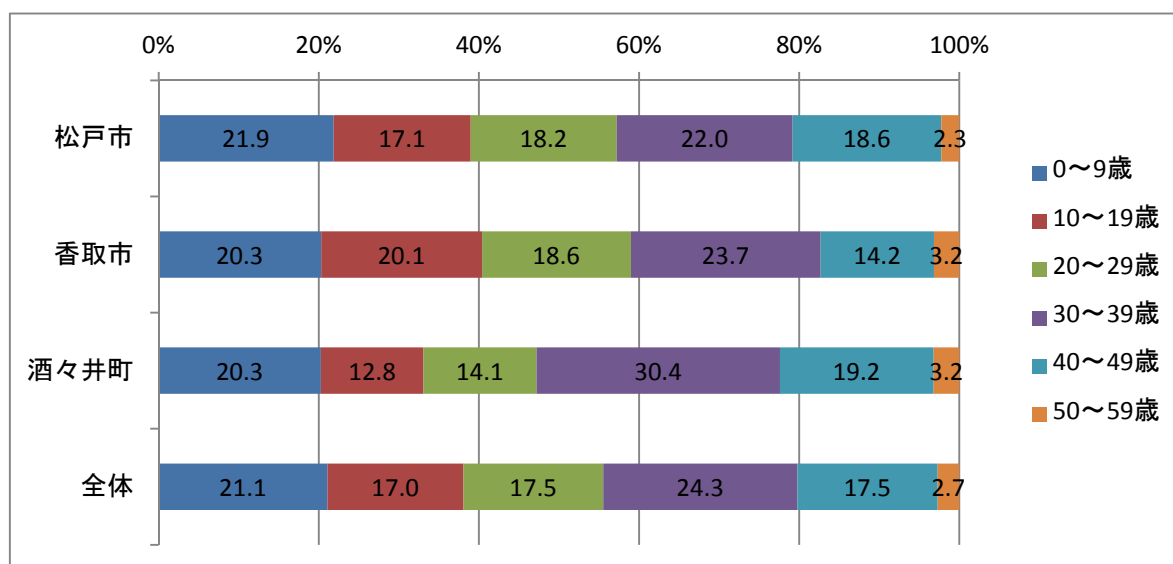


家族構成について最も回答率が高かったのは「配偶者」の68.0%で、以下「未婚の息子」で27.7%、「未婚の娘」24.1%、「あなたの母親」17.2%、「あなたの父親」11.6%、「あなたの兄弟姉妹」7.3%、「配偶者の母親」6.2%、「孫」5.2%、「結婚している息子」4.0%、「子どもの配偶者」3.7%、「配偶者の父親」3.4%、「その他」2.2%、「あなたの祖母」1.9%、「結婚している娘」1.8%、「あなたの祖父」1.0%、「配偶者の兄弟姉妹」0.5%、「配偶者の祖父」及び「配偶者の祖母」0.2%の順となった。

問 37 一番下の子の年齢について

回答者に子がいる場合、一番下の子の年齢について回答を得て、6つの年齢帯に区分し、集計した。その結果が図表37である。

図表 37 回答者が有する最年少子の年齢層

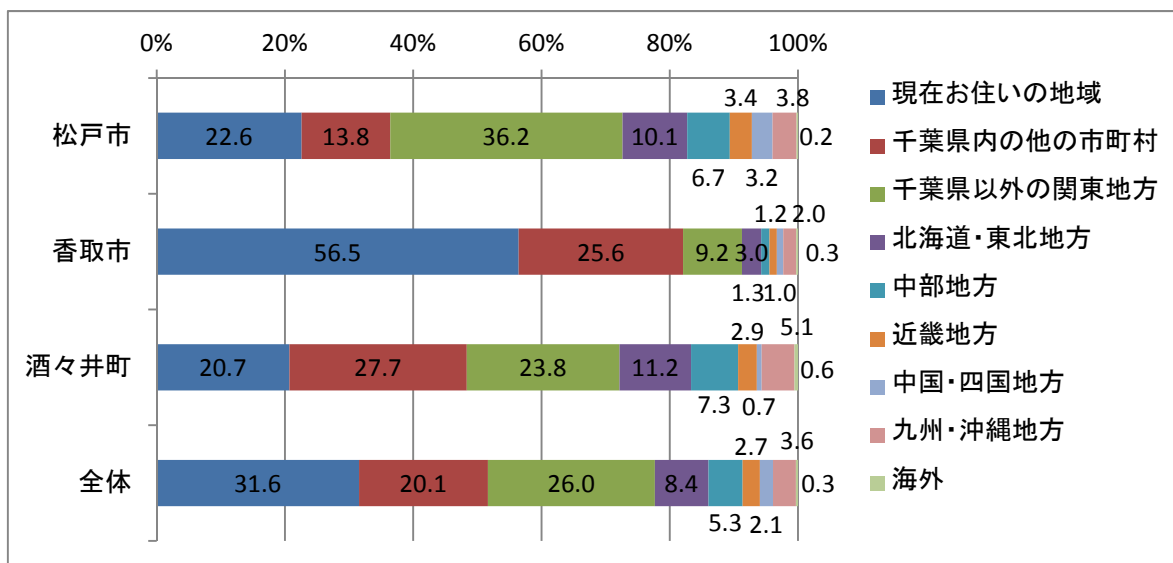


区分の結果、最も回答率が高かったのは「30～39歳」の24.3%で、以下「0～9歳」で21.1%、「20～29歳」及び「40～49歳」17.5%、「10～19歳」17.0%、「50～59歳」2.7%の順になった。

問 38 子どもの頃の居住地について

回答者に15歳(中学生3年生)の頃に住んでいた場所について、「現在お住まいの地域」、「千葉県内の他の市町村」、「千葉県以外の関東地方」、「北海道・東北地方」、「中部地域(東海・北陸地方)」、「近畿地方」、「中国・四国地方」、「九州・沖縄地方」、「海外」の9つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表38である。

図表 38 回答者における子ども期（15歳頃）の居住地

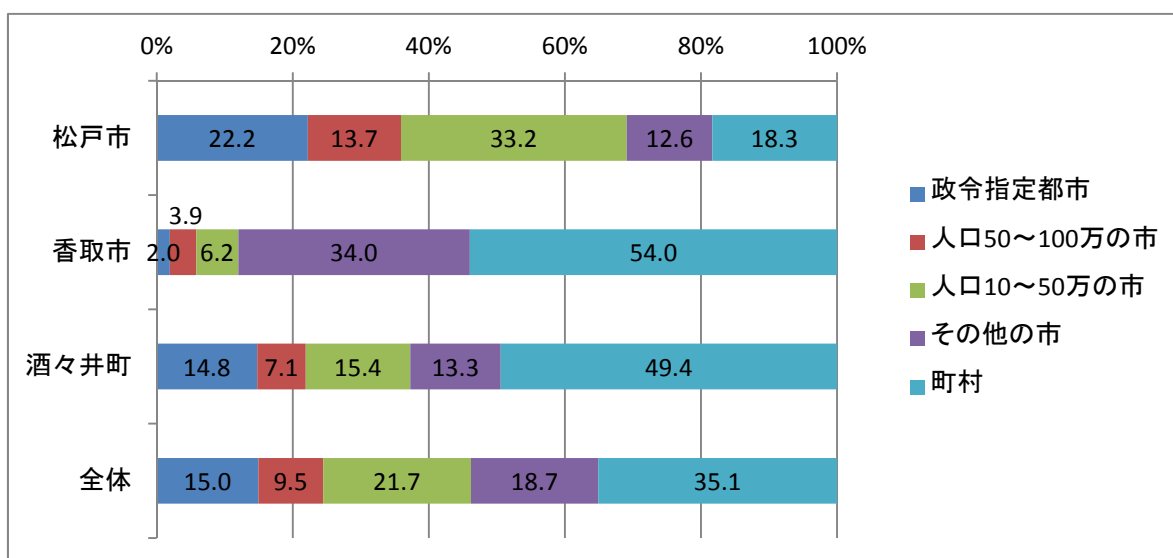


子どもの頃の居住地について最も回答率が高かったのは「現在お住まいの地域」の31.6%で、以下「千葉県以外の関東地方」で26.0%、「千葉県内の他の市町村」20.1%、「北海道・東北地方」8.4%、「中部地域（東海・北陸地方）」5.3%「九州・沖縄地方」3.6%、「近畿地方」2.7%、「中国・四国地方」2.1%、「海外」0.3%の順となった。

問 39 子ども頃の居住地の人口規模について

回答者に15歳（中学生3年生）の頃に住んでいた地域の人口規模について、「政令指定都市」、「人口50～100万の市」、「人口10～50万の市」、「その他の市（人口10万未満）」、「町村（郡部）」の5つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表39である。

図表 39 回答者が子ども期（15歳頃）の居住地における人口規模



子どもの頃の居住地の人口規模について最も回答率が高かったのは「町村（郡部）」の35.1%

で、以下「人口10～50万の市」で21.7%、「その他の市(人口10万未満)」18.7%、「政令指定都市」15.0%、「人口50～100万の市」9.5%の順となった。

問40 子どもの頃の暮らしむきについて

回答者に15歳(中学生3年生)の頃の暮らしむきが当時のふつうの暮らしむきと比べて「豊か」、「やや豊か」、「ふつう」、「やや貧しい」、「貧しい」のいずれに該当するのかを回答してもらった。その結果が図表40である。

図表40 回答者における子ども期(15歳頃)の暮らしむき

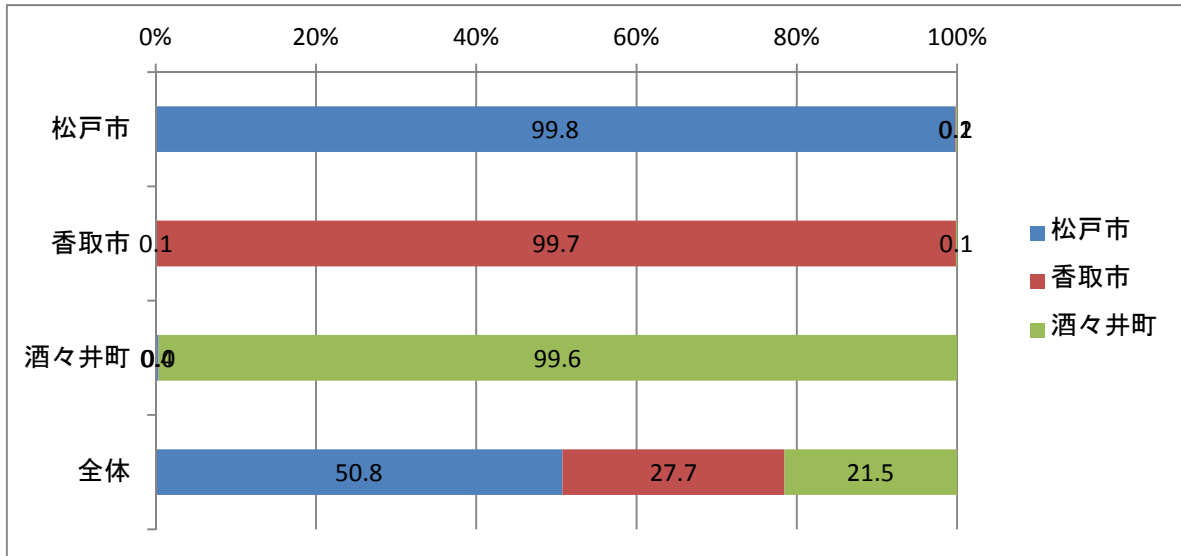


子どもの頃の暮らしむきについて最も回答率が高かったのは「ふつう」の53.5%で、以下「やや貧しい」で19.0%、「やや豊か」13.5%、「貧しい」8.9%、「豊か」5.1%の順となった。ほぼ半数が暮らしむきは「ふつう」であったという回答であった。

問41 現在の居住地について

回答者に現在の住まいを「松戸市」、「香取市」、「酒々井町」に分けて回答してもらった。その結果が図表41である。

図表 41 回答者の現在の住居地域



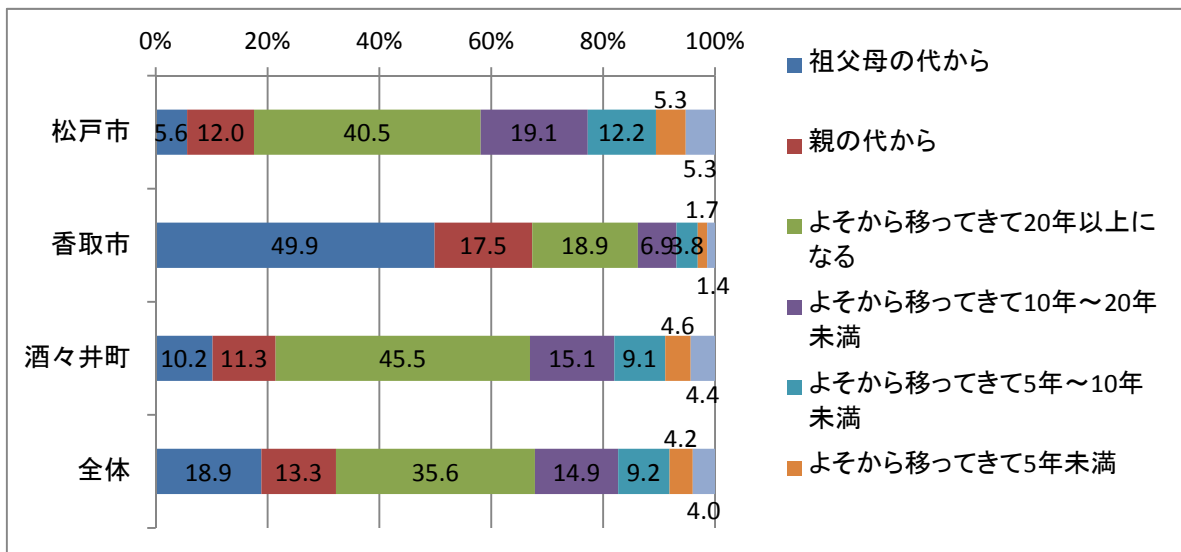
現在の居住地について最も回答率が高かったのは「松戸市」の 50.8%で、以下「香取市」で 27.7%、「酒々井町」 21.5%の順となった。

問 42 現在の居住歴について

回答者の現在の住まいについて、いつ頃からその地域に住んでいるのかを「祖父母の代から」、「親の代から(あなた自身もしくは配偶者は、生まれてからずっと)」、「よそから移ってきて 20 年以上になる」、「よそから移ってきて 10 年～20 年未満」、「よそから移ってきて 5 年～10 年未満」、「よそから移ってきて東日本大震災以降から 5 年未満」、「東日本大震災発生よりも後によそから移ってきた」の 7 つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 42 である。

*結婚して移ってきた場合は、配偶者の住まいについて回答してもらった。

図表 42 回答者の現在の居住歴

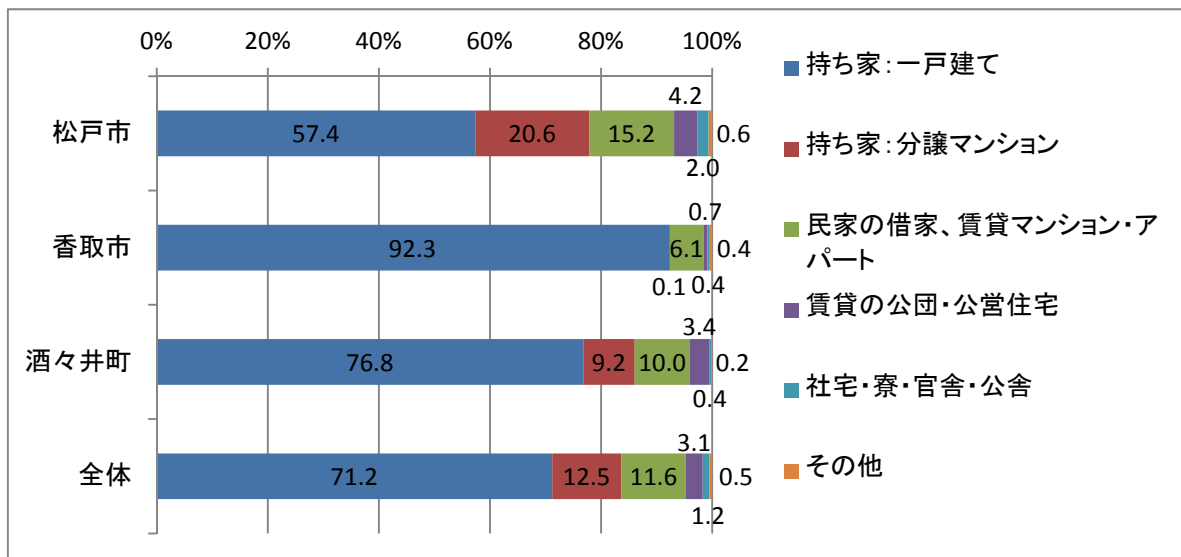


現在の住まいの居住歴について最も回答率が高かったのは「よそから移ってきて 20 年以上になる」の 35.6%で、以下「祖父母の代から」で 18.9%、「よそから移ってきて 10 年～20 年未満」14.9%、「親の代から」13.3%、「よそから移ってきて 5 年～10 年未満」9.2%、「よそから移ってきて東日本大震災以降から 5 年未満」4.2%、「東日本大震災発生よりも後によそから移ってきた」4.0%の順となった。

問 43 現在の住居について

回答者に現在の住まいについて「持ち家：一戸建て」、「持ち家：分譲マンション」、「民間の借家、賃貸マンション・アパート」、「賃貸の公団・公営住宅」、「社宅・寮・官舎・公舎」、「その他」の 6 つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 43 である。

図表 43 回答者の現在の住居

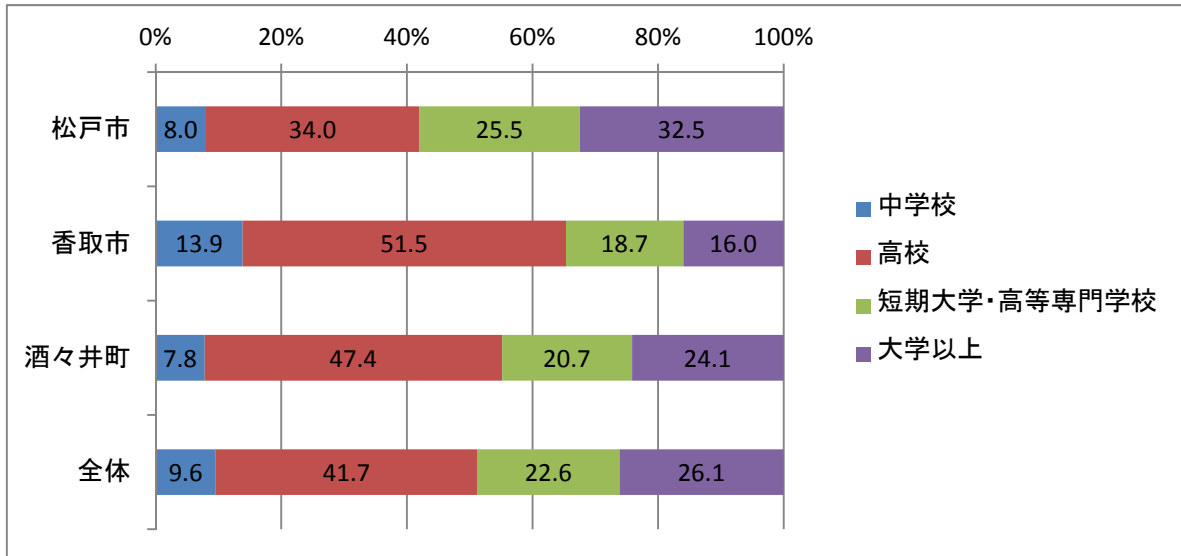


現在の住居について最も回答率が高かったのは「持ち家：一戸建て」の 71.2%で、以下「持ち家：分譲マンション」で 12.5%、「民間の借家、賃貸マンション・アパート」11.6%、「賃貸の公団・公営住宅」3.1%、「社宅・寮・官舎・公舎」1.2%、「その他」0.5%の順となった。

問 44① 最終学歴等について

回答者に最後に通学した(または現在通学している)学校について、「中学校」、「高校」、「短期大学・高等専門学校」、「大学以上」の 4 つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 44-1 である。

図表 44-1 回答者の最終学歴等

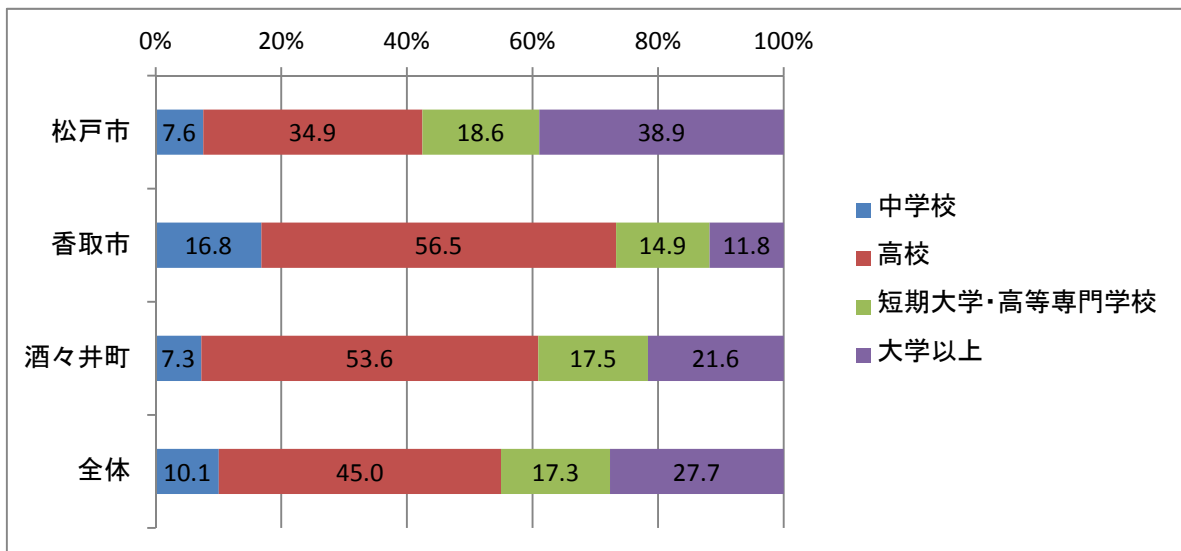


回答者の最終学歴等について最も回答率が高かったのは「高校」の 41.7%で、以下「大学以上」で 26.1%、「短期大学・高等専門学校」22.6%、「中学校」9.6%の順となった。

問 44② 配偶者の最終学歴等について

回答者に配偶者がいる場合、その配偶者の最後に通学した(または現在通学している)学校について、「中学校」、「高校」、「短期大学・高等専門学校」、「大学以上」の 4 つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 44-2 である。

図表 44-2 配偶者の最終学歴等

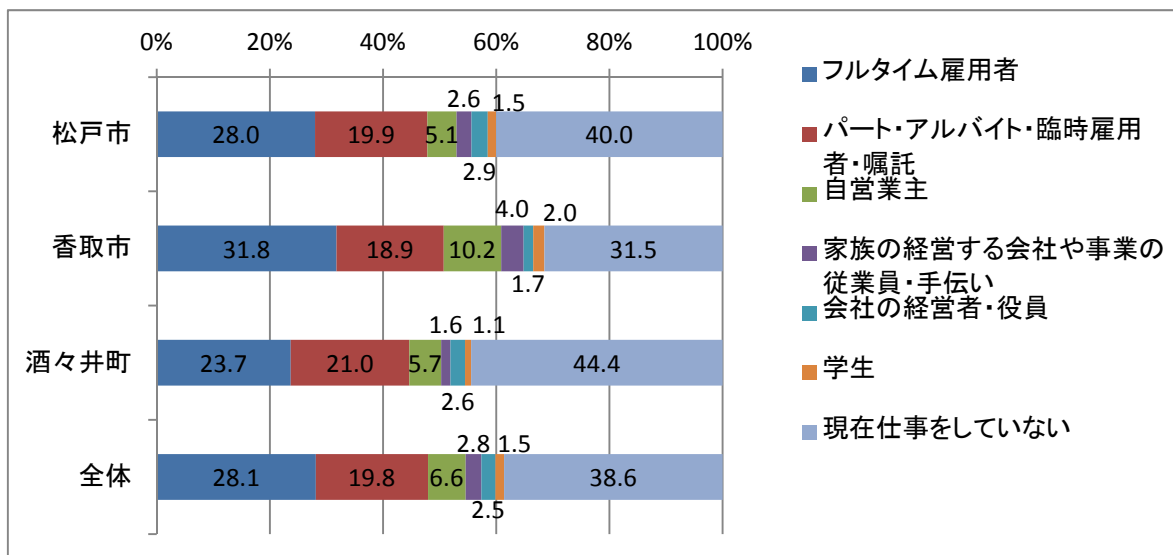


配偶者の最終学歴等について最も回答率が高かったのは「高校」の 45.0%で、以下「大学以上」で 27.7%、「短期大学・高等専門学校」17.3%、「中学校」10.1%の順となった。

問 45 現在の労働形態について

回答者に現在の労働形態について、「1. フルタイム雇用者(常時雇用者)」、「2. パート・アルバイト・臨時雇用者(契約社員・派遣社員)・嘱託」、「3. 自営業主」、「4. 家族の経営する会社や事業の従業員・手伝い」、「5. 会社の経営者・役員」、「6. 学生」、「7. 現在仕事をしていない」の7つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 45 である。

図表 45 回答者の現在の労働形態

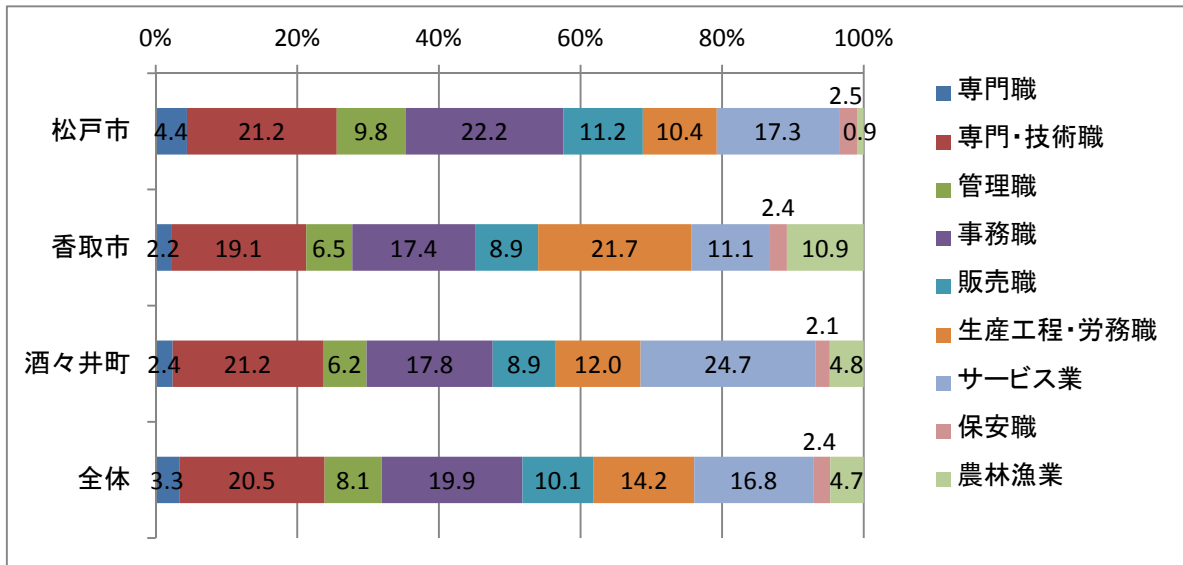


現在の労働形態について最も回答率が高かったのは「現在仕事をしていない」の38.6%で、以下「フルタイム雇用者」で28.1%、「パート・アルバイト・臨時雇用者・嘱託」19.8%、「自営業主」6.6%、「家族の経営する会社や事業の従業員・手伝い」2.8%、「会社の経営者・役員」2.5%、「学生」1.5%の順となった。

問 46 現在の職種について

問 45 で1~5を選んだ回答者の職種について、「専門職」、「専門・技術職」、「管理職」、「事務職」、「販売職」、「生産工程・労務職」、「サービス職」、「保安職」、「農林漁業」の9つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 46 である。

図表 46 回答者の現在の職種

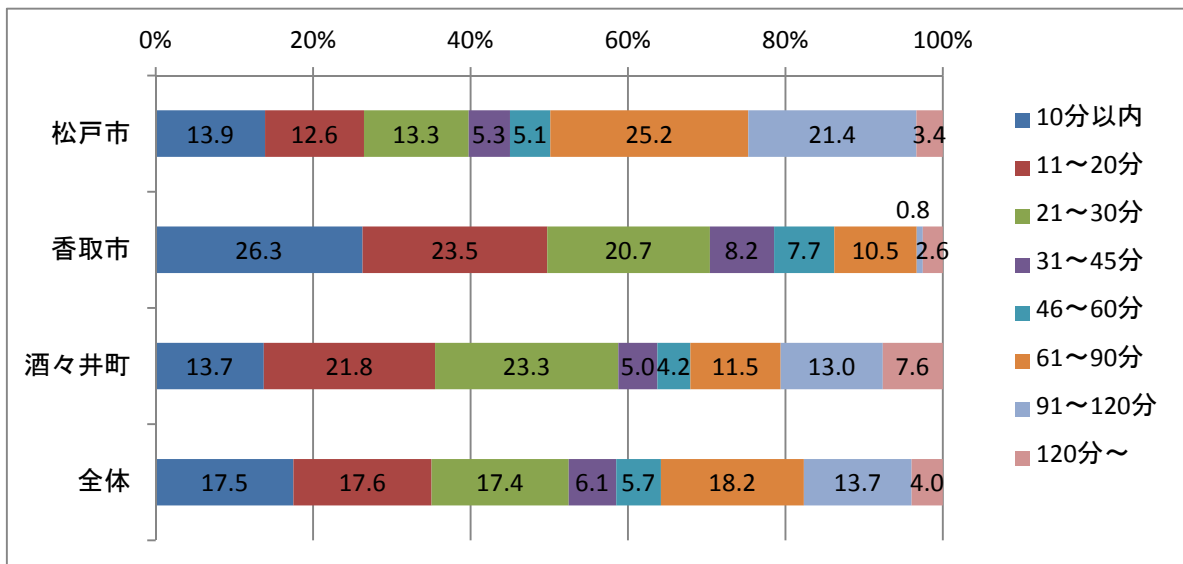


職種について回答率が最も高かったのは「専門・技術職」の20.5%で、以下「事務職」で19.9%、「サービス業」16.8%、「生産工程・労務職」14.2%、「販売職」10.1%、「管理職」8.1%、「農林漁業」4.7%、「専門職」3.3%、「保安職」2.4%の順となった。

問 47① 通勤時間について

問 45 で「6. 学生」と「7. 現在仕事をしていない」以外を選んだ回答者の通勤にかかる所要時間について回答を得て、8つに時間に区分し、集計した。その結果が図表 47-1 である。

図表 47-1 回答者の通勤時間区分

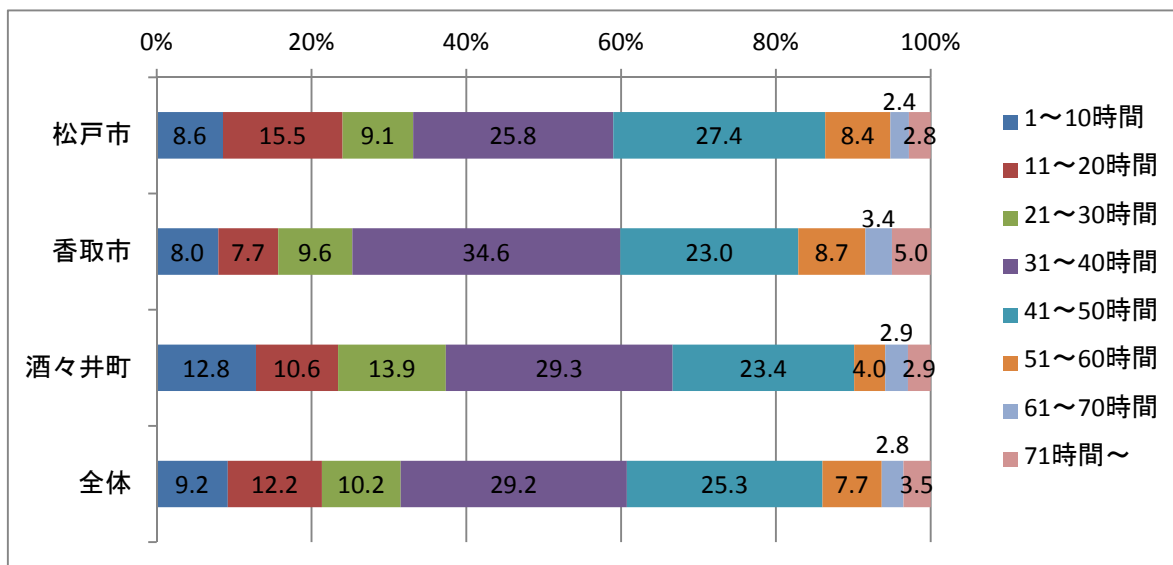


通勤時間について区分の結果、最も回答率が高かったのは「61～90分」の18.2%で、以下「11～20分」で17.6%、「10分以内」17.5%、「21～30分」17.4%、「91～120分」13.7%、「31～45分」6.1%、「46～60分」5.7%、「120分～」4.0%の順になった。

問 47② 労働時間について

問 45 で 1～5 を選んだ回答者の 1 週間あたりのおよその労働時間について回答を得て、8 つに時間に区分し、集計した。その結果が図表 47-2 である。

図表 47-2 回答者の労働時間区分

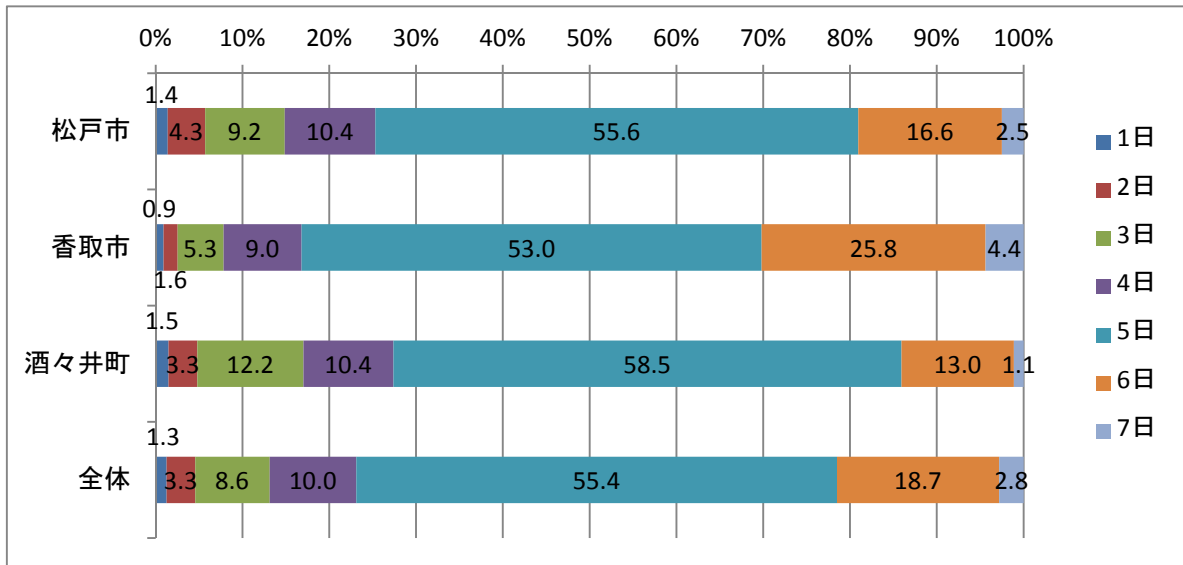


区分の結果、最も回答率が高かったのは「31～40 時間」の 29.2%で、以下「41～50 時間」で 25.3%、「11～20 時間」12.2%、「21～30 時間」10.2%、「1～10 時間」9.2%、「51～60 時間」7.7%、「71 時間～」3.5%、「61～70 時間」2.8%の順になった。

問 47③ 労働日数について

問 45 で 1～5 を選んだ回答者の一週間あたりのおよその労働日数を回答してもらった。その結果が図表 47-3 である。

図表 47-3 回答者の労働日数について



一週間あたりのおよその労働日数について最も回答率が高かったのは「5日」の55.4%で、以下「6日」で18.7%、「4日」10.0%、「3日」8.6%、「2日」3.3%、「7日」2.8%、「1日」1.3%の順になった。

問 48 現在の生活水準について

回答者に現在の日本の社会全体を、「上」、「中の上」、「中の下」、「下の上」、「下の下」の5階層に分類した時の自身の状況に最も近いものを回答してもらった。その結果が図表 48 である。

図表 48 回答者の現在の生活水準

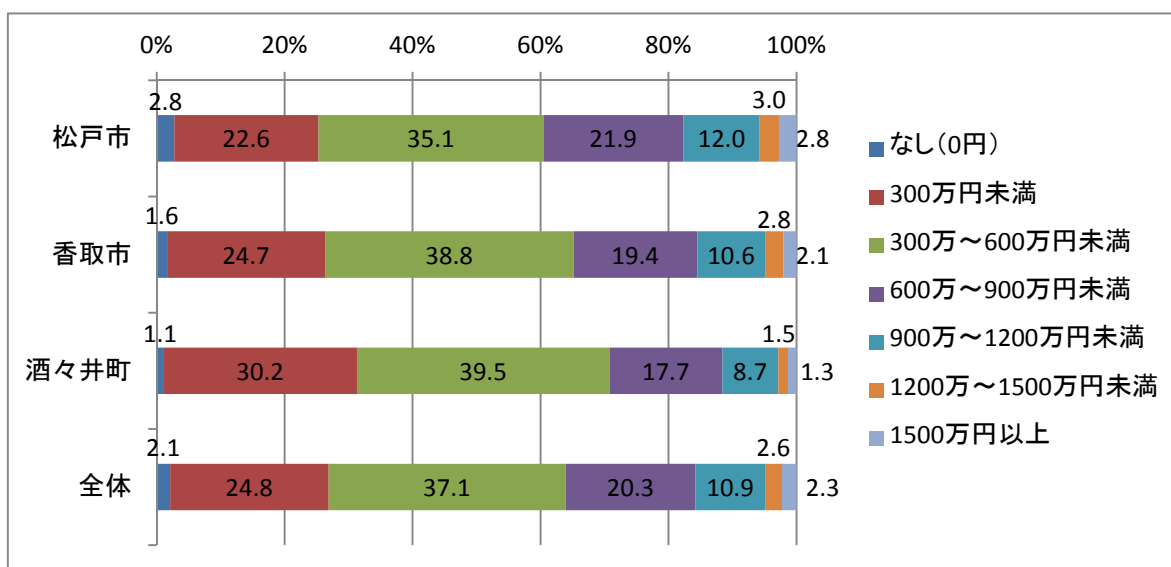


回答者の生活水準について最も回答率が高かったのは「中の下」の48.5%で、以下「中の上」で22.5%、「下の上」20.7%、「下の下」7.2%、「上」1.2%の順となった。全地域ともほぼ半数が「中の下」と感じている結果となった。

問 49 世帯収入について

回答者の過去一年間の世帯収入額について、「なし」、「300万円未満」、「300万～600万円未満」、「600万円～900万円未満」、「900万～1200万円未満」、「1200万～1500万円未満」、「1500万円以上」の7つの選択肢から回答してもらった。その結果が図表 49 である。

図表 49 回答者の世帯収入



過去一年間の世帯収入額について最も回答率が高かったのは「300万～600万円未満」の37.1%で、以下「300万円未満」で24.8%、「600万円～900万円未満」20.3%、「900万～1200万円未満」10.9%、「1200万～1500万円未満」2.6%、「1500万円以上」2.3%、「なし」2.1%の順となった。

第2部

人権問題に関する市民意識の詳細分析

第7章 差別・不平等・福祉国家——詳細分析を貫く問題意識

1. 問題意識

本報告書の後半部分では、個別にテーマを設定し、そのテーマごとに分析結果を集計し、考察を行うという形をとっている。とはいえ、これらの論考は、すべて独立したものというよりも、相互に関連しあう形で執筆されている。はじめに、各章を貫くものとして、どのようなテーマを設定しているのか、全体のテーマ設定にもとづき、各章の内容が相互にどのような関連をもっているのかについて説明する。

2. 人権と市民権

今回の意識調査では、人権と人権問題を次のようにとらえている。人権とは、個人が社会生活を営む上で欠くことのできないものであり、それらを享受することが権利として承認されているものである。近代市民社会では、これらはシティズンシップ、市民権という形で概念規定されてきた。市民権は、民主主義の進展とともに歴史的にも変化してきたが、大きくは、市民的権利、政治的権利、社会的権利の3つの要素から構成される。市民的権利とは、市民として社会の中で生きるための様々な自由権から構成される。たとえば、職業選択の自由、移動の自由、思想信条の自由、集会結社の自由などが、これに該当する。政治的権利とは、政治に参加するための諸権利をさす。間接民主制のもとでは、議会で様々な意思決定を行う代表者を選出するための選挙権や、自らが議員として立候補するための被選挙権などがあげられる。最後に社会的権利とは、社会を構成する市民が、市民的権利で保障されている自由を行使するために必要な財・サービスが保障されることをさす。たとえば、職業選択の自由が保障されたとしても、労働力もまた市場メカニズムのもとで商品化されている状況では、職務に必要な技能やスキルを有していなければ、自分が就きたい職業に就くことはできず、実質的な意味で、職業選択の自由を行使することはできない。そのため、個人の社会生活を保障するためには、その生活の基盤となる財やサービスの提供が不可欠である。教育を受ける権利が、社会的権利の一部となっているのは、個人が社会の中で自由に生きる権利を行使するために、欠くことのできないものだからであろう（Marshall 1950=1992）。

これらの概念は、欧米の民主主義の展開過程の中で成立し、その後各地に普及していったものである。これら3つの諸権利の歴史的発展過程をみると、市民的権利が、近代市民社会の成立とともにもっとも早い時期に出現した。市民的権利は、もともと国家と市民（社会）との対立、葛藤から生じたものである。国家が市民の自由を制約しないよう、国家権力に一定の制約をかけるために出現した。その後、国家の意思決定に市民が参加する権利として、参政権や政治的権利の考え方が登場した。そして、もっとも最近になって登場した権利が社会的権利である。国家権力に対して一定の制約を設け、個人の自由権を承認しても、社会の中で彼、彼女らが、自由な自己決定ができるには、それを可能とする社会的基盤が重要である。こうした社会的権利の考え方を現実に制度的に担保したのが、戦後に多くの先進国で発展した福祉国家である。

3. 差別と不平等

これまで、地方自治体では人権問題がある種の政策 이슈として扱われてきた。地方自治体で、人権問題が取り組むべき政策課題とされるとき、それはしばしば、人権侵害という論点からアプローチされてきた。たとえば、ある集団に対する偏った否定的な見方が、当該集団に対して偏見を作り出す。そして、そうした偏見にもとづいて、実際に他の集団やその集団内の個人に対して何らかの不利益をもたらす時、それは差別として私たちの前に立ち現われる。

同和問題の中で語られてきた人権侵害の事例の 1 つに、被差別部落出身者に対する就職差別がある。この場合の就職差別とは、かりにある会社の採用試験に応募した個人が、被差別部落の出身であると会社の人事担当者に判明した時、その人の適性或能力のいかんに関わらず、採用において差別的な取り扱いをすることを意味する。そのような出自や属性にもとづく就職差別は、明らかに、職業選択の自由という市民的権利の侵害を意味する。

たとえば、大阪市が 2001 年に刊行した同和地区住民生活実態調査によれば、大阪市の居住者の特性と比較して、同和地区住民は、大企業で働く割合が低く、中小零細企業や官公庁で就労する割合が高い。産業別構成では、同和地区住民は、販売や製造業での労働者が少ない半面、その他のサービス業に占める割合が高い。自営業者については、販売や製造業の割合が高いが、被雇用ではそうした割合は少なく、サービス業と公務への集中が大きい。職業分布をみると、技能工、労務作業者の占める割合が、同和地区住民では 4 割を越えるが、大阪市全体では 3 割程度にとどまる。他方で、専門技術職や管理職の割合は、同和地区住民の方が低い。失業率についても、大阪市の全体の数値と比較して、同和地区住民の方が、男性で 1 ポイント、女性で 2 ポイントほど高い。このように、民間セクターに限れば、同和地区住民の職業状況は、全般的に低階層の方に偏っている。そして、そうした状況を補うような形で、官公庁セクターでの就労率が高くなっている。産業分類の公務は、非現業職の公務員のみを含むが、男女ともに大阪市全体の 2 倍の数値を示し、現業職も含んだ官公庁に勤務する者は、男性で 18%と大阪市全体の 6%とくらべて、およそ 3 倍の数値となっている。採用時の差別的な処遇を統制しやすい官公庁のセクターに、同和地区住民が集中していることが分かる。

さらに、同和地区住民が、貧困、低階層に集中している状況は、人々の低位な教育達成にも大きく反映されている。2000 年時点で 30 代前半の人のうち、最終学歴が高等教育の人は、同和地区住民でおよそ 16%、市全体では 30%であった。30 代後半の高等教育修了者の割合は、市全体で 41%、同和地区住民で 18%とその差は、22 ポイントも存在する。50 代前半になると、同和地区住民の高等教育修了者はさらに少なく、同和地区住民が 4%、大阪市全体で 21%であった。

以上、大阪市の調査結果を用いて、同和地区住民の学歴と職業の構成を概観してきた。結論をいえば、同和地区住民は、教育達成と職業達成という点で、明らかに不平等な状況に直面してきた。同和地区住民に対する就職差別の状況を勘案すれば、歴史的に構築されてきた同和地区住民に対する差別が、かれらに対して不平等な状況を作り出し、それが、子どもたちの世代における教育達成の不利を形作り、そうした状況はさらに職業達成における不利を作り出している。

階層研究の中心的問題の 1 つに、世代間での機会の不平等の問題がある。世代間での機会の不平等とは、親の職業的地位が、子どもの職業的地位へと継承されていく状況をさす。階層研究は、世代間での階級・階層の地位の継承が、次の 2 つのメカニズムによって生じるものと考えてきた。

ひとつは、教育達成を媒介とした世代間での階層再生産であり、いまひとつは、教育達成を媒介としない、世代間での直接的な資産の継承によって生じるものである。この2つのメカニズムのうち、同和地区住民の貧困・低階層は主に教育機会の不平等から生じている側面が大きいと思われるので、以下、そのことについて論じる。

現代産業社会では、特定の職業に従事するために一定の学歴を必要とするものがある。何らかの専門的な知識、技能に依拠した職業については、大学をはじめとする高等教育での学習や卒業資格が、そうした仕事につくために必要とされる。また、長期間の教育を必要とする職業は一般的に、相対的に高い報酬や安定した雇用が保障されることも多い。現代産業社会では、仕事に必要な人的資本の形成に教育が大きな役割を果たしており、教育と職業との結びつきは強い。他方で、教育達成が家族的背景から完全に自由な形でなされていれば、教育の機会均等はかなりの程度達成されているといえるが、実際には、家族的背景にもとづく教育機会の不平等は、産業化や経済発展が進展した現代社会においてもなお存続している（原・盛山 1999; 荒牧 2000）。こうした視点から、被差別部落をめぐる社会経済的な不平等を考えると、被差別部落や同和地区に居住する住民たちに蓄積されてきた貧困や低階層の状況が、子どもたちの教育達成の不利へと変換され、低位な教育達成を軸に同和地区住民の貧困・低階層が世代間で再生産されてきた。

以上の議論は、差別によって形成された不平等な状況が、子どもたちの教育達成をめぐる不利へと結びつくことで、貧困・低階層の世代間での持続という状況を説明するが、差別自体が不平等にどのような影響を及ぼすかについて、十分な議論ができていない。次に、地位達成モデルの視点から、差別が不平等にどのような影響を及ぼすのか考察する。ダンカンは、アメリカの黒人の貧困や世代間での不平等の持続が、2つのメカニズムのもとで生じているとする。ダンカンはそれらを、「貧困の継承 (inheritance of poverty)」と「人種の継承 (inheritance of race)」という2つの概念で総括する。貧困の継承とは、先にも論じた、親世代の不利が、子どもたちの教育達成の不利を媒介にして、子ども世代へと再生産されるとするものである。他方で、人種の継承とは、社会の中で人種差別が存続していることを前提とする。肌の色をはじめとする外見上の生物学的特徴が世代間で継承されることで、黒人の両親から生まれた子どもたちは、親たちと同様に、人種差別の対象となり、社会生活の面で様々な制約、不利益を被る。階層論は、人種差別が地位達成過程の中でも、教育と職業の結びつきのあり方に影響及ぼすと考える。すなわち、黒人に対するステレオタイプや偏見によって、かりに高い学歴を達成した黒人がいても、人種的偏見に基づく就職差別のために、学歴に見合った職業や収入を達成することができない。言い換えれば、人種差別は、差別の対象となるマイノリティの教育の職業や賃金に対する収益率 (occupational or earnings return to schooling) を大きく押し下げるのである。人種差別によって歴史的に著しい不利を被ってきた黒人の地位達成過程についての議論は、同和地区出身の住民の経済的な不利や不平等をかなりの程度説明することができるだろう。同和地区出身の住民に対する就職差別は、かれらの職業選択の範囲を制限し、多くの人やりたがらない、つきたがらない仕事への集中をもたらしてきた。差別によって作り出された貧困が、教育機会の不平等を媒介に世代間で継承されていくことを、差別の不平等に対する間接効果と捉えれば、差別が教育の収益率を大きく押し下げるという上記の議論は、差別の不平等に対する直接効果としてとらえることができるだろう。

4. 差別、不平等、福祉国家

それでは、中央政府や地方自治体は、このような状況にどう対応してきたのであろうか。自由、平等、民主制を旨とする近代社会において、人々の市民権を抑圧、阻害する差別的状況は、到底容認できるものではない。社会を構成する市民に付与される権利は、だれに対しても平等に保障されるべきものであるとされてきた。特定の人々の「生」や生きる権利を抑圧しても構わないという議論は、特定の人々だけの問題にとどまらず、他の多くの人々にも波及する問題である。特定の人々を抑圧する状況を許容することは、いずれ、自分たちにもその矛先が向けられることを許容することにもつながりかねない。

同和問題をめぐっては、1965年に、同和対策審議会がその解決に向けた答申を出し、これがその後の政府、自治体の同和対策事業の方向性を大きく左右することとなった。同和対策の中核的な事業に、同和地区の生活環境、居住環境の改善と、被差別部落に対する偏見や差別を解消するための啓発活動の2つがある。前者は、被差別部落という特定の空間に長年蓄積されてきた経済的不利を、大きく改善するための事業であり、後者は、差別とその原因である偏見そのものの解決、解消に接近する試みである。

経済的資源の分配の不平等を重視する社会階層論の立場からは、前者の同和対策事業によって、同和地区に長年蓄積されてきた物質的な不利益を改善するために、集中的に資本が投下されたことは、不平等の解消という点で評価できると考える。現実の同和地区住民の貧困、低階層という状況が、同和地区住民に対するネガティブなイメージの形成に貢献しているとすれば、地区の生活環境の改善は、周囲の日本人住民の偏見の解消にも役立つかもしれない。

戦後、多くの先進国で形成された福祉国家は、特定のマイノリティに対する差別や不平等を解消するために、課税によってその社会を構成する市民から経済的資源を徴収し、それを各市民の必要に応じて再分配する役割を果たしてきた。同和対策審議会答申が出された時期には、日本をはじめ多くの先進国で、高度経済成長を経験し、経済成長による税収増を背景に、福祉国家の形成を行ってきた。また、アメリカでは公民権運動の結果、公民権法が制定され、黒人に対する長年の差別を撤廃しようとする動きもみられた。すなわち、差別や不平等を解消するうえで、各国の福祉国家の形成と人々に対する平等な市民権の保障が、規範的にも実践的にも重要な役割を果たしてきたといえる。

5. 福祉国家と社会的連帯

それでは、このような福祉国家はどのような形でその正当性を担保してきたのであろうか。福祉国家と、国家が行う再分配の根拠とは、簡潔に述べれば、困ったときはお互いさま、お互いに助け合って生きていきましょう、という考えに根ざすものである。市場経済のもとで自分が稼いだお金の一部を国家に預け、それを使って国家が、何らかの財、サービスを必要とする人に、分配するのである。お互い助け合って生きていこうというメンタリティーを多くの人々が共有していなければ、こうした制度を人々の合意のもとで維持していくことはできない。人々が普段から企業、地域社会など様々な中間集団を通じて、あるいはそれ以外の場でも多くの人々とつながっている、何らかの関係を有していることで、こうしたメンタリティーが維持されると考える。す

なわち、福祉国家とは人々の社会的連帯を前提とした制度である。

他方で、近年の社会の動向をみると、人々の相互のつながり、社会的連帯が弱まっているという指摘もある。都市化が進展する中、地域社会を中心とする人々のつながり（ソーシャル・キャピタル、社会関係資本ともいう）が弱まり、個人化が進展しているとも言われている。パットナムは、『孤独なボウリング』という著書の中で、近年のアメリカにおいても個人化が進展し、社会的連帯が弱まるなか、民主主義の基盤が浸食されているという。

同様のことは日本にも当てはまるのかもしれない。最近の日本では、1960年代から70年代にかけての時期と比べ、社会運動をはじめとする集合的な異議申し立ての件数が大きく減少している。また、労働組合の組織率も減少傾向にあり、ストライキなどをはじめとする職場での組織的な異議申し立ても1960年代、70年代のころと比べて非常に少なくなった。労働者の異議申し立ても、労働組合を通じた集合的なものよりも、諸個人が行う個別的な異議申し立ての方が増加傾向にあるとも言われている。

地域の社会関係資本が衰退し、個人化が進展するとき、人々は相互に助け合おうとは考えなくなるのかもしれない。企業や地域社会といった中間集団を通じて人々が相互の関係を作り出す契機に乏しいとき、人々による福祉国家の支持基盤は大きく減退するかもしれない。なぜなら、人々の相互のつながりが弱まるほど、人々は相互に助け合うべきという道徳的義務から解放される傾向が強くなるからだ。そうした状況下で、自分が市場経済の中で稼いだお金を国家によって強制的に徴収されることは、いっそう耐え難いことのように映るだろう。以上の推論が正しいとすれば、人々の社会関係資本の衰退は、人々の福祉国家の支持基盤を掘り崩し、人々はより小さな政府を志向するようになる。

福祉国家の支持基盤が弱まることは、差別や不平等の問題に政府や地方自治体が取り組んでいくとき、何らかの障害をもたらす可能性がある。差別や不平等の問題に行政が取り組むことは、この社会を構成するすべての人々に対して、市民権を保障することでもある。福祉国家が、人々に市民権をどのように、そしてどの程度まで保障するのかは、社会によっても大きく異なっている。エスピン・アンデルセンの福祉レジーム論は、福祉レジームの3類型として、自由主義、保守主義、社会民主主義の3つを指摘し、人々の主要な福祉の担い手としてそれぞれ、市場、家族、国家を想定する。自由主義では、人々の福祉サービスの供給の担い手は市場であり、市場がうまく機能しない時だけ残余的に国家が福祉サービスを提供する。保守主義では、基本的な福祉の担い手は家族であり、なかでも男性稼ぎ主モデルを前提に、福祉制度が形成されている。社会民主主義では、基本的な福祉の担い手は国家とされ、国家が普遍主義的に、人々の市民権（シティズンシップ）を保障する観点から、必要な福祉サービスの提供を行う(Esping-Andersen 1999)。

日本の福祉レジームは、しばしば保守主義と位置づけられ、家族が十分に福祉の担い手として機能できない時、国家がサービスの提供を担う。日本の福祉レジームは、家族主義を前提としているために、家族向けの公的支出が先進国の中でも最低水準であることが知られている。男性稼ぎ主モデルと性別役割分業にもとづく核家族を前提としているため、そうした家族に該当しない人々に対するシティズンシップの保障が、十分でない。とりわけ、母子世帯の貧困率は先進国の中でも最も高い。日本では、母子世帯における母親の就労率は他の国と比べて非常に高いにもかかわらず、近年の母子世帯向け福祉政策は、「福祉から就労へ」という経済的自立を一層強いるワークフェアの様相をますます強めている。OECDに加盟する先進国の中で国際比較をすると、日

本は公的年金と公的医療保険といった高齢者向け福祉支出は先進国の中でも中位をしめている半面、成人向け、家族向けの福祉支出は、家族主義を前提とするために、先進国の中でも最低水準である。人々の社会関係資本が減少し、さらなる福祉国家に対する人々の反発が強まれば、国家の再分配機能は弱まり、その結果、社会の不平等は増大し、差別的事象を十分に統制することは一層困難になると予想できる。

以上の状況をかんがみ、今回の詳細分析では、人々の社会関係資本のあり方が、人々の福祉政策への意識にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることも、重要な課題として設定した。

6. 近年の社会変動と差別との関係

本章の冒頭では、マーシャルのシティズンシップの議論にもとづき、福祉国家が保障してきた市民権の考え方について紹介した。しかし、人々のシティズンシップ、市民権が現実にどの程度保障されているのかは、人々の階級的地位によって大きく異なる。とりわけ、人々の福祉を保障する様々な財、サービスが市場メカニズムを通じて提供されているとき、人々のライフ・チャンス（社会生活を送るために必要な様々な財、サービスへのアクセスの機会）は、人々の購買力によって決定される。経済的な不平等が、市民権の中でも社会的権利の実現の度合いに大きく影響するのである。福祉国家は、経済的な不平等に介入し、資源の再分配を行う重要な主体である。とはいえ、福祉国家の所得再分配機能は、国家・地域によっても大きく異なる。家族主義的な福祉レジームを採用する日本では、国家の再分配機能は大きくなく、現実の経済的不平等の動向は、人々のライフ・チャンスに大きく影響するだろう。

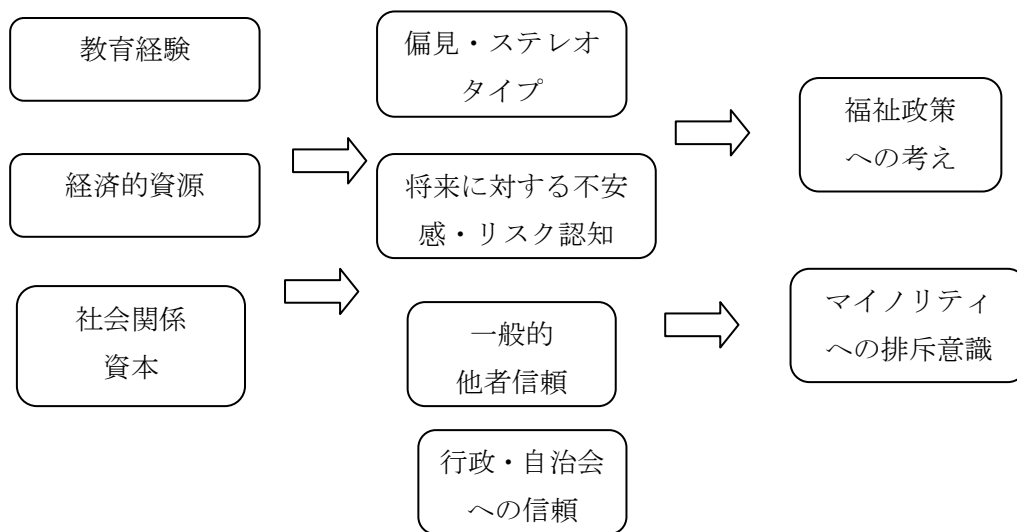
多くの先進国では、近年、所得格差が拡大傾向にあると言われており、様々な次元での不平等が増加傾向にある。所得格差の拡大とそれに伴う階級間の不平等の増大は、社会的な葛藤、利害対立を大きなものとするだろう。近年のヨーロッパ諸国における反移民感情の増大を説明する理論に、集団的脅威理論（Group threat theory）がある。これは、マジョリティ集団の移民、マイノリティに対する偏見、差別は、経済的利害の競合によって生じるとする考えにもとづく。非熟練労働に従事する移民、マイノリティの増加は、その社会のマジョリティ集団の非熟練労働者との間で、利害が競合するかもしれない。すなわち、マジョリティの非熟練労働者は、移民によって自分の仕事が奪われるかもしれないと考え、かれらを受け入れることに大きく反発するのである（Semyonov et al. 2006）。

また、移民、マイノリティの居住者の多い地域ほど、マジョリティ集団の中でも移民、マイノリティに対して脅威を感じる者が多くなり、その結果、移民、マイノリティの受け入れへの反対、反発が高まると予想される（Semyonov et al. 2006）。こうした仮説を人々の福祉政策への賛否に応用する研究もある。移民、マイノリティの増加と反移民感情の高まりは、国家が、人々にシティズンシップを保障する観点から、普遍主義的に福祉給付を行うスウェーデンでも観察される。さらに、近隣における移民の増加は、普遍主義的な福祉給付への反発も強めていた。すなわちスウェーデンにおける普遍主義的な福祉国家とは、民族的な同質性によって可能となっていたのであり、人種、民族的な異質性の増大は、普遍主義的な福祉国家を支持する態度を掘り崩す可能性もある（Eger 2010）。

近年の社会変動の方向性を、グローバル化という概念によって把握しようとする試みが、社会学をはじめとする社会科学の様々な領域でなされてきた。本報告書が考察する差別や不平等という事象に対しても、グローバル化は何らかの影響を及ぼすと考えられる。グローバル化の進展の結果生じていることの1つに、将来に対する見通しにくさや社会における不確実性の増大がある。不確実性の増大は、雇用の面では企業において非正規雇用を増やし、経済格差の高まりをもたらしている。日本の労働市場では、いったん正規雇用として雇用すると、容易に解雇することが困難である。そのため、正規雇用の入り口である採用面接が、労働者の選別において非常に重要な役割を果たす。人々は不確実な状況下では、分かりやすい指標である属性やその属性に付与されたステレオタイプによって、個人を判断しがちである。なぜなら、ステレオタイプにもとづいて人を判断することは、当該個人の情報探索コストを大きく低減するきわめて「合理的」な行為だからである。このように、不確実な状況に置かれた個人は、将来にわたっての様々なリスクを回避するために、ステレオタイプに依拠した判断をしがちであり、それによって他者に対して差別的な対応を取る傾向があるのかもしれない。

7. 詳細分析における基本的な概念図（因果関係のモデル）

図表 7-1 因果関係モデル



本報告書の詳細分析では、以上の議論にもとづき、上のような仮説をたてた。福祉国家、相互扶助意識と社会関係資本との関係や集団的脅威仮説にもとづき、人々の地域社会をはじめとする社会関係資本と階層的地位が、マイノリティに対する意識やマイノリティに関わる行政施策に対する意識を左右すると考えた。媒介要因として、信頼をあげているが、これは、一般的他者信頼として測定されている指標と行政や町内会、自治会に対する信頼に関する指標の両者を想定したものである。信頼はしばしば社会関係資本の指標の1つとしても捉えられる。具体的な個人相互のつながりが、一般的な他者への信頼感を高め、そうした他者への信頼が、行政や地域の中間集団である町内会、自治会への信頼も高めると考えられる。そして、行政に対する信頼感が低いほ

ど、人々は福祉国家を支持する意識は弱まると考えられる。人々が、行政は信頼できない、行政がうまく機能しているとは思えないと考えることで、人々は行政にお金を預けて、必要に応じて再分配してもらおうとは考えなくなるだろう。そうした考えから、福祉国家を通じたマイノリティ施策への反発も当然強まるという予測も成り立つだろう。

これまでに千葉県内の各自治体で実施されてきた人権問題に関する市民意識調査は、次のような理論仮説に基づいて構成されてきた。それらを簡潔に要約しよう。第1に、マイノリティに対する偏見、ステレオタイプが、マイノリティに対する差別の大きな原因である。この論点は、上の図中の偏見、ステレオタイプがマイノリティへの排斥意識に影響するという点で、上のモデルの中に組み込まれている。第2に、マイノリティ当事者との直接的な接触は、マイノリティに対するネガティブ・イメージ、偏見、ステレオタイプを弱め、マイノリティへの差別を少なくする。これは、マイノリティ当事者との直接的な接触もまた、人々の社会関係資本の1つと捉えることとした。第3に、差別問題についての啓発事業、講演会、学習会への参加は、偏見、差別を抑制することに貢献する。これは、上の図では、教育経験として概念化し、因果モデルの中に組み込んだ。今回の詳細分析では、以上の考え方にもとづき、分析と考察を行う。

【参考文献】

- 荒牧草平 2000 「教育機会の格差は縮小したか——教育環境の変化と出身階層間格差」 近藤博之編『日本の階層システム3——戦後日本の教育社会』東京大学出版会: 15-35.
- 大阪市民局 2001 『同和問題の解決に向けた実態等調査報告書（生活実態調査）』大阪市民局（URL: <http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000004451.html> 2014年3月3日にアクセス）
- 原純輔・盛山和夫 1999 『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会.
- Eger, M. A. 2010. "Even in Sweden: The Effect of Immigration on Support for Welfare State Spending." *European Sociological Review* 26(2):203-17.
- Esping-Andersen, Gosta. 1999. *Social Foundations of Postindustrial Economies*. Oxford: Oxford University Press.
- Semyonov, M., R. Raijman, and A. Gorodzeisky. 2006. "The Rise of Anti-Foreigner Sentiment in European Societies, 1988-2000." *American Sociological Review* 71(3):426-49.

第8章 地域住民の親密度と満足度

1. 問題関心

現代の日本では、進学や転勤、結婚などの転機により生まれた地を離れ、居住地域を転々とすることはごく普通のことである。そのため、長年同じ地域に住んでいることで結ばれる地縁関係は存在自体が薄れ、地域社会における住民同士のつながりというものが結ばれにくくなっているように思う。特に、転勤族が住民の大半を占めているような新興住宅地や、一人暮らし住民が多いような地域は、地域住民と交流がないことが日常的なこととして認識されてしまっている社会である。確かに、地域住民との関係が薄いことは、関係を持つことによって生じてしまう煩わしさを回避できたり、気遣ったりしなくてよいために、逆に居心地が良い社会ともいえる。ミルグラムの先行研究によると、「過去よりも現在の社会で、田舎よりも都市では情報が多すぎるので、そこに住む人は適応しようとして無関心にならざるをえない。それゆえ、自分と関係の薄い人に無関心で冷淡になる」とある。[小牧,1999,p.136] この研究が示すように、実際に現代の社会では、高齢者の孤独死といった問題なども起こっており、地域住民同士の親密度が低いことは、間接的に社会問題を引き起こす原因にもなりうるのではないだろうか。だがしかし最近では、特に東日本大震災発生以降、災害時に地域住民同士が協力できるように日頃からの地域住民とつながりを持つことについて見直されてきているようにも思う。

地域住民と関係を持たないことは、持つことによって起こりうる人間関係トラブル、または煩わしさを回避、ご近所づきあいといった無駄な気遣いをしなくてもいいという居心地の良い状態であるともいえる。あまり関わろうとしないというそんな地域住民との付き合い方に安住している人々は少なくないだろう。以上の予測の下に仮説を立てる。また、「親密性の定義として『情報の共有』と『相互行為の蓄積』を設定する」。(筒井,2008,p.12) そこで、それぞれ異なる背景を持つ松戸市・香取市・酒々井町の3市町のデータを使って分析を行う。

2. 仮説

(1) 主要な問題関心と大まかな仮説

本章では、以下の仮説にもとづき、地域社会における人々の人間関係にアプローチする。

「地域住民との親密度は、地域住民との人間関係の満足度に関連がある」

以上の仮説を検証するために、以下の独立変数と従属変数を設定して、仮説の検証を行う。

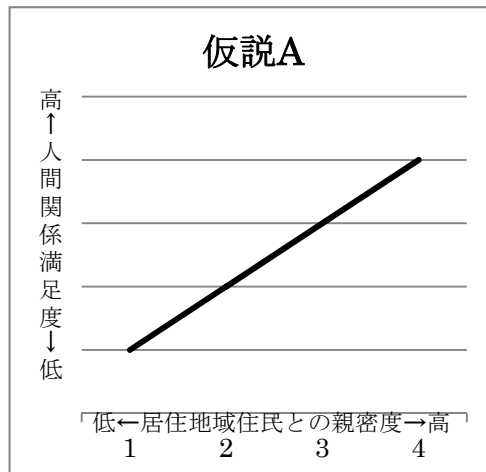
独立変数：地域住民との親密度

従属変数：問 11a)地域住民との人間関係満足度

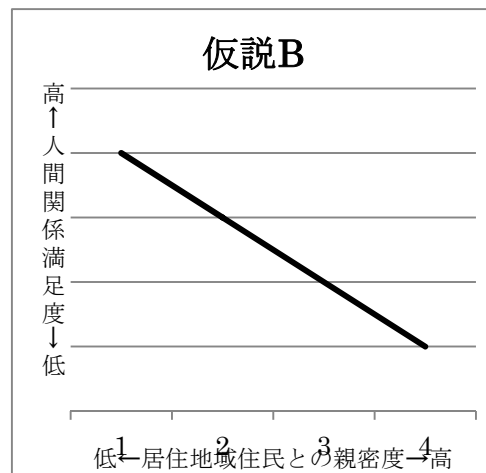
地域住民との親密度と人間関係への満足度との関係のありようについては、次の3つの仮説が考えられる。

- A. 居住地域住民との親密度が高いと、居住地域住民との人間関係満足度が高い
- B. 居住地域住民との親密度が高いと、居住地域住民との人間関係満足度が低い
- C. 居住地域住民との親密度が高くて低くても人間関係満足度は高く、逆に中間層が低い。

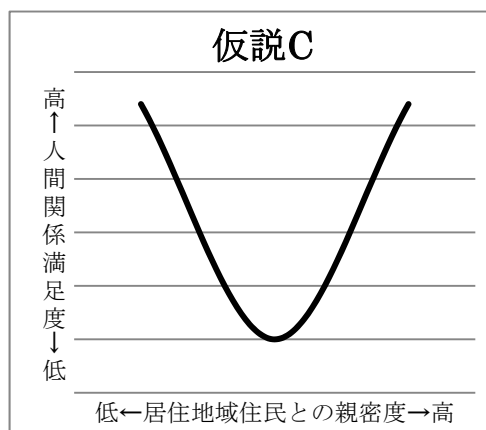
図表 8-1 仮説 A



図表 8-2 仮説 B



図表 8-3 仮説 C



3つの仮説を立てて、地域住民との親密度が地域住民との人間関係の満足度にどのように関連しているかを検証したいと思う。まず、Aの仮説は居住地住民との親密度が高いほどその人間関係満足度は高まり、親密度が低いほど満足度は低くなるという仮説である。次にBの仮説は、居住地住民との親密度が高いと、その親密性がかえって人間関係満足度を低め、反対に親密性

が低いと人間関係満足度が高まるという仮説である。最後に C の仮説は、A と B の仮説を含んだもので、居住地域住民との親密度は高くても低くてもその人間関係満足度は高く、逆に親密度が高くも低くもない中間層の人間関係満足度が低いという仮説である。

独立変数となる居住地域における人間関係の強さを（親密度）直接測る設問はないが、親密性を測れるいくつかの設問をピックアップし、分析することで居住地域における人間関係の強さ（親密度）を測る。

親密性を測る指標として用いる設問（独立変数）

- ・ 問 9a) 町内会・自治会・区の会合への参加度
- ・ 問 10c) 近隣住民との相談頻度
- ・ 問 15 近隣住民への信頼度
- ・ 問 17a) 自宅から 30 分圏内に住む人で親密な関係性にある人の人数

(2) 作業仮説

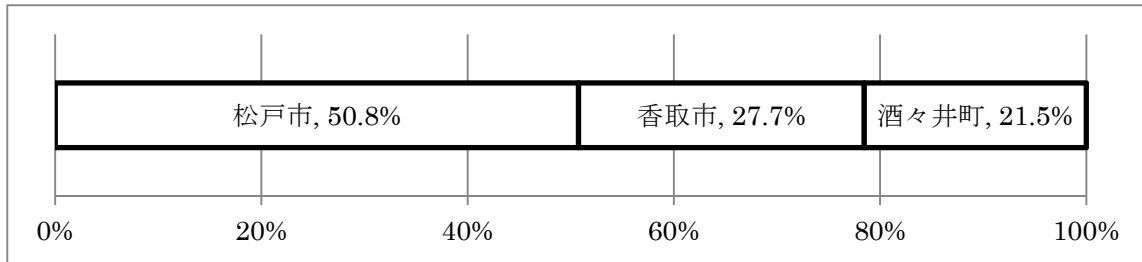
主要な問題関心にに基づき、具体的な設問を使って作業仮説を立て、それぞれの仮説を検証する。

- ① a. 町内会・自治会・区の会合への参加度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
b. 町内会・自治会・区の会合への参加度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
c. 町内会・自治会・区の会合への参加度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、参加度が中程度は満足度が低い。
- ② a. 近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
b. 近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
c. 近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、頻度が中程度は満足度が低い。
- ③ a. 近隣住民への信頼度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
b. 近隣住民への信頼度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
c. 近隣住民への信頼度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、信頼度が中程度は満足度が低い。
- ④ a. 近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
b. 近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
c. 近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多い又は少ないほど、地域住民との人間関係満足度は高く、人数が中程度は満足度が低い。

3. 分析結果

(1) 単純集計

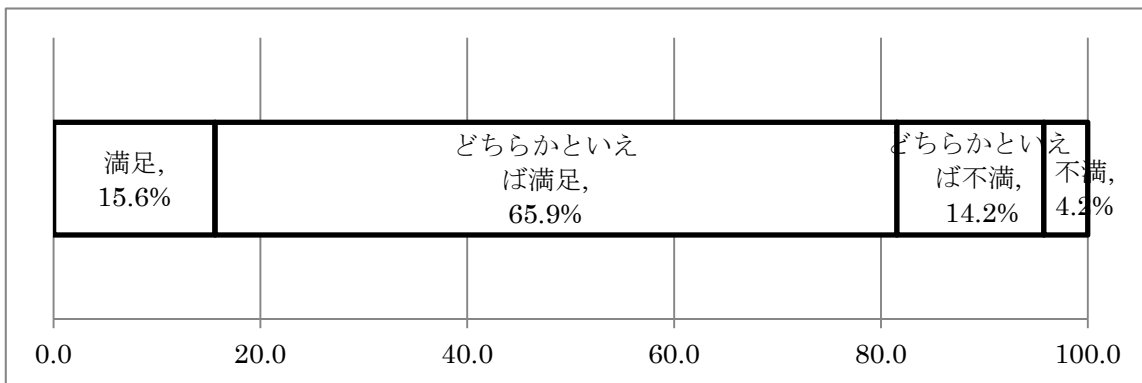
図表 8-4 居住地域



まず、調査対象である3市町（松戸市、香取市、酒々井町）のそれぞれの有効回答人数（2559人）を単純集計した。松戸市が約半数を占め、香取市が約1/4、酒々井町が約1/5という回答人数の割合になった。

(2) 単純集計 【従属変数】

図表8-5 地域住民との人間関係満足度



従属変数となる問11a)地域住民との人間関係満足度を単純集計した。「満足」15.6%、「どちらかといえば満足」65.9%、「どちらかといえば不満」14.2%、「不満」4.2%と肯定的な回答が約8割を占め、ほとんどの人が地域住民との人間関係について満足しているという結果であった。否定的な回答を選択する人は、地域住民と交流が全くないという人よりも、地域住民との交流がある程度あるが、その人間関係にトラブルなどがある人が答える傾向にあるとも予想できる。地域住民とあまり交流がない人は、交流がしたいけれどできないという人以外、日常生活が問題なく過ごせていれば、交流がなくても地域住民との人間関係に「どちらかといえば満足」している人は少なくないと思われる。逆に「満足」を選択している人は、地域住民との親密性が高い人であるとも予想できる。

(3) クロス集計

独立変数：問41居住地域

従属変数：問11a)地域住民との人間関係満足度

図表8-6 問41居住地と問11a)地域住民との人間関係満足度クロス表

| | | | 地域住民人間関係満足度 | | | | 合計 |
|-----|------|-------|-------------|----------------|----------------|------|--------|
| | | | 満足 | どちらかとい えば満足 | どちらかとい えば不満 | 不満 | |
| 居住地 | 松戸市 | 度数 | 186 | 865 | 184 | 50 | 1285 |
| | | 居住地の% | 14.5% | 67.3% | 14.3% | 3.9% | 100.0% |
| | 香取市 | 度数 | 117 | 448 | 98 | 38 | 701 |
| | | 居住地の% | 16.7% | 63.9% | 14.0% | 5.4% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 94 | 356 | 76 | 20 | 546 |
| | | 居住地の% | 17.2% | 65.2% | 13.9% | 3.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 397 | 1669 | 358 | 108 | 2532 |
| | | 居住地の% | 15.7% | 65.9% | 14.1% | 4.3% | 100.0% |

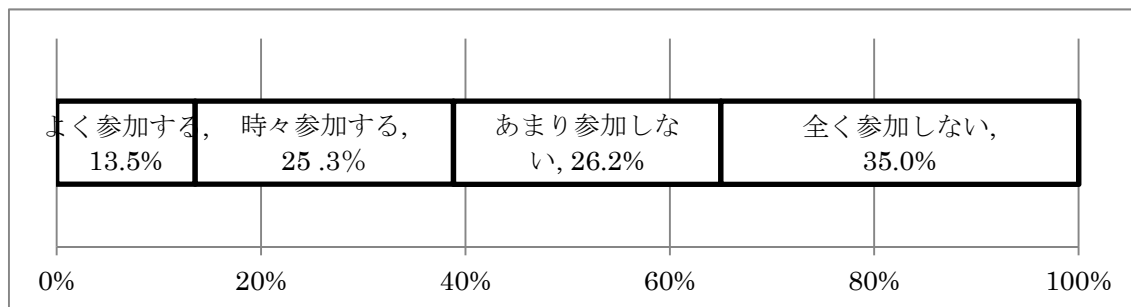
P>.10

親密性が地域住民との人間関係満足度に関連しているかを検証するにあたって、まず3市町と地域住民との人間関係満足度に関連はあるのかを検証した。その結果、 χ 二乗の検定水準.373と10%水準でも統計的に有意ではないことが分かった。したがって「3市町の中で地域住民との人間関係満足度は関連がない」と指摘できる。クロス表を見てみても、3市町それぞれで地域住民との人間関係満足度に差はほとんどないことが読み取れる。

(4) 単純集計 【独立変数】

仮説の検討に入る前に、分析に使用する、独立変数の単純集計をおこなった。

図表8-7 問9a)町内会・自治会・区の会合への参加度



町内会・自治会・区の会合への参加度を単純集計したところ、「よく参加する」が13.5%で最も少なく、順に「時々参加する」25.3%、「あまり参加しない」26.2%、「全く参加しない」が35.0%で最も多いという結果になった。参加度を2区分で見てもみると、「参加する」38.8%、「参加しない」61.2%と約2/3の人は町内会・自治会・区の会合といった地域の行事に参加しない傾向にあることが読み取れる。また、「全く参加しない」が35.0%と1番多い割合を示している背景には、町内会や自治会に属していない人もいることがうかがえる。町内会や自治会に所属しているかの設問はないため参考程度に、問43居住形態とクロス集計を試みた。

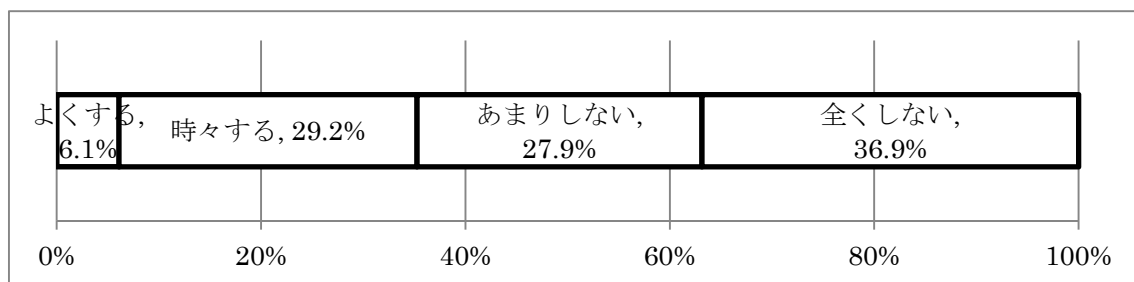
図表8-8 問43居住形態と問9a)町内会・自治会・区の会合参加度クロス表

| 居住形態 | | 町内会・自治会・区の会合参加度 | | | | 合計 |
|--------------------|--------|-----------------|--------|----------|---------|--------|
| | | よく参加する | 時々参加する | あまり参加しない | 全く参加しない | |
| 持家・戸建 | 度数 | 302 | 526 | 491 | 487 | 1806 |
| | 居住形態の% | 16.7% | 29.1% | 27.2% | 27.0% | 100.0% |
| 持家・分譲マンション | 度数 | 25 | 71 | 94 | 127 | 317 |
| | 居住形態の% | 7.9% | 22.4% | 29.7% | 40.1% | 100.0% |
| 民間の借家、賃貸マンション・アパート | 度数 | 6 | 21 | 51 | 216 | 294 |
| | 居住形態の% | 2.0% | 7.1% | 17.3% | 73.5% | 100.0% |
| 賃貸の公団・公営住宅 | 度数 | 8 | 17 | 19 | 35 | 79 |
| | 居住形態の% | 10.1% | 21.5% | 24.1% | 44.3% | 100.0% |
| 社宅・寮・官舎・公舎・その他 | 度数 | 2 | 5 | 11 | 24 | 42 |
| | 居住形態の% | 4.8% | 11.9% | 26.2% | 57.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 343 | 640 | 666 | 889 | 2538 |
| | 居住形態の% | 13.5% | 25.2% | 26.2% | 35.0% | 100.0% |

P<.01

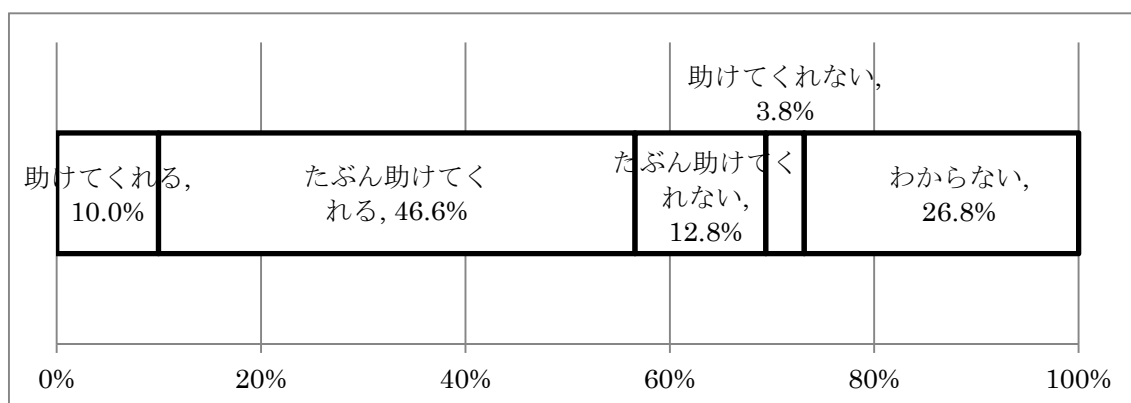
「全く参加しない」に着目すると、「民間の借家、賃貸マンション・アパート」が73.5%、「社宅・寮・官舎・公舎・その他」57.1%と比較的高い割合を占めているが、以上の居住形態は町内会・自治会が存在していない、加入できないなどの可能性が理由として挙げられる。また統計的にも居住形態と町内会・自治会・区の会合参加度は関連があるといえる。

図表8-9 問10c)近隣住民との相談頻度



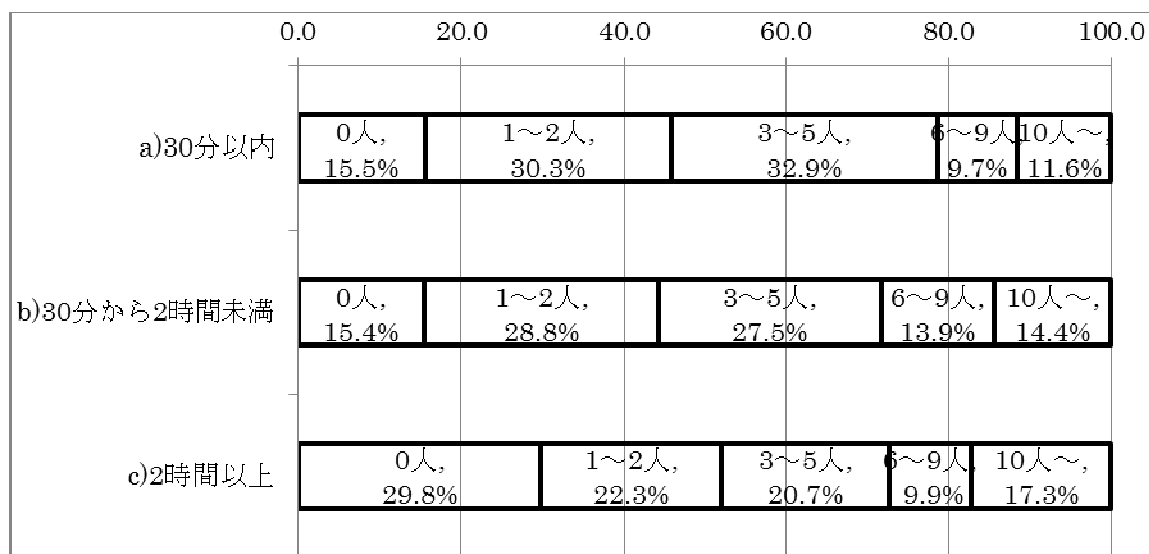
近隣住民との相談頻度を問う設問の単純集計では、「よくする」が6.1%と1割にも満たない割合で極端に少ない。「時々する」は29.2%で「よくする」と合わせてみても35.3%と、近隣住民に相談する人の割合は「全くしない」の36.9%とほとんど同じ、むしろ低いといえる。また、問9a)町内会・自治会・区の会合参加度の単純集計と似たような集計結果となった。近隣住民との相談頻度は、問題関心で設定した、親密性の定義「情報の共有」と「相互行為の蓄積」が他の独立変数に比べて、よりイメージしやすい形で達成される変数でもある。

図表8-10 問15近隣住民への信頼度



問15のひったくりなどの犯罪に遭いそうになったときに、近隣住民は積極的に助けてくれるかを問う設問では、「助けてくれる」は10.0%、「たぶん助けてくれる」46.6%で、肯定的回答は過半数を超える結果となった。「たぶん助けてくれない」12.8%、「助けてくれない」3.8%の否定的回答は肯定的回答に比べると、占める割合に大きな差がでたといえ、過半数以上が近隣住民に対して信頼について肯定的な意見を持っていることが読み取れる。また、「わからない」26.8%については「わからない」を回答する理由について、そもそも近隣住民と日常的に交流がないために非常時に近隣住民が助けてくれるか、くれないかの判断もつかないために「わからない」を回答するに至ると予想できる。また同様に、「助けてくれる」、「助けてくれない」の明確な回答と「たぶん助けてくれない」、「たぶん助けてくれない」の曖昧な回答についても、他人の行動を問う設問であるため、あくまで予想としての回答になるが、明確な回答は、はっきりと回答できるだけの近隣住民との交流があることが予想できる。

図表8-11 問17自宅からの所要時間別親密な関係性にある人の人数



仮説の検討では問17a)のみを使用するが、b)c)についても単純集計をした。a)の自宅から30分圏内に親密な関係性にある人の人数について、「0人」は15.5%ということで、有無に関していえば、

約85%の人は身近なところに、頼りにできる人がいるという結果になった。人数に関していうと、「3～5人」が32.9%と最も多く、次いで「1～2人」30.3%、「10人～」11.6%、「6～9人」9.7%の順であった。自宅から30分圏内の定義については、徒歩であれば居住地域圏内のイメージだが、自家用車、バス、電車などの交通手段も含むため、それらの交通手段を使うとすると、近隣地域ぐらゐまで範囲が広がるイメージだ。c)自宅から2時間以上は「0人」が29.8%とa)30分圏内、b)30分から2時間未満の「0人」の割合のおよそ倍の割合を占める。自宅から遠ざかると親密な関係にある人が「0人」の割合は高まるが、一方で「10人～」の割合もc)2時間以上が17.3%と最も高い割合を占めた。

4. 仮説の検討

(1) 小仮説①

- a.町内会・自治会・区の会合への参加度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
- b.町内会・自治会・区の会合への参加度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
- c.町内会・自治会・区の会合への参加度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、参加度が中程度は満足度低い。

独立変数：問9a)町内会・自治会・区の会合への参加度

従属変数：問11a) 地域住民との人間関係満足度

図表8-12

問9a) 町内会・自治会・区の会合への参加度と問11a) 地域住民との人間関係満足度クロス表

| | | | 地域住民人間関係満足度 | | | | 合計 |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|---------------|--------------|--------------|----------------|---------------|
| | | | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 | |
| 町内会・自治会・区の会合参加度 | よく参加する | 度数 町内会・自治会・区の会合参加度の% | 78 22.5% | 225 64.8% | 37 10.7% | 7 2.0% | 347 100.0% |
| | 時々参加する | 度数 町内会・自治会・区の会合参加度の% | 89 13.8% | 465 71.9% | 72 11.1% | 21 3.2% | 647 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 町内会・自治会・区の会合参加度の% | 102 15.2% | 432 64.6% | 112 16.7% | 23 3.4% | 669 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 町内会・自治会・区の会合参加度の% | 130 14.5% | 565 63.0% | 144 16.1% | 58 6.5% | 897 100.0% |
| 合計 | 度数 町内会・自治会・区の会合参加度の% | 399 15.6% | 1687 65.9% | 365 14.3% | 109 4.3% | 2560 100.0% | |

P<.01

小仮説①を検討するために、問9a)町内会・自治会・区の会合参加度と問11c)地域生活全般満足度についてのクロス集計をおこなった。地域住民人間関係満足度を縦に見ていき、最も高い割合のマスを見てみると、町内会・自治会・区の会合に「よく参加する」で「満足」が22.5%、「時々参加する」で「どちらかといえば満足」が71.9%、「あまり参加しない」で「どちらかといえば

不満」16.7%、「全く参加しない」で「不満」が6.5%であった。したがって、小仮説①「a.町内会・自治会・区の会合への参加度が高いほど、地域住民人間関係満足度は高い」ということが指摘できる。また、 χ^2 乗の検定水準も.000と5%水準で統計的に有意といえる。しかし、地域住民人間関係満足度が「満足」で「時々参加する」13.8%、「あまり参加しない」15.2%、「全く参加しない」14.5%とあまり差が見られないところに注目すると、町内会・自治会・区の会合参加度は、「よく参加する」以外の参加の程度は地域住民人間関係を「満足」させる要因として、そこまで大きな影響を与えるものではないことが予想できる。

(2) 小仮説②

- a.近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
- b.近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
- c.近隣住民といろいろなことを相談し合う頻度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、頻度が中程度は満足度が低い。

独立変数：問 10c)近隣住民との相談頻度

従属変数：問 11a)地域住民との人間関係満足度

図表 8-13 問 10c)近隣住民との相談頻度と問 11a)地域住民との人間関係満足度クロス表

| | 地域住民人間関係満足度 | | | | 合計 | |
|-------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------|--------------|----------------|---------------|
| | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 | | |
| 色々なことを相談し合う | よくする | 度数 73 色々なことを相談し合うの % 46.5% | 75 47.8% | 7 4.5% | 2 1.3% | 157 100.0% |
| | 時々する | 度数 146 色々なことを相談し合うの % 19.5% | 524 70.0% | 69 9.2% | 10 1.3% | 749 100.0% |
| | あまりしない | 度数 65 色々なことを相談し合うの % 9.1% | 523 73.4% | 106 14.9% | 19 2.7% | 713 100.0% |
| | 全くしない | 度数 113 色々なことを相談し合うの % 12.0% | 567 60.4% | 181 19.3% | 78 8.3% | 939 100.0% |
| 合計 | 度数 397 色々なことを相談し合うの % 15.5% | 1689 66.0% | 363 14.2% | 109 4.3% | 2558 100.0% | |

P<.01

小仮説②を検討するために、問 10c)近隣住民との相談頻度と問 11a)地域住民との人間関係についてのクロス集計をおこなった。地域住民との人間関係に「満足」している人で近隣住民に相談を「よくする」は 46.5%、「全くしない」は 12.0%と約 34%と大きな差が見られ、相談頻度が高いことは満足度を高める要因に大きく影響している可能性が読み取れる。そして、「不満」で「よくする」1.3%、「全くしない」8.3%と、 χ^2 乗の検定水準も.000 と 5%水準で統計的に有意であることから、小仮説②「a.近隣住民といろいろなことを相談する頻度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い」が指摘できる。

(3) 小仮説③

- a.近隣住民への信頼度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い
- b.近隣住民への信頼度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は低い
- c.近隣住民への信頼度が高い又は低いほど、地域住民との人間関係満足度は高く、信頼度が中程度は満足度が低い。

独立変数：問15近隣住民への信頼度

従属変数：問11a)地域住民との人間関係満足度

図表8-14 問15近隣住民への信頼度と問11a)地域住民との人間関係満足度クロス表

| | | | 地域住民人間関係満足度 | | | | 合計 |
|------------|------------------------|------------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | | 満足 | どちらかとい えば満足 | どちらかとい えば不満 | 不満 | |
| 近隣住民信頼度3区分 | 助けてくれる | 度数 近隣住民信頼度3区分の % | 287 19.8% | 1002 69.1% | 135 9.3% | 26 1.8% | 1450 100.0% |
| | 助けてくれない | 度数 近隣住民信頼度3区分の % | 47 11.1% | 227 53.4% | 104 24.5% | 47 11.1% | 425 100.0% |
| | わからない | 度数 近隣住民信頼度3区分の % | 67 9.8% | 457 66.8% | 124 18.1% | 36 5.3% | 684 100.0% |
| 合計 | 度数 近隣住民信頼度3区分の % | 401 15.7% | 1686 65.9% | 363 14.2% | 109 4.3% | 2559 100.0% | |

P<.01

小仮説③を検討するために、問 15 近隣住民信頼度と問 11a)地域住民との人間関係満足度についてのクロス集計をおこなった。問 15 については選択肢「助けてくれる」と「助けてくれない」の回答割合が低かったため、「たぶん助けてくれる」と「たぶん助けてくれない」にそれぞれ合わせて「助けてくれる」「助けてくれない」「わからない」の 3 区分で集計をおこなった。 χ^2 二乗の検定水準も.000 と 5%水準で統計的に有意といえる。信頼度の指標は「助けてくれる」>「助けてくれない」 \approx 「わからない」と仮定したとして、地域住民との人間関係満足度 4 区分、「満足」で「助けてくれる」は 19.8%、「助けてくれない」は 11.1%、「わからない」は 9.8%、また「不満」で「助けてくれる」1.8%、「助けてくれない」11.1%「わからない」5.3%という集計結果より、小仮説③a「近隣住民への信頼度が高いほど、地域住民との人間関係満足度は高い」が指摘できる。そして、「助けてくれない」と「わからない」の信頼度について、地域住民との人間関係満足度 4 区分では「満足」における「助けてくれない」と「わからない」の差はほとんどないにもかかわらず、「どちらかといえば満足」で「助けてくれない」53.4%、「わからない」66.8%と約 13%の差が表れていることから、地域住民との人間関係満足度について「満足」と決定させる要因として、「助けてくれない」と「わからない」の間には差はなく、「どちらかといえば満足」からその差が表れてくることが読み取れる。信頼度について、設問からははっきりと定義することができず、「助けてくれない」 \approx 「わからない」と仮定したが、もし、「助けてくれない」>「わからない」ということがいえたとしたら、小仮説③c「近隣住民への信頼度が低いほど、

地域住民との人間関係満足度は高い」の傾向が若干読み取れる結果となったといえそうだ。

(4) 小仮説④

a.近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多いほど、地域住民との人間関係満足度は高い

b. 近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多いほど、地域住民との人間関係満足度は低い

c.近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多い又は少ないほど、地域住民との人間関係満足度は高く、人数が中程度は満足度が低い。

独立変数：問17a)自宅から30分圏内に住む人で親密な関係性にある人の人数

従属変数：問11a)地域住民との人間関係満足度

図表8-15

問17a) 自宅から30分圏内に住む人で親密な関係性にある人の人数と問11a) 地域住民との人間関係満足度クロス表

| | 地域住民人間関係満足度 | | | | 合計 | |
|--------------|-------------|------------|------------|-------|------|--------|
| | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 | | |
| 自宅から30分以内 0人 | 度数 | 48 | 221 | 82 | 35 | 386 |
| | 自宅から30分以内の% | 12.4% | 57.3% | 21.2% | 9.1% | 100.0% |
| 1~2人 | 度数 | 85 | 530 | 110 | 30 | 755 |
| | 自宅から30分以内の% | 11.3% | 70.2% | 14.6% | 4.0% | 100.0% |
| 3~5人 | 度数 | 138 | 547 | 107 | 23 | 815 |
| | 自宅から30分以内の% | 16.9% | 67.1% | 13.1% | 2.8% | 100.0% |
| 6~9人 | 度数 | 49 | 163 | 25 | 6 | 243 |
| | 自宅から30分以内の% | 20.2% | 67.1% | 10.3% | 2.5% | 100.0% |
| 10人~ | 度数 | 69 | 179 | 31 | 9 | 288 |
| | 自宅から30分以内の% | 24.0% | 62.2% | 10.8% | 3.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 389 | 1640 | 355 | 103 | 2487 |
| | 自宅から30分以内の% | 15.6% | 65.9% | 14.3% | 4.1% | 100.0% |

P<.01

小仮説④を検討するために問 17a) 自宅から 30 分圏内に住む人で親密な関係性にある人の人数と問 11a)地域住民との人間関係満足度についてのクロス集計をおこなった。地域住民との人間関係満足度「満足」を見てみると、「0人」「1~2人」と「6~9人」「10人~」の間で約倍の差が開いた。そして「どちらかといえば満足」では「0人」57.7%、「1~2人」70.2%とここで約13%の差が開いた。同様に「どちらかといえば不満」では「0人」21.2%「1~2人」14.6%、「不満」では「0人」9.1%「1~2人」4.0%という結果で、身近に頼りにし、親しくしている人がいるかないかのところで、否定的な意見はここで大きく差が開いた。クロス表から、頼りにし、親しくしている人の人数が増えるほどに満足度は高まると解釈できるが、特に、身近に頼りにし、親しくしている人が全くいない人は、少なくともいる人と比べて不満度が一気に高まる傾向があるといえる。 χ^2 二乗の検定水準も.000と5%水準で有意といえる。したがって、小仮説④a「近所に（自宅から 30 分以内）親密な関係性にある人の人数が多いほど、地域住民との人間関係満足度は

高い」が指摘できる。

5. 考察

以上 4 つの仮説の検討結果は全て統計的に有意であったことから、地域住民との親密度を、地域会合参加度、相談頻度、信頼度、親密関係にある人の人数という 4 つの指標で表した場合、大仮説「地域住民との親密度は、地域住民との人間関係の満足度に関連がある」は成り立つ結果となった。また、親密度が低くとも人間関係満足度に満足している人は少なくないのではないかとという問題関心から、3 つの傾向を表す仮説を立て、それぞれの集計結果に対してどの仮説が当てはまるかを分析したが、私が予想していた仮説、「C. 居住地域住民との親密度が低いと、居住地域住民との人間関係満足度は高い」、という傾向をクロス表のグラフから読み取ることはできなかった。結果としては、4 つの仮説とも「A. 居住地域住民との親密度が高いと、居住地域住民との人間関係満足度が高い」が顕著に表れる結果となった。

問 9a)町内会・自治会・区の会合への参加度、問 10c)近隣住民との相談頻度、問 15 近隣住民信頼度の単純集計について、問 9a)と問 10c)については問題関心で述べたミルグラムの先行研究、「過去よりも現在の社会で、田舎よりも都市では情報が多すぎるので、そこに住む人は適応しようとして無関心にならざるをえない。それゆえ、自分と関係の薄い人に無関心で冷淡になる」[小牧,1999,p.136] で言及されている通り、否定的回答が過半数以上を占め、地域住民との関わりをもたない人の方が多い傾向が分かった。しかし問 15 近隣住民信頼度では逆に肯定的意見が過半数以上を占め、問 9a)、問 10c)の結果より、交流が少ないにも関わらず、近隣住民への信頼度は比較的高い傾向である。その原因として、参加度や相談頻度が事実を問う設問だったことに対して、信頼度は回答者の主観を問う、前者とは性質の異なる設問であったことから、ミルグラムが言うように、相手に対しては消極的な態度をとる傾向にあったとしても、相手からは積極的な態度を受けたいという願望が込められた結果ではないかと考えられる。そして、問 17a 自宅から 30 分圏内にいる親密な関係にある人の人数が 0 人の人が約 15%いることも、他の地域から引っ越してきて住んでいる新住民を想定すると、ミルグラムの先行研究は納得できる。地域住民関係における親密度が高いと人間関係満足度は高まり、逆に親密度が低いと満足度は低いという結果が指摘できたということは、地域住民同士の親睦を深める取組みを行うなどの施策をおこなえば、さらなる地域住民との人間関係満足度の向上が見込まれるのではないだろうか。

しかしながら、今回の松戸市・香取市・酒々井町を調査対象とした場合に指摘できた仮説であるため、他の地域性の異なるエリアで調査してみた場合、また異なる傾向が出る可能性がある。さらにはその他のエリアと比較したり、困難ではあるが、過去と現在で調査結果を比較することができたら、ミルグラムの先行研究が証明できるだろう。

【参考文献】

杉野欽吾、亀島信也、安藤明人、小牧一裕、川端啓之（1999）『人間関係を学ぶ心理学』福村出版

筒井淳也（2008）『親密性の社会学』世界思想社

第9章 地域住民の人間関係と一般的他者信頼

1. 問題意識

地域住民ひとりひとりにとって豊かな地域社会を実現するために取り組むべき課題はなんだろうか。それは地域住民の一般的他者信頼を高め、多くの住民に合意された福祉意識にもとづいた政策を実施していくことだと思われる。

しかし現代の日本社会において一般的他者信頼を高めるために重要な地域の人間関係は希薄化しているといわれる。核家族が進み近代社会において地域の問題解決主体であった地域共同体は機能しなくなった。隣の家にどのような人が住んでいるのか知らないことは当たり前であるし、ギデンスが「儀礼的無関心」と呼ぶように互いを干渉しないことが礼儀とされる価値観が根付いている。その結果として都市、地方どちらにおいても地域コミュニティの基盤が崩壊し、地域にとってもそこに住む住民にとって豊かな地域社会実現から遠ざかっているといえる。これらの要因としては二つ挙げられる。一つは人口構造の変化、もう一つはインターネットの普及である。

第一に人口構造の変化要因として、産業構造の変化により若年層の多くが都市へ流出していったことがある。その結果として高齢者が地域に取り残される形となるが、そこに少子化と高齢化が加わって、本来世帯間の交流を通して成り立っていた地域コミュニティが機能せず、多くの問題の解決を困難にしたと同時に新たな地域問題を産むようになったと考えられる。

第二にマスメディア、インターネットの普及がある。インターネットや携帯電話の普及は時と場所を限定しないコミュニケーションを可能にした。その結果、多様な価値観が生まれ、同じ趣味、話題に限定された狭い人間関係しか持たない人も少なくなくなり、近隣の異なった世代のみならず同世代においてもコミュニケーションの機会が少なくなった。核家族化による居住スペースの個別化は、自分の部屋に閉じこもり限定された関係性の構築を後押ししているように思える。このようなインターネットの普及を通じたライフスタイルの多様化は、家族そして地域の人間関係を希薄なものにしている。

これら二つの要因により希薄化された人間関係は、地域住民が他者信頼を高めマイノリティを含めたすべての住民を包括した豊かな地域社会実現を困難としている。

この調査では松戸市、香取市、酒々井町における地域の人間関係と一般的他者信頼との関係を分析することで、他者信頼を高めるために有効な手段は何か考察していきたい。

2. 仮説

本章では以下の仮説に基づき、地域住民の一般的他者信頼について分析を行う。

① 「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」

〔理由〕 地域の人と関わろうとする意識が高く、地域の行事や催しにも積極的に参加しようとする人は、もともと一般的他者信頼も高く、地域の交流を通してその信頼度はさらに強くなると考えられるためこの仮説を設定した。

- ② 「もともと地域住民とつきあいがある人は震災後に地域住民とつながりをもとうとする意識が高まったと答える。」

〔理由〕震災後に地域住民とつながりをもとうとする傾向のある人は、以前から地域の行事へ参加したり、住民と関わりがあったりと、地域に対するつながり意識が強いと思われるためこの仮説を設定した。

- ③ 震災後の地域住民とつながりを持つとうとする意識が高まったという人は、地域住民との関係に満足している。

〔理由〕現在の地域住民との関係に満足しているからこそ、震災後もさらにつながりを持つとうという意識が高まると考えた。反対に地域の間人関係に不満があれば、震災をきっかけに突然つながろうとする意識が高まるとは思えない。

- ④ 一般的他者信頼が低い人ほど、地域のつながりを意識せず閉鎖的である。

〔理由〕一般的他者信頼が低い人は積極的に地域と関わろうとはせず、かかわりを持たない他者に対して偏見をいだきやすく閉鎖的だと考えられる。

3. 結果

図表 9-1

町内会、自治会、区の会合と一般的他者信頼のクロス表

| | 一般的他者信頼 | | 合計 | |
|------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|
| | 信用できる | 信用できない | | |
| 町内会、自治会、 区の会合 | 参加する | 640 64.0% | 330 33.0% | 1000 100.0% |
| | 参加しない | 854 54.2% | 683 43.3% | 1576 100.0% |
| 合計 | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% | |

P>.01

仮説①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため、問 20「一般的他者信頼」と問 9「自治体や町内会、区の会合への参加の程度」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、参加すると回答した人で、一般的他者信頼が高い人は 64%で参加しない人と比べ 10%ほど高かった。有意確率は $P=.000$ と統計的に見ても有意だといえる。この結果から、自治体や町内会、区の会合に参加する人のほうが一般的他者信頼が高いといえる。

図表 9-2

地元のお祭り と 一般的他者信頼 のクロス表

| | | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|--------|-------|---------------|---------------|----------------|
| | | 信用できる | 信用できない | |
| 地元のお祭り | 参加する | 703 63.2% | 387 34.8% | 1113 100.0% |
| | 参加しない | 781 54.4% | 615 42.8% | 1436 100.0% |
| 合計 | | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% |

P=.000

次に仮説①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため問 20a「一般的他者信頼」と問 9b「地元のお祭りへの参加の程度」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、参加すると答えた人で一般的他者信頼が高い人は 63.2%と、参加しないと回答した人に比べて 10%ほど高かった。有意確率も P=.000 と統計的に見ても有意だといえる。これらから地元のお祭りに参加する程度が高い人ほど一般的他者信頼度が高いといえる。

図表 9-3

趣味サークル と 一般的他者信頼 のクロス表

| | | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|--------|-------|---------------|---------------|----------------|
| | | 信用できる | 信用できない | |
| 趣味サークル | 参加する | 417 69.3% | 172 28.6% | 602 100.0% |
| | 参加しない | 1072 54.7% | 833 42.5% | 1958 100.0% |
| 合計 | | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% |

P=.000

仮説①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため、問 20「一般的他者信頼」と問 9c「趣味サークルの参加の程度」との関係をクロス表を用いて検証した。その結果趣味サークルでは、参加すると答えた人で他者信頼度が高い人の割合が 69.3%で他者信頼が低い人の割合 15%ほど高かった。有意確率は P=.000 と統計的に見ても有意だといえる。これらから地域の趣味サークルに参加する程度の高い人ほど一般的他者信頼度が高いといえる。

図表 9-4

ボランティア活動と一般的他者信頼のクロス表

| | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|---------------|---------------|---------------|----------------|
| | 信用できる | 信用できない | |
| ボランティア活動 参加する | 375 65.9% | 184 32.3% | 569 100.0% |
| 参加しない | 1115 55.9% | 824 41.3% | 1995 100.0% |
| 合計 | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% |

P=.000

仮説 ①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため、問 20a「一般的他者信頼」と問 9b「ボランティア活動への参加程度」の設問についてクロス表を用いて検証した。その結果以下のような関係が見られた。参加すると答えた人で他者信頼度が高い人の割合が全体の 65.9%で一般的他者信頼が低い人と比べて 10%ほど高かった。有意確率は P=.000 であり統計的に見ても有意だといえる。これらの結果から地域のボランティアに参加する程度が高い人ほど一般的他者信頼度も高くなると考えられる。

図表 9-5

お茶や食事と一般的他者信頼のクロス表

| | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|----------|---------------|---------------|----------------|
| | 信用できる | 信用できない | |
| お茶や食事 する | 550 66.1% | 282 33.9% | 832 100.0% |
| しない | 941 56.3% | 730 43.7% | 1671 100.0% |
| 合計 | 1506 59.6% | 1019 40.4% | 2525 100.0% |

P=.000

仮説①の「地域の人と交流することが多い人ほど一般的他者信頼が高い」を検証するため、問 20a「一般的他者信頼」と問 10a「近所の人とお茶や食事をするか」との関係についてクロス表を用いて検討した。その結果、お茶や食事をする人と答えた人で一般的他者信頼が高い人は 66%で、一般的他者信頼が低い人と比べて 12%ほど高い割合となった。有意確率は P=.000 であり統計的に有意だといえる。このことから近所の人とお茶や食事をする人ほど一般的他者信頼が高いと考えられる。

図表 9-6

一緒に趣味活動と 一般的他者信頼 のクロス表

| | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|-------------|---------------|---------------|----------------|
| | 信用で できる | 信用で できない | |
| 一緒に趣味 活動 | 439 68.7% | 188 29.4% | 639 100.0% |
| しない | 1052 54.5% | 822 42.6% | 1930 100.0% |
| 合計 | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% |

P=.000

仮説①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため、問 20a「一般的他者信頼」と問 10b「趣味活動を一緒にする」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、趣味活動を一緒にすると答えた人で一般的他者信頼度が高い人の割合は全体の 68.7%で一般的他者信頼が低い人の割合と比べて 12%ほど高かった。有意確率は P=.000 であり統計的に有意だといえる。これらの結果から近所の人と趣味活動を一緒にする程度が高い人ほど一般的他者信頼度もたかいと考えられる。

図表 9-7

様々なことを相談しあうと 一般的他者信頼 のクロス表

| | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|---------------------|---------------|---------------|----------------|
| | 信用で できる | 信用で できない | |
| 様々なこと を相談しあ う | 601 66.3% | 291 32.1% | 907 100.0% |
| しない | 893 53.6% | 720 43.2% | 1665 100.0% |
| 合計 | 1506 57.8% | 1019 39.1% | 2606 100.0% |

P=.000

仮説①「地域の人と交流することが多い人ほど、一般的他者信頼度が高い。」を検証するため、問 20a「一般的他者信頼」と問 11c「いろいろなことを相談しあう」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、近所に住む人といろいろなことを話し合うという人で一般的他者信頼が高い人は全体の 66.3%で、一般的他者信頼が低い人と比べて、13%ほど高かった。有意確率は P=.000 と統計的に見ても有意だといえる。このことから、近所の人といろいろな相談する機会を持っている人ほど一般的他者信頼度が高いことがわかる。

図表 9-8

住んでいる地域と震災後地域住民とのつながり意識のクロス表

| | | 震災後つながり意識 | | 合計 |
|---------|------|---------------|---------------|----------------|
| | | 高まった | 高まっていない | |
| 住んでいる地域 | 松戸市 | 621 47.8% | 669 51.5% | 1299 100.0% |
| | 香取市 | 353 49.8% | 339 47.8% | 709 100.0% |
| | 酒々井町 | 256 46.5% | 287 52.1% | 551 100.0% |
| 合計 | | 1246 47.8% | 1314 50.4% | 2606 100.0% |

P=.000

松戸市、香取市、酒々井町において震災後地域住民とつながりを持つ意識に違いが出てくるかどうか問 41 と問 16 との関係についてクロス表を用いて検討してみた。その結果以下のような結果になった。震災後意識が高まったと回答したのは、松戸市 47.8%、香取市 49.8%、酒々井町 46.5%で三地域間にほとんど差が見られなかったが香取市、松戸市、酒々井町の順で高まったという回答が多いことがわかる。有意確率は P=.000 と統計的に見ても有意だといえる。香取市は液状化など目に見える形での被害が大きかったことで地域を意識させたため、一番高い割合になったと思われる。松戸市では放射能の問題があり、少なからぬ住民に不安があったため二番目に高い割合となったと思われる。酒々井町は震災による被害をほとんど受けていないため三つの地域の中で最も低い割合となったと考えられる。

図表 9-9

地域人間関係満足度と一般的他者信頼のクロス表

| | | 一般的他者信頼 | | 合計 |
|-----------|----|---------------|---------------|----------------|
| | | 信用できる | 信用できない | |
| 地域人間関係満足度 | 満足 | 1302 63.5% | 749 36.5% | 2051 100.0% |
| | 不満 | 189 41.8% | 263 58.2% | 452 100.0% |
| 合計 | | 1506 59.6% | 1019 40.4% | 2525 100.0% |

P=.000

地域の間人間関係満足度が高い人ほど、一般的他者への信頼度が高いという仮説を検証するため、問 11a と問 20 との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、地域住民との人間関係に満足している人で、他者への信頼ができるという人が 63.5%、一方信頼できないという人は 36.5%と大きな差が見られた。地域の間人間関係に不満があるという人でも 41.8%が他者を信頼で

きると回答したが、信頼できないという人が 58.2%で上回った。有意確率は $P=.000$ と統計的に見ても有意だといえる。このことから、日常生活で接することの多い地域の人間関係に満足している方が一般的他者への信頼度も高まると考えられる。

図表 9-10

地域住民との人間関係と震災後つながり意識のクロス表

| | | 震災後つながり意識 | | 合計 |
|--------|----|---------------|---------------|----------------|
| | | 高まった | 高まっていない | |
| 地域人間関係 | 満足 | 1102 52.6% | 972 46.4% | 2095 100.0% |
| | 不満 | 137 28.9% | 332 70.0% | 474 100.0% |
| 合計 | | 1246 47.8% | 1314 50.4% | 2606 100.0% |

$P=.000$

地域の人間関係満足度が高い人ほど、震災後に地域住民とのつながりを意識するという仮説を検証するため、問 11a「地域住民との人間関係」と問 16「東日本大震災以降、あなたの地域住民とつながりを持つという意識は高まりましたか」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、地域住民との人間関係に満足している人で、意識が高まったと回答した人は 52.6%、高まっていないと回答した人は 46.4%と高まったという回答がそうでないものより 6.2%高かった。不満がある人と比べて高まったという回答が 22%も高かった。地域住民との人間関係に不満がある人で、意識が高まったと回答した人は 28.6%、高まっていないと回答した人は 70%であり、否定的な回答が全体の七割を占めた。満足している人と比べて意識が高まっていないと回答している人は 24%も多い。有意確率は $P=.000$ と統計的に見ても有意だといえる。このことから、地域住民との人間関係に満足している人は、もともと地域住民に対する意識が高く、問 16における回答も肯定的な回答が大きくなったのではないかと考えられる。それに対して地域住民との人間関係に不満を持っている人は、もともとつながりを持つとする意識が低いため、否定的な回答が大きくなったと考えられる。

図表 9-11

一般的他者信頼と地域外国人は地域活動へ参加すべきだのクロス表

| | | | 地域外国人は地域活動へ参加すべきだ | | 合計 |
|---------|--------|--------|-------------------|--------|--------|
| | | | そう思う | そう思わない | |
| 一般的他者信頼 | 信用できる | 度数 | 1126 | 345 | 1506 |
| | | q20aの% | 74.8% | 22.9% | 100.0% |
| | 信用できない | 度数 | 673 | 323 | 1019 |
| | | q20aの% | 66.0% | 31.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1799 | 668 | 2525 |
| | | q20aの% | 71.2% | 26.5% | 100.0% |

P=.000

一般的他者信頼が高い人が、地域住民の関係に満足していると仮定し、そのような意識が高い人たちが人権問題に関して排他的であるか非かを検証するため、問 24b「外国人は地域活動に参加すべきだ」と問 20a「一般的他者信頼」の関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、一般的他者信頼が高い人で参加すべきであると回答した人は 74.8%で一般的他者信頼が低い人に比べて 10%ほど高かった。また一般的他者信頼が高い人で参加すべきだとは思わないと回答した人は 22.9%で一般的他者信頼が低い人と比べて 10%ほど低かった。有意確率は P=.000 と統計的に見ても有意だといえる。このことから一般的他者信頼度が高く住民とのつながり意識が高い人ほど、外国人に地域活動へ積極的に関わってほしいと思っているといえる。地域のつながり意識が高い人は外国人に対して排他的ではないといえる。

図表 9-12

一般的他者信頼と地域の外国人は政治的権利を持つべきだのクロス表

| | | | 地域の外国人は政治的権利を持つべきだ | | 合計 |
|---------|--------|--------|--------------------|--------|--------|
| | | | そう思う | そう思わない | |
| 一般的他者信頼 | 信用できる | 度数 | 1228 | 242 | 1506 |
| | | q20aの% | 81.5% | 16.1% | 100.0% |
| | 信用できない | 度数 | 775 | 221 | 1019 |
| | | q20aの% | 76.1% | 21.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 2003 | 463 | 2525 |
| | | q20aの% | 79.3% | 18.3% | 100.0% |

P=.000

次に一般的他者信頼が高い人が政治的側面において外国人に排他的かどうかを確かめるため、問 20a「一般的他者信頼」と問 24d「地域外国人は政治的権利を持つべきだ」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、一般的他者信頼が高い人で政治的権利を持つべきだと回答した人は 81.5%で一般的他者信頼が低い人と比べて 5%ほど高かった。また一般的他者信頼が高い人で権利を持つべきだとは思わないと回答した人は 16.1%であり、一般的他者信頼が低い人と

比べて 5%低かった。有意確立は $P=.000$ で有意だといえるが、外国人の地域活動への参加ほど大きな差が見られない。政治的な権利となると、直接関わる地域活動とは意味合いが異なってくるためつながり意識との関連があまり見られなかったのだろうか。

図表 9-13

一般的他者信頼と地域の外国人は医療福祉を受ける権利を持つべきだのクロス表

| | | | 地域の外国人は医療福祉を受ける権利を持つべきだ | | 合計 |
|---------|--------|--------|-------------------------|--------|------|
| | | | そう思う | そう思わない | |
| 一般的他者信頼 | 信用できる | 度数 | 1228 | 242 | 1506 |
| | | q20aの% | 81.5% | 16.1% | 100% |
| | 信用できない | 度数 | 775 | 221 | 1019 |
| | | q20aの% | 76.1% | 21.7% | 100% |
| 合計 | | 度数 | 2003 | 463 | 2525 |
| | | q20aの% | 79.3% | 18.3% | 100% |

$P=.000$

一般的他者信頼が高い人が医療福祉的側面において外国人に排他的かどうかを検証するため、問 20a「一般的他者信頼」と問 24c「地域外国人は自分たちと同様の福祉医療を受ける権利をもつべき」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、一般的他者信頼が高い人で医療福祉を受ける権利を持つべきであると回答した人は 81.5%で一般的他者信頼が低い人と比べて 5%ほど高かった。また一般的他者信頼が高い人で権利を持つべきだとは思わないと回答した人は 16.1%であり、一般的他者信頼が低い人と比べて 5%低かった。有意確率は $P=.000$ で有意だといえるが、外国人の地域活動への参加ほど大きな差が見られない。政治的な権利となると、直接関わる地域活動とは意味合いが異なってくるためつながり意識との関連があまり見られなかったのだろうか。

図表 9-14

q20a と q30 のクロス表

| | | 引越す地域が同和地区であった場合 | | | | 合計 |
|---------|--------|------------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | | 問題ない | 迷うがそのまま引越す | 迷った末考え直す | 考え直す | |
| 一般的他者信頼 | 信用できる | 387 25.7% | 312 20.7% | 394 26.2% | 195 12.9% | 1506 100.0% |
| | 信用できない | 254 24.9% | 157 15.4% | 260 25.5% | 155 15.2% | 1019 100.0% |
| 合計 | | 654 25.1% | 483 18.5% | 663 25.4% | 366 14.0% | 2606 100.0% |

$P=.000$

一般的他者信頼が高い人が同和地区へ引っ越すことに抵抗があるかどうかを問 20a「一般的他者信頼」と問 30「引っ越す地域が同和地区であった場合」との関係についてクロス表を用いて検証した。その結果、一般的他者信頼が高い人で同和地区であっても引っ越すと答えたのは、全体の 46.4%で、一般的他者信頼が低い人と 40.3%比べて 6%ほど高かった。一方一般的他者信頼が高い人で考え直すと回答した人は全体の 39.1%で一般的他者信頼が低い人 40.7%と比べてわずかながら 1.6%低かった。有意確率は $P=0.000$ であり有意だといえる。

4. 結論

これらの仮説検証の結果から、地域の人との交流がある人ほど一般的他者信頼度が高く、マイノリティに対して同等の権利を与えるべきだと考える傾向がみられた。同和地区への居住については、その違いはわずかではあったが、一般的他者信頼が高いほど、引越す地域が同和地区であると分かったとき、迷いながらもそのまま引っ越す人が多く、考え直す人が少ない傾向が見られた。地域社会における人々との交流や中間集団への参加は、一般的他者信頼を形成し、マイノリティを社会の中で受容する、受け入れる意識を高めていることが、分析結果の全体を通して導き出すことができた。様々なマイノリティとの共生の意識を高め、共生のまちづくりを進めていくためには、人々の地域社会における交流や相互の信頼関係を作り出していくことが、いかに重要であるかが、本章の結果からも理解できるだろう。本章の結果にもとづけば、今後の行政の施策においても、マイノリティを受け入れる人権意識の形成と共生のためのまちづくりの形成が、セットになって進められていく必要があるだろう。

【参考文献】

細内 信孝 2001『地域を元気にするコミュニティビジネス』株式会社ぎょうせい。
アンソニー・ギデンス 1993『近代とはいかなる時代か』而立書房。

第 10 章 社会的弱者(女性・障がい者)に対する扶助意識

1. はじめに

人権は、本来誰もが持っているべき権利である。つまり、少なくとも日本においては、人間は社会において自由な意思に基づいて生き生きと生きる権利を持っているのである(市民的権利)。そしてその権利を行使するために必要な財やサービスなどの保障を受ける権利もまた持っている(社会的権利)。ところが、様々な事情で、その権利を持つことが出来ていない人々も、残念ながら存在する。例えば、障害を持った人々。法定雇用率を守っていない企業は依然として多く、一般の人と比べて仕事を得るうえで不利である。

このように、必ずしも自分の責任ではなく、市民権が脅かされている人々に対して、保障を提供するのが福祉の大きな役割の一つであり、この機能を持っているのが福祉国家である。日本は終戦後、かなりのハイペースで復興を遂げ、その中で、社会的弱者を守るための法や制度が整えられ、福祉国家体制を確立してきた。

しかし、高度成長期も終わりを迎えたころから、福祉国家も危機を迎える。高齢化や、グローバル化による競争の激化など、社会はみるみるうちに変動し、その中で日本の福祉政策は見直されてきた。多様化するニーズに答えようとする一方で、生活保護は支給基準が厳しくなったり、健康保険法は改正され、医療費の全額補助がなくなったり、本当に困っている人が必要とするであろう福祉の中には、手薄になる方向で改正されるものもあった。現在でも、若年層に対する福祉が手薄であったり、それでいながら、著しい高齢化により高齢層への福祉の充実が追い付かなくなってきたり、様々な壁に突き当たっていて、「福祉国家の危機」と言われる状況は相変わらず続いている。

本論文では、そんな福祉国家の危機を迎えている現代において、人々が、社会的弱者、恵まれない立場の人に対して保障を提供する「福祉政策」について、積極的に捉えているのか、それとも消極的に捉えているのかを明らかにし、かつ、その捉え方の違いは、他のどのような要因によって左右されるのか、仮説を立て、検証していく。

2. 仮説

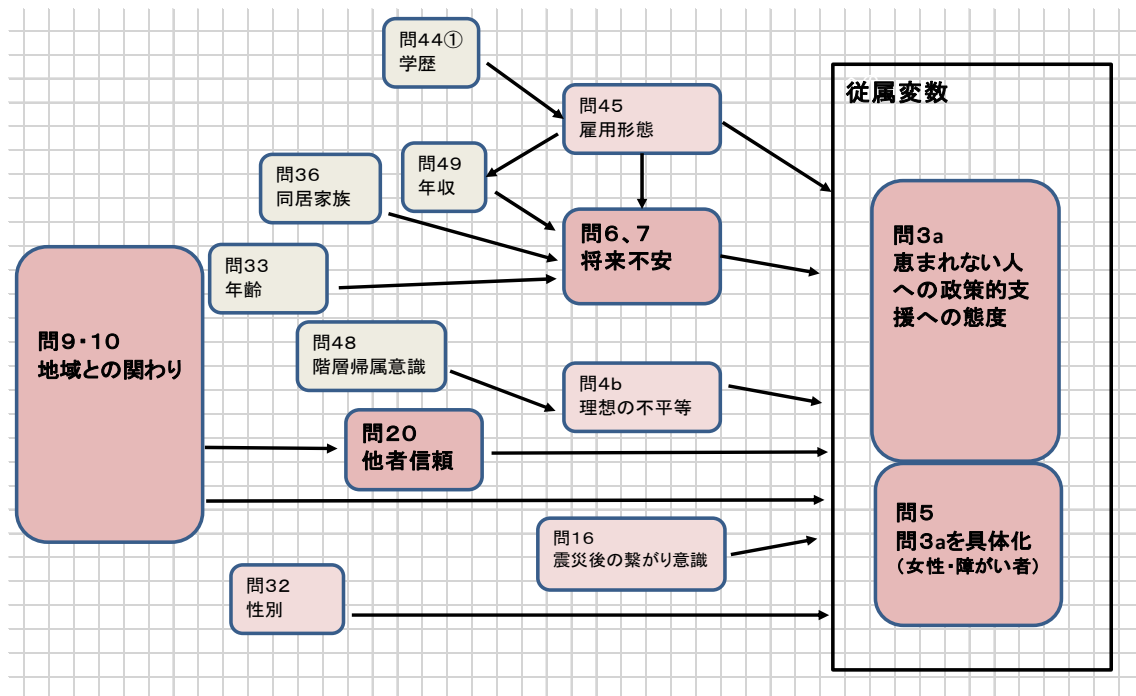
今回は、「人権問題に関する市民意識調査」の中で、「国や自治体は、豊かな人からの税金を増やしてでも、恵まれない人への福祉を充実させるべきか否か」を問う、問 3a をメインの従属変数として設定した。恵まれない人への福祉に対して積極的な人は福祉を充実させるべきだと考え(「そう思う」と答え)、消極的な人は充実させるべきではないと考える(「そう思わない」と答える)、という解釈を行う。

また、問 5a~d も、合わせて従属変数として設定する。これは、問 5 の 4 つの設問は、問 3a の「恵まれない人」を、女性や障害者などと明確化し、その対象の抱えている社会的問題に対して、「助けるべき」という思いがあるかどうかを問うた設問であると考えられるからだ。いわば、問 3a を具体化した設問であるといえる。問 5 のそれぞれについて、そう思うと答えた人は、問題が

起こっているのは「当事者の自己責任」もしくは「仕方のないこと」と捉えている、つまり扶助意識が弱いという解釈を行い、そう思わないと答えた人は、問題が起こっているのは「当事者の自己責任」や「仕方のないこと」では完結できない、つまり社会が何とかしなければという扶助意識が強い、という解釈を行う。

以下、従属変数と関連がありそうな項目を並べ、フローチャートを作成した。

図表 10-1 従属変数との関連を示すフローチャート



おそらく、問 3a と関連がある項目は多数あるのではないかと考えられるが、本論文では、「地域との関わりの有無(問 9、10)」、「他者信頼の度合(問 20)」、「将来不安の度合(問 6、7)」の 3 点に焦点を当てる。その上で、以下の仮説を立てた。

- ①地域との関わりを持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い
- ②他者を信頼している人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い
- ③将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が弱い

この 3 つの仮説を立てた根拠を順に挙げていくと、まず①と②については、社会福祉が行われる大きな根拠というのは、「困ったときはお互い様」という考えに還元できるだろう。こうした考え方が人々の中に浮かび上がるためには、人と人とが繋がっていることが前提条件となるだろう。なぜなら、人が完全に孤立している中では、他者を助けたいという考えは生じにくいはずだからだ。つまり、地域との関わりを持っていたり、他者信頼の度合が高かったりと、他者との繋がりが深ければ深いほど、助け合おうという意識が働くということである。

また、③については、合理的選択理論によるリスク回避の意識が関係してくる。合理的選択理

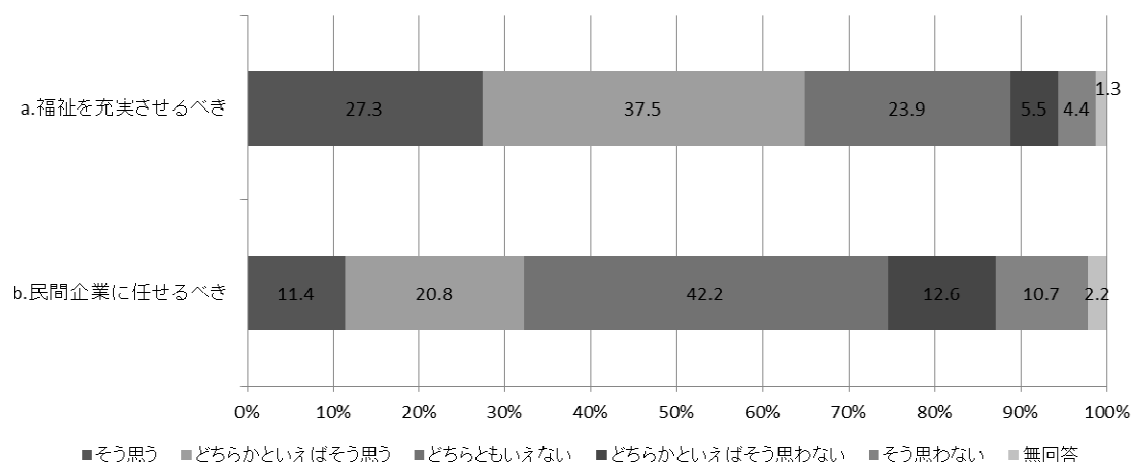
論では、人々は不確実な状況下では自らの利益の最大化を考える。となると、自らの将来の生活に不安(不確実性)を覚えている人は、まずは自分の将来に対する保障が重要だと考え、他者(他の恵まれない人々)の生活の向上までは考え難いはずだ。

3. 単純集計

3-1. 国や自治体の恵まれない人への福祉政策について

まずは、今回従属変数として設定した問 3a、そしてそれと対になっている福祉の民間委託への賛否を問う問 3b について、単純集計を行った。以下の図は、その結果をグラフ化したものである。

図表 10-2 問 3 の回答の分布を示すグラフ



結果について、まず問 3a では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、それぞれ 27.3%、37.5%と、合わせて約 65%を占めた。逆に、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」がそれぞれ 5.5%、4.4%であり、合わせても約 10%ほどだ。こうしてみると、恵まれない人への福祉の充実に肯定的な人が過半数であり、否定的な人はごく少数であることが読み取れる。

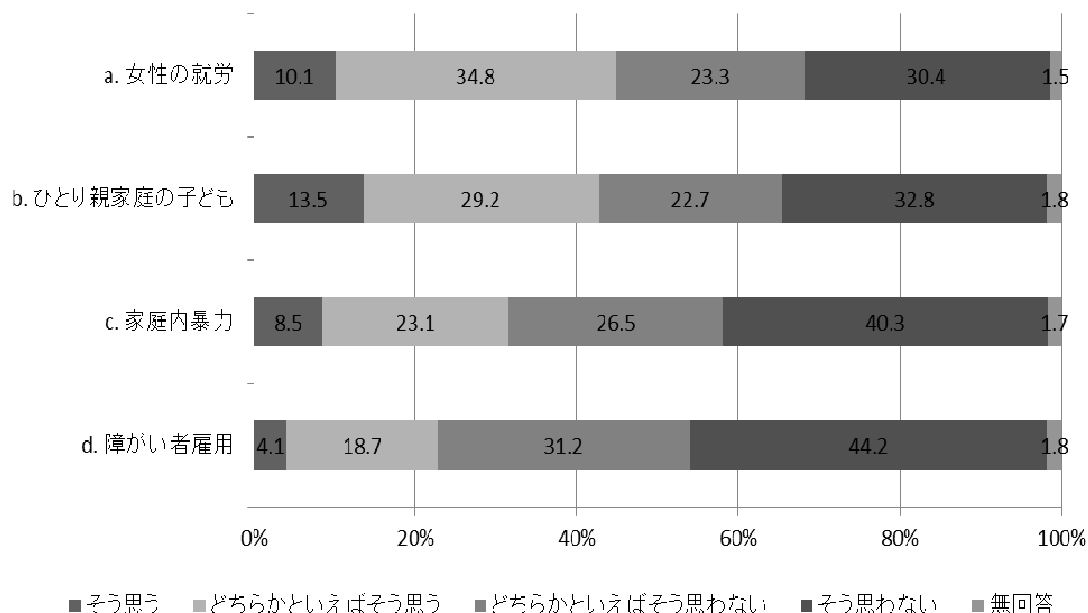
また問 3b では、「どちらともいえない」という回答が 40%を超える最も多い回答となり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が合わせて 30%強、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた割合が 20%強である。この二つの設問は、公的か民間かという意味で対になっていたが、問 3b の「そう思わない」側の割合が高くないことを考えると、「福祉を公的政策で充実させるべきだ」と考えている人が多いながら、民間に任せるべきだと考える人もまた多く存在する」という矛盾した結果がでたと言える。しかし、別の見方をすれば、公的にしろ、民間にしろ、大多数の人々が恵まれない人々への福祉を充実させるべきだと考えていることが読み取れる。

なお、これからの分析にあたっては、「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の三区分行う。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を「そう思う」に、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を「そう思わない」に、それぞれ統合した。

3-2. 女性や障がい者に対する扶助意識について

同じように問5についても、それぞれ単純集計を行い、以下のグラフに結果をまとめた。

図表 10-3 問5の回答の分布を示すグラフ



こうしてみると、最も「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合が多い、つまり扶助意識が高いのは、dの障がい者雇用に関する設問である。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を選んだ割合は、2つ合わせて75%以上にものぼる。その他の項目に関しては、cの家庭内暴力に関する設問では、合わせて約67%、aの女性の就労、bのひとり親家庭に関する設問では50%強といった結果になっている。もちろん「(どちらかといえば)そう思わない」の割合と対応して、「(どちらかといえば)そう思う」の割合にも差がみられる。a、bでは「そう思う」「どちらかというそう思う」合わせて4割を超えているのに対し、c.では3割ほど、d.では2割強と少数派となっている。ここから分かるのは、まずは障がい者に対する扶助意識はかなり高いことだ。そしてそれとは逆に、雇用における女性、シングルマザーに関しては半数近くが扶助意識が低いことも読み取れた。これは、かつての日本が作り上げてきた福祉レジームが、いまだに人々の中に根強く残っていて、その福祉レジームが想定していない上記のような弱者には、いまだに厳しい目を向けられるケースが多いことを示している。それにしても近年、女性の社会進出が叫ばれていたり、母子家庭の高い貧困率が問題として取り上げられたりしていることを考えると、もう少し「そう思わない」のほうに比率が傾いてもよかったのではないだろうか。

なお、問5についても、クロス集計等で分析を行うときは、選択肢「どちらかといえばそう思う」を「そう思う」に、「どちらかといえばそう思わない」を「そう思わない」に、それぞれ統合して、「そう思う」、「そう思わない」の二区分で行った。

4. 他の要因との分析(問 3a)

(1) 仮説①「地域との関わりを持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」の検証

仮説①「地域との関わりを持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」について検証する。今回は、独立変数(地域との関わりを持っているかどうか)を問 9a「町内会・自治会・区の会合に参加への参加程度」に設定してクロス集計を行い、カイ二乗値を出した。また、比較がしやすいように、問 3a についての平均値も合わせて出した。

※平均値は、「そう思う」…1、「どちらともいえない」…2、「そう思わない」…3 で算出している。

図表 10-4

町内会・自治会・区の会合への参加程度と恵まれない人に対する扶助意識のクロス集計

| | | | 豊かな人からの税金を増やしてでも、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ | | | 合計 |
|-----|----------|----|--------------------------------------|-----------|--------|--------|
| | | | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 241 | 64 | 40 | 345 |
| | | % | 69.9% | 18.6% | 11.6% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 412 | 183 | 49 | 644 |
| | | % | 64.0% | 28.4% | 7.6% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 435 | 181 | 53 | 669 |
| | | % | 65.0% | 27.1% | 7.9% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 588 | 191 | 116 | 895 |
| | | % | 65.7% | 21.3% | 13.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1676 | 619 | 258 | 2553 |
| | | % | 65.6% | 24.2% | 10.1% | 100.0% |

P<.01

図表 10-5

町内会・自治会・区の会合への参加程度ごとの恵まれない人に対する扶助意識の平均値

| 自治会 | 平均値 | 度数 | 標準偏差 |
|----------|--------|------|--------|
| よく参加する | 1.4174 | 345 | .69025 |
| ときどき参加する | 1.4363 | 644 | .63146 |
| あまり参加しない | 1.4290 | 669 | .63562 |
| 全く参加しない | 1.4726 | 895 | .71347 |
| 合計 | 1.4446 | 2553 | .67024 |

まず、クロス集計表を見ると、自治会への参加頻度に関するどの項目においても、「福祉を充実させるべき」に対して「そう思う」と答えている割合が圧倒的に多いが、中でも、自治会に「よく参加する」と答えた人において、その割合は最も高くなる。また、「福祉を充実させるべき」に対して「そう思わない」と答えている割合が最も高いのが自治会に「全く参加しない」と答えたグループである。カイ二乗値は .000 と限りなく 0 に近い数値を示していて、1%水準で統計的に有意であることがわかる。平均値を比較してみても、最も値が低い(つまり、最も「そう思う」と

考える傾向にある)のが、自治会に「よく参加する」と答えたグループであるし、逆に最も値が高い(つまり、最も「そう思わない」と答える傾向にある)のが、自治会に「全く参加しない」と答えたグループである。以上を踏まえると、自治会への参加頻度が多い方が、恵まれない人に対する扶助意識が強いことがいえ、仮説①は成り立つといえる。

(2) 仮説②「他者を信頼している人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」の検証

仮説②「他者を信頼している人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」について検証する。独立変数として問 20a「一般的他者信頼」に設定して、クロス集計、カイ二乗値・平均値の算出を行った。なお、分析を行いやすくするために問 20a の選択肢「どちらかと言えばそう思う」を「そう思う」に、「どちらかと言えばそう思わない」を「そう思わない」に、それぞれ統合して二区分にした。

図表 10-6 一般的他者信頼度合と恵まれない人に対する扶助意識のクロス集計

| | | | 恵まれない人への福祉を充実させるべきだ | | | 合計 |
|--------------|--------|----|---------------------|-----------|--------|--------|
| | | | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 | 1009 | 348 | 134 | 1491 |
| | | % | 67.7% | 23.3% | 9.0% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 634 | 259 | 117 | 1010 |
| | | % | 62.8% | 25.6% | 11.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1643 | 607 | 251 | 2501 |
| | | % | 65.7% | 24.3% | 10.0% | 100.0% |

P<.05

図表 10-7 一般的他者信頼度合別の恵まれない人に対する扶助意識の平均値

| たいていの人は信頼できる | 平均値 | 度数 | 標準偏差 |
|--------------|--------|------|--------|
| そう思う | 1.4131 | 1491 | .64999 |
| そう思わない | 1.4881 | 1010 | .69428 |
| 合計 | 1.4434 | 2501 | .66910 |

クロス集計表を見ると、やはり全体的には、福祉を充実させるべきだと考える割合が多いことがわかるが、平均値を比べると「たいていの人は信頼できる」に対して「そう思う」と答えているグループのほうが、比較的福祉を充実させるべきだと考える傾向が強いことがわかる。また、カイ二乗値は、5%水準で統計的に有意であることを示している。従って、他者信頼度が高い人のほうが恵まれない人への扶助意識が強いことがうかがえ、仮説②は成り立つことがいえる。

(3) 仮説③「将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が弱い」の検証

仮説③「将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が弱い」について検証する。独立変数として、問7の「5年後の暮らし向きについて」に設定して、同じようにクロス集計、カイ二乗値・平均値の算出を行った。なお、今回も問7の選択肢「少しよくなる」を「よくなる」に、「少し悪くなる」を「悪くなる」に、それぞれ統合して、三区分別にして分析を行った。

図表 10-8 5年後の暮らし向きと恵まれない人に対する扶助意識のクロス集計

| | | | 恵まれていない人の福祉を充実させるべきだ | | | 合計 |
|-----------|-------|----|----------------------|-----------|--------|--------|
| | | | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | |
| 5年後の暮らし向き | よくなる | 度数 | 183 | 66 | 53 | 302 |
| | | % | 60.6% | 21.9% | 17.5% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 609 | 281 | 100 | 990 |
| | | % | 61.5% | 28.4% | 10.1% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 877 | 274 | 105 | 1256 |
| | | % | 69.8% | 21.8% | 8.4% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1669 | 621 | 258 | 2548 |
| | | % | 65.5% | 24.4% | 10.1% | 100.0% |

P<.01

図表 10-9 5年後の暮らし向き予想別の恵まれない人に対する扶助意識の平均値

| 5年後の暮らし向き | 平均値 | 度数 | 標準偏差 |
|-----------|--------|------|--------|
| よくなる | 1.5695 | 302 | .77339 |
| 変わらない | 1.4859 | 990 | .67252 |
| 悪くなる | 1.3854 | 1256 | .63590 |
| 合計 | 1.4462 | 2548 | .67067 |

結果としては、やはり全体的に、福祉を充実させるべきだと考える割合が多い。しかし、仮説とは真逆の結果になってしまった。クロス集計をみても、平均値をみても、暮らし向きが悪くなると考えている人ほど、福祉を充実させるべきだと考えている、という傾向がはっきりと浮かび上がってしまったのだ。つまり、「将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれていない人に対する扶助意識が強い」という傾向がここでは浮かび上がる。カイ二乗値を見ても、1%水準で統計的に有意であることがいえる。

では何故、仮説とは真逆の結果が起こってしまったのであろうか。原因として推測されるのは、暮らし向きが悪くなるということは、自分が「恵まれない立場」に陥ることだと多くの人考えたから、ということである。暮らし向きが悪くなると考えている人は、今恵まれていない人のことよりも、まずは自分のことに頭が行くのではと考えて、「5年後の暮らし向きが悪くなると考えている人ほど、恵まれていない人への福祉を充実させるべきだと思っていない」という仮説を立てた。しかし実際は、自分の5年後の不安が強いと考えた人は、自分と「恵まれない人」を重ね合わせて、「(公的福祉政策で)助けてほしい」と考えたのではないだろうか。「福祉の充実で自分が恩恵を得られるのではないか」という「自己利益仮説」によるものだと推測できる。なお、このような結果に至ったのは、問3aの設問で「恵まれない人」という言い方をしてしまったからであ

ると考えられる。このようなあいまいな言い方をすることによって、人によって「恵まれない人」として思い浮かべるものが異なるものとなるのであろう。そこで「将来に暮らし向きが悪くなる不安を抱えている人々」は、「恵まれない人」という言葉から自分のことを想像してしまったのかもしれない。

5. 他の要因との分析(問5)

2. で立てた仮説に基づいて、更に分析を深めるため、問5の4つの設問を従属変数に設定して、同じようにクロス集計を行った(独立変数は同じ)。以下、独立変数ごとに表を載せる。

【仮説①:自治会への参加頻度(問9)と女性・障がい者への扶助意識(問5)のクロス集計】

図表 10-10 町内会・自治会・区の会合への参加程度と女性の雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 女性が雇用の面で男性より不利なのは仕方がない | | 合計 |
|-----|----------|-------|------------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 177 | 166 | 343 |
| | | 自治会の% | 51.6% | 48.4% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 358 | 289 | 647 |
| | | 自治会の% | 55.3% | 44.7% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 361 | 301 | 662 |
| | | 自治会の% | 54.5% | 45.5% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 494 | 404 | 898 |
| | | 自治会の% | 55.0% | 45.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1390 | 1160 | 2550 |
| | | 自治会の% | 54.5% | 45.5% | 100.0% |

P>.10

図表 10-11

町内会・自治会・区の会合への参加程度とひとり親家庭の貧困に対する意識のクロス集計

| | | | ひとり親家庭の貧困は親の責任だ | | 合計 |
|-----|----------|-------|-----------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 166 | 174 | 340 |
| | | 自治会の% | 48.8% | 51.2% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 388 | 259 | 647 |
| | | 自治会の% | 60.0% | 40.0% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 383 | 279 | 662 |
| | | 自治会の% | 57.9% | 42.1% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 505 | 389 | 894 |
| | | 自治会の% | 56.5% | 43.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1442 | 1101 | 2543 |
| | | 自治会の% | 56.7% | 43.3% | 100.0% |

P<.01

図表 10-12 町内会・自治会・区の会合への参加程度と家庭内暴力に対する意識のクロス集計

| | | | 家庭内暴力への行政の介入は難しい | | 合計 |
|-----|----------|-------|------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 221 | 119 | 340 |
| | | 自治会の% | 65.0% | 35.0% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 438 | 209 | 647 |
| | | 自治会の% | 67.7% | 32.3% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 466 | 198 | 664 |
| | | 自治会の% | 70.2% | 29.8% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 607 | 286 | 893 |
| | | 自治会の% | 68.0% | 32.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1732 | 812 | 2544 |
| | | 自治会の% | 68.1% | 31.9% | 100.0% |

P>.10

図表 10-13 町内会・自治会・区の会合への参加程度と障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障害者雇用が雇われないのは仕方がない | | 合計 |
|-----|----------|-------|--------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 245 | 95 | 340 |
| | | 自治会の% | 72.1% | 27.9% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 524 | 120 | 644 |
| | | 自治会の% | 81.4% | 18.6% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 528 | 137 | 665 |
| | | 自治会の% | 79.4% | 20.6% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 652 | 240 | 892 |
| | | 自治会の% | 73.1% | 26.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1949 | 592 | 2541 |
| | | 自治会の% | 76.7% | 23.3% | 100.0% |

P<.01

【仮説②:他者信頼(問 20a)と女性・障がい者に対する扶助意識(問 5)のクロス集計表】

図表 10-14 一般的他者信頼度合と女性の雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 女性が雇用の面で男性より不利なのは仕方がない | | 合計 |
|--------------|--------|----------------|------------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 | 815 | 676 | 1491 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 54.7% | 45.3% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 549 | 460 | 1009 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 54.4% | 45.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1364 | 1136 | 2500 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 54.6% | 45.4% | 100.0% |

P>.10

図表 10-15 一般的他者信頼度合とひとり親家庭の貧困に対する意識のクロス集計

| | | | ひとり親家庭の貧困は親の責任だ | | 合計 |
|--------------|--------|----------------|-----------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 | 853 | 637 | 1490 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 57.2% | 42.8% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 563 | 441 | 1004 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 56.1% | 43.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1416 | 1078 | 2494 |
| | | たいていの人は信頼できるの% | 56.8% | 43.2% | 100.0% |

P>.10

図表 10-16 一般的他者信頼度合と家庭内暴力に対する意識のクロス集計

| | | | 家庭内暴力への行政の介入は難しい | | 合計 |
|--------------|--------|----------------------|------------------|--------------|----------------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 1006 67.4% | 487 32.6% | 1493 100.0% |
| | そう思わない | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 693 69.0% | 312 31.0% | 1005 100.0% |
| 合計 | | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 1699 68.0% | 799 32.0% | 2498 100.0% |

P>.10

図表 10-17 一般的他者信頼度合と障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障害者雇用が雇われないのは仕方がない | | 合計 |
|--------------|--------|----------------------|--------------------|--------------|----------------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 1183 79.4% | 307 20.6% | 1490 100.0% |
| | そう思わない | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 732 72.9% | 272 27.1% | 1004 100.0% |
| 合計 | | 度数 たいていの人は信頼できるの% | 1915 76.8% | 579 23.2% | 2494 100.0% |

P<.01

【仮説③:将来不安(問 7)と女性・障がい者に対する扶助意識(問 5)のクロス集計表】

図表 10-18 5年後の暮らし向きと女性の雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 女性が雇用の面で男性より不利なのは仕方がない | | 合計 |
|-----------|-------|-------------|------------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 5年後の暮らし向き | よくなる | 度数 | 164 | 139 | 303 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 54.1% | 45.9% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 515 | 482 | 997 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 51.7% | 48.3% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 714 | 543 | 1257 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 56.8% | 43.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1393 | 1164 | 2557 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 54.5% | 45.5% | 100.0% |

P<.10

図表 10-19 5年後の暮らし向きとひとり親家庭の貧困に対する意識のクロス集計

| | | | ひとり親家庭の貧困は親の責任だ | | 合計 |
|-----------|-------------|-------------|-----------------|--------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 5年後の暮らし向き | よくなる | 度数 | 172 | 129 | 301 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 57.1% | 42.9% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 550 | 441 | 991 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 55.5% | 44.5% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 718 | 539 | 1257 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 57.1% | 42.9% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 1440 | 1109 | 2549 | |
| | 5年後の暮らし向きの% | 56.5% | 43.5% | 100.0% | |

P>.10

図表 10-20 5年後の暮らし向きと家庭内暴力に対する意識のクロス集計

| | | | 家庭内暴力への行政の介入は難しい | | 合計 |
|-----------|-------------|-------------|------------------|--------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 5年後の暮らし向き | よくなる | 度数 | 215 | 86 | 301 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 71.4% | 28.6% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 658 | 333 | 991 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 66.4% | 33.6% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 860 | 400 | 1260 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 68.3% | 31.7% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 1733 | 819 | 2552 | |
| | 5年後の暮らし向きの% | 67.9% | 32.1% | 100.0% | |

P>.10

図表 10-21 5年後の暮らし向きと障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障害者雇用が雇われないのは仕方がない | | 合計 |
|-----------|-------------|-------------|--------------------|--------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 5年後の暮らし向き | よくなる | 度数 | 217 | 82 | 299 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 72.6% | 27.4% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 755 | 234 | 989 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 76.3% | 23.7% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 985 | 275 | 1260 |
| | | 5年後の暮らし向きの% | 78.2% | 21.8% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 1957 | 591 | 2548 | |
| | 5年後の暮らし向きの% | 76.8% | 23.2% | 100.0% | |

P>.10

また、以下の表に、各クロス集計における、カイ二乗検定での有意差の有無を示した。

図表 10-22 各クロス集計カイ二乗検定有意差

| | 地域との関わり | 他者信頼 | 将来不安 |
|----------|---------|------|------|
| a.女性の就労 | × | × | △ |
| b.ひとり親家庭 | ○ | × | × |
| c.家庭内暴力 | × | × | × |
| d.障がい者雇用 | ○ | ○ | × |

○… $p \leq .05$ △… $.05 < p \leq .10$ ×… $p > .10$

こうしてみると、a～c は全て女性に関する設問だが、3つの独立変数のうち、関連があるものは多くても1つである。問 3a の時と異なり、それほど強い関連が見られるというわけではないということがわかる。

それに対して d の障がい者に関する設問では、2つの独立変数と有意差があることが分かり、この中では比較的問 3a と似た結果となった。そこで、d についてはもう一度クロス表と合わせて詳しく分析してみる。

(1) まずは仮説①についてだ。問 9a の自治会への参加頻度と障がい者雇用への意識とを掛け合わせたクロス集計表を作成した。

図表 10-23 町内会・自治会・区の会合への参加程度と障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障害者が雇われなくても仕方がない | | 合計 |
|-----|----------|----------|------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 自治会 | よく参加する | 度数 | 245 | 95 | 340 |
| | | q09a の % | 72.1% | 27.9% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 524 | 120 | 644 |
| | | q09a の % | 81.4% | 18.6% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 528 | 137 | 665 |
| | | q09a の % | 79.4% | 20.6% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 652 | 240 | 892 |
| | | q09a の % | 73.1% | 26.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1949 | 592 | 2541 |
| | | q09a の % | 76.7% | 23.3% | 100.0% |

P<.01

確かに有意確率をみると、1%水準で統計的に有意な差があることがわかるが、肝心の数値を見てみると、自治会への参加頻度が高い人ほど、障がい者に対する扶助意識が高い、というわけではないことがわかる。傾向としては、自治会の参加頻度に関わらず「障がい者が雇われないのは仕方がないことではない」と考えた人は70%以上と、高い数値となっているが、中でも割合が多いのが自治会に「時々参加する」「あまり参加しない」という、中間の回答をしたグループにおい

てであった。何故このような結果となったのかは、他の先行調査や研究を参照するだけでは、すぐには明確な答えが出てこないため、拙速な解釈は控えたい。もしかしたら、自治会への参加が、他の要因と相互に関係するために生じた疑似相関の可能性もある。いずれにせよ、上記の結果からは、「自治会への参加頻度が中くらいの人ほど、障がい者に対する扶助意識が強い」ということがいえ、仮説は成り立たない。

(2) 仮説②について、問 20a の他者信頼に関する設問と障がい者雇用への意識とを掛け合わせたクロス集計表を作成した。

図表 10-24 一般的他者信頼度合と障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障がい者が雇われないのは仕方がない | | 合計 |
|--------------|--------|---------------|-------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| たいていの人は信頼できる | そう思う | 度数 | 1183 | 307 | 1490 |
| | | 一般的他者信頼・二区分の% | 79.4% | 20.6% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 732 | 272 | 1004 |
| | | 一般的他者信頼・二区分の% | 72.9% | 27.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1915 | 579 | 2494 |
| | | 一般的他者信頼・二区分の% | 76.8% | 23.2% | 100.0% |

P<.01

1%水準で統計的に有意であり、ここではすんなりと「他者信頼の度合が高い方ほうが、障がい者への扶助意識が強い」ということがいえ、仮説が成り立つ。

(3) 仮説③について、問 7 の 5 年後の暮らし向きについての設問と、障がい者雇用への意識を掛け合わせたクロス集計表を作成した。

図表 10-25 5 年後の暮らし向きと障がい者雇用に対する意識のクロス集計

| | | | 障がい者が雇われなくても仕方がない | | 合計 |
|----------|-------|------------|-------------------|-------|--------|
| | | | そう思わない | そう思う | |
| 5年後暮らし向き | よくなる | 度数 | 217 | 82 | 299 |
| | | 将来不安・三区分の% | 72.6% | 27.4% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 755 | 234 | 989 |
| | | 将来不安・三区分の% | 76.3% | 23.7% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 985 | 275 | 1260 |
| | | 将来不安・三区分の% | 78.2% | 21.8% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1957 | 591 | 2548 |
| | | 将来不安・三区分の% | 76.8% | 23.2% | 100.0% |

P>.10

10%水準を少し超えてしまい残念ながら統計的に有意な関係があるとは言えない。これまでのクロス集計では、簡便化のため、カテゴリー数を減らして分析してきたが、質問紙と同様の回答選択肢を用いて、クロス集計や分散分析を行ったところ、5%水準で有意差が見られた。そこでは、

5年後の暮らし向きが悪くなると考える人ほど、障がい者が雇われなくても仕方がないという設問に、そう思わないと回答する傾向が見られる。ここでも仮説は成り立たず、むしろ逆の結果となった。

6. 考察

(1) 仮説について

本論文で検証した仮説について、4.での問3a(恵まれない人に対する扶助意識を問う設問)の分析によると、仮説①「地域との関わりを持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」、仮説②「他者を信頼している人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」については成り立つということがいえる。また、仮説③「将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が弱い」については、今回は成り立たず、「将来に対して不安を持っている人のほうが、恵まれない人に対する扶助意識が強い」という仮説とは逆の結果が出た。何故このような結果が出たのか、4の(3)の中では、「恵まれない人」という表現があいまいで、「将来に不安を抱える」自分を「恵まれない人」と重ね合わせてしまったからではないかと推測した。5の(3)での将来不安の度合と障がい者雇用への意識を掛け合わせたクロス集計結果からも、この仮説は成り立たないことが証明された。問5では「恵まれない人」という表現が「障がい者」と具体化されていたのに、である。つまり、仮説が成り立たなかったのは、「恵まれない人」というあいまいな表現をしたからではなく、本当に、「将来を案じ、脅威を感じている人々」が、別の恵まれない境遇の人々に対して排除的な感情ではなく、同情的な、「助けるべき」という感情を抱いているから、であることが推察できる。集団脅威仮説も、自己利益仮説もここでは成り立たなかった。

(2) 女性・障がい者に対する人々の考え方について

本論文では、問5の4つの設問は、問3aを女性の問題、障がい者の問題へと具体化して、その扶助意識を問うたものという認識をしたが、実際に問5の、女性に関する3つの設問の単純集計と、3つの独立変数との関連の弱さをみると、人々は必ずしも設問のような境遇にある女性を「恵まれない人・助けるべき人」として考えていないことが推察できる。これは、一般的に、近年は女性の社会進出が進んで、男性にもひけをとらないイメージが強くなってきたからであろうか。確かに女性の社会進出そしてそれによる男性からの自立が進んではいることには間違いないが、まだまだ部分的であるといえる。前述のように、シングルマザーの貧困も問題になってきていることを考えると、もう少し扶助意識が高くなってきてもいいはずだ。

それに対して、障がい者については、自治会の参加頻度との関連は、仮説が想定するような明確な関係は見られなかったものの、残りの独立変数との関連については、問3aの時と似た傾向を示している。これにより、障がい者は「恵まれない人・助けるべき人」として考えられる傾向にあることがわかる。

これらの差が、本当に従来の「福祉レジーム」による影響だとすれば、その福祉レジームをいかにして変革し、人々の意識を変えていくかがますます重要になるだろうと考えられる。

第 11 章 行政に対する信頼感

1. 問題関心

本章では、どのような人々が行政を信頼しているのか、またどのような人々が行政を信頼していないのかについて、さらに、行政に対する信頼や不信感が、他の福祉政策への賛否にどのように波及していくのかについて考察する。第 2 部の冒頭でも論じたように、中央政府や地方自治体が、差別や不平等問題に取り組むとき、シティズンシップ（市民権）と福祉国家は、それに取り組むための重要な論拠と、その取り組みを実行するための方法論を提供してきた。とはいえ、政府や自治体といった行政が、こうした問題に取り組むには、市民が行政を信頼していなければ有効には機能しないだろう。行政は課税によって、市民から経済的資源を徴収し、そこで得た資源の再分配により、差別、不平等問題の解決に取り組むからである。行政が信頼できなければ、市民は課税水準を最小化し、小さな政府を志向する傾向が強まるだろう。そのため、政府による再分配政策は縮小し、結果として不平等の拡大や国家の役割の縮小が生じるだろう。

以上のような問題意識から、本章は、行政に対する信頼感について考察する。

2. 仮説

本章では、次の 5 つの仮説を立てた。

①一般的な他者を信頼する人々は、行政を信頼する傾向がある

すなわち、一般的な他者信頼は、単なる他者信頼の次元にとどまらず、他の組織や集団に対しても波及するという仮説である。

②社会階層が高い人々ほど、行政を評価しない傾向がある。

この仮説は、社会階層が高い人は、課税制度によって、より多くの税金を納めているにもかかわらず、政府の再分配政策によって、便益を享受できる機会に乏しいことを念頭に置いている。すなわち、福祉国家とは、階層の高い人々の利益に反する制度である。階層の高い人ほど、行政の施策を評価しないという仮説は、このように自己利益仮説から導出されるものである。

③社会階層が低い人々ほど、行政を評価しない傾向にある。

この仮説は、②の仮説とは対照的に、階層の低い人々の方が、行政を評価しないことを予測している。階層の低い人々は、様々な制度、政策によって、行政から給付を受ける機会が多い。このように考えると、階層の低い人々にとって、福祉国家という制度は、自己の利益に合致するものであり、仮説②が支持されると考えられる。しかし、日本の福祉制度は、年金と医療保険といった高齢者向けの福祉に給付が偏っており、成人や子どもを対象とする給付は非常に限られている。また、日本の福祉制度は保険原則に基づいて運営されている制度が多く、その場合、再分配の機能が弱い。公的年金のうち、厚生年金や共済組合のような所得比例に応じた給付が受けられる年金の加入資格者は、民間企業や公的セクターで働く正規労働者（正社員）であり、非正規雇用に従事する労働者の場合、加入資格を満たさないことが多い。正社員の場合、雇用主が保険料

の半分を負担してくれるため、非正規雇用や自営業者とくらべて、負担額も少なく済む。このように、日本の福祉制度は、再分配機能が弱く、夫が正社員として働き、妻が家事育児の担い手となる男性稼ぎ主型家族を前提としているため、相対的に階層の高い人の方が、行政を評価し、満足度も高い半面、低所得者、貧困層は、既存の制度では十分な支援を受けていないため、行政を評価せず、満足度も低いことが、考えられる。

④現在の日本社会は平等と考えている人々は、行政を評価する傾向がある

⇨現在の日本社会は不平等と考えている人は、行政を評価しない傾向がある

日本社会を不平等な社会と捉えている人は、行政施策が十分に機能しない結果、社会が不平等な状況に陥っていると考えているかもしれない。そうした考え方を前提にすれば、社会の平等／不平等についての主観的な認識は、行政の評価に結びつく可能性があるだろう。

⑤行政を高く評価する人々は、公的サービスの民営化に反対する傾向がある

⇨行政を低く評価する人々は、公的サービスの民営化に賛成する傾向がある

行政が地域の課題に誠実に取り組んでおらず、住民の意見や希望が自治体の施策に十分に反映されていないと考える人は、その結果として、現状の公的サービスへの不満が高いと想定される。そのため、これまで行政が担ってきたサービスを、企業や NPO といった民間が提供する方が、より効率的であると考えても、何ら不思議ではないだろう。

3. 行政の信頼度についての単純集計結果

調査票の問 8 では、行政や町内会、自治会についての信頼度を次のような質問で測定した。「地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる」、「地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる」、「住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている」。これらの質問について、それぞれ、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件法でたずねた。

図表 11-1

| 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | | |
|------------------------------------|------|---------|---------|
| | 度数 | 有効パーセント | 累積パーセント |
| そう思う | 110 | 4.3 | 4.3 |
| どちらかといえばそう思う | 928 | 36.3 | 40.6 |
| どちらかといえばそう思わない | 1042 | 40.7 | 81.3 |
| そう思わない | 478 | 18.7 | 100.0 |
| 合計 | 2558 | 100.0 | |

「そう思う」と答えた人は 4%しかおらず、「そう思わない」と答えた人は約 20%いた。「どちらかといえばそう思う」と答えた人も含めて行政を評価する回答をした人は 4割、「どちらかといえばそう思わない」と答えた人も含めて行政を評価しない回答をした人は 6割、評価しない人の方

が多かった。

図表 11-2

| 地域生活の課題について、 「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | | |
|--|------|---------|---------|
| | 度数 | 有効パーセント | 累積パーセント |
| そう思う | 127 | 5.0 | 5.0 |
| どちらかといえばそう思う | 1061 | 41.6 | 46.5 |
| どちらかといえばそう思わない | 922 | 36.1 | 82.6 |
| そう思わない | 443 | 17.4 | 100.0 |
| 合計 | 2553 | 100.0 | |

「そう思う」「そう思わない」と回答した人の割合は行政の場合と変わらないが、「どちらかといえばそう思う」と答えた人が「どちらかといえばそう思わない」と答えた人より多かった。町内会・自治会を評価する回答をした人は47%で、行政の場合より多かった。行政よりも距離が近く目に見えやすいからではないだろうか。

図表 11-3

| 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | | |
|------------------------------|------|---------|---------|
| | 度数 | 有効パーセント | 累積パーセント |
| そう思う | 94 | 3.7 | 3.7 |
| どちらかといえばそう思う | 658 | 25.8 | 29.5 |
| どちらかといえばそう思わない | 1203 | 47.2 | 76.6 |
| そう思わない | 596 | 23.4 | 100.0 |
| 合計 | 2551 | 100.0 | |

「そう思う」と答えた人は4%であるのに対し、「そう思わない」と答えた人は23%いた。また、「どちらかといえばそう思う」と回答した人も26%と少なく、「どちらかといえばそう思わない」と答えた人も含めて行政を評価しない回答した人が7割を占めた。市町村をはじめとする地方自治体において、住民の意見や希望が、自治体行政の実際に反映されているという実感は、一般の人々にとって抱きにくいのかかもしれない。

評価する回答を「はい」、評価しない回答を「いいえ」の二区分にまとめ、市町別で見ると、「住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている」に対する回答のみ地域差が見られた。

図表 11-4 居住地域と自治体への意見反映意識とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 |
|------|------|----|------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 居住地域 | 松戸市 | 度数 | 325 | 954 | 1279 |
| | | % | 25.4% | 74.6% | 100.0% |
| | 香取市 | 度数 | 219 | 469 | 688 |
| | | % | 31.8% | 68.2% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 188 | 357 | 545 |
| | | % | 34.5% | 65.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 732 | 1780 | 2512 |
| | | % | 29.1% | 70.9% | 100.0% |

P=0.00 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

松戸市は香取市と酒々井町と比べて行政を評価しない人が多かった。市の規模が大きく、また学校や勤務先などが市外にあり地域と関わりのない人が多いという特徴からではないだろうか。

図表 11-5 年代と地域課題の解決に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 | |
|----|-------|----|------------------------------------|-------|--------|--------|
| | | | はい | いいえ | | |
| 年齢 | 20歳代 | 度数 | 83 | 123 | 206 | |
| | | % | 40.3% | 59.7% | 100.0% | |
| | 30歳代 | 度数 | 145 | 237 | 382 | |
| | | % | 38.0% | 62.0% | 100.0% | |
| | 40歳代 | 度数 | 157 | 283 | 440 | |
| | | % | 35.7% | 64.3% | 100.0% | |
| | 50歳代 | 度数 | 147 | 260 | 407 | |
| | | % | 36.1% | 63.9% | 100.0% | |
| | 60歳代 | 度数 | 231 | 344 | 575 | |
| | | % | 40.2% | 59.8% | 100.0% | |
| | 70歳代 | 度数 | 237 | 233 | 470 | |
| | | % | 50.4% | 49.6% | 100.0% | |
| | 80歳以上 | 度数 | 17 | 9 | 26 | |
| | | % | 65.4% | 34.6% | 100.0% | |
| | 合計 | | 度数 | 1017 | 1489 | 2506 |
| | | | % | 40.6% | 59.4% | 100.0% |

P=0.00 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

さらに、年代別に行政への信頼度について集計したところ、70歳代と80歳以上の人々は他の年代と比べて行政を評価する回答をする割合が高かった。

図表 11-6 年代と地域課題の解決に対する自治会・町内会への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|----|-------|----|--|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 年齢 | 20歳代 | 度数 | 88 | 118 | 206 |
| | | % | 42.7% | 57.3% | 100.0% |
| | 30歳代 | 度数 | 157 | 225 | 382 |
| | | % | 41.1% | 58.9% | 100.0% |
| | 40歳代 | 度数 | 196 | 242 | 438 |
| | | % | 44.7% | 55.3% | 100.0% |
| | 50歳代 | 度数 | 186 | 220 | 406 |
| | | % | 45.8% | 54.2% | 100.0% |
| | 60歳代 | 度数 | 278 | 298 | 576 |
| | | % | 48.3% | 51.7% | 100.0% |
| | 70歳代 | 度数 | 244 | 224 | 468 |
| | | % | 52.1% | 47.9% | 100.0% |
| | 80歳以上 | 度数 | 16 | 11 | 27 |
| | | % | 59.3% | 40.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1165 | 1338 | 2503 |
| | | % | 46.5% | 53.5% | 100.0% |

P=0.022 ∴有意水準 5%未満で統計的に有意

行政の場合よりも年齢差は少ないが、年代が上がるほど自治会・町内会を評価する人の割合も高くなっている。

図表 11-7 年代と自治体の行政に対する住民の意見・希望の反映への評価とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 |
|----|-------|----|------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 年齢 | 20歳代 | 度数 | 44 | 162 | 206 |
| | | % | 21.4% | 78.6% | 100.0% |
| | 30歳代 | 度数 | 86 | 296 | 382 |
| | | % | 22.5% | 77.5% | 100.0% |
| | 40歳代 | 度数 | 105 | 330 | 435 |
| | | % | 24.1% | 75.9% | 100.0% |
| | 50歳代 | 度数 | 101 | 305 | 406 |
| | | % | 24.9% | 75.1% | 100.0% |
| | 60歳代 | 度数 | 182 | 395 | 577 |
| | | % | 31.5% | 68.5% | 100.0% |
| | 70歳代 | 度数 | 200 | 269 | 469 |
| | | % | 42.6% | 57.4% | 100.0% |
| | 80歳以上 | 度数 | 14 | 12 | 26 |
| | | % | 53.8% | 46.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 732 | 1769 | 2501 |
| | | % | 29.3% | 70.7% | 100.0% |

P=0.00 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

70歳代と80歳以上の人々の自治体の行政を評価する割合は他の年代に比べて顕著に高くなっている。生活の中で地域と関わる事が多く、また社会保障の面で行政のサポートを感じる場面が多くなるからではないだろうか。

4. 仮説①「一般的な他者を信頼する人々は、行政を信頼する傾向がある」の検証

行政を評価しない回答がもともと多いなかでも、「たいていの人は信用できる」に賛成の回答した人々の方が、反対の回答をした人々よりも、行政を評価する割合が高かった。「たいていの人は信用できる」に反対の回答した人々の方が、賛成の回答をした人よりも行政を評価しない人の割合が高かった。

行政の場合よりも一般的な他者を信頼するかどうかの差が顕著である。「たいていの人は信用できる」に賛成の回答をした人の半数以上が自治会・町内会を評価している。反対の回答をした人の6割強が自治会・町内会を評価していない。自治会・町内会は、人々にとって身近な中間集団であることから、行政よりも一般的他者信頼にもとづく差が大きく見られたのではないだろうか。

図表 11-8 他者信用度と地域課題に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|--------------|-----|----|------------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は信用できる | はい | 度数 | 694 | 790 | 1484 |
| | | % | 46.8% | 53.2% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 321 | 687 | 1008 |
| | | % | 31.8% | 68.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1015 | 1477 | 2492 |
| | | % | 40.7% | 59.3% | 100.0% |

図表 11-9 他者信用度と地域課題に対する自治会・町内会への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|--------------|-----|----|--|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は信用できる | はい | 度数 | 797 | 685 | 1482 |
| | | % | 53.8% | 46.2% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 369 | 635 | 1004 |
| | | % | 36.8% | 63.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1166 | 1320 | 2486 |
| | | % | 46.9% | 53.1% | 100.0% |

図表 11-10 他者信用度と自治体行政への住民の意見・希望の反映への評価とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 |
|--------------|-----|----|------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は信用できる | はい | 度数 | 512 | 971 | 1483 |
| | | % | 34.5% | 65.5% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 226 | 777 | 1003 |
| | | % | 22.5% | 77.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 738 | 1748 | 2486 |
| | | % | 29.7% | 70.3% | 100.0% |

全て P=0.00 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

自治体の行政を評価しない人がもともと多いため、一般的他者信頼による差は上の二項目よりは少なかった。しかし「たいていの人は信用できる」に賛成の人は反対の人よりも行政を評価する割合が高いという傾向は、この表からも見受けられる。

図表 11-11 他者の自己中心性への意識と地域課題に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|-----------------------|-----|----|------------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は、自分のことだけを考えている | はい | 度数 | 624 | 1022 | 1646 |
| | | % | 37.9% | 62.1% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 385 | 460 | 845 |
| | | % | 45.6% | 54.4% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1009 | 1482 | 2491 |
| | | % | 40.5% | 59.5% | 100.0% |

図表 11-12

他者の自己中心性への意識と地域課題に対する自治会・町内会への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|-----------------------|-----|----|--|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は、自分のことだけを考えている | はい | 度数 | 708 | 932 | 1640 |
| | | % | 43.2% | 56.8% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 450 | 394 | 844 |
| | | % | 53.3% | 46.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1158 | 1326 | 2484 |
| | | % | 46.6% | 53.4% | 100.0% |

図表 11-13

他者の自己中心性への意識と自治体行政への住民の意見・希望の反映への評価とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 |
|-----------------------|-----|----|------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| たいていの人は、自分のことだけを考えている | はい | 度数 | 458 | 1181 | 1639 |
| | | % | 27.9% | 72.1% | 100.0% |
| | いいえ | 度数 | 271 | 572 | 843 |
| | | % | 32.1% | 67.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 729 | 1753 | 2482 |
| | | % | 29.4% | 70.6% | 100.0% |

P=0.00 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

P=0.029 ∴有意水準 5%未満で統計的に有意

上記3つの表について、読み取れる傾向は三項目とも全体的に「たいていの人は信用できる」という聞き方の場合と同じである。「たいていの人は、自分のことだけを考えている」に賛成の人は、反対の人よりも行政や自治会・町内会を評価しない割合が高い傾向にある。

5. 仮説②と③の社会階層と行政評価との関係

社会階層の指標として主観的階層意識・世帯収入・学歴を用いた。

図表 11-14 階層意識と地域課題の解決に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 | |
|------|-----|----|------------------------------------|-------|--------|--------|
| | | | はい | いいえ | | |
| 階層意識 | 上 | 度数 | 12 | 17 | 29 | |
| | | % | 41.4% | 58.6% | 100.0% | |
| | 中の上 | 度数 | 234 | 318 | 552 | |
| | | % | 42.4% | 57.6% | 100.0% | |
| | 中の下 | 度数 | 510 | 678 | 1188 | |
| | | % | 42.9% | 57.1% | 100.0% | |
| | 下の上 | 度数 | 181 | 329 | 510 | |
| | | % | 35.5% | 64.5% | 100.0% | |
| | 下の下 | 度数 | 53 | 120 | 173 | |
| | | % | 30.6% | 69.4% | 100.0% | |
| | 合計 | | 度数 | 990 | 1462 | 2452 |
| | | | % | 40.4% | 59.6% | 100.0% |

P=0.003 ∴有意水準 1%未満で統計的に有意

「下の上」「下の下」と回答した人は行政を評価しない割合が他の階層意識を回答した人に比べて高かった。社会の中でも下の層にいると感じている人は、行政からのサポートを十分でないと感じる傾向が強いということではないか。

図表 11-15 階層意識と地域課題の解決に対する自治会・町内会への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 | |
|------|-----|----|--|-------|--------|--------|
| | | | はい | いいえ | | |
| 階層意識 | 上 | 度数 | 18 | 11 | 29 | |
| | | % | 62.1% | 37.9% | 100.0% | |
| | 中の上 | 度数 | 265 | 288 | 553 | |
| | | % | 47.9% | 52.1% | 100.0% | |
| | 中の下 | 度数 | 579 | 607 | 1186 | |
| | | % | 48.8% | 51.2% | 100.0% | |
| | 下の上 | 度数 | 222 | 287 | 509 | |
| | | % | 43.6% | 56.4% | 100.0% | |
| | 下の下 | 度数 | 56 | 113 | 169 | |
| | | % | 33.1% | 66.9% | 100.0% | |
| | 合計 | | 度数 | 1140 | 1306 | 2446 |
| | | | % | 46.6% | 53.4% | 100.0% |

P=0.001 ∴有意水準 1%で統計的に有意

自治会・町内会の評価の場合、「上」と回答した人と「下の下」と回答した人において明らかな特徴が見られる。「上」と回答した人は自治会・町内会を評価する割合が明らかに高い。「下の下」と回答した人は評価しない割合が明らかに高い。自治会や町内会は、行政のように社会保障面のサポートを役割としないので、「自治会・町内会と縁(関わり)がない」ことがこの傾向に起因しているのではないかと推察される。

図表 11-16 世帯収入と自治体行政に対する住民の意見・希望反映への評価とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 | |
|------|-----------------|----|------------------------------|-------|--------|--------|
| | | | はい | いいえ | | |
| 世帯収入 | なし | 度数 | 14 | 31 | 45 | |
| | | % | 31.1% | 68.9% | 100.0% | |
| | 300万円未満 | 度数 | 205 | 400 | 605 | |
| | | % | 33.9% | 66.1% | 100.0% | |
| | 300万円～600万円未満 | 度数 | 271 | 631 | 902 | |
| | | % | 30.0% | 70.0% | 100.0% | |
| | 600万円～900万円未満 | 度数 | 125 | 369 | 494 | |
| | | % | 25.3% | 74.7% | 100.0% | |
| | 900万円～1200万円未満 | 度数 | 63 | 204 | 267 | |
| | | % | 23.6% | 76.4% | 100.0% | |
| | 1200万円～1500万円未満 | 度数 | 19 | 46 | 65 | |
| | | % | 29.2% | 70.8% | 100.0% | |
| | 1500万円以上 | 度数 | 7 | 48 | 55 | |
| | | % | 12.7% | 87.3% | 100.0% | |
| | 合計 | | 度数 | 704 | 1729 | 2433 |
| | | | % | 28.9% | 71.1% | 100.0% |

P=0.001 ∴有意水準 1%で統計的に有意

「住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。」との関連は P=0.335 で統計的に有意と言える階層意識との関連は見られなかった。

社会階層の指標に階層意識を用いると、仮説②は棄却され、仮説③は成立する結果となった。世帯年収が 300 万円未満の人は他の年収区分の人よりも、自治体の行政を評価する割合が高く、評価しない割合が低い。それに対して世帯収入 1500 万円以上の人は他の年収区分の人よりも、自治体の行政を評価する割合が低く、評価しない割合が高い。社会階層の指標に世帯年収を用いると、仮説②が支持され、仮説③は棄却される結果となった。

「地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。」との関連は P=0.153、「地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。」との関連は P=0.733 で統計的に有意と言える世帯収入との関連は見られなかった。

図表 11-17 学歴と地域課題に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|----|---------------|----|------------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 学歴 | 中学校卒業 | 度数 | 115 | 123 | 238 |
| | | % | 48.3% | 51.7% | 100.0% |
| | 高校卒業 | 度数 | 430 | 629 | 1059 |
| | | % | 40.6% | 59.4% | 100.0% |
| | 短期大学・高等専門学校卒業 | 度数 | 210 | 360 | 570 |
| | | % | 36.8% | 63.2% | 100.0% |
| | 大学以上卒業 | 度数 | 272 | 393 | 665 |
| | | % | 40.9% | 59.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 1027 | 1505 | 2532 |
| | | % | 40.6% | 59.4% | 100.0% |

P=0.026 ∴有意水準5%で統計的に有意

中学校が最終学歴である人は行政を評価する割合が他の学歴区分より高かった。中学校が最終学歴と答えた人は高齢者が多いのではないかと。これに対して、短期大学・高等専門学校が最終学歴と答えた人は行政を評価しない割合が高かった。大学が最終学歴の人々より所得などの待遇が低いため、より行政のサポートを必要としていると考えられる。

図表 11-18 学歴と自治体行政に対する住民の意見・希望反映への評価とのクロス表

| | | | 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | | 合計 |
|----|---------------|----|------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 学歴 | 中学校卒業 | 度数 | 107 | 128 | 235 |
| | | % | 45.5% | 54.5% | 100.0% |
| | 高校卒業 | 度数 | 345 | 713 | 1058 |
| | | % | 32.6% | 67.4% | 100.0% |
| | 短期大学・高等専門学校卒業 | 度数 | 138 | 429 | 567 |
| | | % | 24.3% | 75.7% | 100.0% |
| | 大学以上卒業 | 度数 | 155 | 510 | 665 |
| | | % | 23.3% | 76.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 745 | 1780 | 2525 |
| | | % | 29.5% | 70.5% | 100.0% |

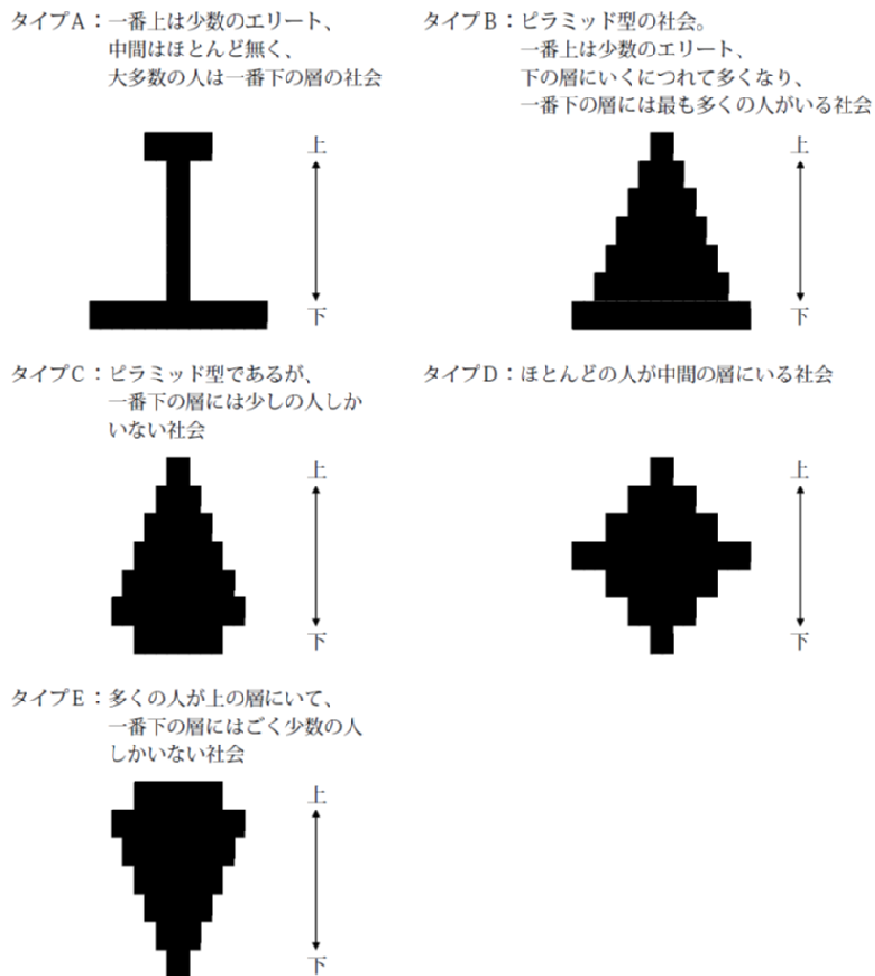
P=0.00 ∴有意水準1%未満で統計的に有意

中学校が最終学歴である人は行政を評価する割合が他の学歴区分より高いという傾向はこの表でも見られる。最終学歴が上がるほど、自治体の行政を評価しない割合が高くなっている。社会階層の指標に学歴を用いると、仮説③は棄却される結果となった。

「地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。」との関連は P=0.857 で統計的に有意と言える学歴との関連は見られなかった。

6. 仮説④「現在の日本社会は平等と考えている人々は行政を評価する傾向がある」の検証

図表 11-19 日本社会のタイプ



図表 11-20 現在の日本社会タイプと地域課題に対する行政への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|-------------------------|-------|----|------------------------------------|-------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 現在の日本の社会はどのタイプに近いと思いますか | タイプA | 度数 | 76 | 165 | 241 |
| | | % | 31.5% | 68.5% | 100.0% |
| | タイプB | 度数 | 346 | 546 | 892 |
| | | % | 38.8% | 61.2% | 100.0% |
| | タイプC | 度数 | 294 | 381 | 675 |
| | | % | 43.6% | 56.4% | 100.0% |
| | タイプD | 度数 | 239 | 306 | 545 |
| | | % | 43.9% | 56.1% | 100.0% |
| | タイプE | 度数 | 40 | 59 | 99 |
| | | % | 40.4% | 59.6% | 100.0% |
| | わからない | 度数 | 33 | 46 | 79 |
| | | % | 41.8% | 58.2% | 100.0% |
| | 合計 | 度数 | 1028 | 1503 | 2531 |
| | | % | 40.6% | 59.4% | 100.0% |

P=0.014 ∴有意水準 5%で統計的に有意

図表 11-21 現在の日本社会タイプと地域課題に対する自治会・町内会への評価とのクロス表

| | | | 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | | 合計 |
|-------------------------|------|-------|--|--------|--------|
| | | | はい | いいえ | |
| 現在の日本の社会はどのタイプに近いと思いますか | タイプA | 度数 | 88 | 152 | 240 |
| | | % | 36.7% | 63.3% | 100.0% |
| | タイプB | 度数 | 413 | 476 | 889 |
| | | % | 46.5% | 53.5% | 100.0% |
| | タイプC | 度数 | 323 | 352 | 675 |
| | | % | 47.9% | 52.1% | 100.0% |
| | タイプD | 度数 | 269 | 275 | 544 |
| | | % | 49.4% | 50.6% | 100.0% |
| | タイプE | 度数 | 45 | 52 | 97 |
| | | % | 46.4% | 53.6% | 100.0% |
| わからない | 度数 | 37 | 44 | 81 | |
| | % | 45.7% | 54.3% | 100.0% | |
| 合計 | | 度数 | 1175 | 1351 | 2526 |
| | | % | 46.5% | 53.5% | 100.0% |

P=0.038 ∴有意水準 5%で統計的に有意

「行政」に対しても、「自治会・町内会」に対しても、現在の日本社会はタイプ A(不平等、最も格差が大きい)と回答した人は評価しない割合が高い。また、タイプ Cか D(格差小さめ)と回答した人は評価する割合が他のタイプを回答した人よりはやや高い。現在の日本社会は不平等と考えている人は行政や自治会・町内会のサポートが不十分と感じていて、現在の日本社会は平等と考えている人はサポートが足りていると感じている傾向がある。

「住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。」との関連は P=0.101 で統計的に有意と言える社会のタイプの意識との関連は見られなかった。

7. 行政を評価する人はマイノリティへの福祉政策に賛成するか

これまでに、人々の行政に対する評価を左右する要因として、一般的他者信頼に代表される社会関係資本と、社会階層や社会の不平等に関する主観的イメージとの間に、どのような関係が見られるか、分析結果にもとづき考察してきた。本節では、最後に、人々の行政評価の意識が、マイノリティを対象とする福祉政策への意識にどのように波及していくのかについて、考える。

はじめに、クロス集計表を用いて、行政が地域の課題について誠実に取り組んでいると考えているかどうかと、福祉サービスの民営化に対する賛否との関係についてみてみた。分析の結果、5%水準で有意差が認められた。両者の関係のあり方をみると、行政への信頼度の低い人ほど、民営化に賛成する傾向が見られた。行政が地域の課題に取り組んでいるという設問に「そう思わない」と回答する人で、公的サービスの民営化に賛成する人は、13%だが、行政が地域の課題に取り組んでいるという設問に「そう思う」と回答する人で、民営化に賛成する人は、9%と4ポイント低下している。

図表 11-22 地域課題に対する行政への評価と公的サービス民営化の是非とのクロス表

| | | | 国や自治体が行ってきた公的サービスは、できるだけ民間企業に任せる方がよい | | | | | 合計 | |
|------------------------------------|-----|---------|--------------------------------------|--------------|--------------|----------------|--------------|----------------|----------------|
| | | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらとも言えない | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | | |
| 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | はい | 度数 % | 95 9.3% | 225 22.0% | 449 43.8% | 142 13.9% | 113 11.0% | 1024 100.0% | |
| | いいえ | 度数 % | 197 13.2% | 310 20.8% | 643 43.1% | 179 12.0% | 163 10.9% | 1492 100.0% | |
| 合計 | | | 度数 % | 292 11.6% | 535 21.3% | 1092 43.4% | 321 12.8% | 276 11.0% | 2516 100.0% |

P=0.037 ∴有意水準5%で統計的に有意

図表 11-23

自治体行政に対する住民の意見・希望反映への評価と公的サービス民営化の是非とのクロス表

| | | | 国や自治体が行ってきた公的サービスは、できるだけ民間企業に任せる方がよい | | | | | 合計 | |
|------------------------------|-----|---------|--------------------------------------|--------------|--------------|----------------|--------------|----------------|----------------|
| | | | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらとも言えない | どちらかといえばそう思わない | そう思わない | | |
| 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | はい | 度数 % | 78 10.6% | 179 24.3% | 328 44.6% | 81 11.0% | 70 9.5% | 736 100.0% | |
| | いいえ | 度数 % | 215 12.1% | 354 19.9% | 759 42.8% | 238 13.4% | 209 11.8% | 1775 100.0% | |
| 合計 | | | 度数 % | 293 11.7% | 533 21.2% | 1087 43.3% | 319 12.7% | 279 11.1% | 2511 100.0% |

P=0.028 ∴有意水準5%で統計的に有意

「住民の意見や希望は、自治体行政にかなり反映されている」という設問でも、同様の傾向が認められる。その差はそれほど大きくはないものの、行政への信頼度が高い人ほど、公的サービスの民営化という政策には反対する傾向が見られる。

8. 結論

本章では、どのような人々が行政を信頼しているのか、またどのような人々が行政を信頼していないのかについて、さらに、行政に対する信頼や不信感が、他の福祉政策への賛否にどのように波及していくのかについて考察してきた。社会関係資本、不平等イメージについては、おおむね仮説の予測と合致する結果が得られた。すなわち、一般的な他者への信頼感の高い人ほど、社会を平等なものにとらえているほど、行政への評価も高い傾向が見られた。また、行政への評価の高さは、公的サービスの民営化に対しても批判的な考えに結びつくことが分かった。

一貫した分析結果が得られなかった項目は、社会階層と行政評価との関係であった。階層帰属意識については、自己の所属階層を下と回答する人の方が、中と回答する人よりも、行政への評価が低くなる傾向が見られた。しかし、学歴については、学歴が中卒とくらべて高卒や大卒で、行政への評価が低くなる傾向が見られた。中卒者でとくに、行政への評価が高かったのは、もしかしたら、年齢の要素が混在した結果生じていたのかもしれない。実際に、年齢と行政への評価との関係を見たところ、様々な福祉サービスの提供を受ける70代から80代以上の高齢者で、特

に行政への評価が高かったからである。世帯収入についても、高齢者の多くは年金によって生活しているため、世帯収入は他の年齢層と比べて低いだろう。世帯収入でも、収入の高い者ほど行政を評価しない傾向が見られたのは、高齢者が世帯収入という点で、低い層に集中した結果生じた疑似的な関係にすぎないのかもしれない。

いずれにせよ、今後、行政が差別や不平等問題に取り組む上で、行政に対する評価や信頼感を高めていくことは重要なことである。市民が公的サービスの民営化を望むほど、公的セクターの範囲は小さくなり、より市場メカニズムに依拠した福祉サービスの提供が図られるようになっていくことだろう。その結果、行政は今以上に、差別や不平等問題に取り組むのは困難なものとなっていく。行政に対する評価、信頼は、社会関係資本とも密接な結びつきがあることが、本章の分析からも明らかになった。地域の課題に誠実に取り組みつつ、地域の人間関係をいかに豊かなものにしていくかは、今後の行政の施策にも大きなインパクトを及ぼすことであろう。

第 12 章 同和問題と人権意識

1. はじめに

今回、千葉県の三市町（松戸市、香取市、酒々井町）で行われた「人権問題に関する市民意識調査」の結果を元に、本章では同和問題を主なトピックとして取り上げる。

同和問題に対する差別意識は、江戸時代から連綿と続くものであり、今なお地域に根付いた差別があるということが現状であり問題としてある。もともと同和地区の居住者に対する差別意識は「穢れ」を嫌う日本古来の宗教的な思想が根本にあり、行政への信頼感等の要素との関連があるかは正直わからない部分もある。とはいえ、同和問題については、これまでの調査研究によって蓄積のある分野でもある。偏見、ステレオタイプに基づくネガティブ・イメージ、同和地区出身者との直接的な交流、接触、同和問題の学習経験など、同和問題についての意識を左右する重要な要因が、これまでも指摘されてきた。今回の調査では、社会関係資本と不平等、差別との関係を重視する調査設計を採用している。そこで、今回の調査における同和問題に関する人々の意識の規定要因を探るとき、様々な次元で測定される地域の社会関係資本が、同和問題に関する人々の認識にどのような影響を及ぼしているのかについての分析を、本章における主たる検討課題として設定する。

以下では、調査票の設問を元に立てた 4 つの仮説を提示したあと、利用する設問の単純集計を図表で示し、それぞれの仮説について該当する設問の結果を利用しながら分析、考察を進めていきたい。

2. 仮説

ここでは 4 つの仮説を提示する。また、それぞれの仮説について該当する設問についても軽く述べた。なお、各仮説は差別意識の有無を検証するものとなっているが、その際に利用する設問の候補として調査票の問 29（結婚差別についての意識を問う設問）と問 30（居住地差別についての意識を問う設問）の二つが挙げられるが、この両方を利用して分析、考察を行うこととする。

仮説①【地区間】

同和地区のある地域（香取市、酒々井町）は同和地区のない地域（松戸市）に比べて、差別意識が低い人が多い。

この仮説では、調査票の問 41（居住地を聞く設問）を利用し、地区間での差別意識の違いを検討する。この仮説の根拠としては、同和地区のある地域では、同和教育をより多く行っているのではないかという推測されることと、また実際に同和地区に住む人々との交流を通じて、漠然とした同和地区への差別意識が払拭され、人付き合いのレベルまで認識が落とし込まれていることが予想されることがある。

仮説②【行政の働きかけ】

行政による「同和問題に関する周知活動」を通じて同和問題を知った人は、そうでない媒体を通して同和問題を知った人に比べて、差別意識が低い。

この仮説では、調査票の問 27（同和問題を知ったきっかけを聞く設問）を利用し、それぞれの媒体による差別意識の違いを検討する。この仮説の根拠は、家庭や学校の授業、職場や各種メディアを通じた情報には、程度の違いはあれ、その媒体に関わった人の私情や個人的な同和問題への差別意識が含まれ、正しい差別に対する知識が伝わらない可能性があると考え、それに対して行政による情報はもともと私的な差別意識が含まれてはいけない性質のものであるため、正しい知識が伝わると予想される。

仮説③【教育】

同和問題に関する教育、または一般的に教育を受けている人ほど、差別意識が低い。

この仮説では、調査票の問 26（同和問題の知識程度を聞く設問）、問 28（同和教育の回数を聞く設問）、問 44（最終学歴）を利用し、それぞれ程度、回数、最終学歴による差別意識の違いを検討する。この仮説の根拠は、正しい同和問題の知識が教育によって伝えられていると予想されるということである。

仮説④【地域への関わり】

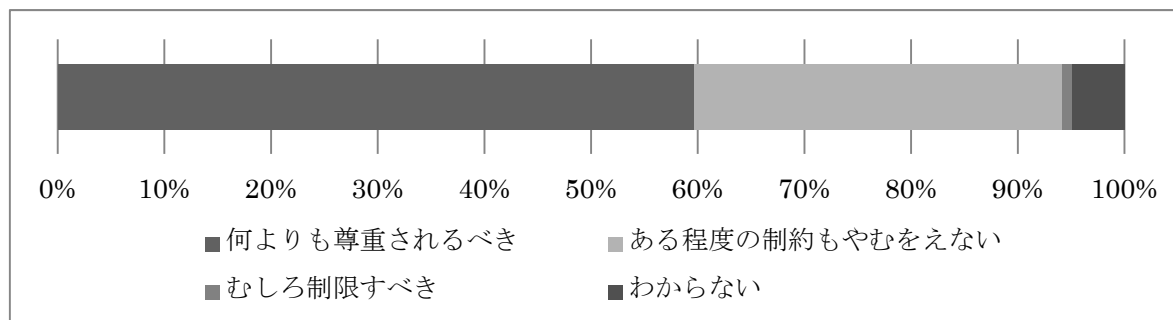
地域活動への関わりが多い人ほど、差別意識が低い。

この仮説では、調査票の問 9（地域活動の参加程度を聞く設問）、問 25（同和地区の人との関わりを聞く設問）を利用し、地域活動への参加、また同和地区の人との関わり度合いによる差別意識の違いを検討する。この仮説の根拠は、まず地域活動に参加する中で同和地区の人々との関わりを持つ機会があるだろうと推測されることと、同和地区の人々と実際に関わりを持つことで漠然とした差別意識は払拭されると予想されるということである。

以上 4 つの仮説について分析・考察を行う。

3. 利用する設問の単純集計結果

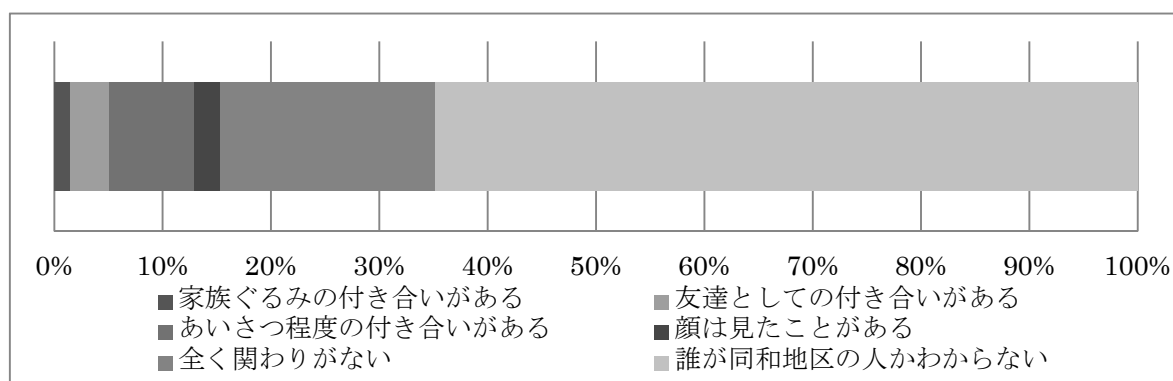
図表 12-1 問 2 人権についての意識の単純集計



まず、人権問題全般に関する人々の意識についてみてみよう。この設問は、人権について回答者がどのように考えているのかをたずねたものである。全体では、およそ 6 割の回答者が、一人ひとりの人権は何よりも尊重されるべきという考え、およそ 3 分の 1 の回答者は、ある程度の制

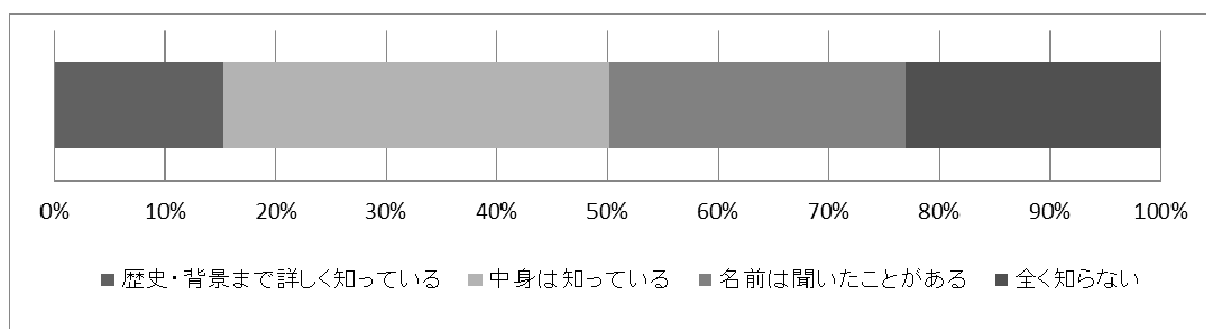
約もやむを得ないと考えている。

図表 12-2 問 25 同和地区の人々との付き合いについての単純集計



次に、回答者の具体的な同和地区の人々との付き合いについてたずねた設問の回答結果についてみてみたい。誰が同和地区の人かわからないという回答が最も多く、回答者のおよそ 3 分の 2 がそのように答えている。対象者のおよそ 2 割も、まったく関わりがないと回答する。そのため、対象者の 85% が、同和地区の人となんら接点がないということになる。他方で、接点がある人については、具体的にどのような付き合いがあるのだろうか。顔は見たことがあるという回答は、全体の 2.4%、あいさつ程度の付き合いがあるは、7.8%であった。友達としての付き合いがあるは 3.6%、家族ぐるみの付き合いがあるは、1.5%であった。

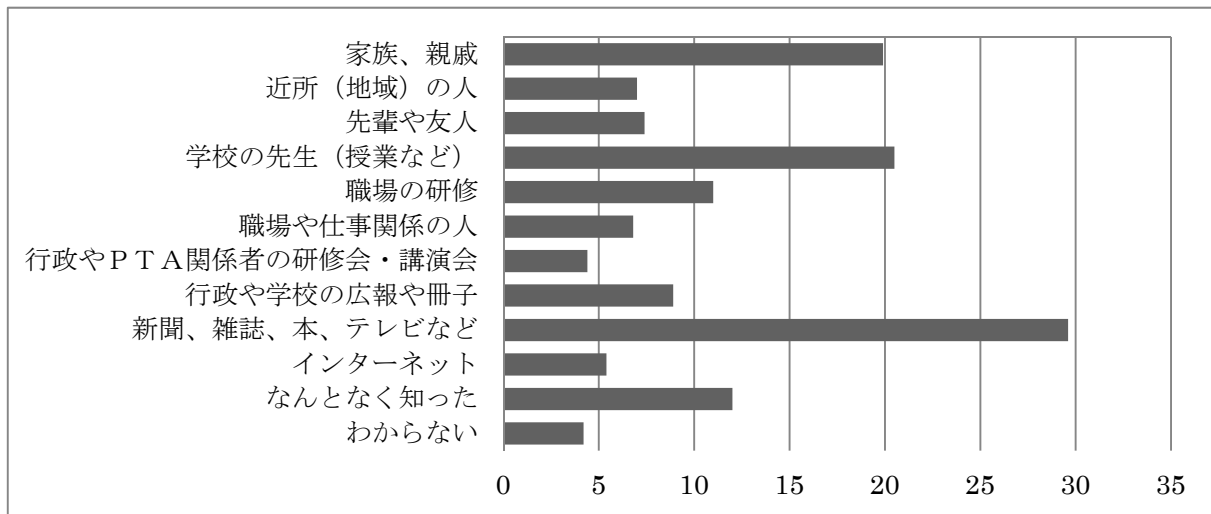
図表 12-3 問 26 同和問題の知識程度の単純集計



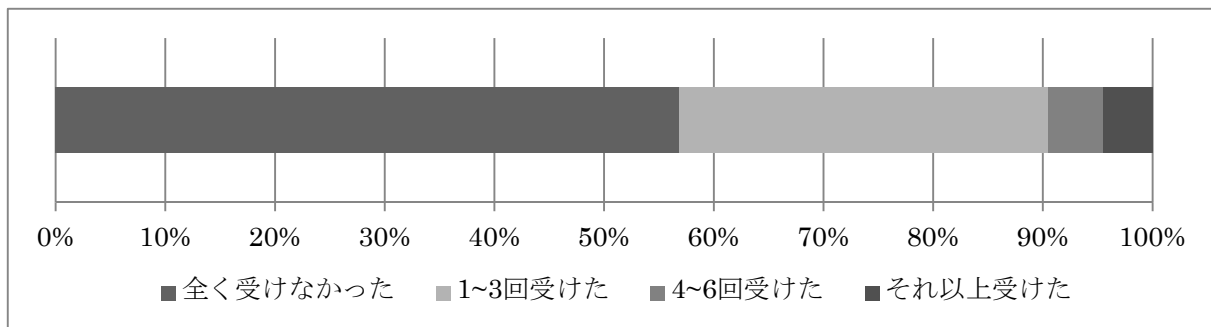
同和問題の知識程度についてたずねた集計結果を見てみよう。中身は知っているという回答が最も多く 34.8%、名前は聞いたことがあるが 26.8%、まったく知らないが 23.1%であった。歴史、背景まで詳しく知っているが 15.3%であった。

次に、同和問題の認知経路についての結果についてみてみよう。同和問題をどのような形で知ったのかについて、最も多いのが、新聞、雑誌、本、テレビなどといったマス・メディアを通してであり、およそ 3 割の回答者が選択していた。次いで多いのが、学校の先生や学校での授業を通してであり、回答者の 2 割がそのように回答する。同様に、回答者の 2 割は、家族親戚を通じて、同和問題について知ったと答えている。認知経路が明確でない、「なんとなく知った」という回答も 12%程度見られ、対照的に職場の研修を通じてという回答も 11%であった。

図表 12-4 問 27 同和問題を誰から（何によって）知ったかの単純集計

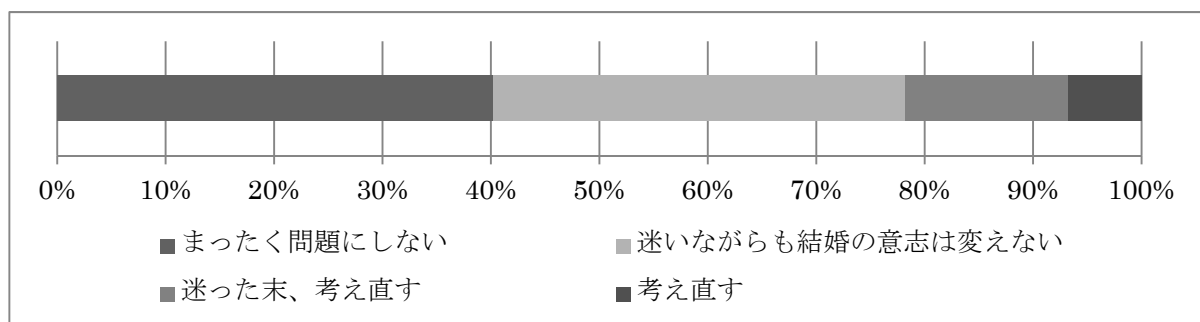


図表 12-5 問 28 学校で同和教育をどの程度受けたかの単純集計



学校でどの程度同和教育を受けたかについての回答結果をしてみる。まったく受けなかったという回答が最も多く、全体の 57%であった。受けたことがあるという回答の中では、34%が「1から3回」、5%が「4から6回」、4.5%が「それ以上受けた」と回答する。

図表 12-6 問 29 結婚相手が同和地区出身だった場合の対応の単純集計

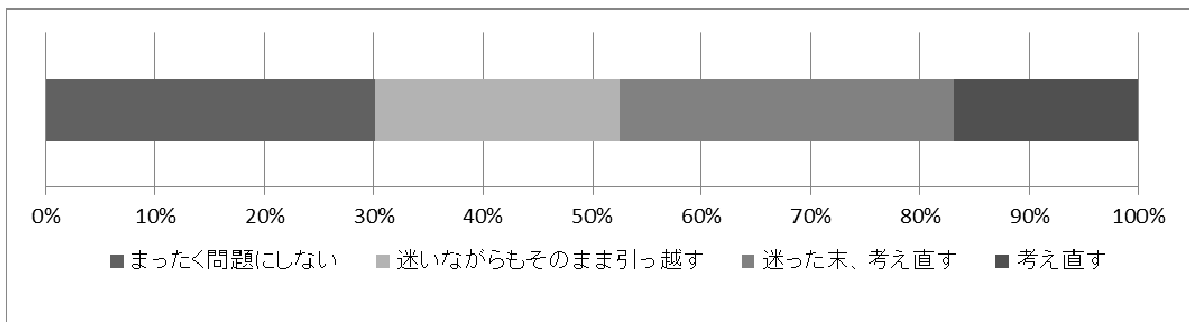


次に、回答者自身の結婚相手が同和地区出身だった時の対応と自分の転居先が同和地区であった場合の対応についてそれぞれ、結果を概観しよう。結婚相手が同和地区出身であった場合の対応では、まったく問題にしないがもっとも多く、対象者の 4 割がそのように答える。また、同様に対象者の 4 割弱は、迷いながらも結婚の意志は変えないと答えている。他方で、対象者の 15%

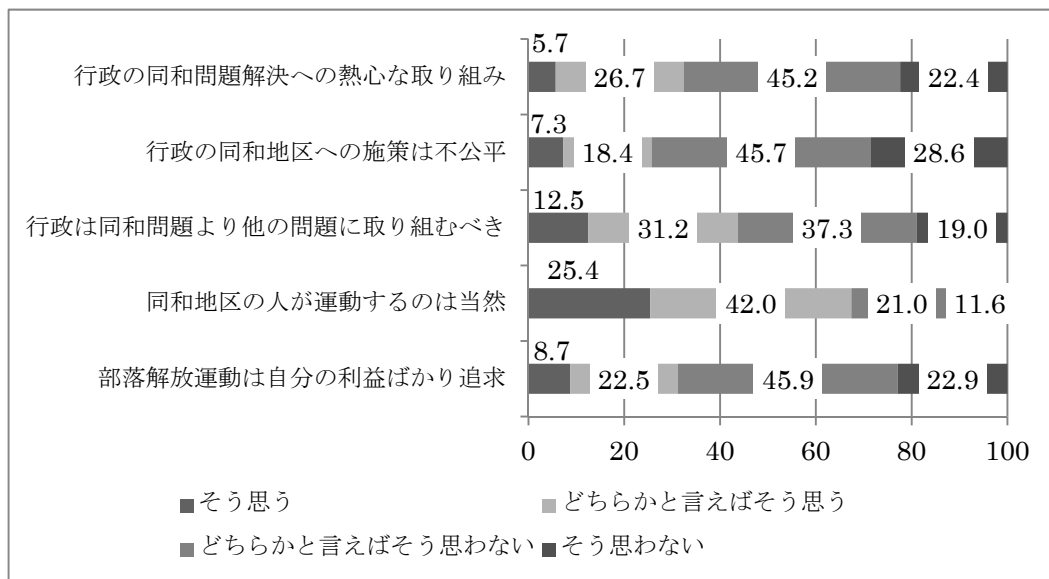
は「迷った末、考え直す」と答え、6.8%も「考え直す」と回答する。

結婚時の対応に対して、転居先が同和地区であった場合の対応については、どうであろうか。結婚相手と比較して、「まったく問題にしない」は回答者の3割と、結婚相手の時よりも1割減少している。迷いながらも引っ越すという回答も22%と、結婚時の対応よりも明らかに減少している。対象者の3割が、「迷った末、考え直す」と答え、対象者の17%も「考え直す」と答えている。このように、転居先が同和地区だった場合の対応については、同和地区出身者との結婚と比べて、明らかにそれを回避しようとする傾向が強いことがわかる。

図表 12-7 問 30 転居先が同和地区だった場合の対応の単純集計



図表 12-8 問 31 同和行政や解放運動への意見の単純集計



同和問題をめぐっての行政の対応や部落解放運動に対する人々の意識について、回答結果をみてる。行政の同和問題に対する対応をめぐっては、「熱心に取り組んでいる」、「同和問題ばかりに取り組む不公平」、「同和問題よりも他の問題に取り組むべき」という3つの設問でたずねている。「行政は熱心に取り組んでいる」では、回答者の3分の1がそう思う、3分の2がそう思わないと答えた。行政の取り組みの不公平感については、4分の1がそう思う、4分の3がそう思わないとなった。一般の市民から見て、回答者の半数以上は、行政は同和問題にそれほど熱心に取り組んでいるようには見えず、同和問題ばかりに熱心に取り組む不公平であるとは考えていない。行政は、同和問題よりも他の人権問題に取り組むべきについては、回答者のおよそ4割がそう思

う、6割がそう思わないと考えていた。

部落解放運動への賛否については、賛成の意見と反対の意見という2つの設問でたずねた。同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは当然であるでは、そう思うが回答者の3分の2をしめ、3分の1がそう思わないと答える。「部落解放運動は自分の利益ばかりを追求」では、先ほどの回答と同様の傾向がみられ、3分の1がそう思う、3分の2がそう思わないと答えた。

4. 仮説の検証

(1) 仮説①【地区間】

同和地区のある地域（香取市、酒々井町）は同和地区のない地域（松戸市）に比べて、差別意識が低い人が多いという仮説について、クロス集計を用いて検証する。

図表 12-9 問 41（居住地を聞く設問）と問 29 とのクロス表

現在の居住地と差別意識（結婚）の関係

| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | 合計 |
|--------|------|-------|-----------------|----------------|--------------|--------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 現在の居住地 | 松戸市 | 度数 | 421 | 429 | 169 | 68 | 1087 |
| | | % | 38.7% | 39.5% | 15.5% | 6.3% | 100.0% |
| | 香取市 | 度数 | 223 | 221 | 77 | 46 | 567 |
| | | % | 39.3% | 39.0% | 13.6% | 8.1% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 217 | 170 | 72 | 27 | 486 |
| | | % | 44.7% | 35.0% | 14.8% | 5.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 861 | 820 | 318 | 141 | 2140 | |
| | % | 40.2% | 38.3% | 14.9% | 6.6% | 100.0% | |

P<.10

図表 12-10 問 41（居住地を聞く設問）と問 30 とのクロス表

現在の居住地と差別意識（転居先）の関係

| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 |
|--------|------|-------|--------------|----------------|--------------|--------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志を 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 現在の居住地 | 松戸市 | 度数 | 301 | 237 | 346 | 202 | 1086 |
| | | % | 27.7% | 21.8% | 31.9% | 18.6% | 100.0% |
| | 香取市 | 度数 | 174 | 132 | 169 | 85 | 560 |
| | | % | 31.1% | 23.6% | 30.2% | 15.2% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 171 | 110 | 137 | 69 | 487 |
| | | % | 35.1% | 22.6% | 28.1% | 14.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 646 | 479 | 652 | 356 | 2133 | |
| | % | 30.3% | 22.5% | 30.6% | 16.7% | 100.0% | |

P<.05

現在の居住地と結婚時の対応との関係についてみたクロス表からは、わずかな差ではあるもの

の、「問題にしない」「迷うが意志は変えない」の合計を比較すると、仮説どおりに松戸市よりも香取市・酒々井町のほうが、割合が高い。

さらに、現在の居住地と転居先が同和地区であると分かったときの対応との関係について、クロス集計を行ったところ、結婚時の対応よりもさらに大きな相違があることが分かった。「問題にしない」の割合は、松戸市で最も低く、ついで香取市、酒々井町の順に高くなっていた。

(2) 仮説②【行政の働きかけ】

『行政による「同和問題に関する周知活動」を通じて同和問題を知った人は、そうでない媒体を通して同和問題を知った人に比べて、差別意識が低い』という仮説について以下検証する。

この仮説を検証するにあたり、複数の選択肢がある問 27 の中から、1) 家族、親戚、4) 学校の先生（授業など）、7) 行政やPTA 関係者の研修会、講演会、8) 行政や学校の広報や冊子、9) 新聞、雑誌、本、テレビなど、を抜粋して利用することとした。これは、行政とそれぞれ違う媒体の比較をしやすくするためのものである。

図表 12-11 問 27（同和問題を知ったきっかけを聞く設問）と問 29 のクロス表

| | | | 同和問題の情報元と差別意識（結婚）の関係 | | | | 合計 |
|-----------------------|------------------------|-------|----------------------|----------------|--------------|--------|--------|
| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | |
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 同和問題の 情報元 | 家族、親戚 | 度数 | 173 | 197 | 92 | 46 | 508 |
| | | % | 34.1% | 38.8% | 18.1% | 9.1% | 100.0% |
| | 学校の先生 （授業など） | 度数 | 227 | 222 | 67 | 14 | 530 |
| | | % | 42.8% | 41.9% | 12.6% | 2.6% | 100.0% |
| | 行政やPTA 関係者の 研修会・講演会 | 度数 | 36 | 53 | 18 | 4 | 111 |
| | | % | 32.4% | 47.7% | 16.2% | 3.6% | 100.0% |
| 行政や学校の 広報や冊子 | 度数 | 100 | 92 | 29 | 6 | 227 | |
| | % | 44.1% | 40.5% | 12.8% | 2.6% | 100.0% | |
| 新聞、本、雑誌、 インターネットなど | 度数 | 294 | 317 | 100 | 42 | 753 | |
| | % | 39.0% | 42.1% | 13.3% | 5.6% | 100.0% | |

このクロス表からは、仮説どおり行政による周知活動を選んでいる人の「問題にしない」「迷うが意志は変えない」の割合は、他の媒体よりも高いことがわかる。また、同じく公共性がある程度あるであろう「学校の先生（授業など）」を選んだ人も差別意識の低さが見られた。他方で、家族・親戚を通じて同和問題を知った人については、「問題にしない」の割合は 34%とやや低い。「行政やPTA 関係者の研修会・講演会」を選んだ人についても、32%と低くなっている。

同和問題の認知経路別に、転居先が同和地区であった時の対応について、「問題にしない」の割合を比較してみよう。

図表 12-12 問 27（同和問題を知ったきっかけを聞く設問）と問 30 のクロス表

| | | | 同和問題の情報元と差別意識（転居先）の関係 | | | | 合計 |
|-------------------|--------------------|-------|-----------------------|------------|----------|--------|--------|
| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | |
| | | | 問題にしない | 迷うが意志を変えない | 迷った末考え直す | 考え直す | |
| 同和問題の情報元 | 家族、親戚 | 度数 | 132 | 119 | 147 | 109 | 507 |
| | | % | 26.0% | 23.5% | 29.0% | 21.5% | 100.0% |
| | 学校の先生（授業など） | 度数 | 146 | 132 | 172 | 79 | 529 |
| | | % | 27.6% | 25.0% | 32.5% | 14.9% | 100.0% |
| | 行政やPTA 関係者の研修会・講演会 | 度数 | 38 | 26 | 35 | 11 | 110 |
| | | % | 34.5% | 23.6% | 31.8% | 10.0% | 100.0% |
| 行政や学校の広報や冊子 | 度数 | 78 | 62 | 64 | 23 | 227 | |
| | % | 34.4% | 27.3% | 28.2% | 10.1% | 100.0% | |
| 新聞、本、雑誌、インターネットなど | 度数 | 220 | 180 | 237 | 116 | 753 | |
| | % | 29.2% | 23.9% | 31.5% | 15.4% | 100.0% | |

このクロス表では、行政や PTA 関係者の研修会・講習会、行政や学校の広報や冊子を通じて、同和問題を知った人ほど、転居先が同和地区であってもそれを問題にしないと考える人が多い。対照的に、家族・親戚を通じて同和問題を知った人ほど、転居先が同和地区であっても問題にしないと答える人が、相対的に少ないことが分かった。

（3）仮説③【教育】

「同和問題に関する教育、または一般的に教育を受けている人ほど、差別意識が低い」という仮説について、以下では見ていこう。

図表 12-13 問 26（同和問題の知識程度を聞く設問）と問 29 のクロス表

| | | | 同和問題の知識程度と差別意識（結婚）の関係 | | | | 合計 |
|-----------|-----------------|-------|-----------------------|------------|----------|--------|--------|
| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | |
| | | | 問題にしない | 迷うが意志を変えない | 迷った末考え直す | 考え直す | |
| 同和問題の知識程度 | 歴史・背景まで詳しく知っている | 度数 | 190 | 126 | 35 | 31 | 382 |
| | | % | 49.7% | 33.0% | 9.2% | 8.1% | 100.0% |
| | 中身は知っている | 度数 | 322 | 364 | 143 | 42 | 871 |
| | | % | 37.0% | 41.8% | 16.4% | 4.8% | 100.0% |
| | 名前は聞いたことがある | 度数 | 232 | 272 | 107 | 39 | 650 |
| | | % | 35.7% | 41.8% | 16.5% | 6.0% | 100.0% |
| | 全く知らない | 度数 | 123 | 59 | 38 | 33 | 253 |
| | | % | 48.6% | 23.3% | 15.0% | 13.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 867 | 821 | 323 | 145 | 2156 | |
| | % | 40.2% | 38.1% | 15.0% | 6.7% | 100.0% | |

P<.01

このクロス表から、仮説どおり「歴史・背景まで詳しく知っている」と答えた人、つまり同和教育についての知識が多い人ほど「問題にしない」「迷うが意志を変えない」を選んでいる人が多いことがわかる。他方で、「中身は知っている」、「名前は聞いたことがある」というだけの人は、「問題にしない」という回答は、相対的に少ない。「全く知らない」という人の場合、およそ回答者の半数が「問題にしない」という回答している。これは、同和問題のことをまったく知らない

からこそ、「問題にしない」という回答をしているのだと思われる。他方で、「迷った末考え直す」、「考え直す」を合計した比率では、「全く知らない」という回答が、他よりも最も多くなっている。

図表 12-14 問 26（同和問題の知識程度を聞く設問）と問 30 のクロス表

同和問題の知識程度と差別意識（転居先）の関係

| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 |
|-----------|-----------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は変えない | 迷った末考え直す | 考え直す | |
| 同和問題の知識程度 | 歴史・背景まで詳しく知っている | 度数 q26 の % | 155 40.7% | 71 18.6% | 91 23.9% | 64 16.8% | 381 100.0% |
| | 中身は知っている | 度数 q26 の % | 230 26.5% | 206 23.8% | 293 33.8% | 138 15.9% | 867 100.0% |
| | 名前は聞いたことがある | 度数 q26 の % | 160 24.6% | 165 25.4% | 218 33.5% | 107 16.5% | 650 100.0% |
| | 全く知らない | 度数 q26 の % | 103 40.9% | 39 15.5% | 57 22.6% | 53 21.0% | 252 100.0% |
| 合計 | | 度数 q26 の % | 648 30.1% | 481 22.4% | 659 30.7% | 362 16.8% | 2150 100.0% |

P<.01

このクロス表から、仮説どおりに同和問題の知識が多い人ほど差別意識の低さが伺える。また、ここで前項よりも如実に現れているのが、同和問題について「全く知らない」と答えた人の「問題にしない」「迷うが意志は変えない」の回答割合の高さである。この理由については、そもそも同和問題について知らないということは差別意識も持たないのではないか、ということが推測される。しかしその一方で、「考え直す」と回答した人の割合も高くなっており、同和問題についての知識をもたないことで、社会の中に流通する漠然としたネガティブ・イメージにもとづき、全く知らないことで、いるので解釈が難しい部分である。

図表 12-15 問 28（同和教育の回数を聞く設問）と問 29 のクロス表

同和教育を受けた回数と差別意識（結婚）の関係

| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | 合計 |
|------------|----------|---------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|----------------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は変えない | 迷った末考え直す | 考え直す | |
| 同和教育を受けた回数 | 全く受けなかった | 度数 q28 の % | 476 39.7% | 429 35.8% | 184 15.3% | 110 9.2% | 1199 100.0% |
| | 1~3回受けた | 度数 q28 の % | 277 37.8% | 318 43.4% | 112 15.3% | 25 3.4% | 732 100.0% |
| | 4~6回受けた | 度数 q28 の % | 56 51.9% | 37 34.3% | 12 11.1% | 3 2.8% | 108 100.0% |
| | それ以上受けた | 度数 q28 の % | 50 50.5% | 30 30.3% | 13 13.1% | 6 6.1% | 99 100.0% |
| 合計 | | 度数 q28 の % | 859 40.2% | 814 38.1% | 321 15.0% | 144 6.7% | 2138 100.0% |

P<.01

このクロス表から、同和教育を「4~6 回受けた」あるいは「それ以上受けた」と回答した人の

「問題にしない」「迷うが意志は変えない」の回答割合の高さが見て取れる。結婚相手が同和地区出身であった時の対応について、「問題にしない」という回答は、同和教育を受けたことがない、受けても1から3回程度の場合、4割に達しないが、4回以上受けたという回答では5割を超えている。同様の傾向は、転居先が同和地区であると分かったときの対応についても認められる。同和教育をまったく受けたことがないでは、31%が問題にしないと回答し、1から3回程度受けたことがあるでは、逆に27%まで低下する。4回以上回受けた回答者では、34%が問題にしないと答える。

図表 12-16 問 28（同和教育の回数を聞く設問）と問 30 のクロス表

同和教育を受けた回数と差別意識（転居先）の関係

| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 |
|----------------|----------|---------|--------------|----------------|--------------|-------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 同和教育を 受けた回数 | 全く受けなかった | 度数 | 375 | 255 | 346 | 222 | 1198 |
| | | q28 の % | 31.3% | 21.3% | 28.9% | 18.5% | 100.0% |
| | 1～3回受けた | 度数 | 194 | 168 | 252 | 111 | 725 |
| | | q28 の % | 26.8% | 23.2% | 34.8% | 15.3% | 100.0% |
| | 4～6回受けた | 度数 | 37 | 30 | 31 | 11 | 109 |
| | | q28 の % | 33.9% | 27.5% | 28.4% | 10.1% | 100.0% |
| | それ以上受けた | 度数 | 34 | 25 | 22 | 17 | 98 |
| | | q28 の % | 34.7% | 25.5% | 22.4% | 17.3% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 640 | 478 | 651 | 361 | 2130 |
| | | q28 の % | 30.0% | 22.4% | 30.6% | 16.9% | 100.0% |

P<.05

図表 12-17 問 44（最終学歴）と問 29 のクロス表

最終学歴と差別意識（結婚）の関係

| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | 合計 |
|------|-------|----|-----------------|----------------|--------------|-------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 最終学歴 | 中学校 | 度数 | 89 | 58 | 27 | 23 | 197 |
| | | % | 45.2% | 29.4% | 13.7% | 11.7% | 100.0% |
| | 高校 | 度数 | 336 | 336 | 140 | 59 | 871 |
| | | % | 38.6% | 38.6% | 16.1% | 6.8% | 100.0% |
| | 短大・専門 | 度数 | 159 | 197 | 95 | 28 | 479 |
| | | % | 33.2% | 41.1% | 19.8% | 5.8% | 100.0% |
| | 大学以上 | 度数 | 279 | 231 | 61 | 34 | 605 |
| | | % | 46.1% | 38.2% | 10.1% | 5.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 863 | 822 | 323 | 144 | 2152 |
| | | % | 40.1% | 38.2% | 15.0% | 6.7% | 100.0% |

P<.01

つぎに、学歴と差別意識との関係について、クロス表を用いて考えてみる。「問題にしない」の割合に注目すると、高卒と短大卒で、「問題にしない」という回答が少なく、中卒と大卒以上が多い。高卒、短大卒と比較したときの大卒以上の結果からは、学歴が高いほど、差別意識が低い関係がみられる。とはいえ中卒でも、「問題にしない」という回答が多いのは、年齢や同和教育の経

験といった他の要素が混在した結果生じているのかもしれない。「考え直す」という回答に注目すると、学歴が高いほど、その比率は低下しており、ここからは学歴が高いほど差別意識が低いという関係が明確に見られる。

図表 12-18 問 44（最終学歴）と問 30 のクロス表

最終学歴と差別意識（転居先）の関係

| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 |
|------|-------|----|--------------|----------------|--------------|-------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 最終学歴 | 中学校 | 度数 | 78 | 41 | 45 | 32 | 196 |
| | | % | 39.8% | 20.9% | 23.0% | 16.3% | 100.0% |
| | 高校 | 度数 | 268 | 203 | 252 | 143 | 866 |
| | | % | 30.9% | 23.4% | 29.1% | 16.5% | 100.0% |
| | 短大・専門 | 度数 | 120 | 96 | 171 | 89 | 476 |
| | | % | 25.2% | 20.2% | 35.9% | 18.7% | 100.0% |
| | 大学以上 | 度数 | 178 | 141 | 188 | 100 | 607 |
| | | % | 29.3% | 23.2% | 31.0% | 16.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 644 | 481 | 656 | 364 | 2145 |
| | | % | 30.0% | 22.4% | 30.6% | 17.0% | 100.0% |

P<.01

このクロス表は、仮説では、かえって仮説とは正反対の結果が得られた。すなわち、最終学歴が低い人のほうが、どちらかといえば差別意識が低く、最終学歴が高いほど、同和地区に居住することを避けるという結果が得られた。学歴の高さを階層の高さと読みかえて考えれば、次のことが言えるのかもしれない。同和地区というと貧困や低階層の地区というイメージがある。階層の高い人は、低階層の地区は、子どもたちの低学力や近隣の人々の階層の低さなどを勘案し、階層や暮らし向きという観点からそのような地域に住むことを嫌っているのかもしれない。

(4) 仮説④【地域への関わり】

「地域活動への関わりが多い人ほど、差別意識が低い」という仮説について検討する。

図表 12-19 問 9（地域活動の参加程度を聞く設問）と問 29 のクロス表

自治会等への参加頻度と差別意識（結婚）の関係

| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | 合計 |
|------------------|----------|----|-----------------|----------------|--------------|------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 町内会・自治会 ・区の会合 | よく参加する | 度数 | 117 | 117 | 38 | 20 | 292 |
| | | % | 40.1% | 40.1% | 13.0% | 6.8% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 203 | 228 | 102 | 34 | 567 |
| | | % | 35.8% | 40.2% | 18.0% | 6.0% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 206 | 233 | 96 | 42 | 577 |
| | | % | 35.7% | 40.4% | 16.6% | 7.3% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 341 | 242 | 87 | 51 | 721 |
| | | % | 47.3% | 33.6% | 12.1% | 7.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 867 | 820 | 323 | 147 | 2157 |
| | | % | 40.2% | 38.0% | 15.0% | 6.8% | 100.0% |

P<.01

このクロス表からは、仮説どおり、自治会等への参加頻度が高い人は差別意識が低い、ということに加え、全く参加しない、という人の差別意識の低さも伺える。これは参加頻度の回答割合を見てわかるように、全く参加しない、と回答した人が多数であり、その中でも様々な背景を持った人がそれぞれにいるのではないかと推測される。

図表 12-20 問 9（地域活動の参加程度を聞く設問）と問 30 のクロス表

自治会等と差別意識（転居先）の関係

| | | | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 |
|------------------|----------|-------|--------------|----------------|--------------|--------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 町内会・自治会 ・区の会合 | よく参加する | 度数 | 100 | 58 | 85 | 48 | 291 |
| | | % | 34.4% | 19.9% | 29.2% | 16.5% | 100.0% |
| | ときどき参加する | 度数 | 153 | 127 | 193 | 86 | 559 |
| | | % | 27.4% | 22.7% | 34.5% | 15.4% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 160 | 136 | 189 | 90 | 575 |
| | | % | 27.8% | 23.7% | 32.9% | 15.7% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 233 | 160 | 191 | 139 | 723 |
| | | % | 32.2% | 22.1% | 26.4% | 19.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 646 | 481 | 658 | 363 | 2148 | |
| | % | 30.1% | 22.4% | 30.6% | 16.9% | 100.0% | |

P<.05

このクロス表からは、問 29 とのクロス表と比較するとおおむね仮説どおりの結果が得られている。すなわち、町内会、自治会によく参加する人ほど、問題にしないという回答が最も多く見られている。

図表 12-21 問 25（同和地区の人との関わりを聞く設問）と問 29 のクロス表

同和地区の人との関わりと差別意識（結婚）の関係

| | | | 結婚相手が同和地区出身だったら | | | | 合計 |
|-----------------|----------------|----|-----------------|----------------|--------------|-------|--------|
| | | | 問題にしない | 迷うが意志は 変えない | 迷った末考え 直す | 考え直す | |
| 同和地区の人との 関わり | 家族ぐるみ | 度数 | 19 | 10 | 1 | 1 | 31 |
| | | % | 61.3% | 32.3% | 3.2% | 3.2% | 100.0% |
| | 友達として | 度数 | 32 | 27 | 15 | 6 | 80 |
| | | % | 40.0% | 33.8% | 18.8% | 7.5% | 100.0% |
| | あいさつ程度 | 度数 | 71 | 53 | 19 | 16 | 159 |
| | | % | 44.7% | 33.3% | 11.9% | 10.1% | 100.0% |
| | 顔は見たことがある | 度数 | 15 | 16 | 11 | 13 | 55 |
| | | % | 27.3% | 29.1% | 20.0% | 23.6% | 100.0% |
| | 全く関わりがない | 度数 | 132 | 163 | 85 | 40 | 420 |
| | | % | 31.4% | 38.8% | 20.2% | 9.5% | 100.0% |
| | 誰が同和地区の人かわからない | 度数 | 587 | 545 | 190 | 65 | 1387 |
| | | % | 42.3% | 39.3% | 13.7% | 4.7% | 100.0% |
| | 合計 | 度数 | 856 | 814 | 321 | 141 | 2132 |
| | | % | 40.2% | 38.2% | 15.1% | 6.6% | 100.0% |

P<.01

このクロス表からは、同和地区の人との関わりが深い人は差別意識の低さが伺えるのに加え、「誰が同和地区の人かわからない」と回答した人も比較的差別意識が低いと言える。これは、そもそもの同和問題への関心の低さが原因として推測される。

図表 12-22 問 25（同和地区の人との関わりを聞く設問）と問 30 のクロス表

同和地区の人との関わりと差別意識（転居先）の関係

| | 転居先が同和地区だったら | | | | 合計 | |
|----------------|--------------|------------|----------|-------|--------|--------|
| | 問題にしない | 迷うが意志は変えない | 迷った末考え直す | 考え直す | | |
| 同和地区の人との関わり | 家族ぐるみ | 度数 15 | 8 | 4 | 2 | 29 |
| | | % 51.7% | 27.6% | 13.8% | 6.9% | 100.0% |
| | 友達として | 度数 30 | 15 | 14 | 21 | 80 |
| | | % 37.5% | 18.8% | 17.5% | 26.3% | 100.0% |
| | あいさつ程度 | 度数 59 | 43 | 35 | 22 | 159 |
| | | % 37.1% | 27.0% | 22.0% | 13.8% | 100.0% |
| | 顔は見たことがある | 度数 10 | 11 | 13 | 20 | 54 |
| | | % 18.5% | 20.4% | 24.1% | 37.0% | 100.0% |
| 全く関わりがない | 度数 90 | 87 | 153 | 89 | 419 | |
| | % 21.5% | 20.8% | 36.5% | 21.2% | 100.0% | |
| 誰が同和地区の人かわからない | 度数 436 | 311 | 435 | 203 | 1385 | |
| | % 31.5% | 22.5% | 31.4% | 14.7% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 640 | 475 | 654 | 357 | 2126 | |
| | % 30.1% | 22.3% | 30.8% | 16.8% | 100.0% | |

P<.01

このクロス表についても、同和地区の人との関わりが深いほど差別意識の低さにつながっている、と言える。

5. 分析のまとめ

今回提示した仮説は、そのほとんどが検証された。全体の傾向としては、同和問題や地域への関心の高さは差別意識の低さにつながる、ということ、しかし関心が低いからといって差別意識が高いわけでもなく、あまり興味がないということなのか、差別意識の低さが伺える設問もいくつか見られた。むしろそれぞれの独立変数の中で、中間の回答をした人の差別意識の高さを感じられる設問もあったことから、同和問題や地域への中途半端な関心、関わりは正しい意識につながらないことが推測される。仮説②の【行政への働きかけ】でも検証されたように、行政や学校などの公的機関による適切な情報の提供は、差別問題解決につながるのではないかと考えられる。

また、分析する上で注目したのは、「図表○ - 18 問 44（最終学歴）と問 30 のクロス表」でも指摘したように、差別意識でも結婚と住居に関するもので差があるということである。単純集計を見ても、結婚に関する差別意識よりも、住居（転居）に関する差別意識は「全く問題にしない」「迷うが意志は変えない」の割合が 2 割程度低くなっている。一般的に見ても、結婚＝個人の関係の変化、住居（転居）＝家族全体の変化、というそれぞれの性質の違いがあり、このような結果が得られたと推測される。

第13章 外国人と人権意識

1. 問題意識

日本社会にとどまらず、多くの先進国では、海外からの移民労働者やその家族を多く受け入れてきた。海外からの移民の受け入れにおいて、最も大きな要因は、受け入れ社会における労働需要をめぐる動向である。日本でも少子化に伴う若年労働力の減少、高学歴化に伴う熟練、非熟練労働に従事する者の減少が生じている。このような人口動態の変化によって、多くの国々では、特定の産業や職種に特化する形で恒常的な労働力不足に直面し、その結果、海外からの移民労働者に依存するという状況が生じている。日本でも、1980年代以降、製造業分野を中心に海外からの移民労働者に労働力を依存するという状況が生じている。さらに日本では、朝鮮半島や台湾における植民地支配によって、戦前から日本に引き続き居住する人たちも多く存在する。

最近の新聞の紙面などでは、介護分野、建設分野などで、恒常的な労働力不足が今後も続くことから、さらなる海外からの移民労働者の受け入れが、政府内部でも検討されている。他方で、海外からの労働者やその家族を受け入れるとき、かれらをどのように日本社会へと受け入れ、社会的に統合、包摂していくのかは、きわめて重要な課題である。草の根レベルで、移民・外国人の受け入れの文脈を左右するものに、地域社会における日本人住民の移民、外国人に対する受け入れをめぐる態度や意識がある。一般の市民が、外国人に対して排斥的、差別的な対応を続ける限り、かれらを地域社会において受け入れることは困難であろう。実際に、戦前から日本に居住するオールドカマーとしての在日コリアンをターゲットとする排外主義的なデモが、近年日本の各地で行われている。また、不動産や就職など、外国人を対象とする差別的な対応が社会の中に存在することも、これまでに指摘されてきた。

先に言及したシティズンシップの考えには、人々が享受すべき、3つの権利があるという。それらは、市民的権利、政治的権利、社会的権利である。政治的権利については、当該国籍を有しない者にどこまでの権利を認めるべきかについて、これまでも多くの議論がなされている。その半面、市民的権利と社会的権利については、国際機関や多くの政府は、内外人平等の原則を採用してきた。日本政府も1980年代以降、こうした立場を踏襲する。すなわち、国家との関係の中で市民が享受すべき自由、社会の中で市民的権利を行使するために必要な財やサービスの提供という点で、国家は、外国人に対し、居住国の国籍をもたないことを理由に、不平等で差別的な取り扱いをしてはならないのである。しかし、実際にはこれに逸脱する事例は、多く存在する。そして、市民社会における人々の偏見、差別は、外国人の市民的、社会的権利を侵害する。社会における移民、外国人の受け入れのあり方は、シティズンシップの議論と大きく結びつくのである。

以下では、日本人住民に対する外国人住民への受け入れをめぐる意識と、それを左右する要因について考察する。

2. 日本人の移民、外国人への意識を左右する要因

本節では、分析に先立ち、日本人の移民、外国人に対する受け入れ／排斥の意識を左右する要

因について、仮説を設定する。大まかには、次の2つである。

第1に、集団脅威仮説にもとづく議論である。この議論は、社会的、経済的に弱い立場に置かれ、マイノリティの存在に脅威を感じる者ほど、移民や外国人に対して差別的、排外的な態度を表明する傾向があるというものである。たとえば、この仮説を用いることで、学歴や職業、収入といった社会階層に関わる要因が、移民・外国人への排外意識にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることができる。経済的にも弱い立場に置かれる人ほど、マイノリティの存在に脅威を感じると仮定すれば、階層的にも弱い立場に置かれる人ほど、移民、外国人の受け入れに反対の意思を表明する傾向にあると予測できる。また、移民・外国人に対する脅威の認知は、地域社会や近隣における移民、外国人の人口規模によっても左右される。外国人の多い地域に居住する人ほど、外国人の存在をより脅威に感じ、その結果、外国人の受け入れに反対するかもしれない。今回の調査対象となった3市町で、各市町の人口規模に対する外国人の人口規模の比率を計算したところ、松戸市で2.2%、酒々井町で1.4%、香取市で0.9%であった。移民を多く受け入れてきたヨーロッパの諸都市とくらべて、著しく外国人人口比率が高いわけではないが、このように地域によって、外国人人口比率に一定の相違があることが分かる。そのため、人口規模の多い松戸市に居住する住民は、他の市町の住民よりも、外国人の存在を脅威に感じ、受け入れに反対するかもしれない。

同様に、集団脅威仮説から派生する仮説に、リスク回避的な考えが、差別を誘発するという議論がある。将来に対する漠然とした不安感が、様々な危険やリスクを回避したいという選好をもたらし、結果として外国人への排斥的な態度をもたらすという考えである。こうした仮説も、この中で検証していきたい。

第2に、社会関係資本にもとづく議論である。社会関係資本という点では、2つの紐帯、つながりに注目する。ひとつは、移民、外国人との直接的な接触経験、つながりである。移民やマイノリティとの親密な社会関係資本は、かれらを個人として理解する経験をもたらし、移民、マイノリティを脅威とは認識しなくなるであろう。その結果、移民受け入れに賛成する傾向を強めるだろう。いまひとつは、地域社会における相互のつながりである。なかでもそうした地域の相互のつながりによって醸成される一般的他者信頼に注目したい。地域社会で日頃から多くの社会関係資本を有する人は、一般的な他者への信頼感も高い。そうした一般的な他者への信頼感の高さは、人種や民族、国籍を越え、移民、外国人をも異質視せず、かれらに対する肯定的な認識や地域社会への受け入れをより一層促進するであろう。

以上の仮説にもとづいて、調査結果の集計、考察を行いたい。

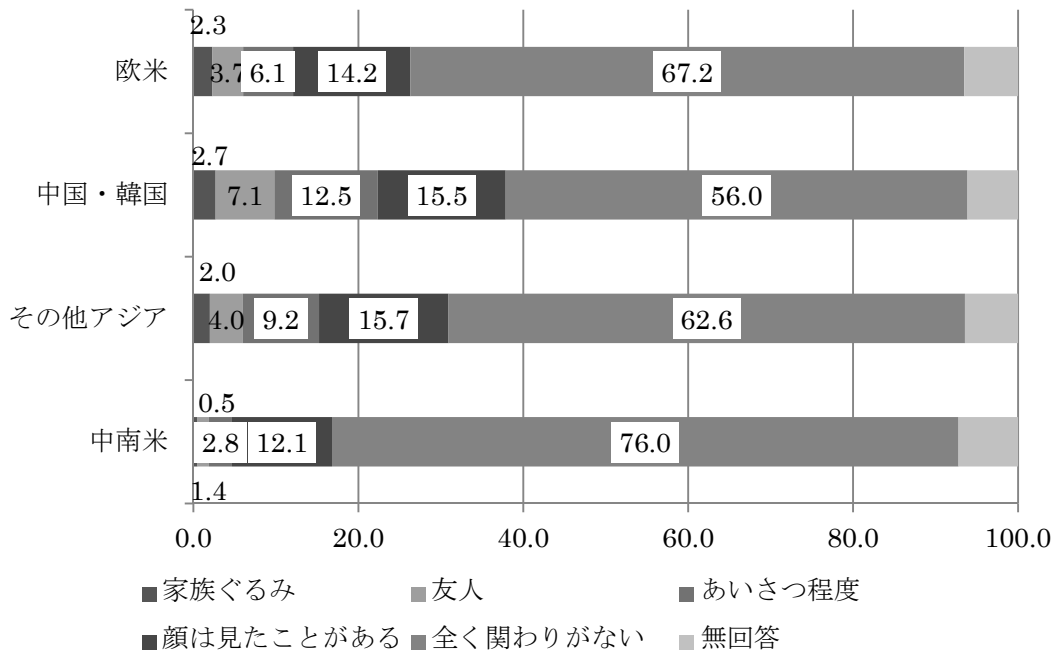
3. 外国人に関する意識の単純集計結果

本節では、外国人に関わる設問について、単純集計の結果を概観しよう。

外国人との付き合いについて、大まかな出身地域別に、欧米、中国・韓国、その他アジア、中南米の4グループに分けてたずねた。いずれのグループであっても、全く関わりがないという回答が、全体の5割から7割程度をしめ、最も多い。グループ間の違いに着目すると、中国・韓国が最も少なく、56%が全く関わりがないと回答する一方、その他アジア、欧米でその割合が少しずつ高くなり、中南米では、回答者の4分の3以上が全く関わりがないと回答する。全体的に、

家族ぐるみ、友人としての付き合いがあるという回答は、非常に少なく、中南米では0.5%、隣国の中国と韓国でも2.7%であった。あいさつ程度の付き合いがあるでは、中国と韓国が最も多く12.5%、その他アジアで9.2%、欧米で6.1%、中南米で2.8%であった。

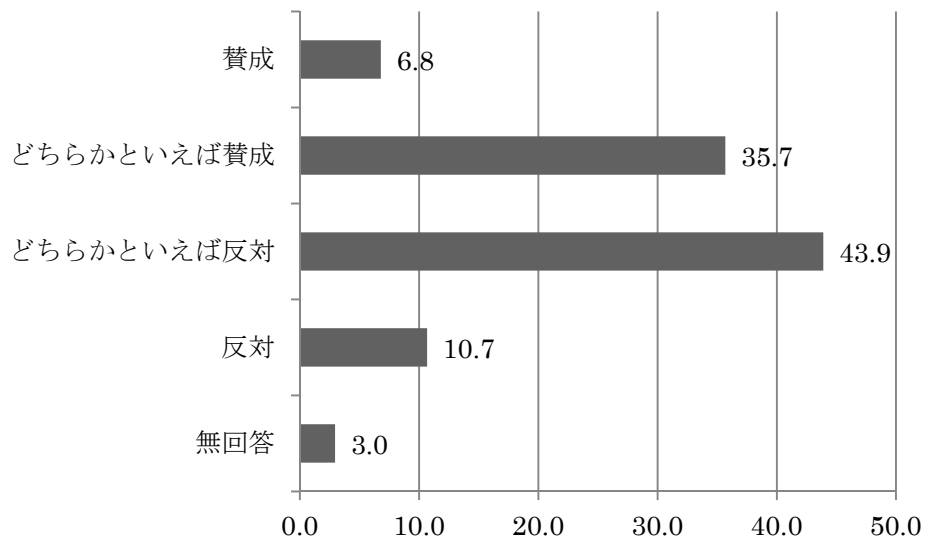
図表 13-1 外国人との付き合いの度合い



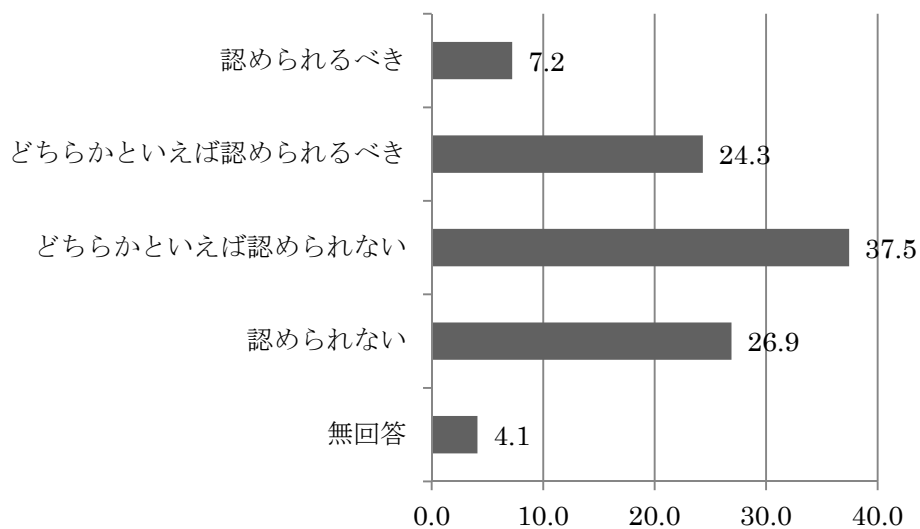
地域社会における外国人の受け入れについての意識についてたずねた。図を見ると、賛成とどちらかといえば賛成を合計した比率が43%、反対とどちらかといえば反対を合計したものが54%となった。地域における外国人の受け入れは、賛成と反対が拮抗しているが、全体としては反対が賛成を上回っている。

近年、各地で外国人への差別や排斥を主張する集会やデモが行われている。一般の市民が、こうした動きをどのように考えているのか明らかにするために、外国人への差別や排斥を主張する集会やデモは認められるべきか否かについて、たずねた。その結果、「認められるべき」は7.2%、「どちらかといえば認められるべき」は24.3%と、両者を合計すると、およそ3分の1の回答者は、外国人への差別、排斥を主張する集会、デモは認められるべきだと考えている。他方で、回答者のおよそ3分の2は「認められるべきではない」と考えていた。

図表 13-2 地域社会における外国人の受け入れについての意識

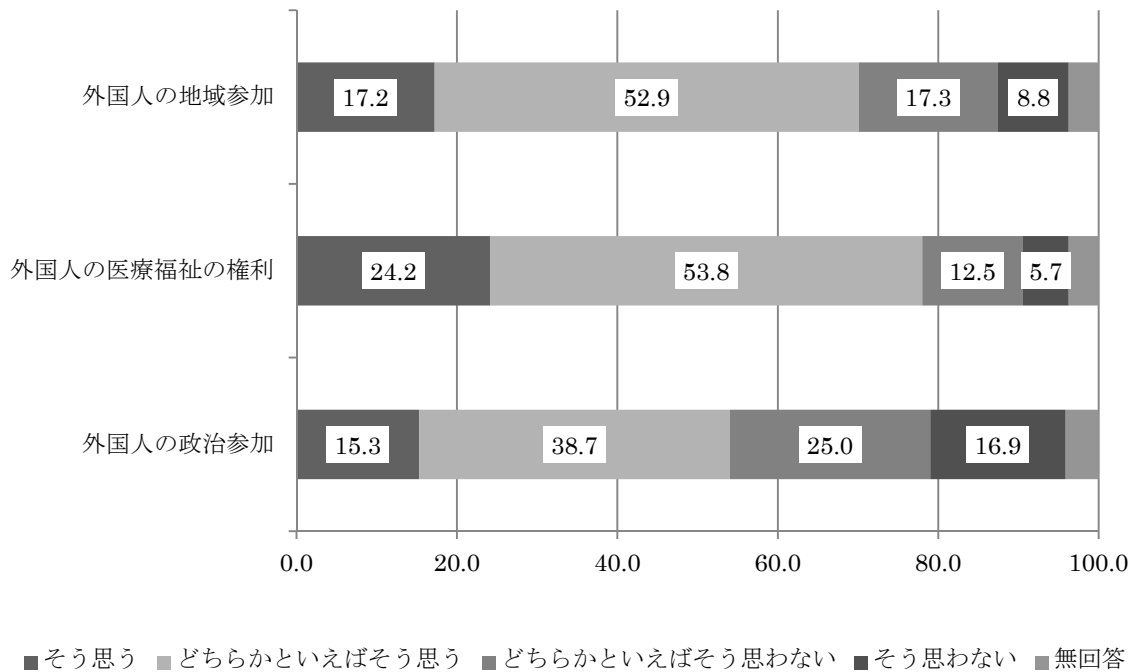


図表 13-3 外国人への差別や排斥を主張する集会やデモは認められるべきか



外国人の受け入れについて、次の3つの意見への賛否をたずねた。それらは、「外国人は地域の活動に積極的に参加すべきだ」、「地域の外国人は、自分と同じ福祉や医療を受ける権利をもつべきだ」、「地域の外国人は、自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだ」である。外国人の地域活動への参加については、「そう思う」が17%、「どちらかといえばそう思う」が53%と、回答者の7割が、この設問に賛成の態度を示している。外国人の医療や福祉の権利については、「そう思う」が24%、「どちらかといえばそう思う」が54%となっており、合計すると回答者の8割近くが、外国人は自分と同様に医療や福祉を受ける権利をもつべきだと考えている。他方で、外国人の政治参加については、これまでの2つとくらべると、賛成の比率が低下している。質問では、地方参政権についてたずねているが、「そう思う」が15%、「どちらかといえばそう思う」が39%であり、合計すると回答者の54%がそれに賛成している。

図表 13-4 外国人の権利、社会参加についての意識



4. クロス集計表にもとづく仮説の検証

(1) 性別、年齢といった属性要因の検討

以下では、外国人に対する受け入れ、排斥意識を考察するために、2 つの変数に着目する。ひとつは、回答者の居住地域における外国人の増加への賛否についてたずねたもの、いまひとつは、外国人への差別や排斥を主張する集会、デモを認めるべきかどうか、である。

仮説の検証にいたる前に、性別、年齢といった属性要因が、外国人の受け入れ、排斥意識との間に、どのような関連が見られるか確認したい。

図表 13-5 性別と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|----|-------|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | |
| 性別 | 男性 | 度数 85 | 393 | 479 | 144 | 1101 |
| | 性別の % | 7.7% | 35.7% | 43.5% | 13.1% | 100.0% |
| 女性 | 度数 | 89 | 532 | 657 | 128 | 1406 |
| | 性別の % | 6.3% | 37.8% | 46.7% | 9.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 174 | 925 | 1136 | 272 | 2507 |
| | 性別の % | 6.9% | 36.9% | 45.3% | 10.8% | 100.0% |

P < .01

性別と地域の外国人の受け入れとの関係については、1%水準で有意差が見られた。男女の違いに注目すると、男性は女性よりも、賛成と反対という回答がわずかに多く、女性は、どちらかといえば賛成、どちらかといえば反対という、中間的な回答に多く集まっていた。

図表 13-6 性別と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|----|----|------|-----------------|-----------------|----------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | |
| 性別 | 男性 | 度数 | 106 | 278 | 387 | 322 | 1093 |
| | | 性別の% | 9.7% | 25.4% | 35.4% | 29.5% | 100.0% |
| | 女性 | 度数 | 78 | 353 | 582 | 373 | 1386 |
| | | 性別の% | 5.6% | 25.5% | 42.0% | 26.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 184 | 631 | 969 | 695 | 2479 |
| | | 性別の% | 7.4% | 25.5% | 39.1% | 28.0% | 100.0% |

P < .01

同様の傾向は、外国人差別を標榜する集会・デモへの態度でも現れていた。男性の方で、「認められるべき」、「認められない」に回答の多くが集中し、女性は対照的に、中間的な回答にその多くが集中していた。

図表 13-7 年代と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|----|-------|------|----------|------------|------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | |
| 年齢 | 20-29 | 度数 | 26 | 95 | 62 | 19 | 202 |
| | | 年齢の% | 12.9% | 47.0% | 30.7% | 9.4% | 100.0% |
| | 30-39 | 度数 | 41 | 141 | 154 | 46 | 382 |
| | | 年齢の% | 10.7% | 36.9% | 40.3% | 12.0% | 100.0% |
| | 40-49 | 度数 | 25 | 157 | 221 | 36 | 439 |
| | | 年齢の% | 5.7% | 35.8% | 50.3% | 8.2% | 100.0% |
| | 50-59 | 度数 | 21 | 150 | 190 | 48 | 409 |
| | | 年齢の% | 5.1% | 36.7% | 46.5% | 11.7% | 100.0% |
| | 60-69 | 度数 | 27 | 185 | 285 | 69 | 566 |
| | | 年齢の% | 4.8% | 32.7% | 50.4% | 12.2% | 100.0% |
| | 70- | 度数 | 32 | 189 | 210 | 50 | 481 |
| | | 年齢の% | 6.7% | 39.3% | 43.7% | 10.4% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 172 | 917 | 1122 | 268 | 2479 |
| | | 年齢の% | 6.9% | 37.0% | 45.3% | 10.8% | 100.0% |

P < .01

年齢と外国人受け入れとの関係についてみる。上のクロス表からは、年齢が若い人ほど地域の外国人の増加に賛成する傾向が見られる。反対とどちらかといえば反対を合計しても、年齢が高い人ほど、地域の外国人の増加に反対する傾向が強い。他方で、年齢と外国人差別を標榜する集会、デモへの賛否をたずねたところ、地域の外国人受け入れと一貫しない傾向が見られた。外国人差別を標榜する集会、デモについて、若年層ほど認められるべきという回答が若干多い。

図表 13-8 年代と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 | |
|----|-------|-----------------|-----------------|----------------|--------|-------|--------|
| | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | | |
| 年齢 | 20-29 | 度数 | 23 | 56 | 70 | 51 | 200 |
| | | 年齢の% | 11.5% | 28.0% | 35.0% | 25.5% | 100.0% |
| | 30-39 | 度数 | 35 | 105 | 155 | 88 | 383 |
| | | 年齢の% | 9.1% | 27.4% | 40.5% | 23.0% | 100.0% |
| | 40-49 | 度数 | 37 | 125 | 158 | 120 | 440 |
| | | 年齢の% | 8.4% | 28.4% | 35.9% | 27.3% | 100.0% |
| | 50-59 | 度数 | 31 | 101 | 158 | 112 | 402 |
| | | 年齢の% | 7.7% | 25.1% | 39.3% | 27.9% | 100.0% |
| | 60-69 | 度数 | 29 | 124 | 229 | 175 | 557 |
| | | 年齢の% | 5.2% | 22.3% | 41.1% | 31.4% | 100.0% |
| | 70- | 度数 | 28 | 111 | 187 | 141 | 467 |
| | | 年齢の% | 6.0% | 23.8% | 40.0% | 30.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 183 | 622 | 957 | 687 | 2449 |
| | | 年齢の% | 7.5% | 25.4% | 39.1% | 28.1% | 100.0% |

P < .05

(2) 集団的脅威仮説の検証

図表 13-9 学歴と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|------|--------|--------|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | |
| 本人学歴 | 中卒 | 度数 | 13 | 74 | 104 | 45 | 236 |
| | | 本人学歴の% | 5.5% | 31.4% | 44.1% | 19.1% | 100.0% |
| | 高卒 | 度数 | 43 | 377 | 504 | 116 | 1040 |
| | | 本人学歴の% | 4.1% | 36.3% | 48.5% | 11.2% | 100.0% |
| | 短大・高専卒 | 度数 | 54 | 221 | 239 | 53 | 567 |
| | | 本人学歴の% | 9.5% | 39.0% | 42.2% | 9.3% | 100.0% |
| | 大卒以上 | 度数 | 64 | 250 | 286 | 62 | 662 |
| | | 本人学歴の% | 9.7% | 37.8% | 43.2% | 9.4% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 174 | 922 | 1133 | 276 | 2505 |
| | | 本人学歴の% | 6.9% | 36.8% | 45.2% | 11.0% | 100.0% |

P < .01

地域の外国人受け入れについては、学歴が高い者ほど、賛成する比率が高かった。逆に、学歴の低い者ほど、地域における外国人の増加に反対する傾向が強い。この結果は、集団的脅威仮説と一貫する結果である。

図表 13-10 学歴と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|------|--------|--------|-----------------|-------------------------|------------------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | |
| 本人学歴 | 中卒 | 度数 | 16 | 51 | 96 | 56 | 219 |
| | | 本人学歴の% | 7.3% | 23.3% | 43.8% | 25.6% | 100.0% |
| | 高卒 | 度数 | 60 | 267 | 432 | 273 | 1032 |
| | | 本人学歴の% | 5.8% | 25.9% | 41.9% | 26.5% | 100.0% |
| | 短大・高専卒 | 度数 | 38 | 161 | 219 | 147 | 565 |
| | | 本人学歴の% | 6.7% | 28.5% | 38.8% | 26.0% | 100.0% |
| | 大卒以上 | 度数 | 72 | 147 | 219 | 222 | 660 |
| | | 本人学歴の% | 10.9% | 22.3% | 33.2% | 33.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 186 | 626 | 966 | 698 | 2476 |
| | | 本人学歴の% | 7.5% | 25.3% | 39.0% | 28.2% | 100.0% |

P < .01

外国人差別を標榜する集会とデモについては、地域の受け入れとは少し異なる結果となった。統計的には学歴との間に有意な関係が認められるが、単純に学歴が高いほど、差別的、排斥的な傾向が弱いとは言えない。なぜなら、大卒以上であるほど、高卒や中卒とくらべて、外国人差別を標榜する集会やデモを認められるべきという回答と、認められないという回答のいずれも高くなっているからである。学歴の低い人は、中間的な回答に集中する傾向が見られる。大卒以上で

あるほど、外国人差別を標榜する集会デモは、認められるべきだと回答するのは、「表現の自由」という考え方を意識した結果生じているのかもしれない。すなわち、単純に外国人への差別や排斥の態度をもっているから、こうしたデモや集会を認めるべきだと答えているのではなく、近代市民社会の原則を構成する「自由」という規範に抵触することを前提に、このような回答を行っている可能性がある。他方で、高学歴者よりも低学歴者に、「認められない」という回答が多いのは、先の集団脅威仮説にもとづけば、社会経済的に弱い立場に置かれることで、外国人を脅威と感じる傾向が強いためではないだろうか。後者の結果は、この仮説を支持するものである。

図表 13-11 従業上の地位と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|--------|--------|----------|----------|------------|------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | |
| 従業上の地位 | フルタイム | 度数 | 63 | 283 | 337 | 89 | 772 |
| | | 従業上の地位の% | 8.2% | 36.7% | 43.7% | 11.5% | 100.0% |
| | パートタイム | 度数 | 35 | 179 | 230 | 51 | 495 |
| | | 従業上の地位の% | 7.1% | 36.2% | 46.5% | 10.3% | 100.0% |
| | 自営 | 度数 | 15 | 74 | 117 | 29 | 235 |
| | | 従業上の地位の% | 6.4% | 31.5% | 49.8% | 12.3% | 100.0% |
| | 無職 | 度数 | 60 | 381 | 454 | 101 | 996 |
| | | 従業上の地位の% | 6.0% | 38.3% | 45.6% | 10.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 173 | 917 | 1138 | 270 | 2498 |
| | | 従業上の地位の% | 6.9% | 36.7% | 45.6% | 10.8% | 100.0% |

P > .10

次に、従業上の地位と地域の外国人受け入れとの関係についてクロス集計を行ったところ、統計的な有意差は認められなかった。同様に、差別を標榜する集会、デモとの関係についても、有意差は見られなかった。

図表 13-12 従業上の地位と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|--------|--------|----------|-----------------|-----------------|----------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | |
| 従業上の地位 | フルタイム | 度数 | 68 | 192 | 286 | 227 | 773 |
| | | 従業上の地位の% | 8.8% | 24.8% | 37.0% | 29.4% | 100.0% |
| | パートタイム | 度数 | 35 | 128 | 199 | 125 | 487 |
| | | 従業上の地位の% | 7.2% | 26.3% | 40.9% | 25.7% | 100.0% |
| | 自営 | 度数 | 24 | 56 | 87 | 62 | 229 |
| | | 従業上の地位の% | 10.5% | 24.5% | 38.0% | 27.1% | 100.0% |
| | 無職 | 度数 | 58 | 247 | 392 | 281 | 978 |
| | | 従業上の地位の% | 5.9% | 25.3% | 40.1% | 28.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 185 | 623 | 964 | 695 | 2467 |
| | | 従業上の地位の% | 7.5% | 25.3% | 39.1% | 28.2% | 100.0% |

P > .10

図表 13-13 職業と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|----|--------|------|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかといえ ば賛成 | どちらかといえ ば反対 | 反対 | |
| 職業 | 専門管理 | 度数 | 46 | 185 | 201 | 38 | 470 |
| | | 職業の% | 9.8% | 39.4% | 42.8% | 8.1% | 100.0% |
| | 事務 | 度数 | 22 | 102 | 115 | 34 | 273 |
| | | 職業の% | 8.1% | 37.4% | 42.1% | 12.5% | 100.0% |
| | 販売 | 度数 | 10 | 39 | 52 | 12 | 113 |
| | | 職業の% | 8.8% | 34.5% | 46.0% | 10.6% | 100.0% |
| | 自営 | 度数 | 6 | 49 | 56 | 14 | 125 |
| | | 職業の% | 4.8% | 39.2% | 44.8% | 11.2% | 100.0% |
| | 熟練・非熟練 | 度数 | 23 | 136 | 207 | 55 | 421 |
| | | 職業の% | 5.5% | 32.3% | 49.2% | 13.1% | 100.0% |
| | 農業 | 度数 | 3 | 14 | 42 | 10 | 69 |
| | | 職業の% | 4.3% | 20.3% | 60.9% | 14.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 110 | 525 | 673 | 163 | 1471 |
| | | 職業の% | 7.5% | 35.7% | 45.8% | 11.1% | 100.0% |

P < .05

次に、職業と移民、外国人に対する排斥的な意識との関係について見てみる。地域の外国人の増加への賛否については、職業との間に有意差が認められた。専門管理は、その他の職業とくらべて、地域の外国人の増加に賛成する割合が高い。他方で、熟練・非熟練と農業では、明らかに賛成の割合が低く、反対の割合が高いことが分かる。

他方で、差別を標榜する集会、デモについては、職業との間に有意な関係は見られなかった。

図表 13-14 職業と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|----|--------|------|-----------------|---------------------|--------------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかといえ ば認められるべき | どちらかといえ ば認められない | 認められない | |
| 職業 | 専門管理 | 度数 | 43 | 112 | 161 | 152 | 468 |
| | | 職業の% | 9.2% | 23.9% | 34.4% | 32.5% | 100.0% |
| | 事務 | 度数 | 29 | 70 | 99 | 75 | 273 |
| | | 職業の% | 10.6% | 25.6% | 36.3% | 27.5% | 100.0% |
| | 販売 | 度数 | 8 | 34 | 45 | 28 | 115 |
| | | 職業の% | 7.0% | 29.6% | 39.1% | 24.3% | 100.0% |
| | 自営 | 度数 | 10 | 26 | 54 | 33 | 123 |
| | | 職業の% | 8.1% | 21.1% | 43.9% | 26.8% | 100.0% |
| | 熟練・非熟練 | 度数 | 30 | 106 | 176 | 102 | 414 |
| | | 職業の% | 7.2% | 25.6% | 42.5% | 24.6% | 100.0% |
| | 農業 | 度数 | 5 | 16 | 28 | 16 | 65 |
| | | 職業の% | 7.7% | 24.6% | 43.1% | 24.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 125 | 364 | 563 | 406 | 1458 |
| | | 職業の% | 8.6% | 25.0% | 38.6% | 27.8% | 100.0% |

P > .10

図表 13-15 世帯収入と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|--------------|--------|--|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | |
| 世帯収入 なし | 度数 | | 3 | 16 | 21 | 9 | 49 |
| | 世帯収入の% | | 6.1% | 32.7% | 42.9% | 18.4% | 100.0% |
| 300万円未満 | 度数 | | 40 | 218 | 265 | 66 | 589 |
| | 世帯収入の% | | 6.8% | 37.0% | 45.0% | 11.2% | 100.0% |
| 300-600万円未満 | 度数 | | 59 | 338 | 406 | 93 | 896 |
| | 世帯収入の% | | 6.6% | 37.7% | 45.3% | 10.4% | 100.0% |
| 600-900万円未満 | 度数 | | 34 | 178 | 233 | 51 | 496 |
| | 世帯収入の% | | 6.9% | 35.9% | 47.0% | 10.3% | 100.0% |
| 900-1200万円未満 | 度数 | | 17 | 97 | 122 | 30 | 266 |
| | 世帯収入の% | | 6.4% | 36.5% | 45.9% | 11.3% | 100.0% |
| 1200万円以上 | 度数 | | 12 | 46 | 53 | 9 | 120 |
| | 世帯収入の% | | 10.0% | 38.3% | 44.2% | 7.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | | 165 | 893 | 1100 | 258 | 2416 |
| | 世帯収入の% | | 6.8% | 37.0% | 45.5% | 10.7% | 100.0% |

P > .10

図表 13-16 世帯収入と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|--------------|--------|--|-----------------|-------------------------|------------------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | |
| 世帯収入 なし | 度数 | | 2 | 15 | 17 | 13 | 47 |
| | 世帯収入の% | | 4.3% | 31.9% | 36.2% | 27.7% | 100.0% |
| 300万円未満 | 度数 | | 38 | 160 | 227 | 155 | 580 |
| | 世帯収入の% | | 6.6% | 27.6% | 39.1% | 26.7% | 100.0% |
| 300-600万円未満 | 度数 | | 59 | 229 | 360 | 237 | 885 |
| | 世帯収入の% | | 6.7% | 25.9% | 40.7% | 26.8% | 100.0% |
| 600-900万円未満 | 度数 | | 42 | 123 | 199 | 131 | 495 |
| | 世帯収入の% | | 8.5% | 24.8% | 40.2% | 26.5% | 100.0% |
| 900-1200万円未満 | 度数 | | 27 | 57 | 94 | 89 | 267 |
| | 世帯収入の% | | 10.1% | 21.3% | 35.2% | 33.3% | 100.0% |
| 1200万円以上 | 度数 | | 12 | 28 | 38 | 43 | 121 |
| | 世帯収入の% | | 9.9% | 23.1% | 31.4% | 35.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | | 180 | 612 | 935 | 668 | 2395 |
| | 世帯収入の% | | 7.5% | 25.6% | 39.0% | 27.9% | 100.0% |

P > .10

次に、世帯収入と外国人に対する排斥的な態度との関係、および外国人差別を標榜する集会、デモへの態度との関係についてみてみた。いずれについても、10%水準で有意な関係は認められなかった。

図表 13-17 居住地域と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|----|------|------|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | |
| 地域 | 香取市 | 度数 | 47 | 236 | 325 | 86 | 694 |
| | | 地域の% | 6.8% | 34.0% | 46.8% | 12.4% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 47 | 214 | 230 | 55 | 546 |
| | | 地域の% | 8.6% | 39.2% | 42.1% | 10.1% | 100.0% |
| | 松戸市 | 度数 | 83 | 480 | 589 | 137 | 1289 |
| | | 地域の% | 6.4% | 37.2% | 45.7% | 10.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 177 | 930 | 1144 | 278 | 2529 |
| | | 地域の% | 7.0% | 36.8% | 45.2% | 11.0% | 100.0% |

P > .10

図表 13-18 居住地域と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|----|------|------|-----------------|-------------------------|------------------------|--------|--------|
| | | | 認められるべ き | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | |
| 地域 | 香取市 | 度数 | 51 | 172 | 275 | 185 | 683 |
| | | 地域の% | 7.5% | 25.2% | 40.3% | 27.1% | 100.0% |
| | 酒々井町 | 度数 | 43 | 139 | 200 | 158 | 540 |
| | | 地域の% | 8.0% | 25.7% | 37.0% | 29.3% | 100.0% |
| | 松戸市 | 度数 | 94 | 323 | 501 | 358 | 1276 |
| | | 地域の% | 7.4% | 25.3% | 39.3% | 28.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 188 | 634 | 976 | 701 | 2499 |
| | | 地域の% | 7.5% | 25.4% | 39.1% | 28.1% | 100.0% |

P > .10

次に、居住地域によって、外国人に対する排斥的な態度にどのような違いが見られるか検討した。地域における外国人の増加、外国人差別を標榜するデモ・集会のいずれについても、10%水準で有意な違いは見られなかった。

最後に、グローバル化の進展の中、多くの人が将来に対する漠然とした不安を感じている。将来に対する人々の不安は、将来に対する漠然としたリスクへと目が向きがちである。地域社会における外国人の増加を、ある種のリスクととらえれば、そのような将来への不安感は、人々のリスク回避行動を促し、結果としてリスクとしての外国人に対する差別的、排斥的な態度をもたらすのではないだろうか。そうした点について確認するため、5年後のくらしむきはよくなると思うか、悪くなると思うかという質問と、地域における外国人の増加や外国人差別の集会・デモへの態度との関係について、クロス集計を用いて検討した。

図表 13-19 5年後の生活の展望と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 | |
|-----------|--------|-------------|----------------|----------------|-------|-------|--------|
| | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | | |
| 5年後の生活の展望 | よくなる | 度数 | 13 | 33 | 22 | 10 | 78 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 16.7% | 42.3% | 28.2% | 12.8% | 100.0% |
| | 少しよくなる | 度数 | 31 | 84 | 79 | 22 | 216 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 14.4% | 38.9% | 36.6% | 10.2% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 64 | 376 | 443 | 97 | 980 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 6.5% | 38.4% | 45.2% | 9.9% | 100.0% |
| | 少し悪くなる | 度数 | 27 | 275 | 382 | 66 | 750 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 3.6% | 36.7% | 50.9% | 8.8% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 40 | 157 | 206 | 80 | 483 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 8.3% | 32.5% | 42.7% | 16.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 175 | 925 | 1132 | 275 | 2507 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 7.0% | 36.9% | 45.2% | 11.0% | 100.0% |

P < .01

図表 13-20 5年後の生活の展望と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 | |
|-----------|--------|-----------------|-------------------------|------------------------|--------|-------|--------|
| | | 認められるべき | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | | |
| 5年後の生活の展望 | よくなる | 度数 | 15 | 19 | 22 | 23 | 79 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 19.0% | 24.1% | 27.8% | 29.1% | 100.0% |
| | 少しよくなる | 度数 | 23 | 71 | 68 | 55 | 217 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 10.6% | 32.7% | 31.3% | 25.3% | 100.0% |
| | 変わらない | 度数 | 68 | 241 | 380 | 275 | 964 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 7.1% | 25.0% | 39.4% | 28.5% | 100.0% |
| | 少し悪くなる | 度数 | 41 | 191 | 318 | 194 | 744 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 5.5% | 25.7% | 42.7% | 26.1% | 100.0% |
| | 悪くなる | 度数 | 41 | 107 | 179 | 148 | 475 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 8.6% | 22.5% | 37.7% | 31.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 188 | 629 | 967 | 695 | 2479 |
| | | 5年後の生活の展望の% | 7.6% | 25.4% | 39.0% | 28.0% | 100.0% |

P < .01

分析の結果、いずれについても1%水準で有意差が見られた。5年後の生活の展望と地域の外国人増加に対する態度との関係については、仮説と一貫した傾向が見られる。すなわち、5年後の生活の展望がよくなると考える人ほど、地域の外国人の増加に賛成する傾向が見られるが、5年後の生活の展望が悪くなると考える人ほど、地域の外国人の増加に反対する傾向が強まっている。他方で、外国人差別を標榜する集会やデモの容認については、5年後の生活が良くなると考えるほど認めるべきだと回答しており、認められないという回答の分布からは、一貫した傾向が見られない。このように、差別を標榜するデモの容認については、将来に対する不安感やリスク認知との間に、明確な関係が見られなかった。

(3) 社会関係資本の効果の検証

本節では、社会関係資本と外国人排斥をめぐる意識との関係について検証を行う。はじめに、直接的な移民、外国人との関わりが、差別の意識とどのような関係があるのかを明らかにしたい。

調査票の中では、国籍別に外国人との付き合いについてたずねていたが、本節で両者の関係をみるにあたり、それらを足し合わせ、合計得点化した。合計得点のままでは、最小値0点、最大値16点と、変数内の分散が大きく、クロス集計で明確な関係を読み取ることが難しいため、以下のクロス表のように、合計得点の分布をみて、4段階に区分した。外国人との付き合いがまったくないグループ（なし）、いずれかの外国人と顔を見たことがある程度のグループ（1-2点）、いずれかの外国人とあいさつを交わしたことがあったり、何らかの関わりがあるグループ（3-5点）、いずれかの外国人または多くの出身国の外国人と親しい付き合いがあるグループ（6点以上）、として区分した。

図表 13-21 外国人との付き合いの度合いと地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

| | | 地域への外国人受け入れに対する賛否 | | | | 合計 |
|--------------|-------------|-------------------|------------|------------|-------|--------|
| | | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | |
| 外国人との付き合い なし | 度数 | 48 | 376 | 586 | 174 | 1184 |
| | 外国人との付き合いの% | 4.1% | 31.8% | 49.5% | 14.7% | 100.0% |
| 1-2点 | 度数 | 23 | 139 | 165 | 34 | 361 |
| | 外国人との付き合いの% | 6.4% | 38.5% | 45.7% | 9.4% | 100.0% |
| 3-5点 | 度数 | 49 | 231 | 246 | 43 | 569 |
| | 外国人との付き合いの% | 8.6% | 40.6% | 43.2% | 7.6% | 100.0% |
| 6点以上 | 度数 | 44 | 127 | 87 | 6 | 264 |
| | 外国人との付き合いの% | 16.7% | 48.1% | 33.0% | 2.3% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 164 | 873 | 1084 | 257 | 2378 |
| | 外国人との付き合いの% | 6.9% | 36.7% | 45.6% | 10.8% | 100.0% |

P < .01

図表 13-22

外国人との付き合いの度合いと外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

| | | 外国人差別を標榜する集会とデモに対する是非 | | | | 合計 |
|--------------|-------------|-----------------------|-----------------|----------------|--------|--------|
| | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | |
| 外国人との付き合い なし | 度数 | 83 | 287 | 474 | 323 | 1167 |
| | 外国人との付き合いの% | 7.1% | 24.6% | 40.6% | 27.7% | 100.0% |
| 1-2点 | 度数 | 22 | 89 | 142 | 105 | 358 |
| | 外国人との付き合いの% | 6.1% | 24.9% | 39.7% | 29.3% | 100.0% |
| 3-5点 | 度数 | 46 | 157 | 202 | 161 | 566 |
| | 外国人との付き合いの% | 8.1% | 27.7% | 35.7% | 28.4% | 100.0% |
| 6点以上 | 度数 | 26 | 68 | 102 | 72 | 268 |
| | 外国人との付き合いの% | 9.7% | 25.4% | 38.1% | 26.9% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 177 | 601 | 920 | 661 | 2359 |
| | 外国人との付き合いの% | 7.5% | 25.5% | 39.0% | 28.0% | 100.0% |

P > .10

クロス集計を行った結果、地域の外国人受け入れについては、移民、外国人との付き合いが深いほど、地域における外国人の増加に賛成する傾向が強いが、外国人差別を標榜する集会やデモとの間には、統計的に有意な関係は認められなかった。

図表 13-23 一般的他者信頼度と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|---------|------------------------|-----------|----------|----------------|----------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反対 | |
| 一般的他者信頼 | そう思う | 度数 | 32 | 76 | 90 | 26 | 224 |
| | | 一般的他者信頼の% | 14.3% | 33.9% | 40.2% | 11.6% | 100.0% |
| | どちらかとい えばそう思 う | 度数 | 80 | 506 | 573 | 97 | 1256 |
| | | 一般的他者信頼の% | 6.4% | 40.3% | 45.6% | 7.7% | 100.0% |
| | どちらかとい えばそう思 わない | 度数 | 29 | 246 | 362 | 76 | 713 |
| | | 一般的他者信頼の% | 4.1% | 34.5% | 50.8% | 10.7% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 32 | 85 | 102 | 70 | 289 |
| | | 一般的他者信頼の% | 11.1% | 29.4% | 35.3% | 24.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 173 | 913 | 1127 | 269 | 2482 |
| | | 一般的他者信頼の% | 7.0% | 36.8% | 45.4% | 10.8% | 100.0% |

P < .01

図表 13-24 一般的他者信頼度と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|---------|------------------------|-----------|-----------------|-------------------------|------------------------|--------|--------|
| | | | 認められるべ き | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | |
| 一般的他者信頼 | そう思う | 度数 | 26 | 43 | 72 | 80 | 221 |
| | | 一般的他者信頼の% | 11.8% | 19.5% | 32.6% | 36.2% | 100.0% |
| | どちらかとい えばそう思 う | 度数 | 80 | 335 | 482 | 349 | 1246 |
| | | 一般的他者信頼の% | 6.4% | 26.9% | 38.7% | 28.0% | 100.0% |
| | どちらかとい えばそう思 わない | 度数 | 43 | 184 | 317 | 158 | 702 |
| | | 一般的他者信頼の% | 6.1% | 26.2% | 45.2% | 22.5% | 100.0% |
| | そう思わない | 度数 | 35 | 60 | 91 | 101 | 287 |
| | | 一般的他者信頼の% | 12.2% | 20.9% | 31.7% | 35.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 184 | 622 | 962 | 688 | 2456 |
| | | 一般的他者信頼の% | 7.5% | 25.3% | 39.2% | 28.0% | 100.0% |

P < .01

次に、移民や外国人との直接的な紐帯やつながりではないが、地域社会における人付き合いのあり方が、どの程度、移民、外国人に対する受け入れ／排斥の意識と関連しているのか、検討したい。一般的他者信頼との関係について見てみたところ、地域における外国人の増加、外国人差別を標榜するデモ・集会の容認について、いずれも1%水準で有意差が見られた。地域の外国人の増加に対しては、一般的他者信頼の設問にそう思うと回答する人ほど、賛成の回答が多く、反対の回答が少ない。他者への信頼感の最も低い人は、地域の外国人の受け入れに賛成するという回答も一定程度多い半面、反対という回答ももっとも多くなっている。こうしたことから、両者の間には、他者信頼が高いほど、外国人の受け入れ意識も高いという明確な関係が見られる。

他方で、外国人差別を標榜するデモ・集会への態度については、一般的他者信頼の度合いが最も高い層と最も低い層で、外国人差別のデモ・集会に対して、賛成と反対の回答が多くなっている。そして、一般的他者信頼の度合いが中間の人については、外国人差別のデモに対する態度も、中間的な回答をする傾向が見られた。そのため、この設問については、地域における外国人の増加ほど、明確な線形の関係が必ずしも見られないことが分かった。

町内会・自治会への参加と外国人排斥の意識との関係について、クロス集計を用いて確認した

ところ、いずれも 1%水準で有意差は認められたものの、仮説を支持するような、地域の社会関係資本を多くもつほど、外国人排斥の傾向が弱いという傾向は見られなかった。

図表 13-25 町内会・自治会への参加度と地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域の外国人受入 | | | | 合計 |
|-------------|----------|---------------|----------|------------|------------|-------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | |
| 町内会・自治会への参加 | よく参加 | 度数 | 27 | 121 | 147 | 40 | 335 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 8.1% | 36.1% | 43.9% | 11.9% | 100.0% |
| | ときどき参加 | 度数 | 34 | 222 | 327 | 50 | 633 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 5.4% | 35.1% | 51.7% | 7.9% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 32 | 253 | 297 | 75 | 657 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 4.9% | 38.5% | 45.2% | 11.4% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 84 | 326 | 366 | 110 | 886 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 9.5% | 36.8% | 41.3% | 12.4% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 177 | 922 | 1137 | 275 | 2511 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 7.0% | 36.7% | 45.3% | 11.0% | 100.0% |

P < .01

図表 13-25

町内会・自治会への参加度と外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|-------------|----------|---------------|-----------------|-----------------|----------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | |
| 町内会・自治会への参加 | よく参加 | 度数 | 32 | 84 | 118 | 93 | 327 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 9.8% | 25.7% | 36.1% | 28.4% | 100.0% |
| | ときどき参加 | 度数 | 35 | 162 | 278 | 153 | 628 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 5.6% | 25.8% | 44.3% | 24.4% | 100.0% |
| | あまり参加しない | 度数 | 40 | 155 | 269 | 185 | 649 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 6.2% | 23.9% | 41.4% | 28.5% | 100.0% |
| | 全く参加しない | 度数 | 80 | 226 | 308 | 263 | 877 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 9.1% | 25.8% | 35.1% | 30.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 187 | 627 | 973 | 694 | 2481 |
| | | 町内会・自治会への参加の% | 7.5% | 25.3% | 39.2% | 28.0% | 100.0% |

P < .01

最後に、地域の人との人付き合いのあり方が、地域における外国人の増加と差別を標榜するデモへの対応について、どのような影響を及ぼすか検討する。地域の人との人付き合いのあり方は、質問紙の間 10 の近所の人とおつきあいについて、「お茶や食事を一緒にする」、「趣味活動を一緒にする」、「いろいろなことを相談し合う」という項目を、「よくする」から「全くしない」までの 4 段階でたずねたものを用いる。これらを、「よくする」に 3 点、「全くしない」に 0 点を与えて合計得点化したものを、地域の人との付き合いに関する尺度として使用する。クロス表ではこれらを 4 段階に区分した。得点が高いほど、地域の人付き合いの度合いが高い。

図表 13-26

地域の人との付き合いの度合いと地域への外国人受け入れに対する賛否とのクロス表

クロス表

| | | | 地域への外国人受け入れ | | | | 合計 |
|------------|--------------|--------------|-------------|------------|------------|--------|--------|
| | | | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | |
| 地域の人との付き合い | 0 | 度数 | 57 | 258 | 320 | 112 | 747 |
| | | 地域の人との付き合いの% | 7.6% | 34.5% | 42.8% | 15.0% | 100.0% |
| | 1-3 | 度数 | 50 | 279 | 388 | 63 | 780 |
| | | 地域の人との付き合いの% | 6.4% | 35.8% | 49.7% | 8.1% | 100.0% |
| 4-6 | 度数 | 44 | 317 | 357 | 83 | 801 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 5.5% | 39.6% | 44.6% | 10.4% | 100.0% | |
| 7-9 | 度数 | 24 | 64 | 69 | 14 | 171 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 14.0% | 37.4% | 40.4% | 8.2% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 175 | 918 | 1134 | 272 | 2499 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 7.0% | 36.7% | 45.4% | 10.9% | 100.0% | |

P < .01

図表 13-27

地域の人との付き合いの度合いと外国人差別を標榜する集会・デモに対する是非とのクロス表

クロス表

| | | | 外国人差別を標榜する集会とデモ | | | | 合計 |
|------------|--------------|--------------|-----------------|-----------------|----------------|--------|--------|
| | | | 認められるべき | どちらかといえば認められるべき | どちらかといえば認められない | 認められない | |
| 地域の人との付き合い | 0 | 度数 | 73 | 187 | 270 | 210 | 740 |
| | | 地域の人との付き合いの% | 9.9% | 25.3% | 36.5% | 28.4% | 100.0% |
| | 1-3 | 度数 | 51 | 187 | 305 | 217 | 760 |
| | | 地域の人との付き合いの% | 6.7% | 24.6% | 40.1% | 28.6% | 100.0% |
| 4-6 | 度数 | 51 | 210 | 329 | 212 | 802 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 6.4% | 26.2% | 41.0% | 26.4% | 100.0% | |
| 7-9 | 度数 | 10 | 43 | 63 | 52 | 168 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 6.0% | 25.6% | 37.5% | 31.0% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 185 | 627 | 967 | 691 | 2470 | |
| | 地域の人との付き合いの% | 7.5% | 25.4% | 39.1% | 28.0% | 100.0% | |

P > .10

分析結果をみると、地域の外国人の受け入れについては、1%水準で有意差が見られたが、外国人差別を標榜する集会やデモについては、有意差が見られなかった。地域の人との親密な付き合いの度合いが高いほど、地域における外国人の増加に賛成する傾向が強く、反対する傾向が弱くなっていた。このように、地域社会における人間関係や人づきあいのあり方が、異質な他者としての外国人への排他性を弱め、かれらを受け入れる素地を作りだしていることが分かる。地域における外国人の受け入れについては、地域における社会関係資本との間に一貫した関係が見られるが、外国人差別を標榜するデモへの態度については、明確な関係が見られなかった。

5. まとめ

本章では、海外からの移民、外国人の受け入れ／排斥意識を、集団的脅威仮説と社会関係資本仮説という2つの仮説にもとづいて、考察してきた。移民、外国人の排斥意識を考察するために、地域社会における外国人の増加と移民、外国人への差別を標榜するデモ、集会という2つの項目に対する態度を用いて、検討してきた。分析結果は、前者の地域社会における外国人の増加への態度については、おおむね仮説を支持する結果が得られたものの、後者の移民外国人への差別を標榜するデモ、集会への態度については、必ずしも仮説と一貫した結果が得られなかった。

旧来型の移民、外国人への排斥意識は、外国人を脅威と認識するような社会経済的な不平等のメカニズムのもとで生じている。その意味で、日本社会における不平等の増大は、移民、外国人への排斥意識を一層高めるものであろう。グローバル化のもとで進展する将来に対する漠然とした不安感は、将来に対するリスクへの意識を一層高め、地域社会における外国人の増加をある種のリスクとして捉えることで、リスク回避行動としての外国人への排斥的な意識を助長する可能性があるだろう。本章の分析結果は、そうした筆者の解釈と一貫するものであった。

そのような移民、外国人への排斥意識を助長するようなメカニズムがある一方で、そのような意識を抑制するメカニズムとして、本章では社会関係資本に依拠した仮説を提起し、データ分析にもとづく検証を行ってきた。地域社会における外国人の受け入れについては、一部で仮説を支持しないものもあったが、おおむね、仮説と一貫した結果が得られた。すなわち、外国人との直接的な紐帯、交流を促進することや、地域社会における親しい人間関係を促進し、一般的な他者への信頼感を高めていくことで、異質な他者に対する排斥意識を弱め、社会的な包摂を促進していく。行政の今後の施策の展望としては、社会全体の不安感を低減し、社会における格差、不平等を低めていくような政策を進めていくことが求められよう。また、地域社会の人間関係をコーディネートするような政策も求められるだろう。地域社会における共生のためのまちづくりを進めていくことは、移民や外国人に関わる問題に限らず、様々な社会的弱者を社会の中に包摂していく際の重要なよりどころとなるだろう。そして、一般的な考えでは、マジョリティとされる人々であっても、多くは近年の格差や貧困の増大の中で、将来の展望に対する不安を抱え、社会経済的にも不利な状況に置かれている。地域社会を基盤とした社会関係資本を豊かにしていくことは、そうした相互のサポートの状況を豊かにし、多くの人々の社会的包摂へと結びついていくだろう。

第14章 第2部の総括

第2部の詳細分析では、全体のテーマに即して、議論を行った。同和問題、移民に対する排外意識、福祉政策に対する意識を、分析の主要な焦点とし、議論してきた。マイノリティや福祉に対する意識を左右する要因として、社会階層と社会関係資本を仮定し、両者を媒介する社会心理学的なメカニズムとして、将来に対する不安とリスク認識、一般的な他者信頼と特定の組織、中間集団への信頼、偏見やステレオタイプといったものを想定し、論じてきた。

以上のような、社会階層と社会関係資本に依拠したマイノリティや福祉に対する意識の形成メカニズムに関する仮説について、部分的には仮説を支持しない結果も得られたが、全体としては、おおむね仮説と一貫する結果も多く見られたのではないだろうか。

人々がマイノリティに対して排斥的な意識をもつのは、自分自身が、社会の中で不安定な状況におかれ、他のマイノリティが自己の利害と競合、対立する可能性があり、その結果、そうした人々がマイノリティの存在を脅威に感じるからである。こうしたメカニズムは、集団脅威仮説によって構成される。その意味で、社会階層という点で弱い立場に置かれている人は、マイノリティに対して排斥的な意識を支持しやすい傾向にある。教育達成や職業階層という点で、部分的にこの仮説を支持する知見が得られた。また、将来に対する不安感は、地域における外国人の受け入れ意識を低める形で作用もしていた。

このように、日本人にとって外集団、よそ者とみなされやすい、同和地区出身者や移民・外国人については、集団脅威仮説によってマイノリティへの排斥意識を説明することができる。他方で、同様の仮定にもとづき、福祉政策に対する意識と将来に対する不安感との関係について調べたところ、上記の仮説とは一致しない知見も得られた。合理的選択理論によるリスク回避仮説に依拠すれば、人々は不確実な状況下では自らの利益の最大化を考える。そうすると、自らの将来の生活に不安（不確実性）を感じる人は、まずは自己利益の最大化を志向し、他者の生活向上まで考え難いと仮定した。しかしながら、福祉政策全般に対する意識については、将来に不確実性を感じる人ほど、福祉政策に賛成する意識が強く働いていた。

この結果は、次のように考えられる。すなわち、将来に不確実性を感じる人は、そうであるからこそ、そうしたリスクを回避するために、福祉国家への依存を強めようとするというものである。また、上の解釈と一致する結果は、障がい者福祉に対する人々の意識にも見られた。企業の利益追求のために、障がい者が雇用されないのは仕方がないという設問について、将来に不安を感じる人ほど、「そう思わない」と回答する傾向が強かったのである。障がい者の場合は、外国人の場合と異なり、より受容的な傾向が強い背景には、日本人にとって障がい者は、「自分も場合によってはそのような状況に陥るかもしれない人々」として、認識されているからではないだろうか。障がい者が、自己と国籍や民族を共有するとき、それは自分にとって決して「他人事」ではなく、「自分のこと」として捉えられるのであり、そうであるからこそ、「困った時はお互いさま」という福祉の論理でもって、かれらに対する支援や扶助が正当化される。

以上のように、将来に対する不確実な状況下で、人は、社会福祉への必要性を一層感じるようになる。しかし、そうした福祉の論理に、あらゆる人々が包摂され、かれらの人権が保護されるのかというと、必ずしもそうではない。自分たちの内側の集団には含まれない人々には、こうし

た論理は適用されず、かれらは、将来に対する不確実性から排斥の対象となるのである。

グローバル化が進展し、格差、不平等の増大を経験する現代社会において、一部の人を対象とする差別や排斥はますます進んでいくのであろうか。マイノリティに対する差別や排斥を抑制し、多様な人々との共生のまちづくりを進めていくうえで、重要なキーワードとなりうるのが、ソーシャル・キャピタル、社会関係資本という概念である。第2部では、社会関係資本を次の2つの観点から捉えた。ひとつは、マイノリティ当事者との交友関係、直接的な接触経験であり、いまひとつは、地域社会における全体的な人間相互のつながり、結びつきである。後者については、具体的な町内会、自治会への参加、近隣の人との交流についての質問と、一般的な他者への信頼感といった社会心理学的な要因も、社会関係資本の重要な構成要素として考察した。

結果はおおむね、マイノリティ当事者との交友関係、直接的な接触経験は、マイノリティに対する差別や排斥への意識を弱め、かれらを受け入れる意識を高めていた。そして、マイノリティ当事者とのつながりだけでなく、地域社会の人々相互の交友関係や、一般的な他者への信頼感もまた、マイノリティに対する排斥的な態度を抑制し、かれらの受容意識の形成に役立っていた。さらに、一般的な他者への信頼感は、具体的な地域の人々との交流や自治会、町内会といった中間集団への参加によっても促進されていた。このように、地域社会において社会関係資本を豊かにしていくことは、様々な立場のマイノリティを受け入れる社会的素地を作りだし、共生のためのまちづくりを進めていくうえで重要であることが、本調査の結果からも示されているといえる。

さらに、このような共生のためのまちづくりを進めていくうえで、行政や地方自治体の果たす役割は、きわめて大きいだろう。行政が有効に機能するためには、市民と行政との信頼関係は非常に重要である。行政への信頼といった特定の集団や組織への信頼感は、一般的な他者への信頼感とも大きな関わりをもっていたし、また、地域における人付き合いのあり方が、一般的な他者への信頼感を高めることで、行政への信頼感も高めるような関係が見られた。社会関係資本は、人々の福祉や人権を行政が市民社会とともに保障するとき、重要な社会基盤であるだろう。

今回の調査結果から得られた知見の持つ限界について、一言断っておきたい。以上の総括が依拠する調査結果は、ほぼすべてクロス集計や分散分析といった二変数間の関係をみる統計手法を用いることで導かれたものである。こうした手法には、他の要因を考慮しないで分析を行っているために、分析結果の中には他の要因の要素が混在しているものも多く含まれるだろう。たとえば、学歴の意識に及ぼす効果をみるとき、かりに、中卒者でマイノリティに対する排斥的な意識が強い傾向が見られたとする。しかし、中卒者のそのような特徴は、学歴の帰結として生じたというよりも、中卒者は一般的な調査では高齢層に偏っているため、中卒者の排斥的な意識は、学歴の結果というよりも、年齢の結果によって生じているのかもしれない。今回の報告書は、自治体向けに作成されたものであるため、分析結果の読み取りやすさ、分かりやすさを重視し、クロス集計や分散分析といった、二変数間の関係を検討することを前提とした統計手法を、もっぱら用いてきた。とはいえ、ここで得られた知見は、他の要因を考慮していないことから、今後は、より厳密な統計手法を用いて再度、結果を確認する必要があるだろう。

資料 質問文と回答結果

問1 日本の社会には、現在、いろいろな人権問題があります。以下の中であなたが関心ある問題をすべてあげ、その番号に○をつけてください。

| | 松戸市 | 香取市 | 酒々井町 | 全体 |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1) 女性にかかわる人権問題 | 653 | 318 | 251 | 1,222 |
| | 49.4% | 43.9% | 44.8% | 46.9% |
| 2) 子どもにかかわる人権問題 | 688 | 361 | 268 | 1,317 |
| | 52.0% | 49.9% | 47.9% | 50.5% |
| 3) 高齢者にかかわる人権問題 | 714 | 395 | 295 | 1,404 |
| | 54.0% | 54.6% | 52.7% | 53.9% |
| 4) 障害者にかかわる人権問題 | 742 | 383 | 318 | 1,443 |
| | 56.1% | 52.9% | 56.8% | 55.4% |
| 5) 同和地区関係者にかかわる人権問題 | 441 | 240 | 182 | 863 |
| | 33.4% | 33.2% | 32.5% | 33.1% |
| 6) 在日外国人にかかわる人権問題 | 329 | 129 | 132 | 590 |
| | 24.9% | 17.8% | 23.6% | 22.6% |
| 7) HIV(エイズ)感染者、ハンセン病患者などにかかわる人権問題 | 239 | 112 | 108 | 459 |
| | 18.1% | 15.5% | 19.3% | 17.6% |
| 8) アイヌの人々にかかわる人権問題 | 277 | 120 | 100 | 497 |
| | 21.0% | 16.6% | 17.9% | 19.1% |
| 9) その他 | 156 | 55 | 44 | 255 |
| | 11.8% | 7.6% | 7.9% | 9.8% |

問2 あなたは人権について、どのようにお考えですか。以下の中で最も近い番号に1つだけ○をつけてください。

| | 1. 一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない | 2. 一人ひとりの人権は、ある程度の制約もやむをえない | 3. 一人ひとりの人権は、むしろ制限すべきだ | 4. わからない | 無回答 |
|-----|-------------------------------|-----------------------------|------------------------|----------|------|
| 松戸市 | 766 | 467 | 8 | 53 | 24 |
| | 57.9% | 35.3% | 0.6% | 4.0% | 1.8% |
| 香取市 | 414 | 237 | 12 | 46 | 12 |
| | 57.2% | 32.7% | 1.7% | 6.4% | 1.7% |

| | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|------|
| 酒々井町 | 345 | 181 | 3 | 26 | 4 |
| | 61.6% | 32.3% | 0.5% | 4.6% | 0.7% |
| 全体 | 1,525 | 885 | 23 | 125 | 40 |
| | 58.5% | 34.0% | 0.9% | 4.8% | 1.5% |

問3 国や自治体の役割や政策について、あなたはどのように思いますか。それぞれの項目について、あなたの考えに最も近い番号を1つずつ選び、○を付けてください。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | そう思う | どちらか といえば そう思う | どちらと もいえな い | どちらか といえば そう思わ ない | そう思わ ない | 無回答 |
|--|-------|-------|----------------------|-------------------|----------------------------|------------|------|
| a) 国や自治体は豊かな人からの税金を増やしても、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ | 松戸市 | 358 | 484 | 318 | 76 | 69 | 16 |
| | | 27.1% | 36.6% | 24.1% | 5.8% | 5.2% | 1.2% |
| | 香取市 | 195 | 290 | 166 | 36 | 26 | 10 |
| | | 26.9% | 40.1% | 22.9% | 5.0% | 3.6% | 1.4% |
| | 酒々井町 | 158 | 204 | 140 | 31 | 20 | 7 |
| | | 28.2% | 36.4% | 25.0% | 5.5% | 3.6% | 1.3% |
| 全体 | 711 | 978 | 624 | 143 | 115 | 33 | |
| | 27.3% | 37.5% | 23.9% | 5.5% | 4.4% | 1.3% | |
| b) 国や自治体がやってきた公的サービスは、できるだけ民間企業に任せる方がよい | 松戸市 | 168 | 268 | 541 | 179 | 131 | 34 |
| | | 12.7% | 20.3% | 40.9% | 13.5% | 9.9% | 2.6% |
| | 香取市 | 69 | 163 | 315 | 75 | 84 | 18 |
| | | 9.5% | 22.5% | 43.5% | 10.4% | 11.6% | 2.5% |
| | 酒々井町 | 61 | 111 | 243 | 75 | 65 | 5 |
| | | 10.9% | 19.8% | 43.4% | 13.4% | 11.6% | 0.9% |
| 全体 | 298 | 542 | 1,099 | 329 | 280 | 57 | |
| | 11.4% | 20.8% | 42.2% | 12.6% | 10.7% | 2.2% | |

問4 次の5つの図は、異なるタイプの社会を表わしています。次の図を見ながら説明を読み、下のa、bの質問にお答えください。

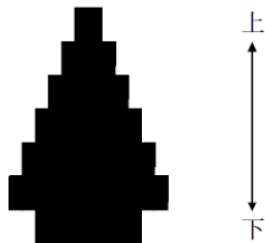
タイプA：一番上は少数のエリート、
中間はほとんど無く、
大多数の人は一番下の層の社会



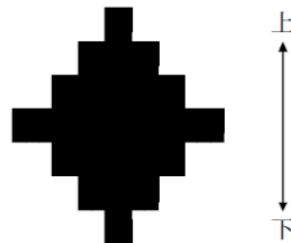
タイプB：ピラミッド型の社会。
一番上は少数のエリート、
下の層にいくにつれて多くなり、
一番下の層には最も多くの人がある社会



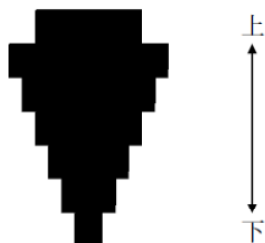
タイプC：ピラミッド型であるが、
一番下の層には少しの人しか
いない社会



タイプD：ほとんどの人が中間の層にいる社会



タイプE：多くの人が上の層にいて、
一番下の層にはごく少数の人
しかいない社会



a、bそれぞれについて、1つずつ○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

| | | タイプ A | タイプ B | タイプ C | タイプ D | タイプ E | わから ない | 無回答 |
|------------------------------------|------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|------|
| a) 現在の日本の社 会はどのタイプに 近いと思いますか | 松戸市 | 122 | 433 | 378 | 285 | 41 | 38 | 20 |
| | | 9.2% | 32.8% | 28.6% | 21.6% | 3.1% | 2.9% | 1.5% |
| | 香取市 | 72 | 258 | 172 | 135 | 36 | 29 | 19 |
| | | 9.9% | 35.6% | 23.8% | 18.7% | 5.0% | 4.0% | 2.6% |
| | 酒々井町 | 48 | 208 | 130 | 129 | 22 | 17 | 5 |
| | | 8.6% | 37.1% | 23.2% | 23.0% | 3.9% | 3.0% | 0.9% |

| | | | | | | | | |
|----------------------------------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| | 全体 | 242 | 899 | 680 | 549 | 99 | 84 | 44 |
| | | 9.3% | 34.5% | 26.1% | 21.1% | 3.8% | 3.2% | 1.7% |
| b) 日本の社会はど うあってほしいと 思いますか・ | 松戸市 | 7 | 83 | 235 | 682 | 228 | 65 | 18 |
| | | 0.5% | 6.3% | 17.8% | 51.6% | 17.3% | 4.9% | 1.4% |
| | 香取市 | 7 | 60 | 129 | 342 | 126 | 35 | 23 |
| | | 1.0% | 8.3% | 17.8% | 47.2% | 17.4% | 4.8% | 3.2% |
| | 酒々井町 | 3 | 45 | 98 | 273 | 98 | 33 | 10 |
| | | 0.5% | 8.0% | 17.5% | 48.8% | 17.5% | 5.9% | 1.8% |
| | 全体 | 17 | 188 | 462 | 1,297 | 452 | 133 | 51 |
| | | 0.7% | 7.2% | 17.7% | 49.8% | 17.3% | 5.1% | 2.0% |

問5 次のそれぞれの項目について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

| | | そう思う | どちらか といえば そう思う | どちらか といえば そう思わ ない | そう 思わない | 無回答 |
|--|-------|-------|----------------------|----------------------------|------------|------|
| a) 家事・育児のために、女性が 男性よりも働く上で不利な状況 にあることは、仕方がない。 | 松戸市 | 138 | 456 | 296 | 415 | 16 |
| | | 10.4% | 34.5% | 22.4% | 31.4% | 1.2% |
| | 香取市 | 65 | 259 | 174 | 209 | 17 |
| | | 9.0% | 35.8% | 24.0% | 28.9% | 2.4% |
| | 酒々井町 | 60 | 192 | 137 | 167 | 4 |
| | | 10.7% | 34.3% | 24.5% | 29.8% | 0.7% |
| 全体 | 263 | 907 | 607 | 791 | 37 | |
| | 10.1% | 34.8% | 23.3% | 30.4% | 1.4% | |
| b) ひとり親家庭の子どもが十 分な教育を受けられないこと は、離婚を選択した親の責任で ある。 | 松戸市 | 163 | 368 | 313 | 460 | 17 |
| | | 12.3% | 27.8% | 23.7% | 34.8% | 1.3% |
| | 香取市 | 113 | 219 | 160 | 212 | 20 |
| | | 15.6% | 30.3% | 22.1% | 29.3% | 2.8% |
| | 酒々井町 | 75 | 175 | 119 | 183 | 8 |
| | | 13.4% | 31.3% | 21.3% | 32.7% | 1.4% |
| 全体 | 351 | 762 | 592 | 855 | 45 | |
| | 13.5% | 29.2% | 22.7% | 32.8% | 1.7% | |
| c) 家庭内暴力(夫婦間暴力や子 どもの虐待)は、家族内の私的 な問題であり行政の介入は難し い。 | 松戸市 | 105 | 279 | 359 | 561 | 16 |
| | | 7.9% | 21.1% | 27.2% | 42.4% | 1.2% |
| | 香取市 | 68 | 194 | 174 | 269 | 18 |
| | | 9.4% | 26.8% | 24.0% | 37.2% | 2.5% |

| | | | | | | |
|--|------|------|-------|-------|-------|------|
| | 酒々井町 | 48 | 130 | 157 | 219 | 6 |
| | | 8.6% | 23.2% | 28.0% | 39.1% | 1.1% |
| | 全体 | 221 | 603 | 690 | 1,049 | 40 |
| | | 8.5% | 23.1% | 26.5% | 40.3% | 1.5% |
| d) 企業が利益を追求するために、障がい者を雇わないことは仕方のないことである。 | 松戸市 | 45 | 241 | 430 | 588 | 17 |
| | | 3.4% | 18.2% | 32.5% | 44.5% | 1.3% |
| | 香取市 | 36 | 146 | 219 | 300 | 23 |
| | | 5.0% | 20.2% | 30.3% | 41.4% | 3.2% |
| | 酒々井町 | 26 | 100 | 165 | 263 | 6 |
| | | 4.6% | 17.9% | 29.5% | 47.0% | 1.1% |
| | 全体 | 107 | 487 | 814 | 1,151 | 46 |
| | | 4.1% | 18.7% | 31.2% | 44.2% | 1.8% |

問6 今後10年くらいの間に、あなたや家族が次のような生活上の困難におちいることがあると思いますか。(○は1つ)

| | | あると思う | あるかもしれない | ないと思う | 今がそのような状態である | 無回答 |
|----------------------|-------|-------|----------|-------|--------------|------|
| a) 日々の生活費の工面に困るような状態 | 松戸市 | 226 | 655 | 375 | 38 | 27 |
| | | 17.1% | 49.6% | 28.4% | 2.9% | 2.0% |
| | 香取市 | 155 | 347 | 174 | 16 | 31 |
| | | 21.4% | 47.9% | 24.0% | 2.2% | 4.3% |
| | 酒々井町 | 98 | 267 | 169 | 17 | 9 |
| | | 17.5% | 47.7% | 30.2% | 3.0% | 1.6% |
| 全体 | 479 | 1,269 | 718 | 71 | 67 | |
| | 18.4% | 48.7% | 27.6% | 2.7% | 2.6% | |
| b) 家族の主たる稼ぎ手の失業 | 松戸市 | 243 | 592 | 358 | 56 | 72 |
| | | 18.4% | 44.8% | 27.1% | 4.2% | 5.5% |
| | 香取市 | 148 | 350 | 168 | 20 | 38 |
| | | 20.4% | 48.3% | 23.2% | 2.8% | 5.3% |
| | 酒々井町 | 105 | 226 | 174 | 24 | 31 |
| | | 18.8% | 40.4% | 31.1% | 4.3% | 5.5% |
| 全体 | 496 | 1,168 | 700 | 100 | 141 | |
| | 19.0% | 44.8% | 26.9% | 3.8% | 5.4% | |
| c) 住宅ローンが払えなくなる状態 | 松戸市 | 137 | 458 | 619 | 16 | 91 |
| | | 10.4% | 34.6% | 46.8% | 1.2% | 6.9% |

| | | | | | | |
|--|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 香取市 | 87 | 246 | 323 | 7 | 61 |
| | | 12.0% | 34.0% | 44.6% | 1.0% | 8.4% |
| | 酒々井町 | 56 | 175 | 283 | 8 | 38 |
| | | 10.0% | 31.3% | 50.5% | 1.4% | 6.8% |
| | 全体 | 280 | 879 | 1,225 | 31 | 190 |
| | | 10.7% | 33.7% | 47.0% | 1.2% | 7.3% |

問7 5年後のあなたのくらしむきは、今よりもよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。

| | 1.よくなる | 2.少しよくなる | 3.変わらない | 4.少し悪くなる | 5.悪くなる | 無回答 |
|------|--------|----------|---------|----------|--------|------|
| 松戸市 | 44 | 109 | 510 | 410 | 239 | 10 |
| | 3.3% | 8.3% | 38.6% | 31.0% | 18.1% | 0.8% |
| 香取市 | 23 | 63 | 285 | 179 | 159 | 15 |
| | 3.2% | 8.7% | 39.4% | 24.7% | 22.0% | 2.1% |
| 酒々井町 | 14 | 50 | 207 | 183 | 99 | 7 |
| | 2.5% | 8.9% | 37.0% | 32.7% | 17.7% | 1.3% |
| 全体 | 81 | 222 | 1,002 | 772 | 497 | 32 |
| | 3.1% | 8.5% | 38.5% | 29.6% | 19.1% | 1.2% |

日ごろの地域での生活についておうかがいします。

問8 次のそれぞれの項目について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | そう思う | どちらか といえば そう思う | どちらか といえば そう思わ ない | そう 思わない | 無回答 |
|---------------------------------------|------|------|----------------------|----------------------------|------------|------|
| a) 地域生活の課題について、「行政」は誠実にその解決に取り組んでくれる。 | 松戸市 | 46 | 463 | 558 | 235 | 20 |
| | | 3.5% | 35.0% | 42.2% | 17.8 | 1.5% |
| | 香取市 | 37 | 252 | 257 | 156 | 21 |
| | | 5.1% | 34.8% | 35.5% | 21.6 | 2.9% |
| | 酒々井町 | 27 | 213 | 227 | 87 | 6 |
| | | 4.8% | 38.0% | 40.5% | 15.5 | 1.1% |

| | | | | | | |
|---|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 全体 | 110 | 928 | 1,042 | 478 | 47 |
| | | 4.2% | 35.6% | 40.0% | 18.3 | 1.8% |
| b) 地域生活の課題について、「自治会・町内会」は、誠実にその解決に取り組んでくれる。 | 松戸市 | 57 | 524 | 493 | 223 | 25 |
| | | 4.3% | 39.6% | 37.3% | 16.9 | 1.9% |
| | 香取市 | 42 | 305 | 229 | 125 | 23 |
| | | 5.8% | 42.1% | 31.6% | 17.3 | 3.2% |
| | 酒々井町 | 28 | 232 | 200 | 95 | 5 |
| | | 5.0% | 41.4% | 35.7% | 17.0 | 0.9% |
| 全体 | 127 | 1,061 | 922 | 443 | 53 | |
| | 4.9% | 40.7% | 35.4% | 17.0 | 2.0% | |
| c) 住民の意見や希望は、自治体の行政にかなり反映されている。 | 松戸市 | 36 | 297 | 635 | 331 | 23 |
| | | 2.7% | 22.5% | 48.0% | 25.0 | 1.7% |
| | 香取市 | 31 | 195 | 309 | 164 | 24 |
| | | 4.3% | 26.9% | 42.7% | 22.7 | 3.3% |
| | 酒々井町 | 27 | 166 | 259 | 101 | 7 |
| | | 4.8% | 29.6% | 46.3% | 18.0 | 1.3% |
| | 全体 | 94 | 658 | 1,203 | 596 | 54 |
| | | 3.6% | 25.3% | 46.2% | 22.9 | 2.1% |

問9 あなたは、お住まいの地域における次のそれぞれの活動にどの程度参加したり、出席したりしていますか。(〇はそれぞれ1つつ)

| | | よく参加する | ときどき参加する | あまり参加しない | 全く参加しない | 無回答 |
|-----------------|-------|--------|----------|----------|---------|------|
| a) 町内会・自治会・区の会合 | 松戸市 | 84 | 285 | 398 | 541 | 14 |
| | | 6.4% | 21.6% | 30.1% | 40.9% | 1.1% |
| | 香取市 | 177 | 202 | 123 | 209 | 13 |
| | | 24.5% | 27.9% | 17.0% | 28.9% | 1.8% |
| | 酒々井町 | 88 | 164 | 153 | 152 | 3 |
| | | 15.7% | 29.3% | 27.3% | 27.1% | 0.5% |
| 全体 | 349 | 651 | 674 | 902 | 30 | |
| | 13.4% | 25.0% | 25.9% | 34.6% | 1.2% | |
| b) 地元のお祭り | 松戸市 | 139 | 389 | 354 | 423 | 16 |
| | | 10.5% | 29.4% | 26.8% | 32.0% | 1.2% |
| | 香取市 | 181 | 166 | 151 | 194 | 32 |
| | | 25.0% | 22.9% | 20.9% | 26.8% | 4.4% |

| | | | | | | |
|------------------------|------|-------|-------|-------|-------|------|
| | 酒々井町 | 65 | 173 | 142 | 172 | 8 |
| | | 11.6% | 30.9% | 25.4% | 30.7% | 1.4% |
| | 全体 | 385 | 728 | 647 | 789 | 56 |
| | | 14.8% | 27.9% | 24.8% | 30.3% | 2.2% |
| c) 趣味サークル(文化・スポーツ) | 松戸市 | 94 | 168 | 276 | 767 | 17 |
| | | 7.1% | 12.7% | 20.9% | 58.0% | 1.3% |
| | 香取市 | 75 | 113 | 166 | 350 | 20 |
| | | 10.4% | 15.6% | 22.9% | 48.3% | 2.8% |
| | 酒々井町 | 55 | 97 | 124 | 275 | 8 |
| | | 9.8% | 17.3% | 22.1% | 49.1% | 1.4% |
| 全体 | 224 | 378 | 566 | 1,392 | 45 | |
| | 8.6% | 14.5% | 21.7% | 53.4% | 1.7% | |
| d) ボランティア活動(福祉、環境保護など) | 松戸市 | 34 | 162 | 337 | 773 | 16 |
| | | 2.6% | 12.3% | 25.5% | 58.5% | 1.2% |
| | 香取市 | 57 | 176 | 147 | 325 | 19 |
| | | 7.9% | 24.3% | 20.3% | 44.9% | 2.6% |
| | 酒々井町 | 37 | 103 | 144 | 269 | 6 |
| | | 6.6% | 18.4% | 25.7% | 48.0% | 1.1% |
| | 全体 | 128 | 441 | 628 | 1,367 | 41 |
| | | 4.9% | 16.9% | 24.1% | 52.5% | 1.6% |

問 10 あなたのお宅では、次の a~e のお付き合いを、近所にお住まいの人たちとどの程度なさっていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | よくする | ときどきする | あまりしない | 全くしない | 無回答 |
|----------------|------|-------|--------|--------|-------|------|
| a) お茶や食事を一緒にする | 松戸市 | 54 | 317 | 273 | 663 | 12 |
| | | 4.1% | 24.0% | 20.7% | 50.2% | 0.9% |
| | 香取市 | 60 | 233 | 185 | 233 | 13 |
| | | 8.3% | 32.2% | 25.6% | 32.2% | 1.8% |
| | 酒々井町 | 35 | 147 | 140 | 231 | 7 |
| | | 6.3% | 26.3% | 25.0% | 41.3% | 1.3% |
| 全体 | 149 | 697 | 598 | 1,127 | 32 | |
| | 5.7% | 26.8% | 23.0% | 43.3% | 1.2% | |
| b) 趣味活動を一緒にする | 松戸市 | 62 | 226 | 253 | 765 | 16 |
| | | 4.7% | 17.1% | 19.1% | 57.9% | 1.2% |

| | | | | | | |
|------------------|------|------|-------|-------|-------|------|
| | 香取市 | 47 | 150 | 189 | 323 | 14 |
| | | 6.5% | 20.7% | 26.1% | 44.6% | 1.9% |
| | 酒々井町 | 39 | 115 | 132 | 268 | 6 |
| | | 7.0% | 20.5% | 23.6% | 47.9% | 1.1% |
| | 全体 | 148 | 491 | 574 | 1,356 | 36 |
| | | 5.7% | 18.8% | 22.0% | 52.0% | 1.4% |
| c) いろいろなことを相談し合う | 松戸市 | 67 | 355 | 346 | 541 | 13 |
| | | 5.1% | 26.9% | 26.2% | 40.9% | 1.0% |
| | 香取市 | 57 | 227 | 224 | 203 | 13 |
| | | 7.9% | 31.4% | 30.9% | 28.0% | 1.8% |
| | 酒々井町 | 33 | 168 | 147 | 204 | 8 |
| | | 5.9% | 30.0% | 26.3% | 36.4% | 1.4% |
| | 全体 | 157 | 750 | 717 | 948 | 34 |
| | | 6.0% | 28.8% | 27.5% | 36.4% | 1.3% |

問 11 あなたは現在お住まいの地域に満足していますか。以下の項目について、あなたの考えに近い番号を1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | 満足している | どちらか といえば 満足している | どちらか といえば 不満がある | 不満がある | 無回答 |
|--------------|-------|--------|------------------------|-----------------------|-------|------|
| a)地域住民との人間関係 | 松戸市 | 190 | 877 | 187 | 49 | 19 |
| | | 14.4% | 66.3% | 14.2% | 3.7% | 1.4% |
| | 香取市 | 117 | 456 | 101 | 38 | 12 |
| | | 16.2% | 63.0% | 14.0% | 5.3% | 1.7% |
| | 酒々井町 | 94 | 361 | 77 | 22 | 6 |
| | | 16.8% | 64.5% | 13.8% | 3.9% | 1.1% |
| 全体 | 401 | 1,694 | 365 | 109 | 37 | |
| | 15.4% | 65.0% | 14.0% | 4.2% | 1.4% | |
| b)治安の良さ | 松戸市 | 218 | 740 | 260 | 86 | 18 |
| | | 16.5% | 56.0% | 19.7% | 6.5% | 1.4% |
| | 香取市 | 217 | 391 | 70 | 31 | 15 |
| | | 30.0% | 54.0% | 9.7% | 4.3% | 2.1% |
| | 酒々井町 | 125 | 345 | 65 | 19 | 6 |
| | | 22.3% | 61.6% | 11.6% | 3.4% | 1.1% |

| | | | | | | |
|----------|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 全体 | 560 | 1,476 | 395 | 136 | 39 |
| | | 21.5% | 56.6% | 15.2% | 5.2% | 1.5% |
| c)地域生活全般 | 松戸市 | 175 | 845 | 224 | 62 | 16 |
| | | 13.2% | 63.9% | 16.9% | 4.7% | 1.2% |
| | 香取市 | 113 | 432 | 115 | 48 | 16 |
| | | 15.6% | 59.7% | 15.9% | 6.6% | 2.2% |
| | 酒々井町 | 79 | 354 | 93 | 25 | 9 |
| | | 14.1% | 63.2% | 16.6% | 4.5% | 1.6% |
| | 全体 | 367 | 1,631 | 432 | 135 | 41 |
| | | 14.1% | 62.6% | 16.6% | 5.2% | 1.6% |

問 12 あなたご自身は、今後も、現在お住いの地域に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

| | 住み続けたい | 別の地域に引 つ越したい | どちらでもよ い | わからない | 無回答 |
|------|--------|-----------------|-------------|-------|------|
| 松戸市 | 687 | 138 | 355 | 128 | 13 |
| | 52.0% | 10.4% | 26.9% | 9.7% | 1.0% |
| 香取市 | 417 | 77 | 160 | 61 | 9 |
| | 57.6% | 10.6% | 22.1% | 8.4% | 1.2% |
| 酒々井町 | 323 | 56 | 132 | 44 | 5 |
| | 57.7% | 10.0% | 23.6% | 7.9% | 0.9% |
| 全体 | 1,427 | 271 | 647 | 233 | 27 |
| | 54.8% | 10.4% | 24.8% | 8.9% | 1.0% |

問 13 あなたは以下の個人情報(近所に住む人に知られること)について抵抗はありますか。それぞれの項目について、あなたの考えに近い番号を一つずつ選び○を付けてください。D,Eの設問に関しては、お持ちでない方は回答しなくて結構です。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | 抵抗がある | どちらかとい えば抵抗があ る | 抵抗はない | 無回答 |
|------|-----|-------|-----------------------|-------|-------|
| A.職業 | 松戸市 | 35 | 442 | 199 | 643 |
| | | 2.7% | 33.4% | 15.1% | 48.6% |
| | 香取市 | 25 | 165 | 70 | 464 |
| | | 3.5% | 22.8% | 9.7% | 64.1% |

| | | | | | |
|-----------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 酒々井町 | 22 | 173 | 75 | 289 |
| | | 3.9% | 30.9% | 13.4% | 51.6% |
| | 全体 | 82 | 780 | 344 | 1,396 |
| | | 3.2% | 30.0% | 13.2% | 53.6% |
| B.学歴 | 松戸市 | 28 | 520 | 205 | 568 |
| | | 2.1% | 39.3% | 15.5% | 43.0% |
| | 香取市 | 25 | 212 | 103 | 382 |
| | | 3.5% | 29.3% | 14.2% | 52.8% |
| | 酒々井町 | 16 | 206 | 92 | 245 |
| | | 2.9% | 36.7% | 16.4% | 43.8% |
| | 全体 | 69 | 938 | 400 | 1,195 |
| | | 2.7% | 36.0% | 15.4% | 45.9% |
| C.世帯収入 | 松戸市 | 30 | 971 | 169 | 150 |
| | | 2.3% | 73.4% | 12.8% | 11.4% |
| | 香取市 | 26 | 492 | 113 | 92 |
| | | 3.6% | 67.9% | 15.6% | 12.7% |
| | 酒々井町 | 16 | 386 | 69 | 88 |
| | | 2.9% | 68.9% | 12.3% | 15.7% |
| | 全体 | 72 | 1849 | 351 | 330 |
| | | 2.8% | 71.0% | 13.5% | 12.7% |
| D.自宅電話番号 | 松戸市 | 68 | 669 | 231 | 354 |
| | | 5.1% | 50.6% | 17.5% | 26.8% |
| | 香取市 | 50 | 212 | 94 | 368 |
| | | 6.9% | 29.3% | 13.0% | 50.8% |
| | 酒々井町 | 40 | 232 | 106 | 181 |
| | | 7.1% | 41.4% | 18.9% | 32.3% |
| | 全体 | 158 | 1113 | 431 | 903 |
| | | 6.1% | 42.7% | 16.5% | 34.7% |
| E.メールアドレス | 松戸市 | 122 | 802 | 198 | 200 |
| | | 9.2% | 60.7% | 15.0% | 15.1% |
| | 香取市 | 110 | 357 | 84 | 173 |
| | | 15.2% | 49.4% | 11.6% | 23.9% |
| | 酒々井町 | 79 | 307 | 78 | 95 |
| | | 14.1% | 54.8% | 13.9% | 17.0% |
| | 全体 | 311 | 1466 | 360 | 468 |
| | | 11.9% | 56.3% | 13.8% | 18.0% |

問 14 今お住いの地域において、ご自身が、旧住民（古くからその地域に住んでいる人）か新住民（引っ越してきた人）かと実感することはありますか。（○は1つ）

| | 1) ある | 2) ややある | 3) あまりない | 4) ない | 無回答 |
|------|-------|---------|----------|-------|------|
| 松戸市 | 161 | 334 | 553 | 255 | 19 |
| | 12.2% | 25.3% | 41.8% | 19.3% | 1.4% |
| 香取市 | 142 | 193 | 228 | 148 | 13 |
| | 19.6% | 26.7% | 31.5% | 20.4% | 1.8% |
| 酒々井町 | 79 | 138 | 228 | 108 | 7 |
| | 14.1% | 24.6% | 40.7% | 19.3% | 1.3% |
| 全体 | 382 | 665 | 1,009 | 511 | 39 |
| | 14.7% | 25.5% | 38.7% | 19.6% | 1.5% |

問 15 あなたが、ひったくりなどの犯罪の被害に遭いそうになったとき、あなたの近隣に住む人々は（親族は除く）、あなたを積極的に助けてくれると思いますか。（○は1つ）

| | 1) 助けてくれる | 2) たぶん助けてくれる | 3) たぶん助けてくれない | 4) 助けてくれない | 5) わからない | 無回答 |
|------|-----------|--------------|---------------|------------|----------|------|
| 松戸市 | 94 | 575 | 195 | 55 | 392 | 11 |
| | 7.1% | 43.5% | 14.8% | 4.2% | 29.7% | 0.8% |
| 香取市 | 103 | 360 | 65 | 24 | 161 | 10 |
| | 14.2% | 49.7% | 9.0% | 3.3% | 22.2% | 1.4% |
| 酒々井町 | 60 | 267 | 70 | 18 | 139 | 5 |
| | 10.7% | 47.7% | 12.5% | 3.2% | 24.8% | 0.9% |
| 全体 | 257 | 1,202 | 330 | 97 | 692 | 26 |
| | 9.9% | 46.1% | 12.7% | 3.7% | 26.6% | 1.0% |

問 16 東日本大震災以降、あなたの地域住民とつながりを持つという意識は高まりましたか。

| | 1) 高まった | 2) やや高まった | 3) あまり高まっていない | 4) 高まっていない | 無回答 |
|-----|---------|-----------|---------------|------------|------|
| 松戸市 | 114 | 513 | 495 | 186 | 14 |
| | 8.6% | 38.8% | 37.4% | 14.1% | 1.1% |
| 香取市 | 87 | 272 | 255 | 87 | 22 |
| | 12.0% | 37.6% | 35.2% | 12.0% | 3.0% |

| | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 酒々井町 | 61 | 199 | 220 | 71 | 9 |
| | 10.9% | 35.5% | 39.3% | 12.7% | 1.6% |
| 全体 | 262 | 984 | 970 | 344 | 45 |
| | 10.1% | 37.8% | 37.2% | 13.2% | 1.7% |

問 17 あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている人（同居している親族を除く）は何人ぐらいでしょうか。お住まいの場所別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみにかかわらず、通常の所要時間別）にお聞かせ下さい。（○はそれぞれ1つずつ）

| | | 0人 | 1～2人 | 3～5人 | 6～9人 | 10人～ | 無回答 |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| a) あなたの自宅から30分以内 | 松戸市 | 246 | 420 | 374 | 104 | 117 | 60 |
| | | 18.6% | 31.8% | 28.3% | 7.9% | 8.9% | 4.5% |
| | 香取市 | 63 | 162 | 263 | 90 | 118 | 28 |
| | | 8.7% | 22.4% | 36.3% | 12.4% | 16.3% | 3.9% |
| | 酒々井町 | 80 | 177 | 185 | 49 | 54 | 15 |
| | | 14.3% | 31.6% | 33.0% | 8.8% | 9.6% | 2.7% |
| 全体 | 389 | 759 | 822 | 243 | 289 | 103 | |
| | 14.9% | 29.1% | 31.5% | 9.3% | 11.1% | 4.0% | |
| b) あなたの自宅から30分から2時間未満 | 松戸市 | 205 | 372 | 348 | 157 | 176 | 64 |
| | | 15.5% | 28.1% | 26.3% | 11.9% | 13.3% | 4.8% |
| | 香取市 | 94 | 177 | 176 | 114 | 98 | 65 |
| | | 13.0% | 24.5% | 24.3% | 15.8% | 13.5% | 9.0% |
| | 酒々井町 | 75 | 152 | 144 | 67 | 75 | 47 |
| | | 13.4% | 27.1% | 25.7% | 12.0% | 13.4% | 8.4% |
| 全体 | 374 | 701 | 668 | 338 | 349 | 176 | |
| | 14.4% | 26.9% | 25.6% | 13.0% | 13.4% | 6.8% | |
| c) あなたの自宅から2時間以上 | 松戸市 | 347 | 277 | 256 | 121 | 210 | 111 |
| | | 26.3% | 21.0% | 19.4% | 9.2% | 15.9% | 8.4% |
| | 香取市 | 210 | 143 | 118 | 58 | 107 | 88 |
| | | 29.0% | 19.8% | 16.3% | 8.0% | 14.8% | 12.25 |
| | 酒々井町 | 142 | 102 | 112 | 54 | 88 | 62 |
| | | 25.4% | 18.2% | 20.0% | 9.6% | 15.7% | 11.1% |
| 全体 | 699 | 522 | 486 | 233 | 405 | 261 | |
| | 26.8% | 20.0% | 18.7% | 8.9% | 15.5% | 10.0% | |

問 18 あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人たちを 3 人思い浮かべて下さい（同居している親族を除く）。その 3 人のかたを、仮に A さん、B さん、C さんとします。

A さん、B さん、C さんのプロフィール、お付き合いについておうかがいします。あてはまる番号に○を付けてください。（それぞれ○か数字を記入）

| | | A さんについて | | | | | | |
|---------------------------------------|-------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------------|-----------|------|
| 性別 (○は1つ) | | 女性 | | 男性 | | 無回答 | | |
| | 松戸市 | 797 | | 433 | | 92 | | |
| | | 60.3% | | 32.8% | | 7.0% | | |
| | 香取市 | 376 | | 289 | | 58 | | |
| | | 51.9% | | 39.9% | | 8.0% | | |
| | 酒々井町 | 294 | | 224 | | 42 | | |
| 52.5% | | 40.0% | | 7.5% | | | | |
| 全体 | 1,467 | | 946 | | 192 | | | |
| | 56.3% | | 36.3% | | 7.4% | | | |
| 年齢 (数字を記入) | 松戸市 | | | | | | | |
| | 香取市 | | | | | | | |
| | 酒々井町 | | | | | | | |
| | 全体 | | | | | | | |
| どのよう にして 知り合 いましたか (○は1つ) | | 学校が 同じ | 職場が 同じ | 趣味を 通して | 近所だ った | 子ども を通じ て | 家族・親 戚 | 無回答 |
| | 松戸市 | 210 | 232 | 154 | 148 | 122 | 338 | 98 |
| | | 15.9% | 17.6% | 11.7% | 11.2% | 9.2% | 25.6% | 7.4% |
| | 香取市 | 150 | 127 | 75 | 95 | 35 | 178 | 63 |
| | | 20.7% | 17.5% | 10.4% | 13.1% | 4.8% | 24.6% | 8.7% |
| | 酒々井町 | 75 | 119 | 63 | 78 | 31 | 142 | 43 |
| 13.4% | | 21.3% | 11.3% | 13.9% | 5.5% | 25.4% | 7.7% | |
| 全体 | 435 | 478 | 292 | 321 | 188 | 658 | 204 | |
| | 16.7% | 18.3% | 11.2% | 12.3% | 7.2% | 25.3% | 7.8% | |

| | | B さんについて | | | | | | |
|---|-------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------------|-----------|-------|
| 性別 (○は1つ) | | 女性 | | 男性 | | | 無回答 | |
| | 松戸市 | 759 | | 445 | | | 117 | |
| | | 57.4% | | 33.7% | | | 8.9% | |
| | 香取市 | 362 | | 268 | | | 93 | |
| | | 50.0% | | 37.0% | | | 12.9% | |
| | 酒々井町 | 298 | | 187 | | | 75 | |
| | | 53.2% | | 33.4% | | | 13.4% | |
| 全体 | 1,419 | | 900 | | | 285 | | |
| | 54.5% | | 34.5% | | | 10.9% | | |
| 年齢 (数字を記入) | 松戸市 | | | | | | | |
| | 香取市 | | | | | | | |
| | 酒々井町 | | | | | | | |
| | 全体 | | | | | | | |
| どのよう にして 知り合 いましたか (○は1 つ) | | 学校が 同じ | 職場が 同じ | 趣味を 通して | 近所だ った | 子ども を通じ て | 家族・親 戚 | 無回答 |
| | 松戸市 | 127 | 208 | 250 | 164 | 130 | 128 | 297 |
| | | 9.6% | 15.7% | 18.9% | 12.4% | 9.8% | 9.7% | 22.5% |
| | 香取市 | 87 | 142 | 143 | 61 | 83 | 39 | 168 |
| | | 12.0% | 19.6% | 19.8% | 8.4% | 11.5% | 5.4% | 23.2% |
| | 酒々井町 | 68 | 65 | 125 | 69 | 68 | 38 | 120 |
| | | 12.1% | 11.6% | 22.3% | 12.3% | 12.1% | 6.8% | 21.4% |
| 全体 | 282 | 415 | 518 | 294 | 281 | 205 | 585 | |
| | 10.8% | 15.9% | 19.9% | 11.3% | 10.8% | 7.9% | 22.5% | |

| | | C さんについて | | | |
|--------------|-----|----------|--|-------|-----|
| 性別 (○は1つ) | | 女性 | | 男性 | 無回答 |
| | 松戸市 | 694 | | 438 | 188 |
| 52.5% | | 33.1% | | 14.2% | |

| | | | | | | | | |
|---|------|--------------|--------------|--------------|-------------|-----------------|--------------|--------------|
| | 香取市 | 333 | 278 | 113 | | | | |
| | | 46.0% | 38.4% | 15.6% | | | | |
| | 酒々井町 | 280 | 169 | 111 | | | | |
| | | 50.0% | 30.2% | 19.8% | | | | |
| | 全体 | 1,307 | 885 | 412 | | | | |
| | | 50.2% | 34.0% | 15.8% | | | | |
| 年齢 (数字を 記入) | 松戸市 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 香取市 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 酒々井町 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| どのよう にして 知り合 いましたか (○は1 つ) | 松戸市 | 学校が 同じ | 職場が 同じ | 趣味を 通して | 近所だ った | 子ども を通じ て | 家族・親 戚 | 無回答 |
| | | 176 13.3% | 248 18.8% | 177 13.4% | 122 9.2% | 103 7.8% | 316 23.9% | 170 12.9% |
| | 香取市 | 119 16.4% | 139 19.2% | 79 10.9% | 74 10.2% | 40 5.5% | 168 23.2% | 104 14.4% |
| | | 60 10.7% | 119 21.3% | 71 12.7% | 54 9.6% | 38 6.8% | 122 21.8% | 93 16.6% |
| | 全体 | 355 13.6% | 506 19.4% | 327 12.6% | 250 9.6% | 181 7.0% | 606 23.3% | 367 14.1% |

問 19 前の質問(問 15)の A さん、B さん、C さん同士はどのようなご関係ですか。

(○はそれぞれ 1 つずつ)

| | | 知り合いである | 知り合いではないと思う | 無回答 |
|---------------|------|---------|-------------|-------|
| A さんと B さん | 松戸市 | 677 | 536 | 108 |
| | | 51.2% | 40.5% | 8.2% |
| | 香取市 | 441 | 216 | 67 |
| | | 60.9% | 29.8% | 9.3% |
| | 酒々井町 | 298 | 206 | 56 |
| | | 53.2% | 36.8% | 10.0% |

| | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|
| | 全体 | 1,416 | 958 | 231 |
| | | 54.3% | 36.8% | 8.9% |
| Bさんと Cさん | 松戸市 | 547 | 621 | 154 |
| | | 41.4% | 47.0% | 11.7% |
| | 香取市 | 363 | 266 | 95 |
| | | 50.1% | 36.7% | 13.1% |
| | 酒々井町 | 255 | 219 | 86 |
| | | 45.5% | 39.1% | 15.4% |
| 全体 | 1,165 | 1,106 | 335 | |
| | 44.7% | 42.4% | 12.9% | |
| Cさんと Aさん | 松戸市 | 496 | 664 | 162 |
| | | 37.5% | 50.2% | 12.3% |
| | 香取市 | 331 | 300 | 93 |
| | | 45.7% | 41.4% | 12.9% |
| | 酒々井町 | 236 | 233 | 91 |
| | | 42.1% | 41.6% | 16.3% |
| 全体 | 1,063 | 1,197 | 346 | |
| | 40.8% | 45.9% | 13.3% | |

問 20 次のそれぞれの項目について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

| | | そう思う | どちらかといえ ばそう思う | どちらかといえ ばそう思わない | そう 思わない | 無回答 |
|------------------------------|------|-------|------------------|--------------------|------------|------|
| a) たいていの人は信用できる | 松戸市 | 104 | 662 | 375 | 144 | 37 |
| | | 7.9% | 50.1% | 28.4% | 10.9% | 2.8% |
| | 香取市 | 66 | 326 | 207 | 98 | 27 |
| | | 9.1% | 45.0% | 28.6% | 13.5% | 3.7% |
| | 酒々井町 | 61 | 287 | 138 | 57 | 17 |
| | | 10.9% | 51.3% | 24.6% | 10.2% | 3.0% |
| 全体 | 231 | 1,275 | 720 | 299 | 81 | |
| | 8.9% | 48.9% | 27.6% | 11.5% | 3.1% | |
| b) たいていの人は、自分のことだけを考 えている | 松戸市 | 204 | 641 | 345 | 93 | 39 |
| | | 15.4% | 48.5% | 26.1% | 7.0% | 3.0% |
| | 香取市 | 123 | 326 | 188 | 61 | 26 |
| | | 17.0% | 45.0% | 26.0% | 8.4% | 3.6% |

| | | | | | | |
|--|------|-------|-------|-------|------|------|
| | 酒々井町 | 98 | 272 | 129 | 42 | 19 |
| | | 17.5% | 48.6% | 23.0% | 7.5% | 3.4% |
| | 全体 | 425 | 1,239 | 662 | 196 | 84 |
| | | 16.3% | 47.5% | 25.4% | 7.5% | 3.2% |

□外国人に関することについておうかがいします。

問 21 次の外国人について、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ一つずつ)

| | | 家族ぐるみの付き合いがある | 友達としての付き合いがある | あいさつ程度の付き合いがある | 顔は見たことがある | 全く関わりがない | 無回答 |
|-----------------------|------|---------------|---------------|----------------|-----------|----------|------|
| a) 欧米諸 国出身 | 松戸市 | 36 | 63 | 95 | 194 | 863 | 70 |
| | | 2.7% | 4.8% | 7.2% | 14.7% | 65.3% | 5.3% |
| | 香取市 | 15 | 13 | 34 | 95 | 502 | 64 |
| | | 2.1% | 1.8% | 4.7% | 13.1% | 69.3% | 8.8% |
| | 酒々井町 | 9 | 21 | 29 | 82 | 385 | 34 |
| | | 1.6% | 3.8% | 5.2% | 14.6% | 68.8% | 6.1% |
| 全体 | 60 | 97 | 158 | 371 | 1,750 | 168 | |
| | 2.3% | 3.7% | 6.1% | 14.2% | 67.2% | 6.5% | |
| b) 中国・ 韓国出身 | 松戸市 | 38 | 111 | 217 | 206 | 684 | 65 |
| | | 2.9% | 8.4% | 16.4% | 15.6% | 51.7% | 4.9% |
| | 香取市 | 20 | 37 | 60 | 116 | 432 | 59 |
| | | 2.8% | 5.1% | 8.3% | 16.0% | 59.7% | 8.2% |
| | 酒々井町 | 12 | 38 | 49 | 83 | 343 | 34 |
| | | 2.1% | 6.8% | 8.8% | 14.8% | 61.3% | 6.1% |
| 全体 | 70 | 186 | 326 | 405 | 1,459 | 158 | |
| | 2.7% | 7.1% | 12.5% | 15.5% | 56.0% | 6.1% | |
| c) その他 アジア諸 国出身 | 松戸市 | 25 | 51 | 131 | 222 | 823 | 70 |
| | | 1.9% | 3.9% | 9.9% | 16.8% | 62.3% | 5.3% |
| | 香取市 | 16 | 29 | 68 | 106 | 442 | 62 |
| | | 2.2% | 4.0% | 9.4% | 14.6% | 61.1% | 8.6% |
| | 酒々井町 | 11 | 24 | 42 | 81 | 367 | 34 |
| | | 2.0% | 4.3% | 7.5% | 14.5% | 65.5% | 6.1% |
| 全体 | 52 | 104 | 241 | 409 | 1,632 | 166 | |
| | 2.0% | 4.0% | 9.3% | 15.7% | 62.6% | 6.4% | |

| | | | | | | | |
|----------------|------|------|------|------|-------|-------|------|
| d) 中南米 諸国出身 | 松戸市 | 7 | 17 | 44 | 177 | 997 | 80 |
| | | 0.5% | 1.3% | 3.3% | 13.4% | 75.4% | 6.1% |
| | 香取市 | 3 | 11 | 15 | 76 | 550 | 69 |
| | | 0.4% | 1.5% | 2.1% | 10.5% | 76.0% | 9.5% |
| | 酒々井町 | 3 | 8 | 14 | 63 | 433 | 39 |
| | | 0.5% | 1.4% | 2.5% | 11.3% | 77.3% | 7.0% |
| | 全体 | 13 | 36 | 73 | 316 | 1,980 | 188 |
| | | 0.5% | 1.4% | 2.8% | 12.1% | 76.0% | 7.2% |

問 22 あなたが生活している地域に外国人が増えることに賛成ですか、反対ですか。(〇は1つ)

| | 賛成 | どちらかとい えば賛成 | どちらかとい えば反対 | 反 対 | 無回答 |
|------|------|----------------|----------------|-------|------|
| 松戸市 | 83 | 480 | 589 | 137 | 33 |
| | 6.3% | 36.3% | 44.6% | 10.4% | 2.5% |
| 香取市 | 47 | 236 | 325 | 86 | 30 |
| | 6.5% | 32.6% | 44.9% | 11.9% | 4.1% |
| 酒々井町 | 47 | 214 | 230 | 55 | 13 |
| | 8.4% | 38.2% | 41.1% | 9.8% | 2.3% |
| 全体 | 177 | 930 | 1,144 | 278 | 76 |
| | 6.8% | 35.7% | 43.9% | 10.7% | 2.9% |

問 23 外国人への差別を標榜する人たちが、かれらへの差別や排斥を主張する集会やデモを行うことは、認められるべきでしょうか。

| | 認められるべ き | どちらかとい えば認められ るべき | どちらかとい えば認められ ない | 認められない | 無回答 |
|------|-------------|-------------------------|------------------------|--------|------|
| 松戸市 | 94 | 323 | 501 | 358 | 44 |
| | 7.1% | 24.4% | 37.9% | 27.1% | 3.3% |
| 香取市 | 51 | 172 | 275 | 185 | 41 |
| | 7.0% | 23.8% | 38.0% | 25.6% | 5.7% |
| 酒々井町 | 43 | 139 | 200 | 158 | 20 |
| | 7.7% | 24.8% | 35.7% | 28.2% | 3.6% |
| 全体 | 188 | 634 | 976 | 701 | 105 |
| | 7.2% | 24.3% | 37.5% | 26.9% | 4.0% |

問 24 外国人の受け入れに関して、次の a～e の意見があります。それぞれの項目について、あなたの考えに最も近い番号を 1 つずつ選び、○を付けてください。(○はそれぞれ 1 つずつ)

| | | そう思う | どちらか といえば そう思う | どちらか といえば そう思わ ない | そう思わ ない | 無回答 |
|--|-------|-------|----------------------|----------------------------|------------|------|
| b) 外国人は、地域の活動に積極的に参加すべきだ | 松戸市 | 228 | 690 | 240 | 116 | 46 |
| | | 17.3% | 52.2% | 18.2% | 8.8% | 3.5% |
| | 香取市 | 115 | 361 | 135 | 77 | 36 |
| | | 15.9% | 49.9% | 18.7% | 10.6% | 5.0% |
| | 酒々井町 | 106 | 327 | 77 | 37 | 13 |
| | | 18.9% | 58.4% | 13.8% | 6.6% | 2.3% |
| 全体 | 449 | 1,378 | 452 | 230 | 95 | |
| | 17.2% | 52.9% | 17.3% | 8.8% | 3.7% | |
| c) 地域の外国人は、自分と同じ福祉や医療を受ける権利を持つべきだ | 松戸市 | 313 | 693 | 188 | 82 | 45 |
| | | 23.7% | 52.4% | 14.2% | 6.2% | 3.4% |
| | 香取市 | 172 | 387 | 83 | 43 | 39 |
| | | 23.8% | 53.5% | 11.5% | 5.9% | 5.4% |
| | 酒々井町 | 145 | 323 | 56 | 24 | 12 |
| | | 25.9% | 57.7% | 10.0% | 4.3% | 2.1% |
| 全体 | 630 | 1,403 | 327 | 149 | 96 | |
| | 24.2% | 53.8% | 12.6% | 5.7% | 3.7% | |
| d) 地域の外国人は、自分の自治体の選挙で投票や立候補できる権利を持つべきだ | 松戸市 | 193 | 496 | 337 | 246 | 49 |
| | | 14.6% | 37.5% | 25.5% | 18.6% | 3.7% |
| | 香取市 | 111 | 274 | 180 | 118 | 41 |
| | | 15.3% | 37.9% | 24.9% | 16.3% | 5.7% |
| | 酒々井町 | 95 | 239 | 134 | 76 | 16 |
| | | 17.0% | 42.7% | 23.9% | 13.6% | 2.9% |
| 全体 | 399 | 1,009 | 651 | 440 | 106 | |
| | 15.3% | 38.7% | 25.0% | 16.9% | 4.1% | |

□同和問題（部落差別問題）に関することについておうかがいします。

問 25 同和地区の人々について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ一つずつ）

| | 家族ぐるみの付き合いがある | 友達としての付き合いがある | あいさつ程度の付き合いがある | 顔は見たことがある | 全く関わりがない | 誰が同和地区の人かわからない | 無回答 |
|------|---------------|---------------|----------------|-----------|----------|----------------|------|
| 松戸市 | 4 | 30 | 73 | 25 | 273 | 882 | 24 |
| | 0.3% | 2.3% | 5.5% | 1.9% | 20.7% | 66.7% | 1.8% |
| 香取市 | 25 | 40 | 75 | 18 | 144 | 389 | 27 |
| | 3.5% | 5.5% | 10.4% | 2.5% | 19.9% | 53.7% | 3.7% |
| 酒々井町 | 8 | 22 | 48 | 17 | 85 | 363 | 10 |
| | 1.4% | 3.9% | 8.6% | 3.0% | 15.2% | 64.8% | 1.8% |
| 全体 | 37 | 92 | 196 | 60 | 502 | 1,634 | 61 |
| | 1.4% | 3.5% | 7.5% | 2.3% | 19.3% | 62.7% | 2.3% |

問 26 あなたは、同和問題（部落差別問題）について、どの程度知っていますか。（○は1つ）

| | 問題の中身だけでなく問題の起きた歴史・背景まで詳しく知っている | 問題の中身は知っているが、歴史・背景はよく知らない | 名前は聞いたことがある | 全く知らない | 無回答 |
|------|---------------------------------|---------------------------|-------------|--------|------|
| 松戸市 | 204 | 453 | 348 | 290 | 23 |
| | 15.4% | 34.3% | 26.3% | 21.9% | 1.7% |
| 香取市 | 84 | 217 | 201 | 196 | 26 |
| | 11.6% | 30.0% | 27.8% | 27.1% | 3.6% |
| 酒々井町 | 102 | 215 | 134 | 101 | 7 |
| | 18.2% | 38.4% | 23.9% | 18.0% | 1.3% |
| 全体 | 390 | 885 | 683 | 587 | 56 |
| | 15.0% | 34.0% | 26.2% | 22.5% | 2.2% |

※問 26 の質問で (1) ~ (3) に○をつけたかたにお聞きします。

問 27 あなたは、同和問題を、誰から（何によって）知りましたか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。（○はいくつでも）

| | 松戸市 | 香取市 | 酒々井町 | 全体 |
|-----------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1) 家族(父母、兄弟姉妹、祖父母など)、 親戚 | 261 | 146 | 111 | 518 |
| | 19.7% | 20.2% | 19.8% | 19.9% |
| 2) 近所(地域)の人 | 50 | 60 | 73 | 183 |
| | 3.8% | 8.3% | 13.0% | 7.0% |
| 3) 先輩や友人 | 100 | 42 | 52 | 194 |
| | 7.6% | 5.8% | 9.3% | 7.4% |
| 4) 学校の先生(授業など) | 305 | 126 | 103 | 534 |
| | 23.1% | 17.4% | 18.4% | 20.5% |
| 5) 職場の研修 | 147 | 72 | 67 | 286 |
| | 11.1% | 9.9% | 12.0% | 11.0% |
| 6) 職場や仕事関係の人(上記研修会以外) | 83 | 57 | 38 | 178 |
| | 6.3% | 7.9% | 6.8% | 6.8% |
| 7) 行政やPTA関係者の研修会・講演会 | 25 | 38 | 51 | 114 |
| | 1.9% | 5.3% | 9.1% | 4.4% |
| 8) 行政や学校の広報や冊子 | 87 | 56 | 89 | 232 |
| | 6.6% | 7.7% | 15.9% | 8.9% |
| 9) 新聞、雑誌、本、テレビなど | 441 | 169 | 162 | 772 |
| | 33.4% | 23.3% | 28.9% | 29.6% |
| 10) インターネット | 95 | 23 | 23 | 141 |
| | 7.2% | 3.2% | 4.1% | 5.4% |
| 11) なんとなく知った | 158 | 80 | 75 | 313 |
| | 12.0% | 11.1% | 13.4% | 12.0% |
| 12) わからない | 52 | 34 | 24 | 110 |
| | 3.9% | 4.7% | 4.3% | 4.2% |

問 28 あなたはこれまでに、学校で同和教育(人権・差別問題に関する授業や集会を含む)をどの程度受けましたか。およその通算回数についてお答えください。(○は1つ)

| | 全く受けなかつた | 1~3回受けた | 4~6回受けた | それ以上受けた | 無回答 |
|-----|----------|---------|---------|---------|-------|
| 松戸市 | 641 | 370 | 63 | 51 | 197 |
| | 48.5% | 28.0% | 4.8% | 3.9% | 14.9% |

| | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|-------|
| 香取市 | 329 | 209 | 25 | 24 | 137 |
| | 45.4% | 28.9% | 3.5% | 3.3% | 18.9% |
| 酒々井町 | 285 | 165 | 22 | 25 | 63 |
| | 50.9% | 29.5% | 3.9% | 4.5% | 11.3% |
| 全体 | 1,255 | 744 | 110 | 100 | 397 |
| | 48.2% | 28.6% | 4.2% | 3.8% | 15.2% |

問 29 仮に、あなた自身が結婚しようと考えた相手の人が同和地区出身だとわかったとします。

その場合、あなたならどうすると思いますか。(○は1つ)

※結婚されている方でも、独身と仮定してお答えください。

| | 相手の出身など、まったく問題にしない | 迷いながらも、結局は結婚の意志を変えないだろう | 迷った末、結局は考え直すだろう | 考え直す | 無回答 |
|------|--------------------|-------------------------|-----------------|------|-------|
| 松戸市 | 427 | 430 | 175 | 73 | 215 |
| | 32.3% | 32.5% | 13.2% | 5.5% | 16.3% |
| 香取市 | 228 | 224 | 78 | 46 | 148 |
| | 31.5% | 30.9% | 10.8% | 6.4% | 20.4% |
| 酒々井町 | 219 | 171 | 74 | 28 | 68 |
| | 39.1% | 30.5% | 13.2% | 5.0% | 12.1% |
| 全体 | 874 | 825 | 327 | 147 | 431 |
| | 33.5% | 31.7% | 12.6% | 5.6% | 16.5% |

問 30 仮に、あなたが別の地域に引っ越すとき、その地域が同和地区であることがわかったとします。

その場合、あなたならどうすると思いますか。(○は1つ)

| | 同和地区であることなど、まったく問題にしない | 迷いながらも、結局はそのまま引っ越すだろう | 迷った末、結局は転居先を考え直すだろう | 転居先を考え直す | 無回答 |
|-----|------------------------|-----------------------|---------------------|----------|-------|
| 松戸市 | 305 | 237 | 351 | 211 | 217 |
| | 23.1% | 17.9% | 26.6% | 16.0% | 16.4% |
| 香取市 | 178 | 134 | 171 | 86 | 155 |
| | 24.6% | 18.5% | 23.6% | 11.9% | 21.4% |

| | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 酒々井町 | 171 | 112 | 141 | 69 | 67 |
| | 30.5% | 20.0% | 25.2% | 12.3% | 12.0% |
| 全体 | 654 | 483 | 663 | 366 | 439 |
| | 25.1% | 18.5% | 25.4% | 14.0% | 16.9% |

問 31 同和行政や解放運動をめぐっては、さまざまな意見があります。次の a～e の意見について、あなたの考えに最も近い番号を 1 つずつ選び、○を付けてください。(○はそれぞれ 1 つずつ)

| | | そう思う | どちらか といえば そう思う | どちらか といえば そう思わ ない | そう思わ ない | 無回答 |
|---------------------------------|------|-------|----------------------|----------------------------|------------|-------|
| a) 行政は同和問題の解決のために熱心に取り組んでいる | 松戸市 | 35 | 231 | 518 | 251 | 286 |
| | | 2.7% | 17.5% | 39.2% | 19.0% | 21.6% |
| | 香取市 | 39 | 142 | 231 | 127 | 185 |
| | | 5.4% | 19.6% | 31.9% | 17.5% | 25.6% |
| | 酒々井町 | 43 | 171 | 173 | 79 | 94 |
| | | 7.7% | 30.5% | 30.9% | 14.1% | 16.8% |
| 全体 | 117 | 544 | 922 | 457 | 565 | |
| | 4.5% | 20.9% | 35.4% | 17.5% | 21.7% | |
| b) 行政は同和地区の人にだけ特別な施策をしており、不公平だ | 松戸市 | 63 | 164 | 507 | 300 | 287 |
| | | 4.8% | 12.4% | 38.4% | 22.7% | 21.7% |
| | 香取市 | 43 | 105 | 228 | 160 | 188 |
| | | 5.9% | 14.5% | 31.5% | 22.1% | 26.0% |
| | 酒々井町 | 43 | 106 | 195 | 121 | 95 |
| | | 7.7% | 18.9% | 34.8% | 21.6% | 17.0% |
| 全体 | 149 | 375 | 930 | 581 | 570 | |
| | 5.7% | 14.4% | 35.7% | 22.3% | 21.9% | |
| c) 行政は同和問題より、他の人権問題を優先して取り組むべきだ | 松戸市 | 107 | 321 | 417 | 198 | 276 |
| | | 8.1% | 24.3% | 31.5% | 15.0% | 20.9% |
| | 香取市 | 72 | 168 | 193 | 99 | 192 |
| | | 9.9% | 23.2% | 26.7% | 13.7% | 26.5% |
| | 酒々井町 | 75 | 148 | 150 | 91 | 96 |
| | | 13.4% | 26.4% | 26.8% | 16.3% | 17.1% |
| 全体 | 254 | 637 | 760 | 388 | 564 | |
| | 9.8% | 24.4% | 29.2% | 14.9% | 21.6% | |

| | | | | | | |
|---------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| d) 同和地区の人が差別撤廃の運動に立ち上がるのは、当然の事だ | 松戸市 | 263 | 462 | 212 | 107 | 276 |
| | | 19.9% | 35.0% | 16.0% | 8.1% | 20.9% |
| | 香取市 | 140 | 216 | 110 | 73 | 185 |
| | | 19.3% | 29.8% | 15.2% | 10.1% | 25.6% |
| | 酒々井町 | 117 | 184 | 108 | 58 | 92 |
| | | 20.9% | 32.9% | 19.3% | 10.4% | 16.4% |
| 全体 | 520 | 862 | 430 | 238 | 553 | |
| | 20.0% | 33.1% | 16.5% | 9.1% | 21.2% | |
| e) 部落解放運動は、自分の利益ばかりを追求している | 松戸市 | 76 | 238 | 495 | 228 | 284 |
| | | 5.8% | 18.0% | 37.4% | 17.3% | 21.5% |
| | 香取市 | 54 | 107 | 252 | 120 | 191 |
| | | 7.5% | 14.8% | 34.8% | 16.6% | 26.4% |
| | 酒々井町 | 48 | 112 | 187 | 118 | 95 |
| | | 8.6% | 20.0% | 33.4% | 21.1% | 17.0% |
| 全体 | 178 | 457 | 934 | 466 | 570 | |
| | 6.8% | 17.5% | 35.8% | 17.9% | 21.9% | |

あなたご自身やあなたのご家族のことについておうかがいします。

問 32 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

| | 男 | 女 | 無回答 |
|------|-------|-------|------|
| 松戸市 | 544 | 765 | 13 |
| | 41.2% | 57.9% | 1.0% |
| 香取市 | 321 | 390 | 12 |
| | 44.3% | 53.9% | 1.7% |
| 酒々井町 | 261 | 294 | 5 |
| | 46.6% | 52.5% | 0.9% |
| 全体 | 1,126 | 1,449 | 30 |
| | 43.2% | 55.6% | 1.2% |

問 33 あなたの年齢を教えてください。(数字を記入)

| | 20~29歳 | 30~39歳 | 40~49歳 | 50~59歳 | 60~69歳 | 70歳以上 | 無回答 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------|
| 松戸市 | 96 | 202 | 241 | 224 | 277 | 253 | 29 |
| | 7.3% | 15.3% | 18.2% | 16.9% | 21.0% | 19.1% | 2.2% |

| | | | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 香取市 | 70 | 108 | 123 | 128 | 148 | 125 | 22 |
| | 9.7% | 14.9% | 17.0% | 17.7% | 20.4% | 17.3% | 3.0% |
| 酒々井町 | 40 | 77 | 80 | 60 | 160 | 132 | 11 |
| | 7.1% | 13.8% | 14.3% | 10.7% | 28.6% | 23.6% | 2.0% |
| 全体 | 206 | 387 | 444 | 412 | 585 | 510 | 62 |
| | 7.9% | 14.9% | 17.0% | 15.8% | 22.5% | 19.6% | 2.4% |

問 34 あなたは現在結婚されていますか。(〇は1つ)

| | 結婚したことがない | 結婚している | 現在はしていない (離別・死別) | 無回答 |
|------|-----------|--------|---------------------|------|
| 松戸市 | 214 | 927 | 161 | 19 |
| | 16.2% | 70.1% | 12.2% | 1.4% |
| 香取市 | 115 | 506 | 89 | 14 |
| | 15.9% | 69.9% | 12.3% | 1.9% |
| 酒々井町 | 77 | 400 | 77 | 6 |
| | 13.8% | 71.4% | 13.8% | 1.1% |
| 全体 | 406 | 1,833 | 327 | 39 |
| | 15.6% | 70.3% | 12.6% | 1.5% |

問 35 同居されているご家族のかたは、あなたを含めて何人ですか。(数字を記入)

あなたを含めて 人

問 36 次の中から、同居されているご家族をすべて選び、その番号に〇をつけてください
(〇はいくつでも)。

| | 松戸市 | 香取市 | 酒々井町 | 全体 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 1) 配偶者 | 897 | 479 | 395 | 1,771 |
| | 67.9% | 66.2% | 70.5% | 68.0% |
| 2) 未婚の息子 | 371 | 202 | 148 | 721 |
| | 28.1% | 27.9% | 26.4% | 27.7% |
| 3) 未婚の娘 | 339 | 164 | 125 | 628 |
| | 25.6% | 22.7% | 22.3% | 24.1% |
| 4) 結婚している息子 | 24 | 59 | 20 | 103 |
| | 1.8% | 8.2% | 3.6% | 4.0% |

| | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|
| 5) 結婚している娘 | 25 | 13 | 9 | 47 |
| | 1.9% | 1.8% | 1.6% | 1.8% |
| 6) 子どもの配偶者 | 25 | 50 | 22 | 97 |
| | 1.9% | 6.9% | 3.9% | 3.7% |
| 7) 孫 | 47 | 61 | 28 | 136 |
| | 3.6% | 8.4% | 5.0% | 5.2% |
| 8) あなたの父親 | 126 | 136 | 40 | 302 |
| | 9.5% | 18.8% | 7.1% | 11.6% |
| 9) あなたの母親 | 185 | 194 | 68 | 447 |
| | 14.0% | 26.8% | 12.1% | 17.2% |
| 10) 配偶者の父親 | 22 | 55 | 12 | 89 |
| | 1.7% | 7.6% | 2.1% | 3.4% |
| 11) 配偶者の母親 | 48 | 98 | 15 | 161 |
| | 3.6% | 13.5% | 2.7% | 6.2% |
| 12) あなたの祖父 | 4 | 20 | 3 | 27 |
| | 0.3% | 2.8% | 0.5% | 1.0% |
| 13) あなたの祖母 | 14 | 30 | 5 | 49 |
| | 1.1% | 4.1% | 0.9% | 1.9% |
| 14) 配偶者の祖父 | 1 | 4 | 0 | 5 |
| | 0.1% | 0.6% | 0.0% | 0.2% |
| 15) 配偶者の祖母 | 1 | 5 | 0 | 6 |
| | 0.1% | 0.7% | 0.0% | 0.2% |
| 16) あなたの兄弟姉妹 | 93 | 66 | 30 | 189 |
| | 7.0% | 9.1% | 5.4% | 7.3% |
| 17) 配偶者の兄弟姉妹 | 4 | 7 | 2 | 13 |
| | 0.3% | 1.0% | 0.4% | 0.5% |
| 18) その他 | 25 | 21 | 12 | 58 |
| | 1.9% | 2.9% | 2.1% | 2.2% |

問 37 お子さんがいらっしゃるかたは、一番下のお子さんの年齢を教えてください。(数字を記入)

歳

問 38 あなたが **15歳（中学3年生）の頃**に住んでいた場所はどこですか。（○は1つ）

| | 現在お住いの地域 | 千葉県内の他の市町村 | 千葉県以外の関東地方 | 北海道・東北地方 | 中部地方 | 近畿地方 | 中国・四国地方 | 九州・沖縄地方 | 海外 | 無回答 |
|------|----------|------------|------------|----------|------|------|---------|---------|------|------|
| 松戸市 | 289 | 177 | 463 | 129 | 85 | 44 | 41 | 48 | 3 | 42 |
| | 21.9% | 13.4% | 35.0% | 9.8% | 6.4% | 3.3% | 3.1% | 3.6% | 0.2% | 3.2% |
| 香取市 | 394 | 179 | 64 | 21 | 9 | 8 | 7 | 14 | 2 | 26 |
| | 54.4% | 24.7% | 8.8% | 2.9% | 1.2% | 1.1% | 1.0% | 1.9% | 0.3% | 3.6% |
| 酒々井町 | 113 | 151 | 130 | 61 | 40 | 16 | 4 | 28 | 3 | 13 |
| | 20.2% | 27.0% | 23.2% | 10.9% | 7.1% | 2.9% | 0.7% | 5.0% | 0.5% | 2.3% |
| 全体 | 796 | 507 | 657 | 211 | 134 | 68 | 52 | 90 | 8 | 81 |
| | 30.5% | 19.5% | 25.2% | 8.1% | 5.1% | 2.6% | 2.0% | 3.5% | 0.3% | 3.1% |

問 39 あなたが **15歳（中学3年生）の頃**に住んでいた地域の人口規模はどのくらいですか。

（○は1つ）

| | 政令指定都市 | 人口50～100万の市 | 人口10～50万の市 | その他の市 (人口10万未満) | 町村(郡部) | 無回答 |
|------|--------|-------------|------------|--------------------|--------|------|
| 松戸市 | 268 | 165 | 400 | 152 | 221 | 113 |
| | 20.3% | 12.5% | 30.3% | 11.5% | 16.7% | 8.6% |
| 香取市 | 13 | 26 | 41 | 227 | 360 | 56 |
| | 1.8% | 3.6% | 5.7% | 31.4% | 49.7% | 7.7% |
| 酒々井町 | 79 | 38 | 82 | 71 | 264 | 25 |
| | 14.1% | 6.8% | 14.6% | 12.7% | 47.1% | 4.5% |
| 全体 | 360 | 229 | 523 | 450 | 845 | 194 |
| | 13.8% | 8.8% | 20.1% | 17.3% | 32.4% | 7.4% |

問 40 あなたが **15歳（中学3年生）の頃**のあなたのお宅の暮らしむきは、この中のどれにあたると思いますか。当時のふつうの暮らしむきと比べてお答えください。（○は1つ）

| | 豊か | やや豊か | ふつう | やや貧しい | 貧しい | 無回答 |
|-----|------|-------|-------|-------|------|------|
| 松戸市 | 68 | 210 | 673 | 242 | 106 | 23 |
| | 5.1% | 15.9% | 50.9% | 18.3% | 8.0% | 1.7% |

| | | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|------|------|
| 香取市 | 30 | 77 | 407 | 130 | 68 | 12 |
| | 4.1% | 10.6% | 56.2% | 18.0% | 9.4% | 1.7% |
| 酒々井町 | 32 | 60 | 292 | 116 | 53 | 7 |
| | 5.7% | 10.7% | 52.1% | 20.7% | 9.5% | 1.3% |
| 全体 | 130 | 347 | 1,372 | 488 | 227 | 42 |
| | 5.0% | 13.3% | 52.7% | 18.7% | 8.7% | 1.6% |

問 41 あなたが**現在**お住まいの地域を教えてください。(○は1つ)

| | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|
| | 松戸市 | 香取市 | 酒々井町 | 無回答 |
| 松戸市 | 1,296 | 1 | 2 | 23 |
| | 98.0% | 0.1% | 0.2% | 1.7% |
| 香取市 | 1 | 708 | 1 | 14 |
| | 0.1% | 97.8% | 0.1% | 1.9% |
| 酒々井町 | 2 | 0 | 548 | 10 |
| | 0.4% | 0.0% | 97.9% | 1.8% |
| 全体 | 1,299 | 709 | 551 | 47 |
| | 49.9% | 27.2% | 21.1% | 1.8% |

問 42 あなたのお宅は、いつ頃から現在お住いの地域に住んでいますか。(○は1つ)

※結婚して移ってこられたかたは、配偶者のお宅についてお答えください。

| | | | | | | | | |
|------|---------|-------|-------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|------------------------|------|
| | 祖父母の代から | 親の代から | よそから移ってきて20年以上になる | よそから移ってきて10年～20年未満 | よそから移ってきて5年～10年未満 | よそから移ってきて東大震災以降から5年未満 | 東日本大震災発生よりも後によそから移ってきた | 無回答 |
| 松戸市 | 73 | 155 | 525 | 248 | 158 | 69 | 68 | 26 |
| | 5.5% | 11.7% | 39.7% | 18.8% | 12.0% | 5.2% | 5.1% | 2.0% |
| 香取市 | 354 | 124 | 134 | 49 | 27 | 12 | 10 | 13 |
| | 48.9% | 17.1% | 18.5% | 6.8% | 3.7% | 1.7% | 1.4% | 1.8% |
| 酒々井町 | 56 | 62 | 250 | 83 | 50 | 25 | 24 | 9 |
| | 10.0% | 11.1% | 44.6% | 14.8% | 8.9% | 4.5% | 4.3% | 1.6% |
| 全体 | 483 | 341 | 909 | 380 | 235 | 106 | 102 | 48 |
| | 18.5% | 13.1% | 34.9% | 14.6% | 9.0% | 4.1% | 3.9% | 1.8% |

問 43 あなたの**現在**のお住まいは、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

| | 持ち家：一戸建て | 持ち家：分譲マンション | 民間の借家、賃貸マンション・アパート | 賃貸の公団・公営住宅 | 社宅・寮・官舎・公舎 | その他 | 無回答 |
|------|----------|-------------|--------------------|------------|------------|------|------|
| 松戸市 | 745 | 267 | 198 | 55 | 26 | 8 | 22 |
| | 56.4% | 20.2% | 15.0% | 4.2% | 2.0% | 0.6% | 1.7% |
| 香取市 | 655 | 1 | 43 | 5 | 3 | 3 | 14 |
| | 90.5% | 0.1% | 5.9% | 0.7% | 0.4% | 0.4% | 1.9% |
| 酒々井町 | 424 | 51 | 55 | 19 | 2 | 1 | 8 |
| | 75.7% | 9.1% | 9.8% | 3.4% | 0.4% | 0.2% | 1.4% |
| 全体 | 1,824 | 319 | 296 | 79 | 31 | 12 | 44 |
| | 70.0% | 12.2% | 11.4% | 3.0% | 1.2% | 0.5% | 1.7% |

問 44 あなたが最後に通学した（または現在通学している）学校は次のどれにあたりますか。
また、あなたの配偶者についても、おわかりであればご回答ください。（中退も卒業と同じ扱いでお答えください。）

① あなた自身について（○は1つ）

| | 中学校 | 高校 | 短期大学 高等専門学校 | 大学以上 | 無回答 |
|------|-------|-------|----------------|-------|------|
| 松戸市 | 105 | 445 | 334 | 425 | 12 |
| | 7.9% | 33.7% | 25.3% | 32.2% | 0.9% |
| 香取市 | 98 | 364 | 132 | 113 | 15 |
| | 13.5% | 50.3% | 18.2% | 15.6% | 2.1% |
| 酒々井町 | 43 | 261 | 114 | 133 | 8 |
| | 7.7% | 46.6% | 20.4% | 23.8% | 1.4% |
| 全体 | 246 | 1,070 | 580 | 671 | 35 |
| | 9.4% | 41.1% | 22.3% | 25.8% | 1.3% |

② あなたの配偶者について（配偶者がいる場合のみ回答。○は1つ）

| | 中学校 | 高校 | 短期大学 高等専門学校 | 大学以上 | 無回答 |
|------|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 松戸市 | 72 | 332 | 177 | 370 | 370 |
| | 5.5% | 25.1% | 13.4% | 28.0% | 28.0% |
| 香取市 | 87 | 292 | 77 | 61 | 206 |
| | 12.0% | 40.3% | 10.6% | 8.4% | 28.5% |
| 酒々井町 | 30 | 221 | 72 | 89 | 148 |
| | 5.4% | 39.5% | 12.9% | 15.9% | 26.4% |
| 全体 | 189 | 845 | 326 | 520 | 724 |
| | 7.3% | 32.4% | 12.5% | 20.0% | 27.8% |

問 45 あなたは、現在どのような形態でお仕事をしていますか。（○は1つ）

| | フルタイム雇用者 （常時雇用者） | パート・ アルバイト・臨時 雇用者・ 嘱託 | 自営業主 | 家族の経 営する会 社や事業 の従業 員・手伝 い | 会社の経 営者・役 員 | 学生 | 現在仕事 をしてい ない | 無回答 |
|------|---------------------|--------------------------------|------|--|-------------------|------|--------------------|------|
| 松戸市 | 365 | 259 | 67 | 34 | 38 | 19 | 522 | 17 |
| | 27.6% | 19.6% | 5.1% | 2.6% | 2.9% | 1.4% | 39.5% | 1.3% |
| 香取市 | 225 | 134 | 72 | 28 | 12 | 14 | 223 | 16 |
| | 31.1% | 18.5% | 9.9% | 3.9% | 1.7% | 1.9% | 30.8% | 2.2% |
| 酒々井町 | 130 | 115 | 31 | 9 | 14 | 6 | 244 | 11 |
| | 23.2% | 20.5% | 5.5% | 1.6% | 2.5% | 1.1% | 43.6% | 2.0% |
| 全体 | 720 | 508 | 170 | 71 | 64 | 39 | 989 | 44 |
| | 27.6% | 19.5% | 6.5% | 2.7% | 2.5% | 1.5% | 38.0% | 1.7% |

問 46 問 45 で 1 ～ 5 をお選びになったかたのみお答えください。あなたは、現在どのような仕事をしていますか。（○は1つ）

| | 松戸市 | 香取市 | 酒々井町 | 全体 |
|--|------|------|------|------|
| 1) 専門職（弁護士、医師、芸術家、スポーツ選手、宗教家、税理士、研究者、など） | 33 | 10 | 7 | 50 |
| | 2.5% | 1.4% | 1.3% | 1.9% |

| | | | | |
|--|-------|-------|-------|-------|
| 2) 専門・技術職（教員、看護師、エンジニア、保育士、社会福祉士、など） | 158 | 88 | 62 | 308 |
| | 12.0% | 12.2% | 11.1% | 11.8% |
| 3) 管理職（会社役員、課長以上の管理職、議員、駅長、など） | 73 | 30 | 18 | 121 |
| | 5.5% | 4.1% | 3.2% | 4.6% |
| 4) 事務職（総務・企画事務、経理事務、営業事務、ワープロオペレータ、校正、など） | 166 | 80 | 52 | 298 |
| | 12.6% | 11.1% | 9.3% | 11.4% |
| 5) 販売職（小売店主、販売役員、セールスマン、外交員、外回りの営業、など） | 84 | 41 | 26 | 151 |
| | 6.4% | 5.7% | 4.6% | 5.8% |
| 6) 生産工程・労務職（大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など） | 78 | 100 | 35 | 213 |
| | 5.9% | 13.8% | 6.3% | 8.2% |
| 7) サービス業（料理人、理容師、クリーニング職、ウェイトラー、タクシー運転手、など） | 129 | 51 | 72 | 252 |
| | 9.8% | 7.0% | 12.9% | 9.7% |
| 8) 保安職（警官、自衛官、守衛、など） | 19 | 11 | 6 | 36 |
| | 1.4% | 1.5% | 1.1% | 1.4% |
| 9) 農林漁業（農業、畜産、林業、漁業、植木職、造園師、など） | 7 | 50 | 14 | 71 |
| | 0.5% | 6.9% | 2.5% | 2.7% |

問 47 問 45 で 1～5 をお選びになった方のみ答えてください。

①通勤にかかる所要時間を記入してください。（交通手段は問いません）

約 時間 分

②あなたの 1 週間あたりのおよその労働時間を記入してください。

1 週間あたり 約 時間

③あなたの 1 週間あたりのおよその労働日数を記入してください。

1 週間あたり 約 日

問 48 仮に、現在の日本の社会全体を次の 5 つの層に分けるとすれば、あなたは次のどれに入るとお考えですか。あなたの気持ちに最も近い番号を 1 つ選び、○をつけてください。（○は 1 つ）

| | 上 | 中の上 | 中の下 | 下の上 | 下の下 | 無回答 |
|-----|------|-------|-------|-------|------|------|
| 松戸市 | 16 | 330 | 605 | 240 | 84 | 46 |
| | 1.2% | 25.0% | 45.8% | 18.2% | 6.4% | 3.5% |
| 香取市 | 6 | 130 | 331 | 156 | 65 | 36 |
| | 0.8% | 18.0% | 45.7% | 21.6% | 9.0% | 5.0% |

| | | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|------|------|
| 酒々井町 | 7 | 98 | 268 | 118 | 31 | 38 |
| | 1.3% | 17.5% | 47.9% | 21.1% | 5.5% | 6.8% |
| 全体 | 29 | 558 | 1,204 | 514 | 180 | 120 |
| | 1.1% | 21.4% | 46.2% | 19.7% | 6.9% | 4.6% |

問 49 過去一年間のお宅（生計をともにしている家族全体）の収入は税込みで次のどれにあたり
ますか。ほかの家族の方の収入も含めてお答えください。（〇はひとつ）

| | なし（0 円） | 300万円 未満 | 300万～ 600万円 未満 | 600万～ 900万円 未満 | 900万～ 1200万 円未満 | 1200万 ～1500 万円未満 | 1500万 円以上 | 無回答 |
|------|------------|-------------|----------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|--------------|------|
| 松戸市 | 35 | 287 | 447 | 278 | 152 | 38 | 35 | 48 |
| | 2.7% | 21.7% | 33.8% | 21.0% | 11.5% | 2.9% | 2.7% | 3.6% |
| 香取市 | 11 | 166 | 261 | 130 | 71 | 19 | 14 | 51 |
| | 1.5% | 22.9% | 36.1% | 18.0% | 9.8% | 2.6% | 1.9% | 7.0% |
| 酒々井町 | 6 | 159 | 208 | 93 | 46 | 8 | 7 | 33 |
| | 1.1% | 28.4% | 37.1% | 16.6% | 8.2% | 1.4% | 1.3% | 5.9% |
| 全体 | 52 | 612 | 916 | 501 | 269 | 65 | 56 | 132 |
| | 2.0% | 23.5% | 35.2% | 19.2% | 10.3% | 2.5% | 2.2% | 5.1% |

長時間にわたり、アンケートにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

最後に、地域社会での普段の生活や、人権・福祉にかかわる諸問題について、ふだんお考えにな
ったり感じたりしていることについて、下の欄に自由にお書きください。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |